

学位論文

現代ウイグル語の動詞形態論

平成 27 年 9 月

氏名 新田志穂

岡山大学大学院
社会文化科学研究科

第1章 序論.....	1
1.1. 研究の対象および用語について.....	1
1.2. 研究史.....	2
1.3. 研究の目的.....	4
1.4. 本論文の構成.....	5
1.4.1. 本論について.....	5
1.4.2. 資料について.....	5
1.4.2.1. 他動詞対のリストについて.....	5
1.4.2.2 物語資料について.....	5
第2章 現代ウイグル語の文法.....	7
2.1. 言語の概要.....	7
2.2. 正書法.....	7
2.3. 音韻体系.....	9
2.3.1. 母音調和.....	9
2.3.2. 超分節音的特徴.....	10
2.4. 形態法.....	10
2.4.1. 名詞類.....	11
2.4.1.1. 複数接辞.....	11
2.4.1.2. 所有人称接辞.....	11
2.4.1.3. 格接辞.....	12
2.4.2. 動詞.....	13
2.5. 統語法.....	13
第一部 動詞の派生部分.....	15
第3章 先行研究.....	16
3.1. 現代ウイグル語の態.....	16
3.1.1. 使役態.....	16
3.1.2. 受動態.....	17
3.1.3. 再帰態.....	19
3.1.4. 共同態.....	20
3.1.5. 態接辞の承接順序.....	20
3.2. 生産的使役と語彙的使役.....	22
3.3. 動詞の形態的派生の方向性に関する研究.....	23
3.3.1. Haspelmath (1993).....	24
3.3.2. Nichols et al. (2004).....	25
3.4. 問題点の整理.....	27
第4章 動詞の形態的派生の方向性.....	29
4.1. 辞書による全数調査.....	29
4.1.1. 抽出基準.....	29
4.1.2. 調査結果.....	30
4.2. 有生動詞／無生動詞における形態的派生の方向性.....	30

4.2.1. Nichols et al. (2004) に基づく調査結果.....	30
4.2.2. 調査対象語彙を増やした調査結果.....	32
4.3. まとめ.....	35
第5章 態と補助動詞.....	36
5.1. 補助動詞 al-の用法.....	37
5.2. 補助動詞が表す意図性.....	40
5.2.1. 現代ウイグル語の補助動詞 al-と意図性.....	40
5.2.2. 日本語の「～てもらふ」と意図性.....	42
5.2.3. 両言語の補助動詞と意図性の相関.....	43
5.3. まとめ.....	43
第二部 動詞の屈折部分.....	45
6章 先行研究.....	46
6.1. Nadzhip (1971) による記述.....	46
6.2. 趙・朱 (1985) による記述.....	48
6.3. Tömür (1987) による記述.....	50
6.4. 托乎提 (2012) による記述.....	55
6.5. 竹内 (1991) による記述.....	56
6.6. Csató&Uchturpani (2010) による記述.....	57
6.7. 先行研究における問題点.....	61
第7章 形動詞の基本的用法.....	64
7.1. 形動詞が名詞修飾節述語に位置する場合.....	65
7.2. 形動詞が名詞節述語に位置する場合.....	67
7.3. 形動詞が副詞節述語に位置する場合.....	68
7.4. 形動詞が主節述語に位置する場合.....	69
第8章 形動詞の主節述語における用法.....	70
8.1. 通言語的な観点からの指摘.....	70
8.1.1. 形容詞名詞型.....	70
8.1.2. 形容詞動詞型.....	72
8.1.3. 各タイプと動詞の語形変化との関連性.....	73
8.2. エヴィデンシャリティについて.....	74
8.2.1. エヴィデンシャリティとアスペクトとの関連性について.....	76
8.2.2. 現代ウイグル語におけるエヴィデンシャリティ.....	77
8.3. 主節述語に現れる形動詞の用例数.....	79
8.3.1. 各位置に現れる形動詞間での対比.....	80
8.3.2. 主節述語専用の形式との対比.....	81
8.4. 主節述語に現れる形動詞の形態的特徴.....	82
8.4.1. -GAn による形動詞.....	83
8.4.2. -Idikan による形動詞.....	85
8.4.3. -(I)watqan による形動詞.....	86
8.5. 主節述語に現れる形動詞の意味的特徴.....	87

8.5.1. -GAn による形動詞	87
8.5.2. -Idikan による形動詞	90
8.5.3. -(I)watqan による形動詞	90
8.6. まとめ	91
第9章 形動詞が伴う主語の格	93
9.1. 先行研究	93
9.1.1. Csató&Uchturpani (2010)	93
9.1.2. Kornfilt (2009)	95
9.1.3. Guntsetseg (2012)	96
9.1.4. 問題点の整理	97
9.2. 各節における形動詞の主語の格標示の考察	98
9.2.1. 形動詞の主語が名詞節に現れる場合	98
9.2.2. 形動詞の主語が副詞節に現れる場合	100
9.2.3. 形動詞の主語が名詞修飾節に現れる場合	100
9.2.4. 形動詞の主語が主節に現われる場合	101
9.3. 節と主語の格との関係	102
9.4. 主語と述語の隣接性	103
9.5. まとめ	105
第10章 形動詞と体言締め文	106
10.1. 先行研究	106
10.2. 所有を表す接辞	107
10.3. 語の形態的緊密性	110
10.4. 句の包摂	114
10.5. 体言締め文	116
10.5.1. 現代ウイグル語における体言締め文	117
10.5.2. 体言締め文の周辺に位置するもの	119
10.5.3. 理論的な問題との関連	121
10.6. まとめ	123
第11章 結論	124
謝辞	129
略号一覧	130
参考文献	131
引用資料	135
資料編	136
資料1ー自他動詞対のリストー	136
資料2ー物語集ー	170
1. baɣwän wä 'uniŋ 'oɣli	171
2. tiyin bilän kepinäk	176
3. maxtançaq toşqan	180
4. bizniŋ 'a'ilä	185

5. bürkütñiñ räsım sızışı.....	188
6. 'ikki dost	192
7. toz häqqidä hekayä.....	197
8. qaçqunlar.....	201
9. däm 'eliş künidä	206
10. böjänniñ kawa yötkiş	211
11. kirpä bilän taşpaqa	214
12. yezidä	218
13. sirliq 'orman.....	222
14. tepişmaq	226
15. 'elipbä häqqidä hekayä	229
16. hakawur maymun.....	233
17. 'ögäy 'ana.....	241
18. 'öñkürdiki 'eyiqçaq.....	246
19. qabil qaytip kälidi	250
20. 'ayäm küni	254
21. qoşkezäkniñ bir küni.....	258
22. hurun	262
23. kelişmäslük	265
24. 'äjirniñ tegi 'altun	269

第1章 序論

1.1. 研究の対象および用語について

本論文では、現代ウイグル語の動詞を研究の対象とする。現代ウイグル語はチュルク諸語 (Turkic languages) の一つであり、主に中華人民共和国内の新疆ウイグル自治区を中心に話される言語である。現代ウイグル語において、動詞は語形変化に富み、動詞語幹に様々な接辞を付けることによって、複雑で具体的な構成体、いわゆる「動詞複合体」(亀井・河野・千野編 1996: 1371. 「用言複合体」とも言う) を作り出す。つまり、動詞は様々な形を持つことになる。

チュルク諸語において、どのような文法カテゴリーの接辞がどのような順番で接辞され、動詞語幹が拡張していくのかを明確に示しているものとして、Ebata (2014) を表 1 に引く。

表 1 チュルク諸語の動詞形態

Outline of the Turkic verbal morphology

	Voice	Aspect	Polarity	Ending	Person/number
Stem/Root	(CAUS) (PASS) (REFL) (RECP)	(ITER) (PERF) etc.	(NEG)	FINITE PARTICIPLE CONVERB	1SG/1PL/ 2SG/2PL/ 3

(stem + ending = verbal form)

(Ebata 2014 より。表中の注釈は省略)

本論文では、上記の表のうち、Voice (態), Aspect (アスペクト), Polarity (極性) を「派生部分」とし、Ending (語尾) および Person/number (人称/数) を「屈折部分」と称する。第一部は派生部分のうち、語幹にもっとも近い態をテーマとし、第二部は屈折部分のうち、形動詞をテーマとしている。

一般的に、派生とは、ある語から別の語を作り出す方法である。一方、屈折とは語が文中の機能に応じて、その形を変化させる場合を言う (以上は、亀井・河野・千野編 1996: 309, 1066 に基づく)。たとえば、ウェイリー (2006: 128) では、動詞の屈折において、一定の順序に従って接辞が現れる例を挙げている。

動詞語根+態+アスペクト+テンス+ムード+人称 / 数

また、通常、屈折とは義務的に表されるとされるが (Haspelmath&Sims 2010: 92)、筆者は現代ウイグル語においては、語尾がもっとも義務的なものになると考える。動詞の活用形

において、語尾は文の断続を示す要となるためである。たとえば時枝（1950: 84）は、日本語の動詞の語形変化について以下のように述べている（下線は本論筆者による）。

語が変化するといふ点だけを問題にするならば、英語、ドイツ語、フランス語等の verb の conjugation も活用であるといふことが出来るのであるが、conjugation と国語の活用とは、同じ語形変化でも、その性質が根本的に異なっている。conjugation は、一語が、人称、単複数、時、法に従って形を変化することを意味するのであるが、国語の場合は、これと異なり、動詞が他の語に接続したり、或はそれ自身で終止したりする場合に起こる語形変化である。国語の動詞の変化とは、動詞の断続であつて、これに起こる語形変化である。

時枝（1950）の指摘する、日本語における動詞の語形変化の機能は、江戸時代の国語学者である鈴木胤（1764-1837）の「断続（きれつづき）」という言葉によく表されているが、このような特徴は、日本語に限定されない。たとえば風間（2012）では次のように述べられている。

アルタイ諸言語では、動詞はきれつづきによって屈折し、[中略]すなわち、文を終止するか、終止しなければどのような機能で次の語へ続くのか、ということ動詞に表示するのであり、これを「きれつづき」という名の一つの文法カテゴリーとみるわけである。

（風間 2012:141）

上記の指摘を踏まえて、本論文では、表 1 に示した態・アスペクト・極性を、語尾と比較すると標示が任意的であるという意味で「派生部分」、語尾および人称／数を「屈折部分」とする。なお、本論文は、動詞の内部の接辞について、体系的に扱ったものではないが、多角的な観点から現代ウイグル語の動詞について論じるという趣旨のものである。

本研究の位置づけおよび目的を明確にするために、現代ウイグル語をめぐる研究史を以下に概略する。

1.2. 研究史

庄垣内（2002:18）によると、「ウイグル」の付いたチュルク諸語は少なくとも三種類ある。一つは、古語である「古代ウイグル語」（「古ウイグル語」、「ウイグル語」）、一つは現在の新疆ウイグル自治区で使用されている言語である「現代ウイグル語」（「新ウイグル語」、「ウイグル語」）、もう一つはサリグ・ヨグル語（「黄色ウイグル語」、「西部裕固語」）と呼ばれる中国の甘粛省で話されている言語である。このうち、本研究で対象としているのは、現代ウイグル語である。なお、第 2 章でも述べるが、「古代ウイグル語」と「現代ウイグル語」とは別の言語とされる。

現代ウイグル語の話者は、中国北西部に位置する新疆ウイグル自治区の他に、モンゴル、アフガニスタン、パキスタンやトルコなどにも存在する（Hahn 1991: 4-5, Hahn 1998: 379, 菅原 2009: v）。ここでは新疆ウイグル自治区を中心とする言語研究史について述べる。

新疆ウイグル自治区は言語学を含め、文献学、宗教学、歴史学などの多くの学問分野に

において、重要な地位を占めてきた。古代トルコ語 (Old Turkic) や古代ウイグル語 (Old Uyghur) が使用された地域が含まれており、宗教や政治、文学などの多岐にわたるジャンルの書物が出土されている。19 世紀後半から 20 世紀前半にかけてはロシア、ドイツ、フランス、イギリス、スウェーデン、日本 (いわゆる「大谷探検隊」) による現地調査が行われた。

特に言語学に関しては、これらの調査により、比較言語学の基礎となる多様な古代ウイグル語の文献資料が発見され、綿密な研究活動にとっての好材料となった (Demir and Yılmaz 2006: 15)。19 世紀後半からは、中国国内におけるメディアや研究機関の設立がなされ、新聞や雑誌、専門誌などの様々な種類の出版物が公刊されており、これにともない、国内あるいは国外の研究者による研究活動がさかんになっていく。言語学における古代ウイグル語ないし現代ウイグル語の研究を推し進めていった初期の言語学者には、Gustaf Raquette や Gunnar Jarring, Tenishev E. R., Malov S.E. などの名前が挙げられる。日本国内での古代ウイグル語についての文献学的研究には、特に庄垣内正弘による一連の研究成果がある (主要な文献は、日本言語学会『言語研究』146: 145-146 に掲載されている)。

近年の現代ウイグル語の研究に目を向けると、中国国内では、中国科学院や中央民族学院などの研究機関によって、中国国内の少数民族の言語 (現代ウイグル語も含まれる) を対象とする全国的な言語調査が 1955 年に初めて行われている (cf. 戴 2009: 376, Yakup 2005: 20) (なお、政治情勢が原因で 1970 年代末まで方言学的調査が中断されている)。近年の方言調査の成果の一つに、新疆ウイグル自治区内の Turfan 地区の方言を音韻・語彙の面から調査した Yakup (2005) が挙げられる。記述文法書では民族出版社による『維吾尔語簡志』(赵・朱 1985) が代表的であるが、その後、Tömür (1987) に見られるように母語話者による記述文法書も出版されている。近年出版された托乎提 (2012) のように生成文法の枠組みを現代ウイグル語に適用するものも少しずつ見られるようになっていく。研究論文に関しては、定期刊行の学術雑誌である『民族語文』(中国社会科学院出版。2015 年現在も刊行されている) において、コンスタントに現代ウイグル語の研究論文の掲載が見受けられる。

中国国外の研究者によるものであるが、言語学的な観点から現代ウイグル語を記述し、かつ本格的な語学書として利用できるものには Hahn (1991) がある。その他に、理論的研究として、“Workshop on Altaic Formal Linguistics” における一連の発表 (Asarina 2011a, Grashchenkov 2011 など) や、Asarina (2011b) がある。

日本における研究には、初期のものにカシュガル方言を記述した鷺見 (1944) が挙げられる。その他に、現代ウイグル語を扱っている主だったものを挙げると、記述的な文法書である竹内 (1991) (今日、日本においてもっとも入手しやすいものであると思われる)、林 (1996) によるウルムチ方言の語彙集や、現代ウイグル語における漢語からの借用語を、音韻論的な観点から考察しているもの (Hayasi 2010)、対照言語学的観点から他言語との比較を試みているもの (西岡 2005) などがある。

以上に、今までの研究の流れを概観したが、次のことが特徴として挙げられる。

まず、チュルク語学の位置づけにおいて、比較言語学的な重要性から、古代ウイグル語の文献学的観点からの研究が盛んになされているということである。

これに対し、現代ウイグル語に関する研究量が極端に少ない、というような状況ではないが、分野ごとの偏りがあると言える。音韻論・形態論・統語論の各分野における研究がなされているものの、中でも統語論の分野における研究は未だ十分でないといわれる (戴 2009:

383)。また、先に挙げた学術雑誌『民族語文』においても、先行研究の吟味が十分になされないままに論を展開しているものも少なくない（方言研究にしても、中国国内における研究は、音韻や語彙に関する方言資料が豊富にあるものの、信頼に足りうるものでない場合が少なくないという。cf. Yakup 2005: 22)。また、一般言語学的な観点からの考察に乏しい点も目立つように思われる。地理的・社会的な理由により、特に漢語との対照が多くなされているが、その他の言語、たとえば現代ウイグル語と類似した特徴を持つ言語との対照研究の余地は、いまだ残されていると思われる。

研究史をごく簡略に見たが、このような背景を考えると、本論文は、一般言語学的な観点から、他言語との対照を念頭におきつつ、現代ウイグル語を捉えた研究であると位置づけられる。

1.3. 研究の目的

本論文の目的は大きく3つある。

第一に、現代ウイグル語という個別言語の記述研究を通して、他の言語との対照がより可能になるような素地を整えることを目的としている。通言語的に見られるような現象が、現代ウイグル語にも見られるかどうか、またもし見られるとすれば、どのような一般的規則に集約することができるかということ、本論文を通して論じていく。本論文で対象とする現代ウイグル語も数多く存在する世界の言語のうちの一つであるため、本論文での議論を通じ、対照言語学といった分野における言語研究の流れにも与することができるのではないと思われる。本論文は基本的に現代ウイグル語の記述が中心となるが、必要に応じて、現代ウイグル語以外のチュルク諸語 (Turkic languages) や、他言語における言語現象も見ていく。

第二に、従来の先行研究での不足を補うという点にある。現代ウイグル語の動詞に関しては、すでに一定量の記述 (Nadzhip 1971, 趙・朱 1985, Tömür 1987, Hahn 1991 など) が存在するが、とりわけ形態論の中で論じられていることが多い。托乎提 (2012) のように生成文法を取り入れた理論的な研究も見られるが、依然として統語的な観点からの研究は発展の段階にあると言える。また、関連しているように思われる個々の現象が、散在して記述されている部分も見られ、これらについては統一的な説明を検討する余地が残されている。本論文で取り扱う、態の接辞と形動詞の接辞は、ともに、統語論的な要素とも深く関わっており、従来深く議論されてこなかった事象についても扱う必要がある。

第三には、データベースの提示という目的がある。本論文の巻末には、2種類の資料を収録している。1つは、第一部で扱う自他動詞のペアリストであり、もう1つは、筆者が論文の執筆に際して用いた物語の一部を転写・グロス付けしたものである。日本国内において、語学目的で書かれたものを含め、現代ウイグル語を原文で読むことができる出版物は限られている (竹内 1991、菅原・Mirsultan 2007¹ など)。インターネットの普及により、原文そのものを閲覧することは可能であるものの、依然として現代ウイグル語の一定量のコーパスは、管見の限り見られない。そのため、本研究の用例を収集するにあたり、出版物を電

¹ アジア・アフリカ言語文化研究所のホームページ上に公開されており、PDFをダウンロードすることができる。
<http://www.aa.tufs.ac.jp/documents/training/ilc/textbooks/2007uyghur1.pdf>

子化した形で使用できるコーパスを作成した。

1.4. 本論文の構成

本論文は、序論・本論・結論を含む、本編全 11 章、および巻末の資料編から構成される。第 1 章（本章）および第 2 章（現代ウイグル語の文法の概略）以降の構成を示す。

1.4.1. 本論について

本論部分は、第一部と第二部からなる。

第一部は、派生部分のうち、態をテーマとしている。まず、第 3 章で現代ウイグル語における先行研究と、動詞の形態的派生の方向性に関する、代表的な研究である Nichols et al. (2004) を概略する。第 4 章で中型辞書の全数調査を行い、現代ウイグル語の動詞の形態的派生の方向性を示す。同時に、態と関わりのあるトピックとして、第 5 章で補助動詞を取り上げ、さらに現代ウイグル語と日本語の補助動詞の対照を試みる。

第二部は、屈折部分のうち、形動詞をテーマとしている。第 6 章で現代ウイグル語の先行研究を概観し、本論文で取り組む課題を示す。続く第 7 章では、形動詞の基本的用法を提示・整理する。形動詞は様々な統語的位置に現れうるが、第 8 章では、形動詞の主節述語における用法を考察する。第 9 章では、形動詞が伴う主語の格標示（主格／属格）を決定する条件について論じる。第 10 章では、所有を表す接辞の振る舞いを考察し、それが句接辞と捉えられることを指摘する。そして、現代ウイグル語の形動詞による構文との比較のもとで、日本語の構文を一般言語学的にどう位置づけられるかを論じる。

第 11 章が、結論部分であり、ここでは全章を総括する。

1.4.2. 資料について²

ここでは、巻末の資料編に収録されている二種類の資料について説明する。

1.4.2.1. 自他動詞対のリストについて

まず、自他動詞対のリストについてであるが、第一部の第 4 章と関連する自他動詞の対を掲載している。全 738 組から成り、各組の形態的派生の方向性を示している。掲載されている語彙は、菅原（2009）による『現代ウイグル語小辞典』からピックアップしたものであり、日本語訳を付けている。また、本論文で有生動詞／無生动詞として認定したものについても参照できるようになっている。

1.4.2.2 物語資料について

次に、物語資料について説明する。本論文中では以下の三冊の資料からの用例を用いている。それぞれを、本文中で引用する際には、[] 内に示した省略した書名を用いる。

'Osmaniyä, Muhämmät, G. (2006) *'uygur hazirqi zaman 'awazliq 'elipbäsi*. (『現代ウイグル語音

²現代ウイグル語の資料作成には、平成 23 年度岡山大学文学部プロジェクト研究「コミュニケーションの本質と実践に関する総合的探求」によるリサーチアシスタント経費の援助を受けた。

声付き字母』) Xoten: Lyawning radi'o-telewiziye ün-sin neshriyati. [‘elipbäsi]
 ’Öktür, Abdurähim. (1985) ‘iz. (『跡』) Urumchi : Shinjang xelq neshriyati.³ [‘iz]
 Sabiri, ‘Ahmätjan, Q. (2005) ‘uykur balilar čöçäkliri. (『ウイグルの子どもたちの童話』)
 Urumchi: Shinjang uniwersiteti neshriyati. [balilar]

上記のうち、本論文の資料編に収録しているのは、“‘uykur hazirqi zaman ‘awazliq ‘elipbäsi.” (中国語訳:『現代維吾爾語音字母』)である。

“‘uykur hazirqi zaman ‘awazliq ‘elipbäsi.”の書誌情報は以下の通りである：現代ウイグル語の文字習得を目的とした出版物であり、32個の現代ウイグル語の字母を、各課につき一つずつ学べるようになっていて、一つの課の構成は次のようになっている：初めに文字情報（語頭形・語中形・語尾形・独立形のそれぞれの形）が示され、そのあとに当該の文字を含んだ単語と例文が示される。最後に、読み物として短い物語（270～400語程度）や詩が付されている。この資料を資料編に収録した理由は、編集がウイグル人によるものであることから、母語話者による自然な例文が期待できるため、研究資料として適切なものであるという点にある。さらに、この資料は、文字の習得を目的としている上に、教材的な要素が含まれている。つまり、多数の読者を想定しているものであることから、内容の質が保証されたものであると言えるため、資料編に収録した。全24話を収録し、一話ごと、および例文ごとに番号を付しているため、本論文中で引用した際、物語資料のうち、何話のどの例文に対応しているかを、参照できるようになっている。例文として示す際には、[‘elipbäsi: 1-12] ([一部省略した書名: 物語番号 - 例文番号])という風に示す。なお、資料編に収録していない、その他の資料からの例文を引用する際には、一部省略した書名と、引用ページ数を示している（例：[‘iz: 4] / [balilar: 12]）。

必要に応じて母語話者による作例も示してあるが、その場合は作例であることを明示する。現代ウイグル語の文法性の判断には、次の3名の母語話者の方から協力を得ている：1)男性・50代・ウルムチ (‘ürümči) 出身。2)男性・30代・カラマイ (qaramay) 出身。3)女性・20代・ウルムチ (‘ürümči) 出身。

なお、当然のことながら、本研究における誤りの責任はすべて筆者に帰する。

³ ‘izは28章から成るが、そのうちの1章～10章から収集したものをデータとして用いている。

第2章 現代ウイグル語の文法

第2章では、現代ウイグル語に関する基本情報を紹介し、続いて正書法・音韻体系・形態法・統語法の順に、その仕組みを簡潔に示す。

2.1. 言語の概要

チュルク諸語 (Turkic languages) は中央アジアを中心に、東シベリアからアナトリアにかけてユーラシア大陸を横切る広大な地域に分布している。チュルク諸語には25~30の方言が認められ、その分類法については諸説あるが、ここでは Johanson (1998: 82) の分類を挙げる。

- 1 A southwestern (SW) branch, Oghuz Turkic
- 2 A northwestern (NW) branch, Kipchak Turkic
- 3 A southeastern (SE) branch, Uyghur Turkic
- 4 A northeastern (NE) branch, Siberian Turkic
- 5 Chuvash, representing Oghur or Bulghar Turkic
- 6 Khalaj, representing Arghu Turkic

(Johanson 1998: 82)

上記の分類のうち、現代ウイグル語は南東語派 (southeastern branch) に属する。そして、その話者であるウイグル人は、主に中華人民共和国内の新疆ウイグル自治区を中心に居住しており、隣接するカザフスタン、キルギス、ウズベキスタン、アフガニスタン、パキスタン、モンゴルなどの他に、タジキスタンやトルコなどにも存在するとされる。話者数は600万~1000万人であると推定される (Hahn 1991: xvii)。言語の呼称について説明を付け加えると、「ウイグル語」という用語は、イスラム化 (15~16世紀) 以前にウイグル民族によって書かれた「ウイグル文献」で使用されている言語 (古代ウイグル語) を指す場合がある。現在の新疆ウイグル自治区で話されている現代ウイグル語は、古代ウイグル語の要素を継承しているとされるが、両言語間の差異は大きいと、学問上は両者を区別する向きもある。本論文でもこれらのことを考慮し、現在のウイグル自治区で話されている言語を一貫して「現代ウイグル語 (Modern Uyghur, *hazirqi zaman 'uyğur tili*)」と称することにす (なお、「新ウイグル語」 (New Uyghur) と称されることもある)。

2.2. 正書法

文字・表記に目を向けると、その変遷は著しいといえる。文字は20世紀初頭まで、アラビア文字で表記されていた。1920年にカザフスタンやキルギスに住むウイグル人がソ連邦に併合され、ソ連側ではラテン文字で現代ウイグル語を表記することが試みられたが、す

ぐにキリル表記に換えられた。一方で、他のウイグル人の大部分は清朝および中華民国に引き継がれ、中国側では1930年代後半から、アラビア文字表記の改良（アラビア語やペルシア語由来の外来語でしか使用されない文字を廃止する、母音をすべて書き表すなど）が試みられてきた。1960年になると、ソ連のキリル文字表記の影響もあり、ラテン文字表記が採用される。文化大革命ののちの1983年に、ラテン文字表記は再びアラビア文字表記に戻された（以上は、林（2011: 138-139）を一部引用した）。

なお、菅原（2009）によると、現在の新疆内で公式に用いられているアラビア文字は、（先にも触れたように）母音をすべて字母として表記する点や、ハイフネーションを許す点などにおいて、独特の正書法を持つ変則的なアラビア文字として知られているという。表2-1に現在の新疆ウイグル自治区で用いられているアラビア文字（ここでは独立形のみを示す）と、それらをラテン文字で転写したもの、および音価を示す。

表 2-1 アラビア文字および転写表記と音価の対応表

アラビア文字	転写	音価	アラビア文字	転写	音価
ئا	a	a	ق	q	q
ئە	ä	ε	ك	k	k
ب	b	b	گ	g	g
پ	p	p	ڭ	ŋ	ŋ
ت	t	t	ل	l	l
ج	j	dʒ	م	m	m
چ	č	tɕ	ن	n	n
خ	x	χ	ھ	h	h
د	d	d	ئو	o	o
ر	r	r	ئۇ	u	u
ز	z	z	ئۆ	ö	ø
ژ	ž	ʒ	ئۈ	ü	y
س	s	s	ۋ	w	w
ش	š	ɕ	ئى	e	e
غ	ɣ	ɣ	ئى	i	i
ف	f	f	ي	y	j

2.3. 音韻体系

現代ウイグル語の音素は母音音素が 8 個、子音音素が 25 個認められる。母音と子音の一覧を表に示す。

表 2-2 母音音素

非円唇		円唇	
前舌	後舌	前舌	後舌
i		ü	u
e			
ä	a	ö	o

表 2-3 子音音素

p	t		k	q	'
b	d		g		
		č			
		ǰ			
f	s	š		x	h
w	z	ž		ƣ	
m	n		ŋ		
	l				
	r				
		y			

母音の音価は次の通りである：/i/=[i], /e/=[e], /ä/=[ɛ], /a/=[a], /ü/=[y], /u/=[u], /ö/=[ø], /o/=[o]。なお、/i/は中舌の[i]で発音されることが多い（例：til [tʰil]（「ことば」）、qir [qir]（「辺り」））。

子音の音価は次の通りである：/p/=[p], /t/=[t], /k/=[k], /q/=[q], /'/=[ʔ], /b/=[b], /d/=[d], /g/=[g], /č/=[tʃ], /ǰ/=[dʒ], /f/=[f], /s/=[s], /š/=[ʃ], /x/=[χ], /h/=[h], /w/=[w], /z/=[z], /ž/=[ʒ], /ƣ/=[ɣ], /m/=[m], /n/=[n], /ŋ/=[ŋ], /l/=[l], /r/=[r], /y/=[j]

2.3.1. 母音調和

チュルク諸語には母音調和（形態論的単位における母音の共起に関する規則）がある。(1)は口蓋調和（palatal harmony）の例であり、(2)は円唇調和（labial harmony）の例である。

- (1) 'at-lar / 'äl-lär
 馬-PL 国-PL
 「馬ども」 「国々」

- (2) qol-um / köz-üm
 手-POSS.1SG 目-POSS.1SG
 「(私の) 手」 「(私の) 目」

なお、接辞が-ni (対格接辞) や-DI⁴ (過去時制接辞) のように開音節である場合、(3)で見られるように円唇調和しないことがある。

- (3) qol-um-ni
 手-POSS.1SG-ACC
 「私の手を」

- ’öl-tür-di
 死ぬ-CAUS-PST
 「(彼は) 殺した」

現代ウイグル語における母音調和は不規則な面もあり、たとえば前舌母音の i および e は、後舌母音の系列にも立ちうる (庄垣内 1992: 284)。

- (4) ’išči-lar 「労働者たち」
 til-ka 「舌へ」
 yez-iŋlar 「書け」
 yeqin-da 「近くに」

2.3.2. 超分節音的特徴

基本的に第一ストレスは語の最終音節に置かれる。接辞が付加された場合、ストレスはその接辞に移る。

- (5) kiši 「人」
 kiš-lär 「人々」(ä の上にアクセントが来る)
 kiš-lir-ím 「我が人々」

2.4. 形態法

品詞は大別すると名詞類と動詞に分けられる。名詞類の中には、名詞・代名詞・形容詞・数詞・副詞・接続詞・小詞などが含まれる。名詞は曲用形を持ち、動詞は活用形を持つ。これらの屈折は語幹に接辞を付加することにより行われる。以下、名詞類と動詞とに分けて見ていく。

⁴ 交替形を持つものを大文字で示す。

2.4.1. 名詞類

名詞類において、名詞と形容詞、そして形容詞と副詞とを形態的に区別することは難しく、辞書において形容詞と記載されているものが、名詞として用いられることや、動詞を修飾する副詞として用いられることがある。

- (6) a. kona yezik / b. koni-lar⁵
古い 文字 / 古い-PL
「古い文字⁶」 / 「昔の人々」
- (7) a. yaxši pikir / b. yaxši 'oqu-di.
良い 考え / 良い 学ぶ-PST
「良い考え」 / 「よく学んだ」

(6a)で kona (「古い」) という語は、名詞を修飾しているため、形容詞としての働きをしていると言える。一方で、(6b)のように複数接辞が付いてそれ自体が名詞として用いられることもできる。また、(7a)においては、yaxši (「良い」) が名詞を修飾しているが、一方で(7b)では、動詞の前に位置して副詞的に用いられていることが分かる。以上の例から分かるように、現代ウイグル語では、ある語の品詞はその語自体が持つ形態的・意味的な特徴のみでなく、他の要素との連辞関係によって決まるところが大きいと言える。

名詞には複数接辞・所有接辞・格接辞の順に接辞が付加される。次に見ていく。

2.4.1.1. 複数接辞

複数接辞 -lAr は(8)で示すように名詞が複数存在することを示すが、(9)のように、数を表す他の要素によって、名詞が修飾されている場合は、用いられない。

- (8) bali-lar
子ども-PL
「子どもたち」

- (9) 'üč bala
3 子ども
「3人の子ども」

2.4.1.2. 所有人称接辞

所有人称接辞は、名詞が何 (あるいは誰) に所属するのかを示す。数および人称に応じた形を取り、それは表 2-4 のようにまとめられる。

⁵ koni と語幹末の母音が変化しているのは、後続する接辞の影響によるもの。

⁶ 現在の新疆ウイグル自治区で用いられるアラビア文字をベースにした文字の呼称。

表 2-4 所有人称接辞

	単数	複数
1 人称	-(I)m	-(i)mIz
2 人称 (親称形)	-(I)ŋ	-(I)ŋlar
2 人称 (尊敬形)	-(i)ŋiz	-(i)ŋizlAr
3 人称	-(s)i	-(s)i

具体例として、名詞である yurt (「故郷」) に所有人称接辞が付加された例を示す。

	単数	複数
1 人称	yurt-um 「私の故郷」	yurt-imiz 「私たちの故郷」
2 人称 (親称形)	yurt-uŋ 「君の故郷」	yut-uŋlar 「君たちの故郷」
2 人称 (尊敬形)	yurt-iŋiz 「あなたの故郷」	yurt-iŋizlar 「あなた方の故郷」
3 人称	yurt-i 「彼(女)の故郷」	yurt-i 「彼(女)らの故郷」

なお、柴田 (1954) や竹内 (1988) では、チュルク諸語における 3 人称というカテゴリーを認めない立場を取っている。本論文では便宜的に 3 人称という用語を用いるが、3 人称を認めているわけではなく、「1 人称および 2 人称以外のもの」として扱っている。

2.4.1.3. 格接辞

格接辞には、主格・属格・与格・対格・位格・奪格がある。

表 2-5 格接辞

主格	-φ
属格	-niŋ
与格	-GA
対格	-ni
位格	-DA
奪格	-Din

所有人称接辞が付いた yurt-i (「彼の」 故郷) にそれぞれの格を接辞した例を示す。

主格	yurt-i 「彼の故郷」
属格	yurt-i-niŋ 「彼の故郷の」
与格	yurt-i-ka 「彼の故郷へ」
対格	yurt-i-ni 「彼の故郷を」
位格	yurt-i-da 「彼の故郷で」
奪格	yurt-i-din 「彼の故郷から」

2.4.2. 動詞

動詞語幹には、態・アスペクト・極性・時制・人称を表す接辞などが付けられる。以下に活用表を簡略に示す。

表 2-6 人称接辞 I

	単数	複数
1 人称	-m	-q
2 人称 (親称形)	-ŋ	-ŋlAr
2 人称 (尊敬形)	-ŋiz	-ŋizlAr
3 人称	-φ	-φ

表 2-7 人称接辞 II

	単数	複数
1 人称	-män	-miz
2 人称 (親称形)	-sän	-silär
2 人称 (尊敬形)	-siz	-sizlär
3 人称	-(Dur)	-(Dur)

表 2-8 人称接辞 III

	単数	複数
1 人称	-(A)y-	-(A)yli
2 人称 (親称形)	-GIn/-GInä	-GIn/-Ginä
2 人称 (尊敬形)	-(I)ŋ	-(I)ŋlar
3 人称	-sun	-sun

人称接辞 I は過去形の-DI, 習慣過去形の-etti, 過去進行形の-iwatt, 条件形の-sA に付く。人称接辞 II はいわゆる不定過去形の-GAn, 伝聞過去形の-(I)ptI, 現在/未来形の-I, 意志形の-mAkçi, アオリストの-Ar に付く。人称接辞 III は希求法に用いられる。

(10) bar-di-m

行く-PST-1SG

「(私は) 行った」

(11) bar-makçi-män

行く-VOL-1SG

「(私は) 行くつもりだ」

(12) kör-äy!

見る-VOL

「(私が) 見よう!」

2.5. 統語法

現代ウイグル語の基本語順は、SOV である。

- (13) män mäktäp-kä bar-i-män
私 学校-DAT 行く-PRS-1SG
「私は学校へ行く」

先に述べたように、名詞や動詞に人称を表すマーカーが付くことから、主語代名詞は省略されうる。

- (14) nəri-ni 'igi-si-gä 'apir-ip ber-i-män
太鼓-ACC 持ち主-POSS.3-DAT 返す-CVB 与える-PRS-1SG
「(私は) 太鼓を持ち主に返してあげよう」

修飾要素は被修飾要素に先行し、接辞に加え、後置詞も用いられる。

- (15) 'ätigänlik našta 'üçün täyyarla-p qoy-dı.
朝の 朝食 ために 準備する-CVB 置く-PST
「朝食のために準備しておいた」

- (16) kündüz-i kör-gän, 'aqli-kan 'iş-lar toğruluq parañliş-imiz.
日中-POSS.3 見る-PTCP.PST 聞く-PTCP.PST こと-PL について 話し合う-1PL
「日中に見聞きしたことについて私たちは話し合う」

また、述語において、動詞が連続して用いられる場合がある。「V₁-(I)p+V₂」(=「本動詞の副動詞形+補助動詞」) という形であり、補助動詞が本動詞の動作を修飾する。

- (17) yä-p beq-iñ!
食べる-CVB 見る-IMP
「食べてみて！」

- (18) hikayä 'eyt-ip bär-di-m.
物語 話す-CVB 与える-PST-1SG
「(私は) 物語を話してあげた」

(17)では本動詞 yä-が副動詞化接辞 (-I)p)を取り、そのあとに補助動詞である beq-が続くことにより、「～てみる」といった動作の試行を表す。(18)では本動詞'eyt-が副動詞化接辞を取り、そのあとに補助動詞である bär-が続くことにより、「～てあげる」といった動作の授受を表す。

以上、言語の概要を行った。次章から本論に入る。

第一部 動詞の派生部分

序論において掲げた、チュルク諸語の動詞形態 (Ebata 2014 からの引用) の表を再掲する。

表 1 チュルク諸語の動詞形態

Outline of the Turkic verbal morphology

	Voice	Aspect	Polarity	Ending	Person/number
Stem/Root	(CAUS) (PASS) (REFL) (RECP)	(ITER) (PERF) etc.	(NEG)	FINITE PARTICIPLE CONVERB	1SG/1PL/ 2SG/2PL/ 3

(stem + ending = verbal form)

先に、本論文では態・アスペクト・極性の部分を派生部分と称することを述べた。第一部では動詞の派生部分のうち、特に態 (Voice) に焦点を当てていく。

態とは、柴谷 (2000: 119) によると、「意味関係の表出パターンにまつわる現象を指し、それは一方では動詞および文の基本形と派生形という形態的・構造的側面を、そして他方では統語範疇「主語」と動詞との意味関係という意味的側面をあわせ持つ、きわめて包括的な文法現象である」とされる。つまり、態をめぐる現象がカバーする範囲は、形態論から統語論に至る広範囲にわたるものであると考えられる。

第一部の構成は次の通りである。まず、第 3 章で現代ウイグル語の態に関する基本的な事項を導入し、先行研究においてどのように態が取り扱われてきたのかを見たあと、近年の類型論的な観点からの研究 (Haspelmath 1993 や Nichols et al. 2004) を挙げる。これらの研究との関連で、第 4 章では、現代ウイグル語の動詞の形態的派生の方向性を中型辞書の全数調査により、明らかにする。第 5 章では、態と関わる要素として補助動詞を取り上げ、さらに日本語と現代ウイグル語との対照を試みる。

第3章 先行研究

態の問題は、動詞が取ることができる項、いわゆる結合価 (valence) と結びつけて論じられることが多い。現代ウイグル語では、動詞語幹に付く接辞によって結合価の変更が示されることがある。第3章⁷では3.1.節から3.2.節にかけて、態に関する現代ウイグル語の基本的な事項に触れる。現代ウイグル語においては、語彙的な態と統語的な態が、同じ形式によって表される点が特徴的であるといえる。そのことを見たのち、3.3.節で、語彙的な態に関する近年の研究 (Haspelmath 1993 や Nichols et al. 2004) を概観する。

3.1. 現代ウイグル語の態

先行研究の記述において、共通しているのは、次の四つの態を認めている点である：使役態、受動態、再帰態、使役態。これらの態がどのような接辞により作られるのか、またそれぞれの態が表す意味については、先行研究間で大きな違いが見られないため、まずは以下で用例を挙げながら、まとめて示す。

3.1.1. 使役態

使役化の接辞には次のものがある：-t, -Ur (-ur/-ür), -Ar (-ar/-är), -DUr (-dur/-dür/-tur/-tür), -GUz (-ɣuz/-güz/-quz/-küz)。これらの使役化接辞を接辞する規則は、次の通りである (なお、下記の(19)~(20)で示す規則に従わない例外的なものも見られる)。

動詞語幹が多音節で、母音もしくは y か r の子音で終わる場合、-t を付加する。

- (19) yasa- 「修理する」 → yasa-t- 「修理させる」
'oqu- 「読む」 → 'oqu-t- 「読ませる」
küçäy- 「強くなる」 → küçäy-t- 「強める」
kökär- 「緑になる」 → kökär-t- 「緑にする」

動詞語幹が ğ または š で終わる場合、-Ur (-ur/-ür) もしくは -Ar (-ar/-är) を付加する。

- (20) 'uĉ- 「飛ぶ」 → 'uĉ-ur- 「飛ばす」
čüş- 「落ちる」 → čüş-ür- 「落とす」
'ič- 「飲む」 → 'ič-är- 「飲ませる」

上記以外の場合、-DUr (-dur/-dür/-tur/-tür) または -GUz (-ɣuz/-güz/-quz/-küz) を付加する。

⁷ 第3章は新田・栗林 (2015年12月出版予定) に基づき、表現を中心に本論筆者が改訂したものである。改訂に伴う責任は筆者に帰する。

- (21) yaz- 「書く」 → yaz-dur- / yaz-ıuz- 「書かせる」
 tap- 「見つける」 → tap-tur- / tap-quz- 「見つけさせる」
 kir- 「入る」 → kir-dür- / kir-güz- 「入れる」
 küt- 「待つ」 → küt-tür- / küt-küz- 「待たせる」
 yä- 「食べる」 → ye-dur- / ye-güz- 「食べさせる」

使役文においては、動作を行う動作者が、対格名詞句で表される ((22))。対応する能動文が他動詞文である場合、動作者は与格で示される ((23))。

- (22) män 'u-ni käl-tür -wät-ti.
 私 彼-ACC 来る-CAUS-ASP-PST
 「私は彼を来させた」

- (23) mu'allim 'oquvuci-lar-va Tursun-ni tänqitlä-t-ti.
 教師 学生-PL-DAT PSN-ACC 批判する-CAUS-PST
 「教師は学生たちにトゥルスンを批判させた」

また、現代ウイグル語の使役文は、次のように受動の意味を表すことがある。

- (24) 'u čäč 'al-dur-ıili kät-ti.
 彼 髪 取る-CAUS-CVB 行く-PST
 「彼は髪を切らせるために出かけた (彼は髪を切りに出かけた)」

- (25) 'u qoy-i-ni böri-gä yi-dur-up qoy-di.
 彼 羊-POSS.3-ACC 狼-DAT 食べる-CAUS-CVB おく-PST
 「彼は羊を狼に食べさせた (彼は羊に狼を食べられた)」

(25)で見ると、主語が被害を受ける場合も、使役文で表すことがある。

3.1.2. 受動態

受動態の接辞には、-(I)n および-(I)l がある。接辞する規則を以下に示す。
 動詞語幹が la/lä で終わる場合は-n を、l で終わる場合は-In を付加する。

- (26) başla- 「始まる」 → başla-n- 「始める」
 'işlä- 「仕事をする」 → 'işlä-n- 「仕事が行われる」
 qil- 「する」 → qil-in- 「なされる」

上記以外の場合、-(I)l を付ける。

- (27) yasa- 「作る」 → yasa-l- 「作られる」
 yaz- 「書く」 → yez-il- 「書かれる」
 qur- 「設立する」 → qur-ul- 「設立される」
 köm- 「埋める」 → köm-ül- 「埋もれる」

受動文では、文の主語が行為の影響を受ける対象である。たとえば、(28)では主語である Tursun が、動詞 *tänqitlä-* (「批判する」) の影響を受ける対象である。

- (28) Tursun *tänqitlä-n-di*.
 PSN 批判する-PASS-PST
 「トゥルスンは批判された」

- (29) biz-niñ mäktäp bir miñ toqquz yüz ’ällik säkkizinçi yil-i
 私たち-GEN 学校 1 1000 9 100 50 8 番目の 年-POSS.3
qur-ul-kan.
 建てる-PASS-PTCP.PST
 「私たちの学校は 1958 年に建てられた」

- (30) härbir ’oquvçı-ka дәptär ber-il-di.
 すべての 学生-DAT ノート 与える-PASS-PST
 「すべての学生にノートが与えられた」

受動文において、動作者を表示する場合、人や人の集合を表す名詞は後置詞である *täripidin* (「～によって」) とともに表される。無生物名詞は位格や *bilän* (「～とともに」) といった後置詞とともに表される。

- (31) Tursun mu’ällib *täripidin tänqitlä-n-di*.
 PSN 先生 によって 批判する-PASS-PST
 「トゥルスンは先生に批判された」

- (32) biz-niñ mäktäp hüksät *täripidin qur-ul-kan*.
 私たち-GEN 学校 政府 によって 建てる-PASS-PTCP.PST
 「私たちの学校は政府によって建てられた」

- (33) дәrizi-niñ ’eynig-i šamal-da čeq-il-ip ket-ti.
 窓-GEN ガラス-POSS.3 風-LOC 割る-PASS-CVB 行く-PST
 「窓ガラスが風で割れてしまった」

- (34) dārāx-lār boran-niñ zārbi-si bilān yul-*un*-up kāt-ti.
 木-PL 嵐-GEN 打撃-POSS.3 一緒に 抜く-PASS-CVB 行く-PST
 「木々が嵐で引っこ抜かれてしまった」

ただし、動作者が表示された受動文が実際に現れることは、頻度としては高くなく、動作者が表示されない受動文の方が、用いられる頻度が高いという（ミリカダム 2004: 9）。

3.1.3. 再帰態

再帰態は、受動化接辞と同じ接辞（-(I)n, -(I)l）を付加することにより、作られる。

- (35) maxta-「誉める」→ maxta-n-「自慢する」
 yu-「洗う」→ yuy-un-「(自分の体を)洗う」
 'āt-「投げる」→ 'āt-il-「(自分の)身を投げる」

再帰文は、動作者が行った動作が、動作者自身に返ってくることを示す。

- (36) 'u daim maxta-*n*-i-du.
 彼 いつも 誉める-REFL-PRS-3
 「彼はいつも自慢している」

- (37) bala yuy-*un*-di.
 子ども 洗う-REFL-PST
 「子どもが(自分の体を)洗った」

- (38) bala maña 'āt-*il*-di.
 子ども 私.DAT 投げる-REFL-PST
 「子どもが私に身を投げてきた」

再帰態は、形の上では受動態と同じになるが、両者は区別される。次の例文で示すように、再帰文では、動作者と動作の影響を受ける対象が一致するのに対して、受動文では一致しない。

- (39) a. 'ular yol-*va* čiq-iš-qa täyyarla-*n*-di.
 彼ら 道-DAT 出る-VN-DAT 準備する-REFL-PST
 「彼らは旅に出るために準備した」
- b. wäkil-lār-ni kütüwli-š 'üčün mäxsus 'öy-lār täyyarla-*n*-di.
 代表-PL-ACC 歓迎する-VN ために 専用 家-PL 準備する-PASS-PST
 「代表を迎えるための特別な家が準備された」

(40) a. gül-lär 'eč-*il*-di.
花-PL 開ける-REFL-PST
「花が咲いた」

b. yivın 'eč-*il*-di.
会議 開ける-PASS-PST
「会議が開かれた」

それぞれ、(39a), (40a)が再帰文であり、(39b), (40b)が受動文である。再帰文である(39a), (40a)では、動作者と動作の影響を受ける対象は同じ名詞（それぞれ、'ular「彼ら」と güllär「花々」である）によって表される。一方で、受動文である(39b), (40b)では、動作者と動作の影響を受ける対象とが一致しない（(39b)の'öylär や、(40b)の yivın は動作者ではない）。

3.1.4. 共同態

共同態を表す接辞は-(I)š (-š/-iš/-uš/-üš) である。以下に例をしめす。

(41) 'oyna-「遊ぶ」 → 'oyna-š-「一緒に遊ぶ」
yaz-「書く」 → yez-iš-「一緒に書く」
'ur-「殴る」 → 'ur-uš-「殴り合う」
kör-「見る」 → kör-üş-「会う」

共同態は、「お互いに～する」、「～し合う」、「一斉に～する」といった、動作が複数人になされる意味を表す。

(42) 'ular 'uzaq sözlä-š-ti.
彼ら 長く 話す-RECP-PST
「彼らは長いこと話し合った」

(43) Häsän Hüsän bilän 'uru-š-ti.
PSN PSN 一緒に 殴る-RECP-PST
「ハサンはヒュセンと殴り合った」

以上、四つの態を概略したが、一つの動詞語幹に、複数の態の接辞が付くこともできる。そのことを次に見る。

3.1.5. 態接辞の承接順序

ミリカダム (2004: 41-43) によりまとめられている、態の接辞の承接順序および例文を以下に引用する（「→」は、その左の要素が右の要素に先行することを表す）。

(44) 再帰態 → 共同態 → 使役態 → 受動態

再帰態＋共同態

(45) bali-lar kiy-*in-iš*-ti.
子ども-PL 着る-REFL-RECP-PST
「子どもたちは服を着た」

再帰態＋使役態

(46) 'ana bali-si-ni kiy-*in-dür*-di.
母 子ども-POSS.3-ACC 着る-REFL-CAUS-PST
「母親は子どもに服を着させた」

再帰態＋使役態＋受動態

(47) bala kiy-*in-dür-ül*-di.
子ども 着る-REFL-CAUS-PASS-PST
「子どもは服を着させられた」

再帰態＋使役態＋共同態

(48) 'ata-ana bali-lir-i-ni kiy-*in-dür-üş*-ti.
両親 子ども-PL-POSS.3-ACC 着る-REFL-CAUS-PECP-PST
「両親は子どもたちに服を着させた」

共同態＋使役態

(49) biz 'ular-ni kör-*üş-tür*-du-q.
私たち 彼ら-ACC 見る-RECP-CAUS-PST-2PL
「私たちは彼らを会わせた」

共同態＋使役態＋受動態

(50) 'ular kör-*üş-tür-ül*-di.
彼ら 見る-RECP-CAUS-PASS-PST
「彼らは会わせられた」

使役態＋受動態

- (51) bali-*ka* kiyim kiy-*dür-ül-di*.
子ども-DAT 服 着る-CAUS-PASS-PST
「子どもに服が着せられた」

使役態＋共同態

- (52) 'ular 'at-ni čap-*tur-uš-ti*.
彼ら 馬-ACC 走る-CAUS-RECP-PST
「彼らは馬を走らせた」

なお、上記の例のうち、(48)や(52)の「使役態＋共同態」の接辞の承接順序に関しては、例外的に(44)で見た順序に当てはまらないことになる。

以上、態の種類とその用法について概観した。

3.2. 生産的使役と語彙的使役

現代ウイグル語の態において、特徴的なのは、語彙的な他動詞（つまり、辞書にあらかじめ登録されているもの）の形と、そうでない他動詞の形とが同じになるという点である。次の例を見てみよう。

- (53) män 'u-ni käl-*tür-wät-ti*.
私 彼-ACC 来る-CAUS-ASP-PST
「私は彼を来させた」

- (54) 'ular mašini-ni keyni-gä yan-*dur-di*.
彼ら 車-ACC 後ろ-DAT 退く-CAUS-PST
「彼らは車を後ろに退いた」

- (55) 'ular čiraq-ni 'öč-*ür-di*.
彼ら 明かり-ACC 消える-CAUS-PST
「彼らは明かりを消した」

(53)と(54)・(55)で異なるのは、(53)では主語である名詞（män「私」）が、被使役者である'uに指示を与えて動作を行わせているのに対して、(54)・(55)ではそのような関係（つまり、主語である名詞が mašina（「車」）や čiraq（「明かり」）に指示を与えて動作を行わせる）が成立しないという点にある。Tömür（1987）では、(54)・(55)の例文も使役態の記述の中で扱われている。

(53)は Shibatani and Pardeshi（2002: 88）の生産的使役（productive causative）、(54)・(55)

は語彙的使役 (lexical causative) と呼ばれるものに該当する。生産的使役とは、典型的には使役者が被使役者に指示ないし指導を与えることによってなされるものを指し、語彙的使役とは、使役者による被使役者 (物もしくは人) の物理的操作を含んでいる状況を指す。日本語を例にとると、(56a)が生産的使役、(56b)が語彙的使役を表すことになる。

- (56) a. 太郎が次郎に花瓶を割らせた。 (生産的使役)
b. 太郎が花瓶を割った。 (語彙的使役)

ここでポイントとなるのは、現代ウイグル語の場合、語彙的使役を表す接辞と、生産的使役を表す接辞とが同じ形態になるということである (例えば(53)と(54)を比較すると、どちらも-dur という接辞が用いられている)。

先行研究において、他動詞と使役、および自動詞と受動の関連について述べたものが見られる (Tömür 1987, 托乎提 2012 など) が、被使役者の有無で他動性の動詞分類をしているものはない。

なお、語彙的使役については、次節で見るように、類型論的な観点からの研究が先行している。

3.3. 動詞の形態的派生の方向性に関する研究

動詞の形態的派生の方向性に関し、類型論的な傾向を調査している研究に Haspelmath (1993) および Nichols et al. (2004) が挙げられる。両者ともに多様な言語のデータに基づいており、多角的な項目 (動詞の持つ特徴、対象言語の地理的・系統的特徴) のもとで動詞の形態的派生について見ることができる。

Haspelmath (1993: 87-88) は、語の派生関係において、形態と意味の間に類像性が期待できるとしている。たとえば、名詞の単数・複数を考えると、複数という概念は単数という概念から派生されるものであり、形態的にも単数の場合より複雑なものとなる (例: book → book-s)。つまり、意味的な派生関係が形態的な派生関係にも反映されるということであるが、そのような「基本形-派生形」の方向性は、常に普遍的になるわけではない。その反例の一つが、動詞の形態的派生の方向性なのである。

たとえば、上記の形態と意味の類像性を考えた場合、自動詞と他動詞では、他動詞の方が自動詞よりも意味的に複雑になると考えられ、形態的にも他動詞の方が有標になる (自動詞よりも複雑な形になる) ことが期待できる。そのため、(57)のハルハ・モンゴル語の動詞の形態的派生の方向性は、自動詞より他動詞の方が、形態的に、より有標となっており、類像性の原理に適っているように思われる。しかし、一方で(58)のロシア語のように自動詞が形態的に有標な形で現れる言語もある。

- (57) xajl-ax → xajl-uul-ax
「溶ける」(自) 「溶かす」(他)

(58) rasplavit' → rasplavit'-sja
「溶かす」(他) 「溶ける」(自) (Haspelmath1993: 89)

つまり、動詞の形態的派生の方向性は、類像性の原理によって単純に説明できるようなものではなく、実際の言語においては、自動詞から他動詞を派生するケース、他動詞から自動詞を派生するケース、あるいは、そのどちらでもないケースも存在するということになる。

ここで興味深いのは、このような動詞の形態的派生の方向性は無秩序ではなく、偏りを見せることがあるという点である。以下に、Haspelmath (1993) および Nichols et al. (2004) からの調査結果を示す。前者ではトルコ語が、後者では現代ウイグル語が調査対象として含まれている。

3.3.1. Haspelmath (1993)

Haspelmath (1993) の 31 対の動詞に基づくと、トルコ語における動詞の派生の方向性は表 3-1 の通りに示される⁸。

表 3-1 トルコ語 動詞の派生の方向性

total	A	C	E	L	S	A / C	%non-dir.
30	9	17.5	2.5	0	1	0.51	12

(Haspelmath1993: 101 より一部抜粋)

表の略記号は以下の通りである：A は anticausative (逆使役交替。他動詞が基本形で自動詞を派生させる。例：buz-*ul-*「壊れる」(vi) / buz-「壊す」(vt))、C は causative (使役交替。自動詞が基本形で他動詞を派生させる。例：öl-「死ぬ」(vi) / öl-*tür-*「殺す」(vt))、E は equipollent (両極交替。同じ語幹から異なる接辞を用いて他動詞と自動詞を派生させる。例：oyka-*n-*「起きる」(vi) / oyka-*t-*「起こす」(vt))、L は labile (同一形交替。自他ともに同じ形である。例：püle-「吹く」(vi) / püle-「吹く」(vt))、S は suppletive (補充形交替。異なる語根を用いる)。動詞の形態的派生の方向性のタイプが、A および C であれば「派生の方向性がある」ということになり、その他であれば「派生の方向性がない」といえる。表 3-1 の A / C は、A を C で割った数であり、右端の non-dir. は派生の方向性がないことを意味する。A / C の値が 1 よりも小さいため、トルコ語においては他動詞化型の方が優勢であるといえる。

⁸ Haspelmath (1993) において、トルコ語については、一部の動詞が欠けているため、表 3-1 の total が 30 になっている。また、一つの動詞に対し異なった 2 つの表現がある場合、それぞれを 0.5 と数えている。

3.3.2. Nichols et al. (2004)

Haspelmath (1993) が 21 言語の 31 対の動詞を対象に調査しているのに対し、Nichols et al. (2004) ではさらに調査対象となる言語を増やし、80 言語の 18 対の動詞から得られた結果が報告されている。そして、ここには現代ウイグル語も含まれる。18 対の自他動詞対について各言語でどのような形態的派生の方向性を見せるのかを示し、また、類型論的な傾向も兼ね合わせて考察を行っている。表 3-2 は 18 対の動詞一覧である。さらにこれらは、有生動詞（番号 1～9）と、無生動詞（番号 10～18）に分けられる。

表 3-2 Nichols et al. (2004) による動詞のペアリスト⁹

	自動詞	他動詞
1	laugh	make laugh
2	die	kill
3	sit	seat
4	eat	feed
5	learn	teach
6	see	show
7	be angry	make angry
8	be afraid	scare
9	hid	hide
10	boil (intr.)	boil(tr.)
11	burn, catch fire	burn, set fire
12	break (intr.)	break(tr.)
13	open (intr.)	open(tr.)
14	dry	make dry
15	be straight	straighten
16	hang (intr.)	hang(tr.)
17	turn over (intr.)	turn over (tr.)
18	fall	drop

表中の 1～9 の有生動詞とは、主語に有生物を取る動詞のことである（他動詞の場合は、有生物を目的語として取る）。

(59) a. Bahar küi-di.

PSN 笑う-PST

「バハルは笑った」

(有生自動詞)

⁹ Nichols et al. (2004) では表の左側の動詞は“sematic non-causatives”として、右側の動詞は“sematic causatives”と言及されている。また、表中の “intr.”は“intransitive”の略で、“tr.”は“transitive”の略である。

b. 'Öktür Bahar-ni kül-*dür*-di.
 PSN PSN-ACC 笑う-CAUS-PST.
 「オトキュルはバハルを笑わせた」 (有生他動詞)

10～18 の無生動詞とは、主語に無生物を取る動詞のことを指す（他動詞の場合は、無生物を目的語として取る）。

(60) a. 'išik 'eč-*il*-di.
 戸 開く-PASS-PST
 「戸が開いた」 (無生自動詞)

b. momay 'išik-ni 'ač-ti.
 おばあさん 戸-ACC 開く-PST
 「おばあさんが戸を開けた」 (無生他動詞)

このような動詞の分類のもと、Nichols et al. (2004) が示している現代ウイグル語における動詞の形態的派生の方向性は、表 3-3 の通りである。

表 3-3 現代ウイグル語 有生動詞／無生動詞の形態的派生の方向性

	Augment	Reduce	Double	Ambitrans	Suppletion	n.d.	High	Type
有生動詞	6	0	0	0	2	0	Augm	Trans
無生動詞	3	3	1	0	0	1	Reduce	Detrans

(Nichols et al. 2004: 190, 193 より一部改変)

表 3-3 の略記号は以下の通りである：Augment は項を増加させる派生を示す。Reduce は項を減じる派生を示す。Double は両極型の派生を示す。Ambitrans は同一の形が用いられることを示す。Suppletion は補充形による交替を示す。先の Haspelmath (1993) における用語とは、それぞれ次のように対応する：Augment = causative, Reduce = anticausative, Double = equipollent, Ambitrans = labile, Suppletion = suppletive. なお、n.d. は派生の方向性がないことを示す。

表 3-3 で注目したいのは、無生動詞における派生の方向性であり、「Type」が有生動詞とは別のものになっている。つまり有生動詞の場合、他動詞化型 (Trans) であるが、無生動詞の場合には自動詞化型 (Detrans) になっており、有生性と動詞の形態的派生の方向性との関連を示唆している。なお、Nichols et al. (2004) に基づいて、チュルク語の自他対応のタイプについて示したものに大崎 (2012) がある。有生動詞と無生動詞に分けて各言語の

タイプの内訳が示された表を以下に引用する¹⁰。

表 3-4 チュルク語の自他対応タイプ・有生物主語動詞

	Augm	Red	Dou	Amb	Sup	n.d.	High	Type
トルコ語	6	1	1	0	1	0	Augm	Transitivizing
ウズベク語	7	1	1	0	0	0	Augm	Transitivizing
キルギス語	7	1	1	0	0	0	Augm	Transitivizing
サハ語	7	1	1	0	0	0	Augm	Transitivizing
ウイグル語	7	1	1	0	0	0	Augm	Transitivizing

表 3-5 チュルク語の自他対応タイプ・無生物主語動詞

	Augm	Red	Dou	Amb	Sup	n.d.	High	Type
トルコ語	5	2	0	0	1	1	Augm	Transitivizing
ウズベク語	4	4	0	0	1	0	Red	Detransitivizing
キルギス語	4	4	0	0	1	0	Red	Detransitivizing
サハ語	4.5	3.5	1	0	0	0	Augm	Transitivizing
ウイグル語	5	3	0	1	0	0	Augm	Transitivizing

表 3-4 から、有生動詞においては、どのチュルク語も他動詞化型が優勢であることが分かる。一方で、表 3-5 から、無生動詞においては、他動詞化型のもの（トルコ語、サハ語、ウイグル語）と自動詞化型のもの（ウズベク語、キルギス語）に分かれる。特に、ウイグル語については、無生動詞では他動詞化型となっている点で Nichols et al. (2004) と異なる。

3.4. 問題点の整理

以上、先行研究を概観した。現代ウイグル語の記述において、使役や受動などといった態と、自動詞・他動詞との関連に言及はあるが、それらを類型論的に位置づけたものは見られない。ここに、Haspelmath (1993) および Nichols et al. (2004) らによる一連の研究と結びつける意義がある。

また、Nichols et al. (2004) では、すでに現代ウイグル語を対象とした調査結果も出されているが、もともと設定されている自他動詞の対が 18 対と限定されたものになっている。つまり、少数の特定の形式に関する抽出調査であり、網羅的な全数調査についてはまだなされていないということになる。さらに、Nichols et al. (2004) と大崎 (2012) を参照すると、無生動詞の形態的派生の方向性に関して、異なる結果が示されているため、この点に

¹⁰ 大崎 (2012) の表では、ウイグル語に関して、Nichols et al. (2004) の調査による数値およびタイプも併せて載せているが、表 3-3 のものと同じであるため、表 3-4 および表 3-5 では、それらを省略した形で引用している。また、表題の「有生物主語動詞」および「無生物主語動詞」は本文で「有生動詞」および「無生動詞」として言及しているものに該当する。

についても検討する必要がある。

次節では、中型辞書によるデータを利用することで、これらの問題点に取り組んでいく。

第4章 動詞の形態的派生の方向性

第4章では、第3章で述べた次の2点の問題に取り組む¹¹：1) 現代ウイグル語における自他動詞の全体的な形態的派生の方向性のタイプは、どのようなものであるか。2) 有生動詞・無生動詞の別で見たとき、形態的派生の方向性のタイプに違いが出るか。

以下、4.1.節で、動詞抽出の基準を述べたのちに、現代ウイグル語における自他動詞の派生の方向性のタイプを、中型辞書の調査から明示する。さらに4.2.節では、有生動詞と無生動詞の対を抽出し、それらにおける形態的派生の方向性を示す。4.3.節を本章のまとめとする。

4.1. 辞書による全数調査

4.1.1. 抽出基準

動詞の全数調査の手順は以下の通りである：菅原（2009）の『現代ウイグル語小辞典』（収録語数 16,000 語余り）から動詞を抽出する。抽出された動詞を有対のもの（自他の対応が見られるもの）と無対のもの（自他の対応が見られないもの）に分け、有対のものはさらに、その派生関係を調査する。現代ウイグル語の自他動詞の派生において特徴的なのは、先述したように、他動詞を派生する接辞が、語彙的な派生においても、統語的な派生においても、同形になるということである。これは、自動詞についても同じことが言える。抽出に当たってはひとまず、辞書に記載されているものを語彙化したもの、すなわち他動詞化接辞／自動詞化接辞とみなし、統語的な使役接辞ないしは受動接辞ではないとした。

なお、自他動詞の形態的派生の方向性に関して、「抽出語彙の選択によって結論が容易に左右されてしまう恐れがある」（大崎 2012: 3）という指摘がある。現代ウイグル語の例を取れば、Haspelmath（1993）や Nichols et al.（2004）で設定している動詞 ‘burn’ に対応する動詞として、qala-*n*- (vi) / qala- (vt) の対を選べば自動詞化型に、köy- (vi) / köy-*dür*- (vt) の対を選べば他動詞化型になる。そこで、今回の辞書からの抽出には、次の基準を設けている。

(1) 接辞の形式が異なるものは別個の動詞としてカウントする（例：har- 「疲れる」に対して har-*buz*-, har-*dur*- 「疲れさせる」）。

(2) 自他の対が見られ、その片方が他の動詞とも対をなす場合、それぞれを別個にカウントする（例：’ak- 「傾く」と ’ak-*dur*- 「ひっくり返す」で他動詞化型が1組、’ak-*dur-ul*- 「ひっくり返される」と ’ak-*dur*- 「ひっくり返す」で自動詞化型が1組とする）。

なお、形態上は自他動詞の対に見えるものであっても、次のように、両者のあいだに意味的関係が見られない場合は、カウントの対象外としている。

¹¹ 第4章は新田・栗林（2015年12月出版予定）に基づき、本論筆者が改訂したものである。特に、4.1.2.節の表4-1、4.2.2.節の表4-4においては大幅な資料の追加や数値の変更を行っている。改訂に伴う責任は筆者に帰するものである。

(61) *boša-n-* (vi) 「出産する」 / *boša-t-* (vt) 「空にする、追い出す」
tamaqla-n- (vi) 「食事を取る」 / *tamaqla-* (vt) 「まぐわで耕す」

これらの基準にしたがって、自他動詞の対となっているものを抽出した。

4.1.2. 調査結果

調査の結果、抽出された動詞は 2,895 個であり、そのうち自他動詞のペアをなしているものは、738 組で見られる。表 4-1 に、詳細な調査結果を示す。表中の数字はペア数で示している（なお、この自他動詞のペアのリストは、資料編の資料 1 として収録している）。

表 4-1 現代ウイグル語 自他動詞の形態的派生の方向性

total	A	C	E	L	S	A/C	%non-dir.
738	252	403	82	1	0	0.63	11

全体に占める A の割合は約 34% であり、C の割合は約 55% である。A/C の割合から現代ウイグル語には形態的派生の方向性が認められ、他動詞化型が若干優勢であるといえる。また、この結果は、Haspelmath (1993) によるトルコ語の調査結果 (A/C=0.51) と比較すると、現代ウイグル語の方が A に対して C が占める割合が 1.2 倍ほど高い。すなわち、現代ウイグル語に派生の方向性はあるものの、トルコ語ほどではないということが分かる。

4.2. 有生動詞／無生動詞における形態的派生の方向性

4.2.1. Nichols et al. (2004) に基づく調査結果

次に、有生動詞／無生動詞の別に形態的派生の方向性を見る。Nichols et al. (2004) では、サンプルとなる英語と、現代ウイグル語の具体的対応例が挙げられていないため、表 4-2 に対応表を示す。

表 4-2 Nichols et al. (2004) の動詞と現代ウイグル語との対応

Nichols の動詞 18 対			現代ウイグル語の動詞 18 対		派生の方向
1	laugh	make laugh	kül-	kül-dür-	C
2	die	kill	öl-	öl-tür-	C
3	sit	seat	oltur-	oltur-ruz-	C
4	eat	feed	yä-	yi-güz-	C
5	learn	teach	ügä-n-	ügä-t-	E
6	see	show	kör-	kör-sät-	C
7	be angry	make angry	ƙäzäplän-	ƙäzäplän-dür-	C
8	be afraid	scare	qorq-	qorqu-t-	C
9	hid	hide	mök-	mök-tür-	C
10	boil (intr.)	boil(tr.)	qayna-	qayna-t-	C
11	burn, catch fire	burn, set fire	köy-	köy-dür-	C
12	break (intr.)	break(tr.)	sun-	sun-dur-	C
13	open (intr.)	open(tr.)	eč-il-	ač-	A
14	dry	make dry	quru-	quru-t-	C
15	be straight	straighten	tüzit-il-	tüzät-	A
16	hang (intr.)	hang(tr.)	es-il-	as-	A
17	turn over (intr.)	turn over (tr.)	aƙdur-ul-	aƙdur-	A
18	fall	drop	čüş-	čüş-ür-	C

※ 1-9 が有生動詞、10-18 が無生動詞

この対応表に基づき、Nichols et al. (2004) の基準で有生動詞／無生動詞における形態的派生の方向性を示す表 4-3 を作成した。動詞の抽出基準に関して両者には違いがあるため、表 4-3 と、第 3 章の 3.3.2 節で示した Nichols et al. (2004) による表 3-3 の数値は異なっている。表 4-3 において、特に注意すべきは、有生動詞については、形態的派生の方向性のタイプが Nichols et al. (2004) および大崎 (2012) の調査したものと違いが見られないが、無生動詞については明確に自動詞化型であるとの結論は下せないという点である。

表 4-3 Nichols et al. (2004) に基づく有生動詞／無生動詞の派生の方向性¹²

	Augment	Reduce	Double	Ambitrans	Suppletion	n.d.	High	Type
有生動詞	8	0	1	0	0	0	Augm	Trans
無生動詞	5	4	0	0	0	0	Augm /Reduce	Trans /Detrans

¹² High の決定は次の基準による : High=more than one standard deviation above the mean frequency (as percent) for that deviation (Nichols et al. 2004: 189, 193 参照)。たとえばウイグル語の無生動詞の Augment についてみると 80 言語の平均が 2.5、標準偏差が 2.0 となっている。平均に標準偏差を足したもの (2.5+2.0=4.5) より数値が高いので High であると認定できる。なお、Nichols et al. (2004:189-196) における High の認定には不明な点も見られるため、前述の基準は暫定的なものとする。

ここでは Haspelmath (1993) の方法 (A に対する C の数値を調べる) に基づいて、形態的派生の方向性を見た (Nichols et al. (2004) の統計処理は、80 言語における 18 対の動詞を対象としているものに限られるためである)。

A/C の比率を見てみると、有生動詞と無生动詞において、両方ともに、C が A に対して優勢であることが分かるが、有生動詞の A/C の比率が 0.51 なのに対し、無生动詞の A/C の比率が 0.85 と高くなっている。無生动詞の A/C の比率は、有生動詞の A/C の比率の約 1.67 倍である。つまり、無生动詞において、他動詞化型の方向性は、有生動詞に比べて若干低くなるということになる。

以上のことを整理すると、現代ウイグル語の無生动詞における、自他動詞の形態的派生の方向性について、3 つの異なる結果が出ていることになる。1 つは、自動詞化型 (Nichols et al. 2004) とするものであり、1 つは他動詞化型 (大崎 2012) とするものであり、1 つは自動詞化型と他動詞化型が拮抗している (本論文 4.2.1.節) とするものである。このゆれが動詞の語彙の選定により影響しているということは確かであるが、このようなゆれが見られること自体が、現代ウイグル語における無生动詞の性質を特徴づけているように思われる。言い換えれば、現代ウイグル語の無生动詞は、3 つの調査において、すべて他動詞化型の結果でありうるような、一貫した形態的派生の方向性を持つものではない。

そして、有生動詞・無生动詞のサンプルを増やした結果において、無生动詞における形態的派生の方向性が、有生動詞と比べて低くなった。表 4-4 に示した結果は、Haspelmath (1993) に基づいたものであり、統計処理を行っている Nichols et al. (2004) と区別すべきかもしれないが、有生性に基づく動詞のタイプと、形態的派生の方向性のタイプとの関連を示唆するものとなっている。

ナロック (2007: 163) では、次の指摘をしている:「池上 (1981 他) は、〈する〉的言語と〈なる〉的言語の類型論を提案しているが、それに関連させるならば、他動詞化型は自動詞をベースとするので〈なる〉的言語、非他動詞化型は他動詞をベースにするので〈する〉的言語ということになる」(「非他動詞化型」は、「自動詞化型」と本論文で呼んでいるもの)。

このような類型論的なタイプに位置づけるには、その他の現象にも着目する必要があるが、現代ウイグル語の場合、たとえば中国語からの借用語の在り方を観察することで、その傾向について探ることができるかもしれない。現代ウイグル語にはいわゆる軽動詞 (light verb) に相当する動詞に、bol- (「なる」) と qil- (「する」) がある。

(66) mehman bol- 「客になる、招かれる」
mehman qil- 「客をもてなす」

上の例で見ると、名詞と組み合わせる際に、bol- を用いるか、qil- を用いるかによって、軽動詞の主語が動作を受ける側になるのか、動作をする側になるのか、という違いが見られる場合がある。

語がどのように借用されるかのパターンはいくつかあるが、その一例として、前部要素に中国語由来の語、後部要素に現代ウイグル語の軽動詞が来る複合語が挙げられる。

(67) a. gomiŋ qil- <過敏+qil-
「厌烦 (うんざりする)」

b. 'äy'äyji qil- <AA 制+qil-
「各付各的账 (割り勘する)」

(达吾提 2011: 78)

(67a)は、心理状態を表す動詞として用いられているが、主語が動作者ではないにも関わらず、qil-が用いられている点で興味深い。このような借用語による組み合わせのパターンを探っていくことが、〈する〉的または〈なる〉的ということを考える手がかりとなるかもしれない。

4.3. まとめ

第4章では、冒頭で次の問題点を掲げた：1) 現代ウイグル語の自他動詞の形態的派生の方向性のタイプは、全体的にどのような状況であるか。2) 有生動詞・無生動詞の別で見たとき、形態的派生の方向性のタイプに違いが出るか。

1) に対しては、全数調査によって、他動詞化型が優勢であることを示した。そして、2) については、有生動詞では、全体の傾向と同じく、他動詞化型が優勢であり、この点は Nichols et al. (2004) による調査結果と一致する。一方で、無生動詞において、Nichols et al. (2004) では無生動詞が自動詞化型とされているが、本論文では他動詞化型と自動詞化型が拮抗していることを示した。さらに、有生動詞と無生動詞のペア数を増やして調査した結果、無生動詞における A/C の値が、有生動詞における値よりも高くなること、つまり無生動詞においては他動詞化型の方向性が、低くなることを示した。

チュルク諸語の中の位置づけから見ると、キルギス語および同じ南東グループに所属するウズベク語においても、有生動詞において他動詞化型であるが、無生動詞においては自動詞化型であることから、地域的な要因とも結びついているのかもしれない。

次章では、態と補助動詞が関わっている現象について考察していく。

第5章 態と補助動詞

第5章では、現代ウイグル語の補助動詞の一部を考察対象の中心とし、現代ウイグル語と日本語とを対照していく。

前章で、現代ウイグル語の態が、接辞によって表されることを紹介した。第5章では、接辞以外に態を表す手段として補助動詞があるということを取り上げる。日本語においては、「～てもらおう」、「～てくれる」、「～てあげる」などの、授受表現と言われる一連の表現があり、たとえば「～てもらおう」は、出来事の影響を主語が被るという点で受動と類似しており、態に補助動詞が関わっている例と言えるだろう。

ここで、補助動詞と呼ぶのは、副動詞形を取った本動詞に後続し、本動詞の動作を修飾する働きをするものを指す。どの語を補助動詞とするのかは、先行研究ごとに違いがある。たとえば、竹内 (1991: 298) では17個の補助動詞を挙げているのに対し、Ablahat (1995) では23個の動詞を補助動詞として挙げている。また、複合動詞 (compound verb) やアスペクト動詞 (aspectual verb) と呼んでいるものもある (Ablahat 1995, Hahn 1991)。

いずれにせよ、補助動詞の使い分けにより、本動詞の表す動作がどのように行われるのか、違いが出てくる。(68)であれば、どのように笑ったのかが後ろの補助動詞で示される。また、(69)からは、出来事の段階性が補助動詞の違いにより表されることが分かる。

(68) a. Bahar kü-l-üp qoy-di.
PSN 笑う-CVB 置く-PST
「バハルはにこっとほほえんだ」

b. Bahar kü-l-üp tašli-di.
PSN 笑う-CVB 投げる-PST
「バハルは突然笑い出した」

(69) a. dora 'ič-ip yaxši bol-up qal-di-m.
薬 飲む-CVB 良い なる-CVB 残る-PST-1SG
「薬を飲んで、すっかり良くなった」

b. dora 'ič-ip yaxši bol-up käl-di-m.
薬 飲む-CVB 良い なる-CVB 来る-PST-1SG
「薬を飲んで、だんだん良くなってきた」

先行研究において、用法が複雑な補助動詞を整理するために、補助動詞に先行する本動詞の性質から、補助動詞を分類するものが多くあるが、その中には、態に関する記述も散在的に見られる (Hahn 1991: 612, Ablahat 1995)。第5章は、現代ウイグル語の補助動詞を網羅的に扱うものではないが、第4章までに見てきた態の問題と関わるものとして、補助動詞の一つである al-を取り上げる。第5章の構成は、以下の通りになる。まず、5.1節で補助動詞 al-についての先行研究の記述を取りまとめて概観する。5.2節では、特に意図性という点に焦点を当てて、補助動詞 al-の記述を行う。さらに、類似した補助動詞(「～てもらおう」)

を持つ日本語との対照を試みる。5.3節を第5章のまとめとする。

5.1. 補助動詞 *al-*の用法

動詞 *al-*は本動詞として用いられる場合、「取る、得る、買う」などの意味を表す。

(70) *mawu kitab-ni 'al-di.*

この 本-ACC 買う-PST

「この本を買った」

(71) *'altun käš-ni 'el-ip 'Ärkin-niñ 'öy-gä bar-di¹³.*

金 靴-ACC 取る-CVB PSN-GEN 家-DAT 行く-PST

「金の靴を取って、エルキンの家へ行った」

一方で、補助動詞としての使用も見られ、その場合、本動詞の副動詞形に後続する。現代ウイグル語の補助動詞について詳細に取り上げた先行研究には、Ablahat (1995), Bridge (2008) などがあるが、補助動詞 *al-*の記述を整理すると、次の3点から補助動詞 *al-*の性質に着目したものが見られる。

- 1) 「行為の影響が主語に帰ってくる」という再帰性に関するもの (Tömür 1987: 412, Ablahat 1995: 109)。
- 2) 「主語が意図的である、あるいは非意図的である」という意図性に関するもの (Ablahat 1995: 110-111, Bridge 2008: 44-46)。
- 3) 「行為の結果により主語が利益を得る、あるいは不利益を被る」という恩恵性に関するもの (Tömür 1987: 412, Hahn 1991: 612, Ablahat 1995: 109-111, Bridge 2008: 44-46)。

先行研究からの例文を以下に引用する。

(72) *'adris-i-ni yez-iw-al-di-m¹⁴.*

住所-POSS.3-ACC 書く-CVB-取る-PST-1SG

「(私は) 彼女の住所を (私自身のために) 書いた」

(73) *waywey! qol-um-ni kes-iw-al-di-m!*

あっ 手-POSS.1SG-ACC 切る-CVB-取る-PST-1SG

「あっ、手を切ってしまった」

(Hahn 1991: 612)

¹³ *al-*に副動詞化接辞が続いた場合、狭母音化して *el-*となる。

¹⁴ 副動詞化接辞の-(I)p の *p* は、*al-*の前で摩擦化および有声化する。

上記の例文の(72)は、主語が意図的に行為を行い利益を得る例で、(73)は主語が非意図的な自身の行為により怪我をするという不利益を被る例である。

なお、Hahn (Hahn 1991: 612) では、補助動詞 *al-*に先行する本動詞が再帰的 (reflexive) な動作を表すとしているが、ここで用いられているのは、一般言語学的な意味での再帰とは異なる。たとえば、Haspelmath&Sims (2010: 239) は、再帰において、動作者と対象は同一となるとしている。3.1.節で述べたように、現代ウイグル語の再帰を表す接辞は-(I) および-(D)n があり、これらは動詞語幹に付加される。再帰文の例を挙げてみよう。

(74) 'Ali yuy-*un*-di.

PSN 洗う-REFL-PST

「アリは (自分の体を) 洗った」

(75) 'ayrupilan kötür-*ül*-di.

飛行機 持ち上げる-REFL-PST

「飛行機が飛び立った」

(ミリカダム 2004: 24, 28)

それぞれの例文における本動詞の動作者と、動作の影響を受ける対象は、同一の名詞で表され、またその名詞は文中の主語でもある。つまり、(74)では'Ali が動詞 *yu-* (「洗う」) の動作者でもあり、対象でもある。(75)では'ayrupilan が動詞 *kötür-* (「持ち上げる」) の動作者でもあり、対象でもある。

一方で、Hahn (1991) の挙げている(72)を見ると、本動詞である *yaz-* (「書く」) の動作者は、「私」(名詞句として明示されていないが、動詞の人称接辞から判断できる) であり、対象となる名詞は'adrisi (「彼女の住所」) である。すなわち、(74), (75)の例では、文の主語が動作者であり、動作の影響を受ける対象でもあるが、(72)はそのパターンには当てはまらない。

加えて、(74)・(75)に見た再帰文は、統語上の主語となる名詞が動作者であったが、次の(76a), (77a), (78a)において、統語上の主語である名詞は、本動詞の表す動作 (*tapšur-* (「届ける」)、*qaytur-* (「返す」)、*sat-* (「売る」)) の動作者ではない。補助動詞 *al-*を用いていない例文と対比する形で以下に示す。

(76) a. Batur xät-ni tapšur-uw-*al*-di.

PSN 手紙-ACC 届ける-CVB-*al*-PST

「バートルは手紙を受け取った」

(手紙を届けた人物は、バートル以外の人物)

b. Batur xät-ni tapšur-di.

PSN 手紙-ACC 届ける-PST

「バートルは手紙を届けた」

(手紙を届けた人物は、バートル)

(77) a. 'Öktür kitap-ni qaytur-uw-**al**-di.

PSN 本-ACC 返す-CVB-**al**-PST

「オトキュルは本を返してもらった」

(本を返した人物は、オトキュル以外の人物)

b. 'Öktür kitap-ni qaytur-di.

PSN 本-ACC 返す-PST

「オトキュルは本を返した」

(本を返した人物は、オトキュル)

(78) a. Batur bir sodigär-din 'ikki yäşik wiski set-iw-**a**-ptu¹⁵.

PSN 1 商人-ABL 2 箱 ウィスキー 売る-CVB-**al**-PF.EV

「バートウルはある商人から2箱のウィスキーを買ったそうだ」

(ウィスキーを売った人物は、バートウル以外の人物。ここでは商人)

b. Batur 'ikki yäşik wiski set-iptu .

PSN 2 箱 ウィスキー 売る-PF.EV

「バートウルは2箱のウィスキーを売ったそうだ」

(ウィスキーを売った人物は、バートウル)

補助動詞 **al**-が現れる文と再帰文における主語の性質の違いをさらに述べると、「本動詞+補助動詞 **al**-」が取る主語は有生物に限られるが、再帰文では例文(74)と(75)で見たように有生物・無生物の両方とも主語とすることができる。先行研究においては明記されていないが、補助動詞 **al**-と関わる意図性や恩恵性といった性質は、「本動詞+補助動詞 **al**-」の主語が有生物であることが前提となっている。(72)と(73)とに見られるような、「(主語が)意図的である、あるいは非意図的である」ということ、および「(主語にとっての)利益となる、あるいは不利益となる」という相反することを同じ形式(「本動詞+補助動詞 **al**-」)で表しうるのは一見矛盾するようだが、主語が有生物であるからこそ、「意図的/非意図的」、「利益/不利益」という、両方の極が関わりうるのだと思われる。

補助動詞に関して、パルデシ (2007: 181) によると南アジアの諸言語では TAKE に相当する補助的な動詞を用いることで非意図的事象を表し、主語が出来事の結果を被るという再帰性を表すという指摘がある。例えば、次のようなタミール語の例文が挙げられている(例文中の下線は本論文筆者による)。

(79) avan (marathil-irunthu keza vizunthu) kaalai udaithu-kondan.

He (tree-from down fall) leg break-took

「彼は木から落ちて足を折った」

(パルデシ 2007: 182)

¹⁵ ここでは、**al**-の **l** が脱落している。

仮にこのような動詞を TAKE 補助動詞と呼ぶとすると、(73)の「主語にとって望ましくない行為がなされる」という状況における補助動詞 al-も主語の非意図的な行為を表し、かつ主語が出来事の結果を被るという点で、TAKE 補助動詞の性質に結びつくと考えられるかもしれない。なお、Pardeshi (2005) によると南アジアの諸言語における TAKE 補助動詞も例文(79)のような場合の他に、主語が利益を得るような場合にも用いられうるという。

5.2. 補助動詞が表す意図性

意図性 (volitionality) の概念は多くの研究で論じられ、Tsunoda (1985) のように、意図性ではなく、むしろ受影性 (affectedness) との関わりが重要だとするものもあるが、Hopper&Thompson (1980) では他動性を定義する指標の一つとされる。

現代ウイグル語の先行研究のうち、意図性に関する記述を取り上げてみると、例えば Ablahat (1995: 110-111) では、「al-が主語の望んだ結果の達成を表すため、その行為が意図的に、目的を持って、故意に」行われることを示すと記述している (例(80)参照)。一方で「論理的に結果が主語にとって望ましくないものであることが明確なとき、その行為は非意図的になされたものである」ことを示すと述べている (例(81)参照)。

(80) yigit qiz-ka bir-ikki qetim qari-w-al-di.
 青年 少女-DAT 1-2 回 見る-CVB-取る-PST
 「青年は少女を 1、2 回見た」 (Ablahat 1995: 110)

(81) 'apla, qol-injiz-ni kes-iw-a-p-siz ha!
 ああ 手-POSS.2SG-ACC 切る-CVB-取る-PFEV-2SG INT
 「ああ、(あなたは) 手を切ってしまったんだね！」 (Ablahat 1995: 111)

しかし、(80)の例では、補助動詞 al-の前の本動詞が主語により意図的になされる行為を示す動詞であるため、そもそも補助動詞 al-が意図性に関与しているのかどうか明確でない。どのような条件で、主語が意図的あるいは非意図的であると解釈されるのだろうか。以下に補助動詞 al-が関わって、主語が非意図的であると解釈される条件を中心に検討していく¹⁶。

5.2.1. 現代ウイグル語の補助動詞 al-と意図性

日本語の他動詞「折る」は主語の意図的な行為を表す場合にも、非意図的な行為を表す場合にも用いられる。

(82) 太郎は足を折った。 [±意図性]

¹⁶補助動詞の al-が主語の意図的な行為に関与している証拠としては、たとえば次のようなものがある:自動詞である 'öl- (「死ぬ」) の副動詞形に補助動詞 al-が続くと、'öl-üw-al- (「自殺する」) という意味になる。つまり、本来は主語がコントロールできない現象を示す動詞であるが、補助動詞 al-により主語が意図的に行う動作に転じている。

例文(82)は偶発的に足の骨が折れた場合と、「学校に行きたくない」などの理由で)故意に足の骨を折った場合の二通りの読みが可能である。一方、現代ウイグル語の場合、日本語とは異なり、他動詞である *sundur-* (「折る」) は主語の意図的な行為として解釈されるが、非意図的な行為としては解釈されない。そのため、行為が非意図的になされたことを示す副詞 (*'ehtiyatsızlıqtin* 「不注意で」) と共起しない。

(83) a. *put-im-ni* *sundur-di-m.*
 足-POSS.1SG-ACC 折る-PST-1SG
 「(私は) 足を折った」 [+意図性]

b.* *'ehtiyatsızlıqtin* *put-um-ni* *sundur-di-m.*
 不注意で 足-POSS.1SG-ACC 折る-PST-1SG
 「(私は) うっかり足を折った」

このとき、主語の非意図的な行為であることを表すために補助動詞 *al-* が用いられる。

(84) *'ehtiyatsızlıqtin* *put-um-ni* *sundur-uw-al-di-m.*
 不注意で 足-POSS.1SG-ACC 折る-CVB-取る-PST-1SG
 「(私は) うっかり足を折ってしまった」 [-意図性]

ここでのポイントは、例文(84)で補助動詞 *al-* が使用されている点であり、(83b)と比べ、副詞との共起が可能であることから、行為が非意図的になされたことを表すのに、補助動詞 *al-* が関わっていることが分かる。

また、現代ウイグル語は使役文を用いて受動の意味を表すことがあるが、その場合にも補助動詞 *al-* が関与することがある。例えば次の例を見てみよう。

(85) a. *häri-gä* *čeq-quz-uw-al-di-m.*
 蜂 DAT 刺す-CAUS-CVB-取る-PST-1SG
 「(私は) 蜂に刺された (lit. (私は) 蜂に刺させて取った)」

b. *häri-gä* *čeq-quz-di-m.*
 蜂 DAT 刺す-CAUS-PST-1SG
 「(私は) 蜂に (意図的に) 刺された (lit. (私は) 蜂に刺させた)」

例文(85a)では主語が蜂に刺されるという被害を被っている。構文上では使役文であるが、ここでの出来事は意図的な主語が引き起こしたものではなく、非意図的に引き起こされたものであり、補助動詞 *al-* はその解釈に関わっている。その証拠に補助動詞 *al-* がない(85b)の場合は「故意に蜂に刺させた」という読みが生じ、特別な状況 (たとえば、生物を用いた治療の一環で、故意に蜂に刺させるなど) でない限り不自然な文になる。このことは、

主語が非意図的であることを表す副詞との共起の可否からも分かる。(85a)は文法的であるのに対し、(85b)で示したように使役形だけでは主語の意図的な行為であるという読みになるため、(86b)で示すように副詞とは共起できない。

(86) a. 'ehtiyatsızlıktin häri-gä čeq-quz-uw-**al**-di-m.
不注意で 蜂-DAT 刺す-CAUS-CVB-取る-PST-1SG
「注意していなかったなので蜂に刺された」

b. *'ehtiyatsızlıktin häri-gä čeq-quz-di-m.
不注意で 蜂-DAT 刺す-CAUS-PST-1SG

以上、補助動詞 *al* が関わり、主語が非意図的であると解釈される例を見てきたが、上記で見てきたものに共通するのは、本動詞が身体の負傷を表すような意味を含む他動詞（「切る」、「折る」、「刺す」など）であるということである。言い換えれば、主語が被害を被るような動詞の場合に、主語が非意図的であると解釈されやすい。

5.2.2. 日本語の「～てもらう」と意図性

他方、「～てもらう」という補助動詞を持つ日本語について考えてみる。これは元々「もらう」という授受動詞であり、ある物体が主語の手に渡る、またある行為が主語に影響するという点で再帰性を持つといえる。意図性に関しては主語が意図的である場合（(87)）と非意図的である場合（例文(88), (89)）と両方ありうる。恩恵性に関しても、主語が利益を得る場合（例文(87)）と不利益を被る場合（例文(88), (89)）との両方を表しうる。

(87) 太郎に代わりに行ってもらった。

(88) 忘れてもらっては困る。

(89) しかし間違ってもらってはいけない。

（山田 2004: 153 より一部省略）

山田（2004）は(88), (89)のような用例を「非恩恵型テモラウ」と呼んでいる。以下に、山田（2004）からの引用を示す。

非恩恵的な意味を持つテモラウは少なくとも次の二種類が考察される。1 つは、(中略)「～てもらっては困る。」に代表されるように、テハ節などの従属節内で用いられ、後件に感情表出表現が来る用法である。もう 1 つは、(中略)「～てもらってはいけない。」の形で現れ聞き手に対する働きかけを意図した表現である（山田 2004: 154）。

このことを言い換えれば、日本語の「～てもらう」は特定の従属節内での生起という統

語的な条件および、後件に来る表現（感情が関わる表現、あるいはモーダルな表現）により、主語が非意図的であると解釈されるのだといえる。

5.2.3. 両言語の補助動詞と意図性の相関

上記のことをまとめると、現代ウイグル語の補助動詞 *al-*と、日本語の「～てもらう」の意図性に関する条件は、表 5-1 のようにまとめることができるだろう。なお、表中の [+意図性] は主語が意図的であることを、[-意図性] は主語が非意図的であることを示している。

表 5-1 現代ウイグル語と日本語における補助動詞と意図性との関わり

	(主語の) 意図性
現代ウイグル語 (<i>al-</i>)	通常：[+意図性] 本動詞が主語の負傷を表す：[-意図性]
日本語 (～てもらう)	通常：[+意図性] 特定の従属節内に生起・後件に感情表現やモーダルな表現が来る：[-意図性]

補助動詞 *al-*も「～てもらう」も主語が意図的であること・非意図的であることのどちらも表しうる。しかし、現代ウイグル語の補助動詞と日本語の補助動詞の意図性の質は全く同じわけではない。現代ウイグル語では補助動詞 *al-*は通常 [+意図性] であり、補助動詞 *al-*の前の本動詞が、負傷などの主語にとって被害となるような意味を表す場合に [-意図性] となる。それに対して日本語の「～てもらう」は通常、意図性に関して [+意図性] であり、特定の従属節内での生起という条件と、その後件に特定の感情表現あるいはモーダル表現が来るという条件がそろった場合に [-意図性] になる。

5.3. まとめ

第 5 章では、補助動詞 *al-*を中心に考察した。まず、補助動詞 *al-*の意味用法に関する先行研究を概観し、補助動詞 *al-*には再帰性・意図性・恩恵性という 3つの観点に関連していることを見た。意図性に関しては、「本動詞+補助動詞 *al-*」の主語が意図的である、あるいは非意図的である、という記述が見られ、恩恵性に関しては「本動詞+補助動詞 *al-*」の主語が利益を受ける、あるいは被害を被る、という記述が見られる。一つの形式が、相反する意味を含むことは、一見、矛盾しているように思われるが、このようなことが成り立つのは、「本動詞+補助動詞 *al-*」の主語が有生物であることによるのであり、(動作者と対象が同一になるような) 再帰文と対比することで明確になる。

また、意図性に関して、どのようなときに主語が意図的であると解釈されるのか、あるいは、どのようなときに主語が非意図的であると解釈されるのかについて、その条件を探

った。現代ウイグル語の場合、補助動詞 al-の前に来る本動詞が負傷を表す場合、主語が非意図的であると解釈されやすい。一方で、同じような補助動詞を持つ日本語において、「～てもらおう」の主語が非意図的になる条件は、特定の従属節内での生起と、後件に特定の感情表現あるいはモーダル表現が関わっている。

第二部 動詞の屈折部分

第二部では、序論で屈折部分とした語尾 (ending) のうち、形動詞 (participle, 分詞とも呼ばれる) を中心に考察する。

表1 チュルク諸語の動詞形態
Outline of the Turkic verbal morphology

	Voice	Aspect	Polarity	Ending	Person/number
Stem/Root	(CAUS) (PASS) (REFL) (RECP)	(ITER) (PERF) etc.	(NEG)	FINITE PARTICIPLE CONVERB	1SG/1PL/ 2SG/2PL/ 3

(stem + ending = verbal form)

(Ebata 2014)

語尾変化の具体例を、定動詞形 (finite)、形動詞形 (participle)、副動詞形 (converb) の順に示す。なお、(90)~(92)で語尾に用いられている接辞以外にも数種類の接辞が存在する。

(90) 'öy-gä kir-**dī**-m.

家-DAT 入る-PST-1SG

「(私は) 家に入った」

(定動詞形)

(91) bu gäp-ni 'añli-**kan** momay

この 話-ACC 聞く-PTCP.PST おばあさん

「この話を聞いたおばあさん」

(形動詞形)

(92) 'oltur-**up** sözlä-ŋ.

座る-CVB 話す-2SG

「座って話せ」

(副動詞形)

上の例のうち、形動詞形は他の要素を修飾する働きをしているが、第6章以下に見ていくように多機能であることが、その特徴である。

第二部の構成は次の通りである。まず、第6章では、現代ウイグル語の形動詞に関わる先行研究を概観し、統語的な出現位置で見ることで、その多機能性がより明確になることを示す。続いて、第7章では、形動詞の基本的用法を示す。第8章では、主節述語に位置する形動詞について、実用例数を示しながら、その特徴を記述する。第9章では、形動詞が伴う主語の格を決定する要因を探る。第10章では、他言語からの報告をもとに、句接辞および日本語の構文へとテーマを発展させ、現代ウイグル語の形動詞による構文との比較を試みる。

6章 先行研究

第6章では6.1節から6.6節にかけて、Nadzhip (1971)、赵・朱 (1985)、Tömür (1987)、托乎提 (2012)、竹内 (1991)、Csató&Uchurpani (2010) による形動詞形の記述を概観する。6.7節では、諸先行研究の記述の整理および問題点の指摘を行う。そして、形動詞が現れる統語的位置を見ることで、現代ウイグル語における形動詞形の性質がより明確に整理されることを述べる。

6.1. Nadzhip (1971) による記述

Nadzhip (1971) では、動詞の形を定形 (finite forms) と非定形 (non-finite forms) とに分けている。それぞれが具体的にどのような動詞の形を含みうるのかを、Nadzhip (1971: 104-105) から引用すると、定形については“The finite forms include the Indicative, Conditional and Imperative-Optative moods and the corresponding tense forms”としている。一方、非定形については、“The non-finite forms include participles, gerundives, the nomen actionum in -ǵ and verbal nouns”とされている。このうち、participle が本稿で言うところの形動詞形であり、つまり形動詞形は非定形に含まれていることになる。

形動詞形の記述に着目すると、動詞と形容詞の特徴を持ったものであるとされている。Nadzhip (1971) では、次の形動詞化接辞が挙げられている (以下の例文のグロスとは本論筆者による)。

-gan

“The most widely used participial form is the past participle in *-gan*. It may also function as the present participle depending on the context. According to its functional and semantic features this form may appear as the verbal noun, participle or as a tense form in the function of a predicate”.

(93) män 'oqu-*ban* kitap.

私 読む-PTCP.PST 本

“the book I read”

(94) män 'oqu-*ban*.

私 読む-PTCP.PST

“I read”

(95) 'aŋli-*ban* 'aŋli-mi-*ban-ka* 'eyt-sun.

聞く-PTCP.PST 聞く-NEG-PTCP.PST-DAT 話す-IMP

“let him who heard /will/tell him who did not hear”

-diġan

“The present-future participle in *-diğan* goes back to a construction of the type *bar-a turğan* (the present gerundive of the significative verb plus the past participle of the verb *tur-* ‘to stand’) < *bara-diğan* ‘going’, *jazidiğan* ‘writing’. Depending on the context this participle may express the meaning of the future; it may also characterise the object it refers to as something necessary, worthy of attention”.

- (96) *kör-idisan* kino
見る-PTCP.NPST 映画
“the motion picture worth seeing”

- (97) *bar-idisan* yär
行く-PTCP.NPST 所
“a place nice to drop in”

-vat-qan

“The present participle goes back to the combination of the present gerundive of a significative verb with the participle in *-ğan* from the verb *jat-* ‘to lie’ which gave the complex affix *-vat-qan* as a result of contraction”.

- (98) *bar-iwatqan*
行く-PTCP.PROG
“in the process of going”

-ar

“As an attribute it is now used mainly in fixed combinations”.

- (99) *kel-är* yil
来る-AOR 年
“next year”

なお、上記のうち、*-gan*, *-digan*, *-vatqan* による分詞に関しては、まとめて次のように述べられており、形動詞形が多機能的な特徴を捉えたものであると言える。

“All these three types of participles may appear as both principal parts of sentence (subject and predicate) and secondary parts (attribute, object and adverbial modifier), assuming the corresponding grammatical formants in each case”.

以上の形動詞形は Nadzhip (1971) において、非定形と記述されている。しかし、同時に定形の記述の中にも、上記で見た形動詞形が見られる。たとえば、不確定な意味を表す過

去時制の形として、-gan が用いられるとされる。

- (100) bu kitap-ni män 'oqu-*gan*.
この本-ACC 私 読む-PTCP.PST
“I have once read that book”

そのため、形動詞形は非定形とされながらも、同時に定形にも含まれるという矛盾が生じる。このことから、Nadzhip (1971) の分類による問題点は定形と非定形という分類に基づいて記述を行っているところにあると言える。

6.2. 趙・朱 (1985) による記述

趙・朱 (1985: 34) による記述では、語根が語義を表す基本的単位であるとし、次の三つの分類が提示されている：静詞語根（名詞、形容詞、数詞、代詞、副詞）、動詞語根、虚詞語根（接続詞、助詞、後置詞、感嘆詞、擬態語）。これら三つのうち、静詞と動詞は、接辞の附加により形態変化するものであり、虚詞においては形態変化がない（ただし、擬態語は除く）ものとされる。

なお、「静詞」という用語は、6.3節および6.4節で見る Tömür (1987) や托乎提 (2012) でも用いられているが、いわゆる実詞 (substantive) もしくは名詞類 (nominals, Johanson 1998: 38-41) と呼ばれるカテゴリーを指すものと見られる。また、「虚詞」とは機能語に該当するカテゴリーである。

静詞および動詞に付けられる接辞は、それらの意味用法により、(A) 構詞附加成分、(B) 構詞—構形附加成分、(C) 構形附加成分 の3つに分類される。それぞれの特徴を要約すると、次のようになる。

- (A) 構詞附加成分：語根の前あるいは後に付く。別の新しい語を構成する。語類を転換する場合がある。
- (B) 構詞—構形附加成分：語根の後ろに付く。語根の語義を変えずに、語類を転換することがある。
- (C) 構形附加成分：語根の後ろに付く。語根の語義を変えずに、文法的意味を表す。

(101)を具体例に取って示す。

- (101) 'iš -či -lir -imiz -ka
名詞語根- 構詞附加成分- 構形附加成分- 構形附加成分 - 構形附加成分
「(私たちの) 労働者たちに」

これらの構成は、まず名詞である 'iš (「こと、仕事」) に派生接辞-či (「～する者、～する人」) が付加され、'iš-či (「労働者」) という新たな名詞が派生されている。名詞から別のものを指す名詞を派生していることから、-či は構詞附加成分である。さらに後続する-lär (複

数を表す), *-imiz* (1人称複数の所有を表す), *-ka* (与格を表す) はもっぱら文法的な意味を表しているため、構形附加成分ということになる。

つまり、(A)および(C)は、一般言語学的にそれぞれ派生接辞および屈折接辞と呼べるものに相当すると解釈することができる。これに対し、(B)構詞—構形附加成分は、語類の転換を行うという構詞附加成分の性質と、語根の語義を変えないという構形附加成分の性質を持つことから、その中間的なものであると言える。

上記に要約した趙・朱 (1985) の説明にしたがえば、(102)における *-GAn* や *-(Ip)* が、(B)構詞—構形附加成分該当することになる。

- (102) *män 'u-niŋ sözli-mi-gän-lig-i-ni 'unt-up qa-pti-män.*
 私 彼-GEN 言う-NEG-PTCP.PST-IHK-POSS.3-ACC 忘れる-CVB 残る-PFEV-1SG
 「私は彼の言ったことを忘れてしまった」

形動詞については、動詞の項目のもとで挙げられており、動詞と形容詞の意味および特徴を持った形式であるとしている。形動詞化接辞を、それらが表す時制ごとに分け、*-Idiban*, *-(A)r* が現在や将来を表し、*-GAn* が過去を表すとしている。どれも形容詞的な機能を持つが、*-(A)r* に関しては、(106)のような一部の表現を除き、(105)のように接辞である *-IHK* の付加が必要であるとされる (*-(A)r* による形動詞の否定形の場合は、(107)のように *-mAs* となる)。

- (103) *kiši-ni xošal qil-idiban 'iš.*
 人-ACC 喜ぶ する-PTCP.NPST こと
 「人を喜ばすようなこと」

- (104) *mäjilis-kä bar-ban kiši qayt-ip käl-di.*
 会議-DAT 行く-PTCP.PST 人 帰る-CVB 来る-PST
 「会議へ行った人が帰ってきた」

- (105) *yät-är-lik yeqilku*
 届く-AOR-IHK 燃料
 「十分な燃料」

- (106) *kil-är yil*
 来る-AOR 年
 「来年」

- (107) *siz-niŋ biz-gä qil-kan kāmخورlik-iŋiz-ka tügi-mäs räxmät 'eyt-imiz.*
 あなた-GEN 私たち-DAT する-PTCP.PST 心配-POSS.2SG 終わる-NEG.AOR 感謝
 言う-PRS.1PL
 「あなたが私たちへしてくれた気遣いに、たえず感謝しています」

その他に、形動詞が名詞的にも機能することが挙げられているが、趙・朱（1985）では、それらを、形動詞により修飾される名詞が省略されているものとみなしている。

- (108) 'eyt-*qan*-lir-iŋiz-ni 'unut-mi-di-m.
言う-PTCP.PST-PL-POSS.2SG-ACC 忘れる-NEG-PST-1SG
「あなたが言ったことを忘れなかった」

また、これらが述語としても機能することを述べている。

- (109) biz šinjan-*ka* bar-*kan*.
私たち 新疆-DAT 行く-PTCP.PST
「私たちは新疆へ行った」

- (110) 'aldiri-*kan* qal-*ar*.
急ぐ-PTCP.PST 残る-AOR
「急いだ者はとどまる（急がば回れ）」

- (111) 'ay-ni 'itäk bilän yap-qili bol-*mas*.
月-ACC 裾 一緒に 隠す-CVB なる-NEG.AOR
「月光を裾で隠すことはできない」

-*Idiban* については接辞-*du* を付加したのちに、人称接辞を付けるとしている。述語として用いた場合について言及があり、動作の「不定」または「仮定」を表すとしている。

- (112) bar-*idiban*-di-män
行く-PTCP.NPST-du-1SG
「私は行くかもしれない」

6.3. Tömür (1987) による記述

Tömür (1987) では、語は表 6-1 のように分類される。

表 6-1 Tömür (1987: 31) による語の分類 (表中の例は一部省略している)

分類名称	例	
独立する語	動詞	yaz- (書く), mañ- (歩く)
	名詞	taş (山), su (水)
	形容詞	qizil (赤い), 'egiz (高い)
	数詞	bäş (5), 'ikkinçi (2 番目)
	数量詞	yutum (~口), selim (~つまみ)
	副詞	bügün (今日), dārhal (すぐに)
	代名詞	män (私), biz (私たち), nemä (何)
機能語	反復語	pal-pul (ぴかぴか), loq-loq (ずきずき)
	接続詞	wä (そして), bilän (ともに)
	後置詞	'üçün (~ために), toqruluq (~について)
感嘆詞	語気助詞	mu (~も、~か), ču (~ (の方)はどうか)
	感嘆詞	pah (まあ), wayjan (ああ)

名詞類
(turkun söz)

Tömür (1987) では、語をまず、独立して現れることができるか否かをもとに分類している。独立して現れることができるものには、動詞・名詞・形容詞・数詞・数量詞・副詞・代名詞・反復語がある。さらにこのうち、動詞以外のものを特に“turkun söz”と称している。“turkun”と“söz”は、それぞれ、「静止した／安定した」と「語／ことば」という意味であり、先述した 6.2 節の趙・朱 (1985) および 6.4 節で見る托乎提 (2012) における「静詞」に相当する。つまり、“turkun söz”とは名詞類を指すと言えるため、便宜的に以下では“turkun söz”を名詞類と呼ぶことにする。

なお、形容詞が名詞類の下位分類であるのは、第 2 章の文法概略でも示したように、現代ウイグル語では、名詞や形容詞を形態的特徴から判断することができないためである。

(113a)で kona (「古い」) という語は形容詞としての働きをしている。他方、(113b)のように複数接辞が付いてそれ自体が名詞として用いられることもできる。

(113) a. kona kitab	b. koni-lar
古い 本	古い-PL
「古い本」	「昔の人々」

さて、問題となる形動詞形がどのように位置づけられているかを見ると、Tömür (1987) では形動詞形を、「動詞の名詞類形」の一つとしている。ここで「動詞の名詞類形」とは、動詞が語形変化し、名詞や形容詞の機能を得たものを指す。この「動詞の名詞類形」は文中での機能に応じて、süpätdeş (形動詞形)、'isimdeş (動名詞形)、räwisdeş (副動詞形) とさらに分類される。それぞれの例を以下に示す。

形動詞形

(114) käl-**gän** 'adäm

来る-PTCP.PST 人

「来た人」

(115) men-i tonu-**ydisan** 'adäm

私-ACC 知る-PTCP.NPST 人

「私を知っている人」

(116) däs 'oqu-**watqan** 'oquvüči-lar

授業 勉強する-PTCP.PROG 学生-PL

「勉強している学生たち」

(Tömür1987: 248)

動名詞形

(117) 'alğa bes-**iš** häm-miz-niñ 'arzu-si.

前に 歩く-VN 皆-POSS.1PL-GEN 願い-POSS.3

「前進することは皆の願いだ」

(118) biz-niñ 'aliy käyi-miz kommunistim qur-**uš**.

私たち-GEN 崇高な 理念-POSS.1PL 共産主義 組み立てる-VN

「私たちの崇高な理念は共産主義を構築することだ」

(119) 'u 'ätigän-dä gimnastika 'oyna-š-ni yaxši kör-i-du.

彼 朝-LOC ジム 遊ぶ-VN-ACC 良い 見る-PRS-3

「彼は朝ジムで運動することを好む」

(Tömür1987: 252)

副動詞形

(120) 'oltur-**up** sözlä-ñ.

座る-CVB 話す-2SG

「座って話せ」

(121) kitab 'al-**bilä** bar-imän.

本 買う-CVB 行く-PRS.1SG

「私は本を買いに行く」

(122) sän käl-**gičü** saqla-ymiz.

君 来る-CVB 待つ-PRS.1PL

「君が来るまで私たちは待つ」

(Tömür1987: 273)

形動詞形、動名詞形、副動詞形のそれぞれがどのように機能しているかを見ると、(114)～(116)においては、名詞 ((114), (115)では'adäm, (116)では'oquğuči) を修飾する機能を担っている。つまり、形容詞的に機能している。(117)～(119)では、文中において主語や述語、目的語となっており、名詞的に機能している。(120)～(122)では、時間や目的などを表す副詞的な機能を果たしている。

なお、Tömür (1987: 243-245) では、「動詞の名詞類形」である形動詞形・動名詞形・副動詞形が、動詞から派生された名詞類とは同等でないということを、次の 3 点を根拠に指摘している。Tömür (1987: 243-245) を要約した形で、以下にその内容を示す。

1) 「動詞の名詞類形」は、名詞類と似たように用いられるが、動詞的な特徴を完全に失ってははいない。たとえば態・肯否・相などの動詞が取る文法範疇を標示できる ((123)を参照)。また、動詞が従える要素 (すなわち項) を伴うことができる ((124)～(127)を参照)。

(123) a. yaz-dur-uš

書く-CASU-VN

「書かせること」

b. yaz-mi-kan

書く-NEG-PTCP.PST

「書かなかった」

c. yaz-iwer-ip

書く-ASP-CVB

「書き続けて」

(124) bu xät-ni yaz-kan

この 手紙-ACC 書く-PTCP.PST

「この手紙を書いた」

(125) 'ürmüči-gä xät yaz-idikan

ウルムチ-DAT 手紙 書く-PTCP.NPST

「ウルムチへ手紙を書く」

(126) xät-ni čirayliq yaz-idikan

字-ACC きれいに 書く-PTCP.NPST

「手紙をきれいに書く」

- (127) 'u-niŋ bilän näččä yil xät yez-iš-ip
 彼(女)-GEN とともに いくつか 年 手紙 書く-RECP-CVB
 「彼(彼女)と何年か(お互いに)手紙を書きあって」

これに対し、動詞から作られた名詞類は、動詞の特徴を完全に失い、完全に名詞類になるとされる。すなわち、(123)~(127)に見られたような特徴を示さない。

動詞から派生された名詞

(128)

kir-	「入る」	→	kir-im	「収入」
čiq-	「出る」	→	ciq-im	「支出」
quy-	「流し込む」	→	quy-maq	「クイマック (揚げ菓子の一種)」
'ota-	「除草する」	→	'oti-kuč	「鋤」
'äslä-	「思い出す」	→	'äslä-mä	「回顧録」
qač-	「逃げる」	→	qač-qun	「逃亡者」
sina-	「試す」	→	sina-q	「試練」
har-	「疲れる」	→	har-duq	「疲れ」

(Tömür1987: 243)

動詞から派生された形容詞

(129)

quru-	「乾く」	→	quru-q	「乾いた」
köč-	「移動する」	→	köč-mä	「漂う」
yepiš-	「くっつく」	→	yepiš-qaq	「ねばっこい」
maxtan-	「うぬぼれる」	→	maxtan-čaq	「うぬぼれた」
čečil-	「散らばる」	→	čečil-aŋku	「散らばった」

(Tömür1987: 244)

2)「動詞の名詞類形」を作る接辞は、抽象度が高く、ほとんどの動詞に付けることができる。たとえば、形動詞化接辞の-GAn がそうであり、どのような動詞にも付けられる。これに対し、動詞から名詞類を作る派生接辞は、抽象度が低く、接辞される動詞も限られている。たとえば、動詞から名詞を派生する接辞である-(I)m は、接辞できる動詞 (例(130)) とできない動詞 (例(131)) がある。

(130)

sayla-	「選ぶ」	→	sayla-m	「選挙」
bil-	「知る」	→	bil-im	「知識」
'ün-	「芽が出る」	→	'ün-üm	「能率、収穫」

(131)

mañ-	「歩く」	→	*meñ-im
'uxla-	「寝る」	→	*'uxla-m
'oqu-	「学ぶ」	→	*'oqu-m

3) 「動詞の名詞類形」は動詞の語彙的意味を変えない。これに対し、動詞から作られた名詞類は動詞の語彙的意味を変える。たとえば、yaz-（「書く」）という動詞から、yaz-kan（「書いた」）／yez-ip（「書いて」）／yez-iš（「書くこと」）などの「動詞の名詞類形」が作られるが、これらが動詞の語彙的意味を変えていないのに対し、派生接辞を付けたものは、語彙的意味を変える。たとえば、yaz-（「書く」）という動詞に派生接辞である-(I)q が付くと、yez-iq（「文字」）となり、それは書くという行為そのものではなく、書く際に用いられる記号のセットを指すようになる。

以上の 1)～3)の特徴を踏まえて、Tömür（1987）は「動詞の名詞類形」を、動詞の特徴も名詞類の特徴も合わせ持ったものであるとしている。Tömür（1987）における形動詞形に関する記述からは、形動詞化接辞を派生接辞とは異なるものとして見ていることが分かる。

6.4. 托乎提（2012）による記述

托乎提（2012）は比較的新しい記述文法書であり、ここでも、赵・朱（1985）や Tömür（1987）で見られた静詞（すでに述べたように、名詞類に相当するとみなせる）という用語が使用されているが、Tömür（1987）と異なる点もいくつかある。托乎提（2012）による語の分類の一覧を示したのが表 6-2 である。

表 6-2 托乎提 (2012: 32) による語の分類

静詞類		動詞類
名詞類	非名詞類	実義動詞
名詞	副詞	コピュラ動詞
形容詞	副詞化した句	軽動詞
代名詞		アスペクトの助動詞
数詞		態の動詞句
量詞		否定の句
擬態語		
名詞化した句		
形容詞化した句		

大きく分けて、静詞類と動詞類とが打ち立てられており、Tömür (1987) の分類と比較して、静詞類をさらに名詞類と非名詞類に分類している点や、動詞を下位分類している点などが異なっており、中でも特徴的なのは、句という統語的な単位まで品詞分類されている点である。

托乎提 (2012) では、従来用いられている形動詞、動名詞、副動詞といった呼称が印欧諸語の実情に合ったものであり、現代ウイグル語には適さないことを理由にこれらの呼称を避けており、代わりに「形容詞化短語 (形容詞化した句)」、「名詞化短語 (名詞化した句)」、「副詞化短語 (副詞化した句)」と称している (表の網掛け部分)。印欧諸語との違いを明確に指摘しているが、ここで問題となるのは、表 6-2 が品詞 (語類) の分類表であるにも関わらず、その下位分類に語よりも大きな句という統語的な単位を含んでいる点にある。

これら (「形容詞化した句」、「名詞化した句」、「副詞化した句」) は文中で動詞句としてではなく、形容詞や名詞、あるいは副詞として機能するが、次の点で動詞から派生された形容詞や名詞や副詞とは異なるとしている。1) どのような動詞句にも付くこと、2) 静詞化接辞 (= 本論文中で形動詞化接辞、動名詞化接辞、副動詞化接辞と呼んでいる接辞) は、語幹の末尾に付いているものの、語幹である動詞が取る補足語や指示語などを取っているため、実際には静詞化接辞はそれらの動詞句の末尾に付いているということ、3) 動詞句にアスペクトやムードなどが与えられていること。これら 3 点の指摘は、Tömür (1987) で「動詞の名詞類形」と動詞から派生された名詞類とを区別する根拠として挙げられていた特徴の 1) や 2) に対応する。また、活用した動詞の形が、どのような品詞の性質を帯びるかということに関連させて考えているという点も Tömür (1987) と同様である。

6.5. 竹内 (1991) による記述

竹内 (1991) では、連体形の項目のもとで -GAn および -Idıran の二種類の接辞を挙げている。

-GAn は完了を表す連体形語尾であり、形容詞のように名詞を修飾できることや、文の述

語として用いられること、名詞としても使われることが述べられている。また、文末で使われる場合、必ずしも人称を示す必要がないことに言及している（竹内 1991: 182）。

(132) *tünügün 'öy-gä bar-kan 'adäm-ni tonu-ma-ymän.*
昨日 家-DAT 来る-PTCP.PST 男-ACC 知る-NEG-PRS.1SG
「昨日家に来た人を知りません」

(133) *men-iñ kör-gin-im yoq.*
私-GEN 見る-PTCP.PST.POSS.1SG ない
「私は見た（会った）ことがない」

(134) *män bazar-ka bar-kan.*
私 市場-DAT 行く-PTCP.PST
「私は市場へ行った」

-*Idivan* は未完了を表すとしている。こちらも、名詞を修飾する例や名詞として機能する例が挙げられている。

(135) *men-iñ yaz-idivan kitab-im til häqqidiki kitab.*
私-GEN 書く-PTCP.NPST 本-POSS.1SG ことば に関する 本
「私の書く本はことばに関する本だ」

(136) *'al-idivan -lir-i-ni 'el-ip*
買う-PTCP.NPST-PL-DEF-ACC 買う-CVB
「買うべきものを買い」

また、文末に位置する場合については、人称を示す付属語が付くと言及している（竹内 1991: 188）。

(137) *'ätä nemä qil-idivan-siz?*
明日 何 する-PTCP.NPST-2SG
「明日何をするのですか?」

-*GAn* および-*Idivan* のどちらについても、名詞修飾の用法と、名詞としての用法、文末に現れる用法が記述されているが、-*GAn* と-*Idivan* で異なるのは、それぞれが表すアスペクトの他に、文末に現れた場合における人称の標示の仕方であると言える。

6.6. Csató&Uchurpani (2010) による記述

Csató&Uchurpani (2010) では、現代ウイグル語の形動詞の形容詞的機能を中心に考察し

ている。特に、統語的な現象との関わりを扱っている点で他の先行研究と異なる。なお、Csató&Uchurpani (2010) は形動詞が形成する節を、関係節 (relative clause) として扱っている。

チュルク諸語における関係節の構造が提示されており、(138)~(140)のうち、現代ウイグル語は、(138),(140)の構造を取る ((138)はカラチャイ・バルカル語からの例、(139)はトルコ語からの例、(140)はトゥルクメン語からの例)。

(138) konax kel-üçü üy
 guest come-PTCP room
 ‘a room where guests stay’ > ‘guestroom’

(139) kız-ın_i uyu-duğ-u_i oda
 girl-GEN sleep-DIK.PTCP-POSS.3SG room
 ‘a / the room where the girl sleeps’

(140) Atalov-ın_i otur-an oturgıǵ-ı_i
 Atalov-GEN sit-AN.PTCP chair-POSS.3
 ‘the chair on which Atalov sits’

(138)は文法的一致がなされないタイプであり、(139)や(140)は文法的一致がなされるタイプである。(139)も(140)も連体節中の主語が属格で示されているという点では共通するが、これらの違いは、(139)では一致の標識が連体節内の述語に付加されており、(140)では連体節に修飾される名詞に付加されているという点である。

Csató&Uchurpani (2010) で現代ウイグル語の形動詞化接辞として掲げられているのは、次の6つである：-GAN,-Idıkan, -(I)watqan,-mAkçi bolkan, -GUdäk, -GUçilik.

(141) ’öy-gä kir-**gän** yigit
 house-DAT enter-GAN.PTCP boy
 ‘th boy who has entered / entered’

(142) män daim bar-**idıkan** kinoxana
 I often go-IDIKAN.PTCP cinema
 ‘the cinema where I often go’

(143) siñl-im ’oqu-**watqan** kitab
 younger sister-POSS.1SG read-IWATQAN.PTCP.PROG book
 ‘the book that my younger sister is (just) now reading’

(144) män ’ätä bar-**maqçi bolkan** kutubxana
 I tomorrow go-mAkçi bolkan.PTCP library

‘the library to which I intend to go tomorrow’

(145) kök-kä taqaš-*qudäk* ’egiz ’imarät
sky-DAT touch-GUdäk.PTCP high building
‘a high building which can touch the sky’

(146) ussuzluq-ni qandur-*bučilik* su
thirst-ACC quench-GUčilik.PTCP water
‘water which can quench thirst’

次のように形動詞形により修飾される名詞が、形動詞の意味上の主語とも目的語とも取れる場合があるが、解釈は語用論的な知識や文脈に拠るとされる。

(147) [čaçqan yä-*gän*] müšük
mouse eat-PTCP.PST cat
‘a cat which has eaten / ate mice’
‘a mouse which has eaten / ate cats’

(Csató&Uchturpani 2010: 80)

形動詞形により形成された節が、名詞的にも機能することを述べ、また、形動詞形が文末に位置する(149)のような例についても挙げられている。

(148) hazir de-*gin-iŋ-ni* yänä bir degin-ä
now say-GAN.PTCP-POSS.2SG-ACC again one say=IMP-PRT
‘Say again what you have just said.’

(149) bu xät-ni män yaz-*kan*.
this letter-ACC I write-GAN.PTCP
‘I have written this letter.’

その他に、彼らによる観察は類型論的な観点からのものも見られる。たとえば、節による名詞修飾に関して、(150)に示す Keenan&Comrie (1977) の名詞句の接近可能性の階層 (Noun Phrase Accessibility Hierarchy) がよく知られているが、Csató&Uchturpani (2010) は、現代ウイグル語において所有者 (possessor) 名詞句の関係節化までが可能であることを示している。

(150)

subject > direct object > indirect object > oblique argument > possessor > object of comparison

Subject

- (151) kitab-ni 'oqu-**van** bala
book-ACC read-PTCP.PST boy
'the boy who has read / read the book'

Direct object

- (152) 'u-niñ 'al-**van** kitab-lir-i
(s)he-GEN buy-PTCP.PST book-PL-POSS.3
'the books that (s)he has bought/ bought'

Indirect object

- (153) qiz kitab-ni bär-**gän** 'ayal
girl book-ACC give-PTCP.PST woman
'the woman to whom the girl has given / gave the book'

Oblique argument

- (154) toxtam 'imzala-n-**van** yär
contract sign-PASS-PTCP.PST place
'the place where the contract was signed'

Oblique argument

- (155) tamaka çek-iş čäklä-n-**gän** 'orun
cigarette smoke-VN forbid-PASS-PTCP.PST place
'a place where smoking cigarettes is / has been / was banned'

Complement of a postposition

- (156) prezident-niñ kelişim-gä qol qoy-**van** qälim-i
president-GEN contract-DAT sign-PTCP.PST pen-POSS.3
'the pen with which the president has signed / signed the contract'

Possessor of the subject

- (157) dost-i 'öy-gä käl-**gän** qiz
friend-POSS.3 home-DAT come-PTCP.PST girl
'the girl whose friend has come home'

Possessor of the object

- (158) qoy-lir-i-ni bürä ye-**gän** padiçi-lar
sheep-PL-POSS.3-ACC wolf eat-PTCP.PST shepherd-PL
'the shepherds whose sheep were eaten by the wolf'

関係節内の主語（すなわち形動詞の主語）の格標示についても言及されている。関係節内の主語は、(159)のように主格主語あるいは属格主語で現れる。他方、(160)のように、主格主語のみが許容されることがある。

(159) a. ['u qiz söy-**gän**] yigit
that girl love-PTCP.PST boy
'the boy whom that girl loves / has loved / loved'

b. ['u qiz-niṅ söy-**gän**] yigit-i
that girl-GEN love-PTCP.PST boy-POSS.3
'the boy whom that girl loves / has loved / loved'

(160) a. [hiç kim söy-mä-**ydigän**] yigit
nobody love-NEG-PTCP.NSPT boy
'the boy whom nobody loves'

b. *[hiç kim-niṅ söy-mä-**ydigän**] yigit-i
nobody-GEN love-NEG-PTCP.NSPT boy-POSS.3
Intended meaning: 'the boy whom nobody loves'

(Csató&Uchturpani2010: 89, 90)

このような主語の格標示について Csató&Uchturpani (2010) は、主語となる名詞の意味的特徴が関与している可能性があるとしている（形動詞の主語の格を決定する要因については第9章で論じる）。

6.7. 先行研究における問題点

以上、先行研究を概観した。それぞれの先行研究で共通に指摘されていることを、次のように整理することができる。

形動詞は様々な働きをする。具体的には、形容詞的な性質、名詞的な性質、動詞的な性質を持つ。形容詞的な性質とは、形動詞が他の名詞を修飾する点に見られる。名詞的な性質は、名詞が取ることができる接辞（複数接辞・所有人称接辞・格接辞）を、形動詞も取ることができる、という点に見られる。動詞的な性質とは、形動詞が項を取りうる点に見られる。

上記のことから分かるのは、先行研究において、形動詞の性質は、語類（名詞や形容詞や動詞）をもとに把握されているということである。これは、とりもなおさず、形態論の範囲内で形動詞を取り扱っていることになる。

現代ウイグル語において、形動詞化接辞（語尾）は、統語的に要求される要素であるため、統語論と関連のある現象のもとでも、十分論じうるものである。たとえば、今までの例から、形動詞が生起する統語的な位置という点から考えた場合、次のようにまとめることができる（なお、表 6-3 の作成には、江畑 2013 や山越 2013 を参考にした）。

表 6-3 形動詞の統語的位置

形動詞が生起しうる統語的位置			
主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語

形動詞が多機能であることは、上に見てきた先行研究において明らかであるが、このような統語位置の関係を捉えれば、定動詞形や副動詞形といったその他の語尾との違いも捉えられる。

(161) 'öy-gä kir-*di*-m.
 家-DAT 入る-PST-1SG
 「(私は) 家に入った」 (定動詞形)

(162) 'oltur-*up* sözlä-*ŋ*.
 座る-CVB 話す-IMP
 「座って話せ」 (副動詞形)

上記で示した内、定動詞は主節述語にのみ現れる。また、副動詞は副詞節述語にのみ現れる形式である。それに対し、形動詞は主節述語にも、名詞節述語にも、名詞修飾節述語にも現れることができる（副詞節述語については第 7 章で具体例を示す）。

(163) bu gäp-ni 'aŋli-*kan* 'ayxan momay
 この 話-ACC 聞く-PTCP.PST PSN おばあさん
 「この話を聞いたアイハンおばあさん」

(164) men-iŋ kör-*gin*-im yoq.
 私-GEN 見る-PTCP.PST-POSS.1SG ない
 「私は見た（会った）ことがない」

(165) män bazar-*ka* bar-*kan*.
 私 市場-DAT 行く-PTCP.PST
 「私は市場へ行った」

そのことを考えると、形動詞は様々な統語的位置に生起すると言う点で、多機能であるということが明確になる。

このような統語的位置からの考察は、形動詞の性質を捉える上で有効であると考えられるため、以下の第7章～第10章を通じ、形動詞がどの節の述語として現れるか、という観点から形動詞を観察する。

第7章では、本論文で対象とする形動詞化接辞について触れ、用法の整理を兼ねて、上記の表6-3における統語的位置に現れる例をすべて示す。第8章では、主節述語に現れる形動詞を中心にみる。第9章では、形動詞が伴う主語の格を決定する条件について論じる。先行研究であるCsató&Uchurpani(2010)では、考察対象が、関係節すなわち表6-3のうちの名詞修飾節述語に形容詞が現れる場合のみに限られているが、本論文では、分析対象を他の三つの節(主節述語、名詞節述語、副詞節述語)にも広げる。第10章は、他言語の現象も見つつ、現代ウイグル語の形動詞による構文と日本語の構文との関連を論じる。

第7章 形動詞の基本的用法

第7章では形動詞の基本的用法を提示する。すでに第6章の先行研究の概略をする中で、形動詞の機能について見たが、散在的であったため、本章で整理して示す。

まず、現代ウイグル語の形動詞の生起位置について、どのような節に現れるかという統語的な点から整理すると、次のように示すことができる。

表 7-1 形動詞の統語的位置

形動詞が生起しうる統語的位置			
主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語

そして、形動詞化接辞と動詞語幹、および他の接辞との承接順序は次のように示される。

(166)

[動詞語幹]- [態・極性・相]-形動詞化接辞-[数・所有・格]

数・所有・格といった接辞は、形動詞が名詞節述語に位置する場合に後続しうる（副詞節述語においては、奪格や位格といった特定の格が後続する）。具体例を 7.1.節以下に見ていくが、本論文では、-GAn, -Idikan, -(I)watqan による形動詞を考察の中心とする。先行研究でも見たように、形動詞化接辞にはいくつか種類（たとえば-Ar や-miš など）があるが、これらの出現範囲が限定されているのに比べ、-GAn, -Idikan, -(I)watqan については、出現範囲が広く、考察しやすいと考えられるためである。

-GAn, -Idikan, -(I)watqan の使い分けには時制やアスペクトが関わっており、それぞれの形動詞化接辞とその表す意味との対応は、表 7-2 のようにまとめられる。

表 7-2 現代ウイグル語の形動詞化接辞

過去	非過去	進行
-GAn	-Idikan	-(I)watqan

-GAn は-*van/-gän/-qan/-kän* の交替を見せる。-Idikan は-*idikan/-yḍikan* の交替を見せる。-(I)watqan は-*iwatqan/-üwatqan/-uwatqan* の交替を見せ、先行する動詞の語幹末が母音である場合、-I は挿入されない。なお、-(I)watqan は進行を表す接辞である-(I)wat と-GAn とにさらに形態素分析できるが、ここでは便宜上-(I)watqan を一つの形動詞化接辞とする。

7.1. 形動詞が名詞修飾節述語に位置する場合

形動詞が名詞修飾節に現れた場合、後ろの名詞を修飾する。すなわち、形容詞的な働きをする。以下では、形動詞を含む節を[]で囲んで示す。

(167) a. [bu gäp-ni 'aŋli-**kan**] 'Ayxan momay
 この 話-ACC 聞く-PTCP.PST PSN おばあさん
 「この話を聞いたアイハンおばあさん」 [balilar: 37]

b. ['ata-bowi-lir-iŋ biz-gä qil-**kan**] 'äskilik-lir-i
 先祖-PL-POSS.2SG 私たち-DAT する-PTCP.PST 悪いこと-PL-POSS.3
 「お前の先祖たちが私たちにした悪事」 [balilar: 30]

現代ウイグル語においては、形動詞と、形動詞により修飾される名詞との意味上の文法関係が形動詞化接辞の選択に影響することはない。

(167a)で修飾されている名詞('Ayxan momay (「アイハンおばあさん」))は形動詞の意味上の主語に相当する。一方で、(167b)で修飾されている名詞の'äskilikliri (「悪事」)は形動詞の意味上の目的語に相当している。つまり、(167a)と(167b)とでは、それぞれ、形動詞に対して、修飾される名詞がどのような文法関係を持つかが異なっていることになるが、形動詞化接辞はどちらも同じ-kanである。

(168), (169)は、-Idikan および-(I)watqan による形動詞により、名詞修飾がなされている例であるが、(167)と同様のことが言える。(168a)と(169a)では、それぞれ、修飾されている名詞である bir qiz (「一人の少女」), kepinäk (「チョウ」)は、形動詞の意味上の主語に相当し、(168b)と(169b)では修飾されている名詞の närsä (「もの」), bu gäplär (「この話」)は形動詞の意味上の目的語に相当する。ここでも文法関係の在り方が、形動詞化接辞の選択に影響することはないことが分かる。

(168) a. [šähär-dä 'oqu-**ydisan**] bir qiz
 町-LOC 読む-PTCP.NPST 1 少女
 「町で勉強する少女」 [elipbäsi: 12-1]

b. ['ögäy 'apa-ŋlar-niŋ 'öy-i-gä 'apir-**idisan**] närsä
 義理の 母-POSS.2PL-GEN 家-POSS.3-DAT 持って行く-PTCP.NPST もの
 「お前たちの継母の家を持って行くもの」 [elipbäsi: 17-5]

(169) a. [hoyli-diki güllük-tä 'oyna-**watqan**] kepinäk
 中庭-にある 花壇-LOC 遊ぶ-PTCP.PROG チョウ
 「中庭にある花壇で遊んでいるチョウ」 [elipbäsi: 2-7]

b. [män dä-**watqan**] bu gäp-lär
 私 言う-PTCP.PROG この 話-PL

「私が言っているこの話」

そのため、現代ウイグル語では、第 6 章でも触れたように、形動詞により修飾される名詞が、形動詞の意味上の主語とも目的語とも取れる場合がある。

- (170) [čaçqan yä-gän] müšük
ねずみ 食べる-PTCP.PST 猫
「ねずみを食べた猫／ねずみが食べた猫」 (Csató&Uchurpani 2010: 80)

節による名詞修飾を論じる際に、いわゆる「外の関係」(寺村 1992)を許すかどうかということがしばしば問題にされるが、現代ウイグル語に関しては、外の関係の名詞修飾は可能であるとされている(ギュロル 2010)。

- (171) präsidänt käl-gän häwär
大統領 来る-PTCP.PST ニュース
「大統領が来たというニュース」

- (172) 'äyik käl-gän tiwiš
クマ 来る-PTCP.PST 音
「クマが来た音」

なお、筆者が収集した用例からは、次のような例が確認されたが、母語話者によると、(173)の非修飾名詞である šopur (「運転手」)は目的語としてのみ解釈され、主語としては解釈されないという。

- (173) [boš čäqli-kili bol-ma-ydikan] šopur
緩い 想定する-CVB なる-NEG-PTCP.NPST 運転手
「甘く見ることができない運転手 (その運転手を甘く見ることができない)」

(173)で šopur は「甘く見ることができない」という、いわば感情を引き起こさせる対象である。その逆に、šopur がそのような感情を抱く主体として解釈されるには、(174)のように表現されなければならない。

- (174) [boš čäqli-ma-ydikan] šopur
緩い 想定する-NEG-PTCP.NPST 運転手
「(他の人や物事を)甘く見ない運転手」

整理すると、(170)のように両義的な解釈(被修飾名詞が、形動詞の意味上の主語とも目的語としても解釈されること)を許す例も存在するものの、一様にそのような解釈の仕方を許すわけではないということになる。

7.2. 形動詞が名詞節述語に位置する場合

形動詞が名詞節述語である場合、形動詞はその後ろに複数接辞や所有人称接辞、格接辞を取り、節全体が文の主語 ((175), (176)) や対格目的語 ((177)) あるいは与格目的語 ((178)) になる。

(175) [gül šah-niñ dä-gän]-lir-i rast-kän-dä.
 花 王-GEN 言う-PTCP.PST-PL-POSS.3 本当-COPEV-MOD
 「花の王様の言ったことは本当のようだね」 [balilar: 60]

(176) bu zänjir-ni çoqum [därax käs-kän]-lär çüşür-üp qoy-kan gäp!
 この鎖-ACC きっと 木 切る-PTCP-PL 落とす-CVB 置く-PTCP.PST 話
 「この鎖を、木を切った者たちがきっと落としていったというわけだな！」
 [ʔelipbäsi: 6-14]

(177) [böjän-niñ kawi-ni qandaq ʔäkäl-gän]-lik-i-ni ʔoyla-p
 子兎-GEN 南瓜-ACC どう 持って来る-PTCP.PST-IJK-POSS.3-ACC 考える-CVB
 tap-ala-m-silär?
 見つける-ABIL-Q-2PL
 「子兎が南瓜をどうやって持ってきたかを考えつきますか」 [ʔelipbäsi: 10-6]

(178) [tumučuq-niñ tos-qin]-i-ñi-mu qari-may ʔarqamçi-ka čiq-iptu.
 雀-GEN 遮る-PTCP.PST-POSS.3-DAT-CL 見る-CVB.NEG 綱-DAT 出る-PFEV
 「雀の遮るのも気にせず、綱に上ったそうだ」 [ʔelipbäsi: 3-16]

名詞が取る屈折接辞を後続させている一方で、(177)で見えるように、形動詞自体が対格目的語を取っているという点で、動詞的な特徴がうかがえる。

なお、(177)の形動詞化接辞の後ろに現われている-IJK という接辞は、形動詞が名詞的に機能する場合に付く要素であり、その付加は任意であるとされている (Friedrich 2002: 143¹⁷) が、筆者の調べでは、名詞節を形成する形動詞すべてに-IJK が付けられるわけではない。

たとえば、形動詞の形成する節が出来事を表している(179)では、-IJK を付加することが可能である。

(179) [bir yolwas-niñ buka yä-wat-qan]-liq-i-ni kör-dü-m.
 1 虎-GEN 鹿 食べる-ASP-PTCP.PST-IJK-POSS.3-ACC 見る-PST-1SG
 「一匹の虎が鹿を食べるのを見た」

それに対して、形動詞の節全体が出来事の参与者 (participant) を表す場合には、-IJK は付加されない。(180)や(181)において、kälgänlär は「来た人」という出来事の参与者を指す

¹⁷ Friedrich, Michael.[in cooperation with Abdrishid Yakup] (2002) *Uyghurisch Lehrbuch*. Wiesbaden: Harassowitz.

が、このとき、形動詞化接辞に-IIK を付加することはできない。

(180) a. sän bilän käl-**gän**-lär hazir nädi-du?

君 一緒に 来る-PTCP.PST-PL 今 どこ-MOD

「君と一緒に来た人は今どこにいる?」

b. *sän bilän käl-**gän-lik**-lär hazir nädi-du?

君 一緒に 来る-PTCP.PST-IIK-PL 今 どこ-MOD

(181) a. män xali-**kan** biräylän-ning 'ism-i-ni 'ata-y-män,
私 望む-PTCP.PST 一人の-GEN 名前-POSS.3-ACC 呼ぶ-PRS-1SG

'ism-i 'ata-l-**kan**-lar maharät körsät-sä bol-i-du.

名前-POSS.3 呼ぶ-PASS-PL 技能 見せる-COND なる-PRS-3

「私が望んだ者の名前を呼ぼう、名前を呼ばれた者は、腕前を披露するのだ。」

b. *män xali-**kan** biräylän-ning 'ism-i-ni 'ata-y-män,

私 望む-PTCP.PST 一人の-GEN 名前-POSS.3-ACC 呼ぶ-PRS-1SG

'ism-i 'ata-l-**kan-liq**-lar maharät körsät-sä bol-i-du.

名前-POSS.3 呼ぶ-PASS-PTCP.PST-IIK-PL 技能 見せる-COND なる-PRS-3

7.3. 形動詞が副詞節述語に位置する場合

形動詞による副詞節は、形動詞化接辞の後に位格 (-DA) または奪格 (-Din) が続くことで表される。格が付加されているという形態的な観点からは、形動詞を含む節そのものが名詞に相当するといえるが、機能的には時や理由を表す副詞節として主節の述語を修飾する働きをする。

(182) [tumuçuq 'it-qa 'arvämçi-da meñ-iş-ni 'ögit-**iwatqan**]-da toşqan

雀 犬-DAT 綱-LOC 歩く-VN-ACC 教える-PTCP.PROG-LOC 兎

yügür-üp kä-ptu.

走る-CVB 来る-PF.EV

「雀が犬に綱の上で歩き方を教えていると、兎が走ってきたそうだ」 [elipbäsi:3-14]

(183) [sän kiçik häm çaqqan bol-**kan**]-din keyin 'awwal çüş-üp baq-ä!

君 小さい その上 早い なる-PTCP.PST-ABL あと まず 降りる-CVB 見る-MOD

「おまえは小さい、そのうえに素早いから、先に降りてみる!」 [elipbäsi:8-18]

- (184) [hüsen yiraqla-p ket-**ken**]-din keyin 'oqlaq 'orun-i-din tur-up
 PSN 遠ざかる-CVB 行く-PTCP.PST-ABL 後 子ヤギ 場所-POSS.3-ABL 立つ-CVB
 qeč-ip ket-iptu.
 逃げる-CVB 行く-PF.EV
 「ヒュセンが遠ざかったあと、子ヤギは立ち上がって逃げていった」 [balilar:54]

(182)のように位格が形動詞に後続すると時を表す。(183),(184)では形動詞に奪格が後続し、さらに keyin (「あと」) という語が続いた“-Din keyin”という迂言的な表現で理由や時が表される。

7.4. 形動詞が主節述語に位置する場合

形動詞が主節述語に位置することもある。(185)~(187)では単文の主節述語に、(188)では複文における主節述語に形動詞が位置している。

- (185) dinozawr-lar bu-niñ-din täxminän 230 milyon yıl 'ilgiri yaši-**kan**.
 恐竜-PL これ-GEN-ABL およそ 100万 年 前 生きる-PTCP.PST
 「恐竜は今からおよそ 230 万年前に生息していた」 [’elipbäsi: 20-23]

- (186) bu qoş 'eriq qäyär-gä tut-iš-**idikan**-du?
 この 双子 川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST-MOD
 「この二つの川はどこで合流しているのか?」 [elipbäsi: 15-8]

- (187) qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-**uwatqan**=hä!
 見る あの 鶴-3PL-DAT なんとという 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG=INT
 「見て、あの鶴を、なんて整然と飛んでいるのだろう!」 [’elipbäsi: 9-14]

- (188) saqal-lir-im-ni yul-up, tayaq bilän 'ur-**kan**.
 あごひげ-PL-POSS.1SG-ACC ひっぱる-CVB 棒 一緒に 叩く-PTCP.PST
 「(私の) あごひげをひっぱって、(私を) 棒で叩いた」 [balilar: 56]

以上、形動詞が現れる統語的位置ごとに分けて、用例を整理した。次章ではまず、主節述語に位置する形動詞について見ていく。

第 8 章 形動詞の主節述語における用法

第 8 章では、形動詞の主節述語における用法を考察する。形動詞が主節述語に位置する用法は他言語でも報告されているが、8.1.節でそのことを見る。形動詞が主節述語に位置する現象、言い換えれば、連辞的に次の要素に係るはずの形式が、終止を示す形式になる現象は、エヴィデンシャリティ (evidentiality) と関わるということが指摘されている。8.2.節ではこれに関連して、現代ウイグル語のエヴィデンシャリティの研究について概観する。8.3.節以降、分析・考察に移る。流れとしては、主節述語に生起する形動詞の用例数を調べ、続いて形態的・意味的面から、その特徴を分析する。8.6.節で第 8 章のまとめを行う。

8.1. 通言語的な観点からの指摘

通言語的な観点から動詞の活用について考察した風間 (2012) では、アルタイ諸言語・朝鮮語・ニブフ語・日本語の諸言語における形容詞を「形容詞名詞型」と「形容詞動詞型」とに分類し、さらにこのような形容詞の性質が、形動詞の性質に関連すると捉えている。「形容詞名詞型」および「形容詞動詞型」がどのようなものを指すのか、実例で以下に見ていく。

8.1.1. 形容詞名詞型

「形容詞名詞型」とは、名詞が形容詞と同じように振る舞うタイプを言う。このタイプにはアルタイ諸語が分類されている。風間 (2012:142-143) のナーナイ語の例を以下に引用する¹⁸。

- | | |
|---|--|
| (189) a. t̤ei nai aloosim̃ji.
that person teacher
「その人は先生だ」 | b. t̤ei nai ul̤æn.
that person good
「その人は良い」 |
| (190) a. t̤ei nai aloosim̃ji bi-č̣in.
that person teacher be-ANNF.PST
「その人は先生だった」 | b. t̤ei nai ul̤æn bi-č̣in.
that person good be-ANNF.PST
「その人は良かった」 |
| (191) a. aloosim̃ji daŋsa-ni
teacher book-3SG.POSS
「先生の本」 | b. ul̤æn daŋsa
good book
「良い本」 |

¹⁸ 引用している例文中のグロスが示すものは、以下の通り。ADN: adnominal (form). ADVF: adverbial verb form. ANF: adnominal verb form. ANNF: adnominal-nominal verb form. ANT: anterior.

- (192) a. aloosim̄ji-wa ičə-xən.
 teacher-ACC see-ANNF.PST
 「先生を見た」
- b. uləən-bə ičə-xən.
 good-ACC see-ANNF.PST
 「良いのを見た」

(189)および(190)からは、それぞれ現在・肯定と過去・肯定において名詞と形容詞が同じ振る舞いを見せることが分かる（なお、名詞修飾の際には、(191)で示されるように名詞と形容詞とで違いが出ると言う）。また、形容詞は(192b)に見られるように、対格などの格接辞を直接取ることができる。

ここで、ナーナイ語の形動詞（風間（2012）では「ANNF（形・名・動詞形）」としている）を見ると、文末で定動詞として機能すること（(193)）、名詞修飾要素として機能すること（(194)）、名詞として機能すること（(195)）が分かる。

- (193) a. t̄ai nai tutu-i.
 that person run-ANNF.PRS
 「その人は走る／走っている」
- b. t̄ai nai tutu-xən.
 that person run-ANNF.PST
 「その人は走った」

- (194) a. tutu-i nai
 run-ANNF.PRS person
 「走る人／走っている人」
- b. tutu-xən nai.
 run-ANNF.PST person
 「走った人／走っていた人」

- (195) mii t̄ai nai tutu-i-wə-ni ičə-xəm-bi.
 I that person run-ANNF.PRS-ACC-3SG seeANNF.PST-1SG
 「私はその人が走るのを／走っているのを見た」

なお、ナーナイ語の定動詞的用法の形動詞と定動詞との意味の違いに関して、次のような指摘がある：「定動詞の頻度は低く、その使用は、もっぱら直接に会話している場面での1,2人称の主語の行為に限られる。3人称主語の行為では、きわめてまれだが、話し手がその行為を直接目撃した場合に用いられることがある。すなわち、実相の観点から言えば、直接体験の行為に限られる」（風間 2012: 143-144）。

- (196) sii sia-ka-si? ii, mii sia-ka-i=a.
 you eat-PST-2SG yes I eat-PST-1SG=CLT
 「あなたは食事したか?」 「ああ、私は食べた。」

- (197) əi-du ao-ra=tanii.
 this-DAT sleep-PRS=CLT
 「ここで寝ているのか!」

8.1.2. 形容詞動詞型

他方、「形容詞動詞型」とは形容詞が動詞と同じように振る舞うタイプを指す。これには朝鮮語やニブフ語が該当する。以下に風間（2012:147）から朝鮮語の例を引用する。

- (198) a. gy saram='yn sensaing-nim-'i'ia. b. gy saram='yn 'ieibb-'e.
 that person=TOP teacher-mister-COP that person=TOP beautiful-ADVF.ANT
 「その人は先生だ」 「その人はきれいだ」
- (199) a. gy saram='yn sensaing-nim-'i-'ess-'e. b. gy saram='yn 'ieibb-'ess-'e.
 that person=TOP teacher-mister-COP-PST-ADVF.ANT that person=TOP beautiful -PST-ADVF.ANT
 「その人は先生だった」 「その人はきれいだった」
- c. gy saram='yn 'o-ass-'e.
 that person=TOP come-PST-ADVF.ANT
 「その人は来た」

現在形の文において、(198a)の名詞がコピュラを取っているのに対して、(198b)で形容詞は活用した形となっている。(199)はすべて過去形であるが、(199a)と(199b)から分かるように、形容詞と名詞が取る接辞の形に違いが見られる。一方で(199b)と(199c)を見ると、形容詞が動詞と同じ接辞を取っていること、つまり同じ振る舞いをしていることが分かる。名詞修飾の際にも、(200b),(200c)に見るように形容詞は動詞と同じ形を取る。

- (200) a. sensaing-nim caig b. joh-'yn caig c. 'ilg-'yn caig
 teacher-mister -COP book good-ADN.PST book read-ADN.PST book
 「先生の本」 「良い本」 「読んだ本」

また、「動詞の形動詞形は文末に立つことがない。名詞的に用いることもできないので、その際にはきわめて意味範囲の広い名詞 ges 「もの、事」を連体修飾することによって表現する」（風間 2012:147）。

- (201) na=nyn gy saram='i darri-go 'iss-nyn ges='yr bo-ass-'e.
 I=TOP that person=NOM run-ADVF.SIM be-ANF.NONPST thing=ACC see-PST-ADVF.ANT
 「私はその人が走っているのを見た」

以上が形容詞名詞型と形容詞動詞型の言語の例である¹⁹。

¹⁹ 現代日本語は形容詞折衷型として分類されているが、古代日本語の形容詞は名詞に近い性格を示すとされている（風間 2012: 158）。

8.1.3. 各タイプと動詞の語形変化との関連性

各言語に見られる現象を風間（2012）は次のように総括している。

- (i) 形容詞名詞型の言語（アルタイ諸言語など）では形・名・動詞形で言い切ることがごくふつうに行われるのに対し、形容詞動詞型の言語（ニブフ語、朝鮮語）では、形・動詞形で言い切ることができない。
- (ii) 形容詞名詞型の言語において、形・名・動詞形で文を終えるか、定動詞形 (finite verb form) で文を終えるかの違いは、実相 (evidentiality) の違いに関わっていることがある。

(i)について。複文の統語論は、単文の統語論を基礎に成り立っているものと考えられる。したがってある言語で、形・動詞形の統語的性格が形容詞の統語的性格に類似していることは、当然予想されることであろう。(中略) (ii)について。形・名・動詞形で文を終えるということは、動詞述語文を名詞述語文の枠に投入して表現するものと捉えることができる。(中略) そして名詞述語文 A is B. は、既知で特定の A について、それが恒常的に B であるという話し手の知識や判断を示すのがふつうであろう。したがって眼前に起きる状況をそのまま述べることのできる動詞文とは実相の点で異なってくることが予想できる。

(風間 2012:158-159)

上記の考察は、ある言語の品詞間の形態的振る舞い（形容詞が名詞と同様に振る舞うのか、あるいは動詞と同様に振る舞うのか、といったこと）と、動詞の語形変化の振る舞いとに相関性があることを指摘するものであり、この相関性について、現代ウイグル語においても実証されるかどうかを試みる価値がある。

まず、現代ウイグル語が形容詞名詞型か形容詞動詞型のどちらのタイプであるかということを示すと、形容詞名詞型に当てはまる。肯定・現在の文と、肯定・過去の文を例に挙げてみると、名詞と形容詞の形態的振る舞いが同じであることが分かる。現在形では名詞も形容詞もコピュラなしで述語になることができる点で共通している。過去形においては、コピュラが現れるという点で両者は共通している。

(202) a. 'u 'oqutquči.

彼女 先生

「彼女は先生だ」

b. 'u čirayliq.

彼女 きれい

「彼女はきれいだ」

(203) a. 'u 'oqutquči 'i-di.

彼女 先生 COP-PST

「彼女は先生だった」

b. 'u čirayliq 'i-di.

彼女 きれい COP-PST

「彼女はきれいだった」

また、名詞と同様に、形容詞に複数接辞などを付けることができる。

- (204) a. qiz-lar b. koni-lar
 少女-PL 古い-PL
 「少女たち」 「昔の人々」

現代ウイグル語が形容詞名詞型というタイプであることと、上記の風間 (2012) の(i)・(ii)の考察を合わせて考えると、次の2点が予測されることになる。

- 1) 形容詞名詞型の言語である現代ウイグル語では、形動詞形による言い切り（つまり形動詞形が主節末に来ること）が普通に行われる。
- 2) 形動詞形が主節末に位置する場合、定動詞形が主節末に位置する場合との違いは、エヴィデンシャルティの違いに関わっている可能性がある。

なお、現代ウイグル語を含むチュルク諸語のエヴィデンシャルティに関しては、Johanson (2000, 2003) による体系的な説明がある。8.3.節で上記の2点について検討する前に、次の8.2.節で Johanson (2000, 2003) と、現代ウイグル語のエヴィデンシャルティを扱った研究について見ることにする。

8.2. エヴィデンシャルティについて

近年のエヴィデンシャルティの研究である Aikhenvald (2006) は、次のようにエヴィデンシャルティを定義している。

“Evidentiality is a grammatical category that has source of information as its primary meaning – whether the narrator actually saw what is being described, or made inferences about it based on some evidence, or was told about it, etc.”

Aikhenvald (2006) では、情報ないし出来事が、どのような経路で得られたかを標示する形式とその体系について特に着目している。たとえば、次のように、アラワク語 (Arawak) では話者が出来事をどのような経路で得たかにより、異なる形式が用いられる。

- (205) Juse irida di-manika-**ka**
 José football 3person.masculine.singular-play-RECENT.PAST.VISUAL
 ‘José played football (we saw it)’

- (206) Juse irida di-manika-**mahka**
 José football 3person.masculine.singular-play-RECENT.PAST.NONVISUAL
 ‘José played football (we heard it)’

(207) Juse irida di-manika-**nihka**

José football 3person.masculine.singular-play-RECENT.PAST.INFERRED

‘José played football (we infer it from visual evidence)’

(Aikhenvald 2006: 320)

一方で、エヴィデンシャルリティについて、より広義な捉え方をしているものには、Johanson (2000, 2003) がある。

話者がどのように出来事を受容したのかを表し分ける形式として、次のようなトルコ語の-DI と-mİş がよく知られている (Shinzato1991, Aksu-Koç & Slobin 1986)。

(208) Kemal gel-**di**.

PSN 来る-DI

「ケマルが来た」

(209) Kemal gel-**mİş**.

PSN 来る-mİş

「ケマルが来たようだ／来たらしい／来たそうだ」

(208)はケマルが来たことを話者が直接目撃した場合に用いられる。それに対し、(209)は話者が、ケマルが来たことを、何らかの痕跡（たとえば、玄関でケマルの靴を見つけるなど）から、あるいは他人から伝聞で聞くなどして、間接的に知った場合に用いられる。

このように、話者がどのようにその出来事を受容したのかを示す文法的な手段は、チュルク諸語に広く見られ、Johanson (2000, 2003) はこれを *indirectivity* (間接性) と呼んでいる。Johanson (2000, 2003) からの引用を以下に示す（下線は本論文筆者による）。

“The notion of indirectivity is in accordance with the crosslinguistic definition of evidentiality as ‘stating the existence of a source of evidence for some information’. The crucial element of indirectivity, the presentation of an event ‘by reference to its reception by a conscious subject’, is certainly not unique to Turkic.” (Johanson 2003: 274)

“The source of knowledge —the way in which the event is acknowledged by the conscious subject in question— is not criterial; it is unessential whether the reception is realized through hearsay, logical conclusion or direct perception.” (Johanson 2000: 61)

要約すると、出来事を受容した話者の言及によって、出来事が示されることが *indirectivity* の中核的な要素であり、話者がどのような経路で出来事を得たか（伝聞によるのか、推論によるのか、など）は *indirectivity* にとって本質的なものでないとしている点で Aikhenvald (2006) とは異なる。

以上、簡単に Aikhenvald (2006) と Johanson (2000, 2003) を見たが、本論文では、エヴ

イデンシヤリティを後者のように広義の意味で捉える。また、Johanson (2000, 2003) では *indirectivity* という用語を用いているが、本論文では、煩雑さを避けるために、*indirectivity* を (広義の) エヴィデンシヤリティと呼ぶことにする。

8.2.1. エヴィデンシヤリティとアスペクトとの関連性について

現代ウイグル語にも、話者の出来事をどのように受容したかを表し分けるための、特定の接辞が存在する。

(210) Batur käl-*di*.

PSN 来る-DI

「パートウルが来た」

(211) Batur käl-*iptu*.

PSN 来る-IptI

「パートウルが来たようだ／来たらしい／来たそうだ」

(210)ではパートウルが来たことを話者が直接知っている場合の発話であり、一方(211)はトルコ語の-*mİş* のように、パートウルが来たことを、話者が間接的に知った場合に用いられる。先に見たトルコ語の(209)と現代ウイグル語の(211)を比べると、トルコ語と現代ウイグル語ではそれぞれ違う形式が使われていることに気付く。

チュルク諸語においてエヴィデンシヤリティが具体的にどのような形で示されるのか、またその組み合わせについては、いくつかのバリエーションがあるが、Johanson (2003) で体系的に整理されている。

DPAST. Direct pasts, not signalling indirective meanings: -DI.

IPAST-1. Unequivocal indirective pasts, e.g. -IBDIR: Kazakh -(I)ptI, etc.

IPAST-2. Less stable indirective pasts, e.g. -MIŠ, -GAN: Turkish -mİš, Tatar -GAN, etc.

PPAST. Postterminal pasts with secondary indirective readings, e.g. -MIŠ, -GAN: Azerbaijani -mİš, Kazakh -GAN, etc.

(Johanson 2003: 278 を改変)

DPAST とは、*directive past* を指す (例は(208),(210))。IPAST とは *indirective past* を意味する (例は(209),(211))。PPAST とは *postterminal past* を指す。このうち、トルコ語は DPAST (-DI) と IPAST-2 (-*mİş*) の二項対立からなる体系であり、現代ウイグル語は DPAST (-DI) と IPAST-1 (-(I)ptI) および PPAST (-GAN) の三項対立からなる体系を持つとされている。

上記の分類において、*postterminal* はいわゆる「完了」を指すものだが、このようなアスペクト的なものを、エヴィデンシヤリティの体系に含んでいることについて、Johanson (2003: 277) では次のように述べている。

“ In many languages, postterminals, e.g. ‘perfects’ expressing past events with present relevance, tend towards indirective readings. ”

つまり、完了というアスペクト的なものと、エヴィデンシャルティとのあいだに関わりを認めていることになるが、このようにアスペクトとエヴィデンシャルティとの関連を捉えた研究は、多く見られる (Shinzato 1991, 定延・マルチュコフ 2006, 梅野 2011 など)。

8.2.2. 現代ウイグル語におけるエヴィデンシャルティ

現代ウイグル語のエヴィデンシャルティに関連する詳細な先行研究には、最近のものは亞庫甫 (2011) および托乎提 (2013) がある。亞庫甫 (2011) では、現代ウイグル語のエヴィデンシャルティに関し、情報のソースに基づいた分類を提示している。この分類は 4 つあり、視覚・聴覚・知覚によるもの (例(212)) と、味覚・触覚・嗅覚によるもの (例(213)) と、報道性のも (例(214)) と、推論によるもの (例(215)) である。特定の接辞もしくは複合形式によりエヴィデンシャルティが表される。

(212) ‘oquvüci-lar ’ašxani-ka maŋ-di.
学生-PL 食堂-DAT 行く-PST
「学生たちは食堂へ行った」

(213) tamiq-iŋiz ’oxša-ptu.
料理-POSS.2SG おいしくできる-PFEV
「料理がおいしくできている」

(214) ’ovli-ŋiz biz-gä başliq bol-ar-miš.
息子-POSS.2SG 私たち-DAT 首長 なる-AOR-EV
「息子さんは私たちの首長になったということだ」

(215) ’u käl-mä-ydixan ’oxša-y-du.
彼 来る-NEG-PTCP.NPST 似る-PRS-3
「彼は来ないようだ」

亞庫甫 (2011) には言及のみで例文が記載されていないが、次のような形式 (-GAn gäp) もエヴィデンシャルティを表すとして、含まれている (以下の例文は、本論筆者が母語話者から得た例である)。

(216) A: mawu pura-wat-i-du.
これ におう-ASP-PRS-3
「これは臭いがする」

B: sesiq qal-*van* *gäp!*
 腐った 残る-PTCP.PST 話
 「腐ってしまったというわけだ!」

(217) A: burn-um ^ˈek-ip toxti-ma-y-du.
 鼻-POSS.1SG 流れる-CVB 止まる-NEG-PRS-3
 「鼻水が流れて、止まらない」

B: zukam teg-*gän* *gäp!*
 風邪 接する-PTCP.PST 話
 「風邪を引いたってわけだ!」

また、同様に言及のみで例文が掲載されていないが、亞庫甫 (2011) によると、-GAn *nemä* という形式がトルファン方言にあることが指摘されている。母語話者 (ウルムチ出身) からは次のような用例を確認している。

(煙があがっているのを見た話者が次のように言う)

(218) Batur tamaka *čiq-iwat-am-du nemä?*
 PSN タバコ 吸う-ASP-Q-PRS.3 何
 「バートウルがタバコを吸っているのかなあ?」

(顔が赤い友人を見て、話者が次のように言う)

(219) *qiziq bar-mu nemä?*
 熱 ある-Q 何
 「熱があるの?」

なお、亞庫甫 (2011)、托乎提 (2013) とともに-DI と-(I)ptI の違いを示している箇所はあるが、先に見た Johanson (2003) がエヴィデンシャリティの体系をなすものの一つとして挙げている-GAn については、上に見た“-GAn *oxša-*”のような複合形式を除いて、考察対象として組み入れられていない。そこで、8.5節の考察では、Johanson (2000, 2003) で示されている-GAn と-DI および-(I)ptI の違いについても言及する。

エヴィデンシャリティについて概観した上で、改めて、8.1節で問題点として提示したことを再掲すると、次の通りである。

- 1) 形容詞名詞型の言語である現代ウイグル語では、形動詞形による言い切り (つまり形動詞形が主節末に来ること) が普通に行われる。
- 2) 形動詞形が主節末に位置する場合、定動詞形が主節末に位置する場合との違いは、エヴィデンシャリティの違いに関わっている可能性がある。

これらの点について、次節で順に検討する。まず、8.3節で主節述語に用いられた形動詞

の用例数を示す。そして、8.4.節および 8.5.節で、形動詞化接辞の各形式（-GAn, -Idıǵan, -(I)watqan）ごとに分け、主節述語に用いられる形動詞の形態的特徴と意味的な特徴について考察する。

8.3. 主節述語に現れる形動詞の用例数

8.1.節に見た風間（2012）では、ナーナイ語における定動詞の頻度は低いとされている。加えて、山越（2013）ではブリヤート語の分詞（本論文の形動詞形に相当）が主節述語に現れる場合、特定の時制（過去時制および未来時制）に関しては、定動詞よりも使用頻度が高いことが指摘されている。

(220) abga axai-d-aa zax¹dal *bis¹-ee=b¹*.
 伯父 兄-DAT-REFL 手紙:INDF 書く-PTCP.IPFV=1SG
 「私は伯父に手紙を書きました」 (山越 2013: 29)

このような出現頻度の差が見られるかどうかを、次の2点から考察する。

- 1) 形動詞が、主節述語を含め、(221)で示すように様々な統語的位置（名詞節述語、名詞修飾節述語、副詞節述語）に出現することを述べたが（例文は(222)～(225)を参照）、それぞれの統語的位置ごとで、形動詞が出現する数に違いが出るかどうか。

(221)

形動詞形が生起しうる統語的位置			
主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語

主節述語

(222) saqal-lir-im-ni yul-up, tayaq bilän 'ur-*ban*.
 あごひげ-PL-POSS.1SG-ACC ひっぱる-CVB 棒 一緒に 叩く-PTCP.PST
 「(私の) あごひげをひっぱって、(私を) 棒で叩いた」 [balilar: 56]

名詞節述語

(223) [böjän-niñ kawi-ni qandaq 'äkäl-*gän*]-lik-i-ni 'oyla-p
 子兎-GEN 南瓜-ACC どう 持って来る-PTCP.PST-IK-POSS.3-ACC 考える-CVB
 tap-ala-m-silär?
 見つける-ABIL-Q-2PL
 「兎が南瓜をどうやって持ってきたかを考えつきますか」 [elipbäsi:10-6]

名詞修飾節述語

(224) [bu gäp-ni 'aŋli-*ban*] 'Ayxan momay
 この 話-ACC 聞く-PTCP.PST PSN おばあさん
 「この話を聞いたアイハンおばあさん」

[balilar:37]

副詞節述語

(225) [sän kičik häm čaqqa bol-*ban*]-din keyin 'awwal čüş-üp baq-ä!
 君 小さい その上 早い なる-PTCP.PST-ABL あと まず 降りる-CVB 見る-IMP
 「おまえは小さい、そのうえに素早いから、先に降りてみる!」 [‘elipäsi:8-18]

2) 主節述語に現れる形動詞と、主節述語専用の形式（ここでは-DI および-(I)ptI を参照にした）とで、用例数に違いが見られるかどうか。つまり、上記で挙げた(222)と、(226), (227) のような例とをカウントの対象とし、比べる。

(226) 'oŋl-um, 'aŋli-*di*-ŋ=mu?
 息子-POSS.1SG 聞く-PST-2SG=CL
 「息子よ、聞いたか?」

(227) 'ikkiylän mewi-lär-ni 'üz-üş-kä başla-*ptu*.
 2人 果物-PL-ACC 切る-VN-DAT 始める-PFEV
 「2人は果物を摘み始めた」

以上の用例を、3つの資料を用いて調べた。それぞれの資料の語数は、“‘uygur hazirqi zaman 'awazliq 'elipäsi’” が約 4,600 語、“‘uyghur balilar čüčäkliri.’” が約 11,900 語、“‘iz’ (1～10 章)” が約 22,900 語である。

8.3.1. 各位置に現れる形動詞間での対比

-GAn, -Idiŋan, -(I)watqaŋ の各形式における、主節述語に位置する形動詞と、主節述語以外（名詞節述語、名詞修飾節述語、副詞節述語）に位置する形動詞の用例数を、表 8-1～表 8-3 に示す。なお、表中の左端の項目は用例数を調べるのに用いた資料名（一部省略したもの）であり、数値はそれぞれの形式の出現個数を表す。“total” の行には、3つの資料全体での合計数を示している。

表 8-1 -GAn の用例数

	主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語	total
<i>'elipbäsi</i>	9	25	27	19	80
<i>balilar</i>	16	64	168	48	296
<i>'iz</i>	67	131	352	76	626
total	92	220	547	143	1002

表 8-2 -Idixan の用例数

	主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語	total
<i>'elipbäsi</i>	2	5	14	0	21
<i>balilar</i>	7	13	52	0	72
<i>'iz</i>	5	18	60	0	83
total	14	36	126	0	176

表 8-3 -(I)watqan の用例数

	主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語	total
<i>'elipbäsi</i>	1	2	6	1	10
<i>balilar</i>	0	20	29	6	55
<i>'iz</i>	0	9	18	2	29
total	1	31	53	9	94

-GAn, -Idixan, -(I)watqan のすべての形式に共通して言えることは、名詞修飾節述語に位置するもの、すなわち形容詞的に機能しているものもっとも多く、それに対して主節述語に位置する用法が少ないということである。表を順に見ていくと、表 8-1 では主節述語に現れる-GAn による形動詞の数は 92 例であるのに対し、名詞修飾節では 547 例となっている。とりわけ、-Idixan および-(I)watqan による形動詞が主節述語に出現した用例は少なく、-GAn が 92 例であるのに対し、-Idixan および-(I)watqan はそれぞれ 14 例および 1 例と限られている。

8.3.2. 主節述語専用の形式との対比

まず、主節述語の位置に現れる形動詞と主節述語専用の形式との用例数を比べる。対象にしたのは、Johanson (2000, 2003) において、現代ウイグル語のエヴィデンシャルティの体系をなすとされる-GAn, -DI, -(I)ptI の 3 つの形式である。それぞれの、主節述語における用例数をカウントした結果は表 8-4 の通りである。

表 8-4 主節述語における -GAn, -Idıvan, -(I)watqan, -DI, -(I)ptI の用例数

	-GAn	-Idıvan	-(I)watqan	-DI	-(I)ptI	total
'elipbäsi	9	2	1	118	183	313
balılar	16	7	0	150	511	684
'iz	67	5	0	818	104	994
total	92	14	1	1086	798	1991

表から言えるのは、3つのどの資料においても、形動詞の主節述語としての用例数は、他の2つの形式(-DIと-(I)ptI)に比べて低いということである。totalの箇所を見ても、もっとも用例数の高い-DIは、形動詞全体(-GAn, -Idıvan, -(I)watqan)の用例数を合わせた107例に対して、約10倍となっている。もう一つの形式である-(I)ptIと、形動詞全体を比べても、前者は後者の約7.5倍の用例数である。このことから、形動詞が主節述語に位置する用例数は、主節述語専用の形式に比べて低いと言える。

対象とする資料のジャンルにより、この用例数は変わる可能性もあるが、少なくとも物語あるいは小説というジャンルにおいては、形動詞が主節述語に位置する用法は、圧倒的に多いわけではないということになる。

以上のことを整理すると、まず、主節述語に位置する形動詞と、それ以外の統語的位置(名詞述語、名詞修飾述語、副詞述語)に現れる形動詞とを比べた場合、主節述語に位置する形動詞は少なく、名詞修飾節述語に位置するものが、もっとも用例数が高い。また、形動詞と主節述語専用の形式とを比べた場合、形動詞が主節述語に位置する数は低いと言える。加えて、形動詞が主節述語に位置した場合も、-Idıvanおよび-(I)watqanによる形動詞が主節述語に位置する用例数は、-GAnによる形動詞に比べると低い。つまり、形動詞が主節述語に位置するかどうかは、どの形動詞化接辞を用いた形動詞かにより、差が見られるということになる。

8.4. 主節述語に現れる形動詞の形態的特徴

ここでは、主節述語に位置する形動詞について、形態的特徴から考察する。現代ウイグル語には、その文の主語に応じて、主節述語に人称接辞が付加されるという一致(concord)の現象がある。例として、主節述語の専用の形式の一つである過去形-DIの活用表を以下に示す。

表 8-5 -DIが動詞語幹に続く場合

	単数	複数
1人称	käl- <i>di-m</i>	käl- <i>du-q</i>
2人称 (親称形)	käl- <i>di-ŋ</i>	käl- <i>di-ŋlär</i>
2人称 (尊敬形)	käl- <i>di-ŋiz</i>	käl- <i>di-ŋizlär</i>
3人称	käl- <i>di</i>	käl- <i>di</i>

動詞語幹 *käl-* (「来る」) のあとに *-DI* が接続され、さらに後続しているのが人称接辞である (3 人称の場合はゼロにより表される)。人称接辞の標示が義務的であることを、以下に示す。

(228) a. *män bazar-ka bar-di-m.*
私 市場-DAT 行く -PST-1SG
「私は市場へ行った」

b. **män bazar-ka bar-di.*
私 市場-DAT 行く -PST

(229) a. *sän bazar-ka bar-di-ŋ.*
君 市場-DAT 行く -PST-2SG
「君は市場へ行った」

b. **sän bazar-ka bar-di.*
君 市場-DAT 行く -PST

(228a)のように、主語が1人称代名詞の *män* (「私」) である場合、動詞の語尾に1人称単数接辞の *-m* が付加される。もし、この人称接辞を欠くと(228b)のように非文となる。つまり、人称接辞である *-m* は必ず付加される。(229)は、2人称代名詞の *sän* (「君」) が主語になっている例であるが、ここにおいても、(229a)のように述語となる動詞には2人称単数接辞の *-ŋ* が付き、接辞 *-ŋ* を欠いた(229b)が非文となることから、やはり文の主語に応じた人称接辞が必要となることが分かる。

それに対して、形動詞が主節述語に位置する場合、どのような形態的特徴が見られるのかを、以下の節で、*-GAn*, *-Idivan*, *-(I)watqan* の順に見ていく (なお、以下に示す表は Tömür (1987) および Hahn (1991) を参照にした)。

8.4.1. *-GAn* による形動詞

-GAn による形動詞が主節述語に来た場合は、次のような人称接辞を取る。

表 8-6 *-GAn* の活用表

	単数	複数
1 人称	<i>käl-gän-[män]</i>	<i>käl-gän-[miz]</i>
2 人称 (親称形)	<i>käl-gän-[sän]</i>	<i>käl-gän-[silär]</i>
2 人称 (尊敬形)	<i>käl-gän-[siz]</i>	<i>käl-gän-[sizlär]</i>
3 人称	<i>käl-gän-[dur]</i>	<i>käl-gän-[dur]</i>

※[]は任意の要素を示す。

-GAn の場合、先に見た-DI の活用表 8-5 と比べると、異なる点が 2 つある。1 つは、-GAn の後ろに続く人称接辞の形式が異なるということであり、もう 1 つは、(232),(233)で示すように、人称接辞の付加が義務的でないという点である。-GAn による形動詞が主節述語に現れている実例を(230),(231)に示す。

(230) *köp qetim kör-gän-män*
 多い 回数 見る-PTCP.PST-1SG
 「何回も見た」

(231) *'ämdi-ku qonaq-qa toy-ban-sän?*
 今-MOD 黍-DAT 満ちる-PTCP.PST-2SG
 「やっと（お前は）黍でおなかを満たしたか?」 [’elipbäsi: 19-33]

以上は、人称接辞の標示がなされている例である。それに対して、人称接辞が標示されていないものも見られる。

(232) *silär-niñ qandaq xuy päyl-iñlar-niñ barliq-i-ni män*
 あなたたち-GEN どんな 性格-POSS.2PL-GEN 存在-POSS.3-ACC 私
'apa-m-din köp 'aqlı-ban.
 母-POSS.1SG-ABL 多く 聞く-PTCP.PST
 「あなたたちがどのような性格であるかを私は母からよく聞いた」 [balilar: 27]

(233) *dinozawr-lar bu-niñ-din täxminän 230 milyon yıl 'ilgiri yaşı-ban.*
 恐竜-PL これ-GEN-ABL およそ 100 万 年 前 生きる-PTCP.PST
 「恐竜は今からおよそ 230 万年前に生息していた」 [’elipbäsi: 20-23]

(232),(233)でそれぞれ主語に相当するのは *män*（「私」）および *dinozawrlar*（「恐竜たち」）であるが、それらに応じた人称接辞が標示されていない。また、母語話者によると、次のように(232)に人称接辞を付けることもできる。つまり、人称接辞が任意の要素であることが分かる。

(234) *silär-niñ qandaq xuy päyl-iñlar-niñ barliq-i-ni män*
 あなたたち-GEN どんな 性格-POSS.2PL-GEN 存在-POSS.3-ACC 私
'apa-m-din köp 'aqlı-ban-män.
 母-POSS.1SG-ABL 多く 聞く-PTCP.PST-1SG

なお、このように人称接辞の標示が任意になるのは、主語となる人称代名詞や名詞が明示されることが関係している。たとえば、(235a)では主節述語の形動詞に人称が標示されていないが、代名詞主語である *män* を明示せずに(235b)のようにすると、許容されなくなる

(「彼は市場へ行った」という主語が 3 人称の読みでは可能)。

(235) a. *män bazar-ka bar-kan.*
私 市場-DAT 行く-PTCP.PST-1SG
「私は市場へ行った」

b. * *bazar-ka bar-kan.*
市場-DAT 行く-PTCP.PST-1SG
「私は市場へ行った」

形動詞が主節述語に位置する用例において、人称接辞の付加が義務的でないことは、先行研究においても指摘されている (Nadzhip 1971: 117, 趙・朱 1985: 90-91, 竹内 1991: 182)。なお、趙・朱 (1985: 91) によると、(236)および(237)のような使用は少ないという。

(236) *män bar-kan-män.*
私 行く-PTCP.PST-1SG
「私は行った」

(237) *bar-kan-män.*
行く-PTCP.PST-1SG
「私は行った」

8.4.2. -Idivan による形動詞

次に-Idivan が動詞語幹に続き、主節述語になる場合の活用を表 8-7 に掲げる。

表 8-7 -Idivan の活用表

	単数	複数
1 人称	käl- <i>idivan</i> - <i>dimän</i>	käl- <i>idivan</i> - <i>dimiz</i>
2 人称 (親称形)	käl- <i>idivan</i> -[<i>di</i>] <i>sän</i>	käl- <i>idivan</i> -[<i>di</i>] <i>silär</i>
2 人称 (尊敬形)	käl- <i>idivan</i> -[<i>di</i>] <i>siz</i>	käl- <i>idivan</i> -[<i>di</i>] <i>sizlär</i>
3 人称	käl- <i>idivan</i> - <i>du</i>	käl- <i>idivan</i> - <i>du</i>

※[]は任意の要素を示す。

-Idivan の後ろに続く人称の形式に着目すると、1 人称単数・複数と 2 人称単数・複数の場合に、-Idivan の後に di が加わるという点を除き、人称接辞の形は表 8-6 のものと同じになる。-Idivan による形動詞が主節述語に位置する実例を(238), (239)に示す。

(238) 'omaq 'uka-m nä-lär-di=mu yürü-*ydikan*-sän
 かわいい 弟-POSS.1SG どこ-PL-LOC=CL ぶらつく-PTCP.NPST-2SG
 「かわいい弟よ、どこでさまよっているのか」 [balilar: 18]

(239) häy, silär nemančä gäp 'aqli-ma-*ydikan*-silär
 おい 君たち なぜそれほど 話 聞く-NEG-PTCP.NPST-2PL
 「おい、君たちは何故それほどに話を聞かないのだ」 [balilar: 35]

収集した用例にはすべて、人称の標示が見られた。母語話者によると、-*Idikan* による形動詞の場合、形動詞化接辞の後ろに人称接辞が付加されなければ、主節述語に位置することはできない。

(240) a. bu qoš 'eriq qäyär-gä tut-iš-*idikan*-du ?
 この 双子 川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST-3
 「この二つの川はどこで合流しているのか？」

b. *bu qoš 'eriq qäyär-gä tut-iš-*idikan*?
 この 双子 川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST
 「この二つの川はどこで合流しているのか？」

8.4.1 節で見た、-*GAn* による形動詞が主節述語に立つ場合は、人称接辞が任意であったのに対し、-*Idikan* の方は人称接辞がなければ主節述語に位置できないという制約があるということになる。

8.4.3. -(I)watqan による形動詞

次に、-(I)watqan による形動詞が主節述語に位置する活用表を示す。

表 8-8 -(I)watqan の活用表

	単数	複数
1 人称	yez- <i>iwatqan</i> -dimän	yez- <i>iwatqan</i> -dimiz
2 人称 (親称形)	yez- <i>iwatqan</i> -sän	yez- <i>iwatqan</i> -silär
2 人称 (尊敬形)	yez- <i>iwatqan</i> -siz	? yez- <i>iwatqan</i> -sizlär
3 人称	yez- <i>iwatqan</i> -du	yez- <i>iwatqan</i> -du

-(I)watqan による形動詞が主節述語に位置した場合の活用表は、管見の限り Tömür (1987: 357) にしか見られない。Tömür (1987) による活用表では尊敬形・複数については、欠け

ている箇所が見られるため、推測される形を「?」で示している。

-(I)watqan による形動詞が主節述語に位置する例は、用例では 1 例のみ得られただけであるが、表中に見られるような人称接辞ではなく、終助詞のような要素を伴ったものである（なお、文末でイントネーションの上昇が見られる）。母語話者によると、(241)の終助詞を人称接辞に変えることもできる。

(241) qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-uwatqan=hä!
見る あの 鶴-3PL-DAT なんていう 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG=EXC
「見て、あの鶴を、なんて整然と飛んでいるのだろう!」

(242) qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-uwatqan-du!
見る あの 鶴-3PL-DAT なんていう 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG-3
「見て、あの鶴を、なんて整然と飛んでいるのだろう!」

それに対し、-(I)watqan のあとに何も続かない(243)の場合、非文となり、許容されない。

(243) *qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-uwatqan!
見る あの 鶴-3PL-DAT なんていう 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG
「見て、あの鶴を、なんて整然と飛んでいるのだろう!」

つまり、-(I)watqan による形動詞が主節述語になるには、人称接辞の標示もしくは終助詞のような要素が必須ということになるが、形態的な標示を必要とする点で、8.4.2.節に見た -Idikan と同じである。

-GAn による形動詞の主節述語の生起およびその場合の人称標示の任意性については先行研究で頻繁に記述されているということを中心に述べたが、-(I)watqan による形動詞が主節述語に位置する場合の活用表については、管見の限り Tömür (1987: 357) で示されている程度である。

8.5. 主節述語に現れる形動詞の意味的特徴

ここでは、主節述語に位置した形動詞と、主節述語専用の形式との意味的な違いについて考察する。-GAn による形動詞と、-Idikan および-(I)watqan による形動詞を分けて記述していく。-GAn による形動詞については、主節述語専用の形式である-DI, -(I)ptI と比較する形で、その違いを示す。-Idikan および-(I)watqan による形動詞が主節述語に位置する場合については、構文的な特徴があることを示す。

8.5.1. -GAn による形動詞

Johanson (2003) でエヴィデンシャリティに関わるとされる形式は、-DI, -(I)ptI, -GAn の 3 つである。そのうち、-GAn は“Postterminal pasts with secondary indirective readings”を表すと

される。ここでは、-GAn と他の形式との置き換えを見ていく。

-GAn と -DI

話者の目の前で、今起きている出来事を示す際には、-GAn による形動詞は主節述語に位置することができない。母語話者によると、(244)のように出来事を眼前で直視している場合には、-DI が用いられ(244b)のように-GAn は許容されないという。

(子どもが凧揚げをしている。高く揚がった凧を見て次のように言う)

(244) a. bu lägläk bäk 'egiz 'uč-ti.

この 凧 大変 高い 飛ぶ-PST

「この凧はすごく高く飛んだ」

[ʼelipbäsi: 23-13]

b. *bu lägläk bäk 'egiz 'uč-qan.

この 凧 大変 高い 飛ぶ-PTCP.PST

ここでポイントとなるのは、話者が直接見ているかそうでないか（つまり、直接経験しているかそうでないか）、ということではなく、発話時に起きていることを、発話時に表現できるかどうかで-DI と-GAn の使い分けがなされるという点である。たとえば、-GAn による形動詞形は、(245)のように、話し手が直接に体験した出来事を、後に語る際にも用いられる。

(245) saqal-lir-im-ni yul-up, tayaq bilän 'ur-ban.

あごひげ-PL-POSS.1SG-ACC ひっぱる-CVB 棒 一緒に 叩く-PTCP.PST

「(私の) あごひげをひっぱって、(私を) 棒で叩いた」

[balilar: 56]

なお、(244b)のような-DI の用法は、次の(246)~(249)の例にもつながる。-DI は話し手の実行しようとしていることを表現することができるという点にある²⁰。Comrie (1976: 64-65) ではこのような表現を prospective aspect (「見込み相」) としている。

(これから学校に行く子どもが、両親に向かって言う)

(246) xoš män kät-ti-m.

EXC 私 行く-PST-1SG

「じゃあ、私は行った! (私は行くよ)」

[ʼelipbäsi: 19-15]

(247) 'awwal kir-ip baq-ma-m-du-q!

まず 入る-CVB 見る-NEG-Q-PST-1PL

²⁰ 同様の用法がトルコ語にも見られるが、次の例文に示すように、主語は1人称に限られる(林 2013: 123)。この点で、(248)や(249)のように1人称以外の主語についても言及できる現代ウイグル語と異なっている。

(a) Ben gel-di-m.

私 来る-PST-1SG

「私はすぐ(あなたのところに)来る(行くよ)」

(b) Haydi, biz git-ti-k.

じゃあ 私たち 行く-PST-1PL

「じゃあ、私たちは行くよ【聞き手が残る場合】」

「まずは入ってみよう」

[’elipbäsi:20-5]

(今家へ帰ろうと歩いている人に向かって言う)

(248) ’öy-gä kät-ti-ñiz mu?
家-DAT 行く-PST-2PL Q

「家へ帰ったのですか? (家へ帰るのですか)」

(雨が降っていて、まだ止んでいないときに話し手が次のように言う)

(249) yamkur toxti-mi-di.
雨 止む-NEG-PST

「雨が止まなかった(雨が止まない)」

(竹内 1991:171)

次に、-GAn と -(I)ptI を比較した場合を見る。

-GAn と -(I)ptI

竹内 (1991: 178) では、-(I)ptI を「未確認」を表すものとしている。実際に、話し手が出来事を直接体験していない文脈を設定すると、-(I)ptI と -GAn の違いが明らかになる。

(朝、起きて家から出ると水たまりができていることに、話者が気づく。すでに雨はやんでいるが、晩のうちに雨が降ったのだということに気づいて次のように言う。)

(250) a. yamkur yek-iptu.
雨 降る-PFEV

「雨が降ったようだ/降ったみたいだ」

b. *yamkur yav-van.

雨 降る-PTCP.PST

母語話者によれば、(250)のように、現在残されている痕跡(「水たまり」)から推量される過去(「前の晩に雨が降った」ということ)を表す場合には、-(I)ptI が用いられ、-GAn は不適切となるという。

-DI, -GAn, -(I)ptI の3つを比較する形で、それぞれの用法を整理する。

(251) a. ’öy-diki-lär meni maxta-p kät-ti.
家にある-PL 私.ACC 誉める-CVB 行く-PST

「家の者たちは私を誉めた」

b. ’öy-diki-lär meni maxta-van.

家にある-PL 私.ACC 誉める-PTCP.PST

「家の者たちは私を誉めたものだった」

- c. 'öy-diki-lär meni maxta-*ptu*.
 家にある-PL 私.ACC 誉める-PFEV
 「家の者たちが私を誉めたらしい」

-DI, -GAn, -(I)ptI の3つに共通しているのは、終わった出来事を語る際に用いられる形式であるという点である。(251a)では、話者自身、自分が誉められた場に直接立ち会っており、その状況を語る際のものである。それに対し、(251b)については、「(昔は) 誉めたものだった(が、今はそうではない)」というニュアンスを帯びる。(251c)であれば、話者自身は「家の者が自分を誉める」という場面に遭遇しておらず、後に人から伝え聞くなどして、話者がそのこと(家の者が自分を誉めたこと)を知った場合に限られる。

8.5.2. -Idivan による形動詞

-Idivan による形動詞が主節述語に位置する場合、すべてに共通しているのは、どれも疑問詞を伴った文や否定文に現れるという点である。

- (252) 'omaq 'uka-m nä-lär-di=mu yürü-*ydivan-sän*
 かわいい 弟-POSS.1SG どこ-PL-LOC=CL ぶらつく-PTCP.NPST-2SG
 「かわいい弟よ、どこでさまよっているのか」 [balilar: 18]

- (253) häy, silär nemančä gäp 'aŋli-*ma-ydivan-silär*
 おい 君たち なぜそれほど 話 聞く-NEG-PTCP.NPST-2PL
 「おい、君たちは何故それほどに話を聞かないのだ」 [balilar: 35]

- (254) *nemä dä-ydivan-sän* bala-m
 何 言う-PTCP.PST-2SG 子ども-POSS.1SG
 「何を言うのか、わが子よ(そんなことを言うべきではない)」

- (255) siz 'apa-m-ni dori-si-ŋiz=mu 'unchiwala 'oxšit-ip
 あなた 母-POSS.ACC 真似する-COND-2SG=CL それほど 上手くやる-CVB
dori-yal-ma-ydivan-siz.
 似る-ABL-NEG-PTCP.NPST-2SG
 「あなたは私の母を真似ても、そこまで上手く真似ることはできない」

中には、(254)のように疑問詞を伴った文ではあるが、反語の意味を表すものもある。

8.5.3. -(I)watqan による形動詞

-(I)watqan による形動詞が主節述語に用いられた例は、1例のみ見られることを先に述べたが、-Idivan と同様に、感嘆を表すという特徴が見られる。*nemädegän* (「なんという～」)

という語は、話者の感嘆を表す場合に、(256)のように用いられる。-(I)watqan による形動詞が主節述語に現れている(257)は、nemädegän が共起し、感嘆を表している。

(256) nemädegän 'omaq bala!
 なんといい かわいい 子ども
 「なんてかわいい子どもなのだろう！」

(257) qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-uwatqan=hä!
 見る あの 鶴-PL-DAT なんといい 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG=EXC
 「見て、あの鶴を、なんて整然と飛んでいるのだろう！」

なお、nemädegän と人称接辞あるいは形動詞化接辞に続く終助詞的な要素を欠いている、(258a)のような平叙文の場合、-(I)watqan による形動詞で文を終わらせることはできない。母語話者に確認すると、(258b)のように、他の時制やアスペクトを表す形式を使用する。

(258) a. *awu turni-lar rätlik 'uč-uwatqan .
 あの 鶴-PL 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG
 意図した読み：「あの鶴は整然と飛んでいる」

b. awu turni-lar rätlik 'uč-uwat-i-du.
 あの 鶴-PL 整然とした 飛ぶ-ASP-PRS-3
 「あの鶴たちは整然と飛んでいる」

-(I)watqan による形動詞が、名詞修飾節に位置する場合には、進行形を表すことができるのに対し、主節述語においては他の形式によって表されるということになる。

(259) [hoyli-diki güllük-tä 'oyna-watqan] kepinäk
 中庭-にある 花壇-LOC 遊ぶ-PTCP.PROG チョウ
 「中庭にある花壇で遊んでいるチョウ」 [ʹelipäsi: 2-7]

以上、形動詞が主節述語に現れた場合の意味的特徴を見た。-GAn, -Idikan, -(I)watqan ともに、名詞修飾節においてはアスペクトないしテンスの違いによって、使い分けられるが、形動詞の主節述語用法については、-GAn と、-Idikan / (I)watqan による形動詞のあいだに、非対称性が見られる、と言える。

8.6. まとめ

第8章では、形動詞が主節述語に用いられた場合の特徴を探った。8.1節で見た風間(2012)の指摘をもとにすると、現代ウイグル語については次のことが予測できるということを掲げ、それを検証した。

- 1) 形容詞名詞型の言語である現代ウイグル語では、形動詞による言い切り（つまり形動詞が主節末に来ること）が普通に行われる。
- 2) 形動詞が主節末に位置する場合、定動詞形が主節末に位置する場合との違いは、エヴィデンシャルティの違いに関わっている可能性がある。

まず、1) に関して、形容詞名詞型である現代ウイグル語でも、形動詞が主節述語に立つことがあるが、実際の用例数からは、「普通に」主節述語に位置するとは言えない。その証拠として、他の主節述語専用の形式の用例数と比べた場合、形動詞の用例数が低いことが挙げられる。主節述語に現れる形動詞の中で、一番安定して現れるのが-GAnによる形動詞であり、その他の形動詞化接辞(-Idikan, -(I)watqan)による形動詞は、人称の標示や特定の要素(否定辞や疑問詞)があつてはじめて主節述語に現れることができる。言い換えれば、同じ形動詞の間でも、主節述語での出現に関する条件にばらつきがあり、主節述語としての用法が安定しているものと、そうでないものがある。

次に、2) について、-GAnによる形動詞、-Idikanによる形動詞、-(I)watqanによる形動詞のそれぞれが主節述語に位置した場合を見ると、後者2つについては、生起できる文のタイプの制限が見られる。-GAnについては、-(I)ptIのような意味は表さないが、他の2つの形動詞形と大きく違うのは、平叙文や疑問文、否定文など、文のタイプに制限されることなく、現れるという点にある。そして、-Idikanによる形動詞が主節述語に位置する場合には疑問や反語、感嘆を表し、-(I)watqanによる形動詞が主節述語に現れる場合は感嘆を表す。つまり、これらの要素が平叙文では表されない意味を表していることは確かである。

1)および2)を統合すると、形動詞の主節述語用法において、-GAnによる形動詞と、-Idikan / -(I)watqanによる形動詞のあいだには、形態的にも意味的にも非対称性が見られると結論付けられる。

第9章 形動詞が伴う主語の格

第9章では、形動詞が伴う主語とその格の選択条件について論じる。第7章で示したように、形動詞は項を伴うことができる。特に項が主語である場合、主語の格には主格(- ϕ)で現れるものと属格(-*nij*)で現れるものの二通りが見られる(以下、それぞれ「主格主語」および「属格主語」と称する)。したがって、どのような条件のもとで、どちらの格が選ばれるかということが問題となる。Csató&Uchurpani (2010)では、主格と属格のどちらが標示されるかに関して、名詞の意味的特徴に関係することを示しているが、ここでは、統語的要因も関係することを論じる。

本章では、形動詞が生起する節に着目して議論を進めていく。形動詞の分布と節との相関は次のように図示できる。(Sは主語、Vは動詞、Nは名詞、SUBは従属節、MAINは主節、Predは述語、「...」は任意の要素を表している)。

- (260) a. [[S ... V-PTCP]_{SUB} ... Pred]_{MAIN}
b. [[S ... V-PTCP]_{SUB} N ... Pred]_{MAIN}
c. [S ... V-PTCP]_{MAIN}

(260a)と(260b)は、形動詞が従属節述語に現れている例である。(260c)は形動詞が主節述語に現れている例である。形動詞が名詞的に機能する場合は(260a)で表される。また、(260a)の構造を取るものの中には、格が付加されていることから形態的に名詞相当と捉えられるが、機能としては副詞的に機能するものも含まれる。形動詞による節が形容詞的に機能する場合は(260b)、定動詞的に機能する場合は(260c)と対応している。

まず9.1節で、現代ウイグル語を研究対象としているCsató&Uchurpani (2010)の考察と、その他の言語における従属節内の主語の格交替について論じたもの(Kornfilt 2009, Guntsetseg 2012)を見る。次に、9.2節で形動詞が生起する節を(260a)~(260c)のようにタイプ分けして、主格主語と属格主語の分布を考察する。9.3節でこれらを整理した形で示し、主格主語と属格主語の分布が、節の性質により決定されうることを主張する。9.4節では、形動詞と形動詞の主語との隣接性も格の決定に関わることを示す。9.5節が第9章全体のまとめである。

9.1. 先行研究

主語(特に従属節におけるもの)の格交替については、日本語のいわゆるガ/ノ交替を含め、その他の言語についても考察が見られる。ここでは、現代ウイグル語・トルコ語・モンゴル語を扱った先行研究を見る。

9.1.1. Csató&Uchurpani (2010)

Csató&Uchurpani (2010)では現代ウイグル語の関係節内の主語(=形動詞の主語)につ

いて考察している。関係節内の主語は、次のように主格主語あるいは属格主語で現れる（以下、形動詞の主語に下線を引いて示す）。

- (261) a. [u qiz söy-gän] yigit
 その 少女 愛する-PTCP.PST 青年
- b. [u qiz-nin söy-gän] yigit-i
 その 少女-GEN 愛する-PTCP.PST 青年-POSS.3
 「その少女が愛した青年」 (Csató&Uchurpani2010: 88)

上記の(261)では、(261a)のように主格主語でも(261b)のように属格主語でも許容される。他方、このような交替が許されない場合も見られ、それが次の(262), (263)の例である。

- (262) a. [hiç kim söy-mä-ydigän] yigit
 誰も 愛する-NEG-PTCP.NSPT 青年
 「誰も愛さない青年 (誰もが、その青年を愛さない)」

- b. * [hiç kim-nin söy-mä-ydigän] yigit-i
 誰も-GEN 愛する-NEG-PTCP.NPST 青年-POSS.3

- (263) a. [kün nur-i kir-mi-gän] öy
 日 光-POSS.3 入る-NEG-PTCP.PST 家
 「日光が入らない家」

- b. * [kün nur-i-nin kir-mi-gän] öy-i
 日 光-POSS.3-GEN 入る-NEG-PTCP.PST 家-POSS.3

(Csató&Uchurpani2010:89)

(262), (263)において、形動詞の主語である *hiç kim* (「誰も」、英語の *nobody* に相当する) や *kün nuri* (「日光」) は不特定 (non-specific) な要素である。このような事実から、Csató&Uchurpani (2010) は主語の格標示の違いが、主語となる名詞の特定性 (specificity) に関わるとしている。また、例証はされていないが、焦点 (focus) や主題 (topic) といった情報構造などが関わる可能性も指摘されている。Csató&Uchurpani (2010) による特定性に基づいた主格主語／属格主語の違いの説明をまとめると、表 9-1 のように示せる。

表 9-1

	特定 (specific)	不特定 (non-specific)
主格主語	OK	OK
属格主語	OK	*

従属節内の主語の格標示が名詞の特定性と関連するという考え方は、Kornfilt (2009) にも見られる。次節で、トルコ語からの例を見てみよう。

9.1.2. Kornfilt (2009)

属格が特定性を表している例はトルコ語にも見られる。たとえば、(264)の従属節における主語は、(264a)では主格 (-*ϕ*) で、(264b)では属格 (-*(n)In*) で標示されている。(264a)の主格主語が不特定で解釈されるのに対し、(264b)の属格主語は特定のものとして解釈される。ただし、このように属格と特定性が関わるのは、主語が節内の動詞と隣接している場合に限られる。(264c)と(264d)の対比から分かるように、主語が節内の動詞と隣接していないと、属格での標示が義務的となる。また、(264c)では主語は特定・不特定のどちらでも解釈されうるといふ。

- (264) a. [yol-dan bir araba geç-tiğ-in]-i gör-dü-m.
道-ABL 1 車 過ぎる-PTCP.PST-POSS.3SG-ACC 見る-PST-1SG
「ある車が道を通ったのを見た」
- b. [yol-dan bir araba-nın geç-tiğ-in]-i gör-dü-m.
道-ABL 1 車-GEN 過ぎる-PTCP.PST-POSS.3SG-ACC 見る-PST-1SG
- c. [bir araba-nın yol-dan geç-tiğ-in]-i gör-dü-m.
1 車-GEN 道-ABL 過ぎる-PTCP.PST-POSS.3SG-ACC 見る-PST-1SG
「ある車が道を通ったのを見た」
- d. *[bir araba yol-dan geç-tiğ-in]-i gör-dü-m.
1 車 道-ABL 過ぎる-PTCP.PST-POSS.3SG-ACC 見る-PST-1SG (Kornfilt2009:84)

また、従属節が主節の項になる場合、属格主語が義務的になる ((265))。一方で、従属節が付加的 (adjunctive) なものである場合、属格主語は許されず、主格主語でなければならない ((266))。

- (265) [Sen-in dün sabah ev-de yemek pişir-diğ-in]-i
君-GEN 昨日 朝 家-LOC 食事 作る-PTCP.PST-POSS.2SG-ACC
duy-du-m / san-dı-m.
聞く-PST-1SG/思う-PST-1SG
「君が昨日の朝、家で食事を作っていたと聞いた／思った」

- (266) *[Sen-in konser-e git-tiğ-in]-de ben ev-e dön-üyor-du-m.

君-GEN 演奏会-DAT 行く-PTCP.PST.POSS.2SG.LOC 私 家-DAT 戻る-PROG-PST-1SG
「君が演奏会へ行ったとき、私は家に帰っているところだった」

(Kornfilt 2009: 95,97)

このような場合は名詞の意味的特徴よりも、節の性質が格標示に関わるということになる。

9.1.3. Guntsetseg (2012)

現代ウイグル語とトルコ語において、従属節内の主語の格は主格か属格かの二通りであった。それに対してモンゴル語では、従属節内の主語が取る格は主格か対格かの二通りとなる。Guntsetseg (2012)によればモンゴル語では従属節（副詞節・条件節・分詞を用いる補文節）において主格／対格の交替が起きる。(267)が補文節、(268)が副詞節、(269)が条件節中に主語が現れている例である（引用中の[]や下線の例文は本論筆者による）。

(267) a. Tuya [zahiral German ruu yav-san gej] med-sen.
PSN 理事 ドイツ へ 行く-PST こと 知る-PST

b. Tuya [zahirl-iig German ruu yav-san gej] med-sen.
PSN 理事-ACC ドイツ へ 行く-PST こと 知る-PST
「トゥヤは理事がドイツに行ったことを知った」

(268) a. Bi [Tuya yav-sn]-ii daraa ir-sen.
私 PSN 行く-PST-GEN あと 来る-PST

b. Bi [Tuya-g yav-sn]-ii daraa ir-sen.
私 PSN-ACC 行く-PST-GEN あと 来る-PST
「私はトゥヤが行ったあとで来た」

(269) a. Bi [Tuya yav-san] uchraas ir-sen.
私 PSN 行く-PST から 来る-PST

b. Bi [Tuya-g yav-san] uchraas ir-sen.
私 PSN-ACC 行く-PST から 来る-PST
「私はトゥヤが行ったので来た」

(Guntsetseg 2012: 209-210)

Guntsetseg (2012) は、上記のような従属節中の主語の主格と対格の交替の要因が、(i)

adjacency、(ii) referentiality の二つにあるとしている。

(i)の adjacency とは、主節の主語と従属節の主語とが隣接した場合、両者の混同を避けるために従属節の主語が対格で標示されるというものである。

(270) a. ?*Bi chi yav-sn-iig med-sen.
私 あなた 行く-PST-ACC 知る-PST

b. Bi chamaig yav-sn-iig med-sen.
私 あなた.ACC 行く-PST-ACC 知る-PST

「私はあなたが去ったことを知っていた」 (Guntsetseg 2012: 217)

(ii)の referentiality とは、名詞が持つ意味的特徴のことで、referentiality が低いもの、たとえば、次の例で従属節内の主語である hün (「人」、ここでは英語の someone に相当する) は、referentiality が低いとされるものであり、このような名詞には対格では標示できない。

(271) a. Tuya hün ger-t n' hulgai hii-sn-iig med-sen.
PSN 人 家-DAT.3POSS 盗みをする-PST-ACC 知る-PST

b. *Tuya hün-iig ger-t n' hulgai hii-sn-iig med-sen.
PSN 人-ACC 家-DAT.3POSS 盗みをする-PST-ACC 知る-PST

「トウヤは誰かが家に盗みに入ったのを知っていた」 (Guntsetseg 2012:220)

なお、(i)、(ii)の要因のうち、(ii)については二次的なものであるとされる。つまり、格は一つの要因によって決定的になるのではなく、複数の要因間のうちで、相対的な優先順位を持つものであると言える。

9.1.4. 問題点の整理

以上、従属節の主語の格標示に関する要因について見てきたが、整理すると、従属節における主語の格を決定する要因は、次の二つに大別される：一つは、意味的な要因である。具体的には、有生性、定性、特定性などが関わる。もう一つは、統語的な要因である。具体的には、従属節の性質、従属節内における主語と述語との隣接性、従属節主語と主節主語との隣接性、が関わる。

このうち、現代ウイグル語に関しては、意味的な要因について Csató&Uchurpani (2010) が言及しているが、統語的な要因については触れられていない。また、Csató&Uchurpani (2010) で考察の対象となっているのは、関係節すなわち形動詞が形容詞的に機能する用例に限られている。前掲したように、形動詞とその主語が現れる環境は、(272)のように 3 つに分類できることを考慮すると、(272a)や(272c)のようなケースも考慮されるべきである

う。つまり、考察対象を広げる必要がある。

- (272) a. [[S ... V_{-PTCP}]_{SUB} ... Pred]_{MAIN}
 b. [[S ... V_{-PTCP}]_{SUB} N ... Pred]_{MAIN}
 c. [S ... V_{-PTCP}]_{MAIN}

以下の3.2節では(272a)～(272c)のパターンに分けて、形動詞の主語の格標示を見る。そして、主格／属格の選択は、節の性質も関わっているということを示す。

なお、(272a)は形動詞の主語が名詞節に現れることを図式化したものだが、機能の点から見ると、さらに次の二つに分けられる：一つは主節の述語の項に相当する節であり、もう一つは副詞的に主節を修飾する節である。

- (273) [gül şah-nin de-gän-lir-i] rast-kän-dä.
 花 王-GEN 言う-PTCP.PST-PL-POSS.3 本当-EV-EXCL
 「花の王様の言ったことは本当のようだね」 [balilar: 60]

- (274) [hüsen yiraqla-p ket-ken]-din keyin 'oqlaq 'orun-i-din tur-up
 PSN 遠ざかる-CVB 行く-PTCP.PST-ABL 後 子ヤギ 場所-POSS.3-ABL 立つ-CVB
 qeç-ip ket-iptu.
 逃げる-CVB 行く-PF.EV
 「ヒュセンが遠ざかったあと、子ヤギは立ち上がって逃げていった」 [balilar: 54]

(273)は文の主語に相当しており、(274)は時を表し副詞的なものとして捉えられる。つまり、両方ともに形動詞に格が付いているという形態的な面からは名詞節と判断されるものの、主節とどのような関係にあるかという点で異なっている。9.2節以下ではこれらも分けて用例を見ていく。

9.2. 各節における形動詞の主語の格標示の考察

ここでは、形動詞の主語が名詞節に生起する場合、副詞節に生起する場合、名詞修飾節に生起する場合、主節に生起する場合の順に用例を見ていく。

9.2.1. 形動詞の主語が名詞節に現れる場合

形動詞の主語が名詞節に現れる場合、形動詞の後ろに主格や与格や対格などが付き、名詞節全体が主節の述語の項となる。(275)では名詞節が主節述語の主語、(276)では主節述語の対格目的語、(277)では主節述語の与格目的語となっている。

(275) [gül şah-niŋ de-gän-lir-i] rast-kän-dä.
 花 王-GEN 言う-PTCP.PST-PL-POSS.3 本当-EV-EXCL
 「花の王様の言ったことは本当のようだね」 [balilar: 60]

(276) [böjän-niŋ kawı-nı qandaq 'äkäl-gän]-lik-i-nı 'oyla-p
 子兎-GEN 南瓜-ACC どう 持って来る-PTCP.PST-LIK-DEF-ACC 考える-CVB
 tap-ala-m-silär?
 見つける-ABIL-Q-2PL
 「兎が南瓜をどうやって持ってきたかを考えつきますか」 ['elipbe: 10-6]

(277) [tumučuq-niŋ tos-qın]-ı-ıı-mu qarı-may 'arxamçı-ıa çıq-ıptu.
 雀-GEN さえぎる-PTCP.PST-DEF-DAT-CL 見る-NEG 綱-DAT 出る-PFEV
 「雀のさえぎるのも気にせず、綱に上ったそうだ」 ['elipbäsi: 3-16]

一方で、(278)～(280)のように、名詞節が主節の主語や目的語に相当していても、主語が主格で標示される例も見られる。

(278) [höpüp-niŋ 'ism-i çıq-qan]-lıq-i 'u-nı xelila temtiri-t-ıptu.
 ヤツガシラ-GEN 名前-POSS.3 出る-PTCP.PST-IİK-POSS.3 彼-ACC 本当に 慌てる-CAUS-CVB
 qoy-ıptu.
 置く-PFEV
 「ヤツガシラ（鳥の名前）の名前が出たことは彼を本当に慌てさせた」 [balilar: 98]

(279) 'ular 'işle-wer-ıptu [keç kir-gen]-ni-mu sez-mey qa-ptu.
 彼ら 仕事する-ASP-CVB 夕方 入る-PTCP.PST-ACC-CL 感じる-CVB.NEG 残る-PFEV
 「彼らは働いていて、日が暮れたことにも気づかないでいたそうだ」 ['elipbe: 1-17]

(280) tumučuq, 'ıt, kăptăr-lăr=mu bu-niŋ-din 'ot sim bilän nöl sim-ıa tãŋ teg-ıptu
 雀 犬 鳩-PL=CL これ-GEN-ABL 火 線 と ゼロ 線-DAT 同じ 触る-CVB
 kät-sä [tok soq-uwet-ıdısan]-lıq-i-nı bil-ıptu, tok sim-i
 行く-COND 電流 打つ-ASP-PTCP.NPST-IİK-POSS.3-ACC 知る-CVB 電気 線-POSS.3
 'ătrap-ı-ıa qayta yeqın käl-mä-ptu.
 周り-POSS.3-DAT 再び 近く 来る-NEG-PFEV
 「雀、犬、鳩たちもこのことから、プラスの電線とマイナスの電線に同時に触ってしまうと、電流が流れることを知り、電線の周りに再び近づけなかったそうです」
 ['elipbe: 3-29]

つまり、名詞節においては、主格主語と属格主語のどちらも現れうる。

9.2.2. 形動詞の主語が副詞節に現れる場合

形動詞に位格や奪格などが続くと、副詞的に主節の述語を修飾する働きをする。

- (281) [tumučuq 'it-qa 'arvəmçi-da meŋ-iš-ni 'ögit-*iwatqan*]-da toşqan yügür-üp ke-ptu.
 雀 犬-DAT 綱-LOC 歩く-VN-ACC 教える-PTCP.PROG-LOC 兎 走る-CVB 来る-PF.EV
 「雀が犬に綱の上で歩き方を教えていると、兎が走ってきたそうだ」 [ʻelipbäsi: 3-14]

- (282) [hüsen yiraqla-p ket-*ken*]-din keyin 'oŋlaq 'orun-i-din tur-up
 PSN 遠ざかる-CVB 行く-PTCP.PST-ABL 後 子ヤギ 場所-POSS.3-ABL 立つ-CVB
 qeç-ip ket-iptu.
 逃げる-CVB 行く-PF.EV
 「ヒュセンが遠ざかったあと、子ヤギは立ち上がって逃げていった」 [balilar: 54]

このとき、形動詞の主語は常に主格主語で現れ、属格主語は許容されない。

9.2.3. 形動詞の主語が名詞修飾節に現れる場合

名詞修飾節においては9.2.1節で見た名詞節の場合と同じく、主格主語と属格主語のどちらも現れる。(283)～(285)は属格主語が現れている例、(286)～(289)は主格主語が現れている例である。

- (283) šuŋa [ular-nin 'eriš-*idisan*] närsi-si-mu 'az bol-idu.
 そのため 彼ら-GEN 得る-PTCP.NPST もの-POSS.3-CL 少ない なる-PRS
 「そのため、彼らの得るものは少ないのだ」 [ʻelipbäsi: 1-25]

- (284) [ʻu-nin başqi-lar-ka qoy-*kan*] läqim-i-ni 'aŋli-sa-ŋ teximu
 彼-GEN 他-PL-DAT 置く-PTCP.PST あだ名-POSS.3-ACC 聞く-COND-2SG さらに
 'aččiq-iŋ kel-i-du.
 怒り-POSS.2SG 来る-PRS-3
 「彼が他の者につけたあだ名を聞けば、さらに(君は)怒ることだろう」 [balilar:78]

- (285) dārhal [šir-nin 'uxla-p yat-*qan*] qiyapit-i-ni siz-iš-qa
 すぐ ライオン-GEN 眠る-CVB 横たわる-PTCP.PST 容貌-POSS.3-ACC 描く-VN-DAT
 başla-ptu.
 始める-PF.EV
 「すぐにライオンの眠っている姿を描き始めたそうだ」 [ʻelipbä: 5-5]

- (286) ['u täp-kän] härqandaq top worota-*va* kir-mäy qal-mi-di.
 彼 蹴る-PTCP.PST すべての ボール ゴール-DAT 入る-CVB.NEG 残る-NEG-PST
 「彼が蹴ったすべてのボールでゴールに入らないものはなかった」 [balilar: 5]
- (287) ['igi-miz 'işlä-watqan] pursät-tin paydilin-ip şartla qeç-ip
 主人-POSS.1PL 働く-PTCP.PROG 機会-ABL 利用する-CVB さっと 逃げる-CVB
 ket-imiz.
 行く-1PL
 「主人が働いている機会を利用してさっと逃げてしまおう」 ['elipbä: 8-15]
- (288) tülkä dārhal ['awaz čiq-qan] täräp-kä yügür-üptu.
 狐 すぐに 声 出る-PTCP.PST 方向-DAT 走る-PFEV
 「狐はすぐに声がした方向に走ったそうだ」 [balilar: 27]
- (289) [yawayi haywan-lar toplaş-qan] bu jangla-da saña birär 'iş bol-up
 野生の 動物-PL 集う-PTCP.PST この 森-LOC 君.DAT ある ことなる-CVB
 qal-ar-mikin dä-p bäk 'änsiri-di-m.
 残る-AOR-MOD 言う-CVB とても 心配する-PST-1SG
 「野生の動物が集うこの森でお前に何か起こったのかと心配した」 ['elipbä: 3-17]

9.2.4. 形動詞の主語が主節に現われる場合

現代ウイグル語では主節の主語は常に主格で現われる。

- (290) bala hapila-šapila 'öy-gä kir-di.
 子ども 急いで 家-DAT 入る-PST
 「子どもが急いで家へ入った」

形動詞が主節述語に位置する場合にも、その主語は常に主格で現れ、属格主語は許容されない。

- (291) [dinozawr-lar bu-niñ-din täxminän 230 milyon yıl 'ilgiri yaşı-*ban.*]
 恐竜-PL これ-GEN-ABL およそ 100万 年 前 生きる-PTCP.PST
 「恐竜は今からおよそ 230 万年前に生息していた」 ['elipbäsi: 20-23]
- (292) [bu-ni män saña burun-la de-*gän.*]
 これ-ACC 私 君.DAT 以前-CL 言う-PTCP.PST
 「このことを私は君に以前言った」 [balilar: 94]

- (293) [silär-niñ qandaq xuy päyl-iñlar-niñ bar-liq-i-ni män
 あなたたち-GEN どんな 性格-POSS.2PL-GEN ある-IİK-POSS.3-ACC 私
 'apa-m-din köp 'aŋli-*ban.*]
 母-POSS.1SG-ABL 多く 聞く-PTCP.PST
 「あなたたちがどのような性格であるかを、私は母からよく聞いている」 [balilar: 27]

一貫して主格主語が現れるという点で、9.2.2.節で見た副詞節と共通している。

9.3. 節と主語の格との関係

9.2.1.節～9.2.4.節に見てきたことは表 9-2 のようにまとめられる。

表 9-2 形動詞の伴う主格主語・属格主語の分布

形動詞が生起する節				
主節		従属節		
		副詞節 (主節の述語を修飾する)	名詞節 (主節の述語の項になる)	名詞修飾節 (主節の述語の項の一部になる)
主格主語	○	○	○	○
属格主語	*	*	○	○

主節および副詞節内の主語は常に主格主語であり、属格主語は現れない。これに対して、名詞節および名詞修飾節においては主格主語も属格主語も現れうる。

副詞節と名詞節・名詞修飾節とを比べると、同じ従属節でも主語の格標示の仕方が異なっており、この違いは主節との関わり方の違いにある。副詞節は副詞的に主節の述語を修飾している。一方で名詞節は主節の述語の項である。また、名詞修飾節は主節の述語の項となる名詞を修飾していることから、主節の述語の項の一部となっていると言える。このように、形動詞の主語が現れる節に着目して比べると、その格標示を決める要因として、節の性質がポイントの一つになっていることが分かる。

なお、金水 (2011: 111) では日本語のいわゆるガ／ノ交替の現象について、次のように述べている。

これら[ガノ交替が許されるかどうか]の違いは、すなわち句の名詞性と相関しており、名詞性のはっきりした形式はガノ交替が容易であり、副詞句や述語として文法化し、名詞性を薄めた形式ではガノ交替が難しくなっている。

形動詞が主節や副詞節を形成する場合、名詞としての性質は低いことから、形動詞の主語の格を決める要因は、金水 (2011) の指摘する「名詞性」ということとも、関わりを持っていると言えるかもしれない。

以上、形動詞の主語がどの節に現れるかということに着目して、主格主語と属格主語の出現状況を見た。次節ではさらに、Csató&Uchurpani (2010) で考察されておらず、かつ主格主語と属格主語の両方が混在している名詞節に焦点を当てて格の決定要因を考察していく。

9.4. 主語と述語の隣接性

まず、名詞節に主格主語が現れている例を以下に示す。

(294) 'ular 'išlä-wer-ip [käč kir-*gän*]-ni-mu säz-mäy qa-ptu.
 彼ら 仕事する-ASP-CVB 夕方 入る-PTCP.PST-ACC-CL 感じる-CVB.NEG 残る-PFEV
 「彼らは働いていて、日が暮れたことにも気づかないでいたようだ」 [’elipbäsi: 3]

(295) pil bu-niñ-din [čoqum kälkün kel-*idiwan*]-liq-i-ni bil-ip,
 象 これ-GEN-ABL 必ず 洪水 来る-PTCP.NPST-LIK-POSS.3-ACC 知る-CVB
 čašqan-lar-niñ 'öy-i täräp-kä qara-p yügür-üptu.
 鼠-PL-GEN 家-POSS.3 方向-DAT 見る-CVB 走る-PFEV
 「象はこのことから、洪水が必ず来るということを知って、鼠たちの家の方に向かって走ったようだ」 [balilar: 23]

Csató&Uchurpani (2010) に基づくと、名詞修飾節において形動詞の主語が特定 (specific) であれば、主格主語と属格主語のどちらも許容され、不特定 (non-specific) であれば主格主語のみが許容される。(294)および(295)の形動詞の主語は、それぞれ *käč* 「夕方」や *kälkün* 「洪水」といった不特定の要素である。そのため、名詞節における主語についても、その意味的特徴が格標示に関与しているようにも見えるが、その他に、(294), (295)には形動詞とその主語が隣接しているという共通点があることに気づく。

形動詞とその主語との隣接ということに着目して、名詞節における属格主語の例を見ると、形動詞とその主語が隣接しているもの ((296)) も、隣接していないもの ((297)~(299)) も存在する。

(296) [tumučuq-niñ tos-*qin*]-i-bi-mu qari-may 'arxamči-*ra* čiq-iptu.
 雀-GEN さえぎる-PTCP.PST-DEF-DAT-CL 見る-NEG 綱-DAT 出る-PFEV
 「雀のさえぎるのも気にせず、綱に上ったようだ」 [’elipbäsi: 3-16]

(297) 'u [köl-niñ 'öz-i-ni čöktür-äl-mä-*ydiwan*] čet-i-dä yuy-uptu.
 彼 湖-GEN 自分-POSS.3-ACC 沈める-ABIL-NEG-PTCP.NPST 端-POSS.3-LOC 洗う-PFEV
 「彼は湖が自分を沈めることができない端の方で (体を) 洗った
 (=彼は自分が沈まないような湖の端の方で体を洗った)」 [balilar: 87]

(298) [bōjān-niŋ kawi-ni qandaq 'ākāl-gān]-lik-i-ni 'oyla-p
 兎-GEN 南瓜-ACC どう 持って来る-PTCP.PST-LIK-POSS.3-ACC 考える-CVB
 tap-ala-m-silār?
 見つける-ABIL-Q-2PL
 「兎が南瓜をどうやって持ってきたかを考えつきますか」 [ʔelipbe: 10-6]

(299) tülkä [borsuq-niŋ 'östān-niŋ qir-i-diki bir tal sögät yiltiz-ka
 狐 穴熊-GEN 川-GEN 端-POSS.3にある 1 本 柳 根-DAT
 'esil-ip qal-ban]-liq-i-ni kör-üptu.
 かかる-CVB 残る-PTCP.PST-LIK-POSS.3-ACC 見る-PF.EV
 「狐は穴熊が川端の1本の柳の根にしがみついているのを見たそうだ」 [balilar: 28]

(297)～(299)では、主語と形動詞の間に様々な要素が現れていることが分かる。なお、日本語の埋め込み文においては、「の」で標示された主語と述語との間に現れる要素が名詞的であればあるほど許容されにくいことが Harada (1976) で指摘されているが、現代ウイグル語の場合、属格主語と述語（形動詞）の間に要素が入っても許容されるという点で大きく異なっている。

(294)～(295)と(296)～(299)との対比から、属格主語の方が隣接している場合もしていない場合も出現できることから、その出現できる条件範囲が広いといえることができる。

また、(296)の属格主語が必ずしも特定性を表しているわけではない。たとえば、母語話者によれば次の例文において、(300a)の属格主語を(300b)のように主格主語にすることは可能であるが、tumučuq (「雀」)は形動詞の主語としてではなく、主節の主語として解釈される。

(300) a. [tumučuq-niŋ tos-qin]-i-ki-mu qari-may 'arqamči-ka čiq-iptu.
 雀-GEN さえぎる-PTCP.PST-POSS.3-DAT-CL 見る-CVB.NEG 網-DAT 出る-PF.EV
 「雀の遮るのも気にせず、網に上ったそうだ」(網に上ったのは雀以外の第三者)

b. tumučuq tos-qin-i-ki-mu qari-may 'arqamči-ka čiq-iptu.
 雀 さえぎる-PTCP.PST-POSS.3-DAT-CL 見る-CVB.NEG 網-DAT 出る-PF.EV
 「雀は(他の者が)遮るのも気にせず、網の上に上ったそうだ」(網に上ったのは雀)

名詞節が主節に埋め込まれているものであるという性質から、形動詞の主語が属格で標示されるのは、主節の主語と混同されないように異なった形態標示がなされているとも考えられる。

まとめると、名詞節では主格主語が現れる場合と属格主語が現われる場合の両方が見られるが、属格主語の方が出現できる範囲が広いことと、主節の主語と混同されないために属格で標示されるのが適切であるという動機があることから、名詞節における形動詞の主語は属格で標示される方が無標(unmarked)であると考えられる。名詞節において形動詞の主語が主格で標示されるのは、形動詞とその主語とが隣接している場合に限定される。

これは、言い換えれば、埋め込まれている節の始まりと終わりが理解しやすいために、主格主語の出現が許されるのではないかと思われる。

9.5. まとめ

第9章で示したことを整理する。ここで、問題としたのは形動詞の主語の格（主格もしくは属格）が何によって決定されるかということであった。まず、9.1節で現代ウイグル語に加え、他言語における従属節内の主語の格を決定する要因について見た。大別すると、意味的な要因（有生性、定性、特定性など）と、統語的な要因（従属節内における主語と述語との隣接性、従属節の性質）が主語の格標示に関係していると言える。

現代ウイグル語の属格主語の出現条件を考察している Csató&Uchturpani (2010) では、出現条件が意味的な要因に限定されており、Kornfilt (2009) や Guntsetseg (2012) に見られるような統語的な観点からの分析がなかったことと、分析対象が限定されていた（形動詞が形容詞的に機能する場合についてのみ触れられていた）ことから、9.2節では分析対象を広げ、統語的な要因からの考察を行った。9.3節では、9.2節で見た主格主語と属格主語の分布状況を整理した。一貫して主格主語が現れる節と、主格主語と属格主語とが混在している節があり、その違いが主節主語とどのような関係を持つかという違いにあることを述べた。さらに9.4節で、名詞節において、格の選択が、形動詞とその主語との隣接性、および主節主語との混同の回避という点からなされており、必ずしも意味的特徴に拠るわけではないということを示した。

第 10 章 形動詞と体言締め文

第 10 章では、現代ウイグル語の所有を表す接辞について記述したのち、所有を表す接辞と日本語の体言締め文との関連について指摘する。また、体言締め文は従来その特異性が強調されてきたが、他言語との対照、およびに日本語学における理論的な研究からはどのように位置づけができるのかを論じる。

第 10 章の構成は次の通りである。まず、10.1.節で所有を表す接辞の特徴について示す。10.2.節および 10.3.節では、現代ウイグル語における所有を表す-IIK という接辞の振る舞いについて見る。続く 10.4.節で、この接辞を句接辞として捉えれば、一貫した説明ができることを示したのち、10.5.節で体言締め文との関わりから、現代ウイグル語の形動詞節について考察する。10.6.節を第 10 章のまとめとする。

10.1. 先行研究

通言語的な観点から、ユーラシア北東部の諸言語において、所有を表す接辞が一義的には派生接辞として見なせるが、単なる派生接辞という記述では捉え切れない用法が見られることが、江畑 (2012a) により報告されている。江畑 (2012a) ではこのような接辞を“PROP” (propriative の略) と称している。以下に、現代ウイグル語と同じく SOV 型で膠着的接辞法を持つサハ語とモンゴル語の所有を表す接辞の例を見ていく。

サハ語の-LEEx は所有を表す接尾辞であり、二語以上からなる句を対象に付加されることがある。

(301) sawa ojox

新しい 妻

「新しい妻」

sawa ojox-*toox*

新しい 妻-PROP

「新しい妻を持つ」

(江畑 2012b: 74)

また、この-LEEx は複数接辞の後に続くことができるという特徴を持つ。

(302) egelge kehii-ler-*deex*

様々な 土産-PL-PROP

「様々な土産を持った」

(江畑 2012b: 75)

つまり、屈折接辞の後ろに派生接辞が続くという、通常とは異なる接辞順序を見せることになる。また、サハ語の N-LEEx (N は名詞) は形動詞節による連体修飾を受け、その形動詞節が N-LEEx の内容を述べる節として働くことがあるという。

名詞から名詞を派生

- | | |
|-------------------------|--------------------|
| (307) <i>qassap-liq</i> | <i>beliqçi-liq</i> |
| 屠殺者-IIK | 漁師-IIK |
| 「精肉業」 | 「漁業」 |

形容詞から名詞を派生

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| (308) <i>qızxın-lik</i> | <i>yüksäk-lik</i> |
| 熱心な-IIK | 高い-IIK |
| 「熱心」 | 「高さ」 |

名詞から形容詞を派生

- | | |
|------------------------|------------------|
| (309) <i>qoral-liq</i> | <i>külki-lik</i> |
| 武器-IIK | 笑い-IIK |
| 「武装した」 | 「おかしい、滑稽な」 |

数量名詞句から形容詞を派生

- | | | |
|------------------------------|----------------------|--------------------------------|
| (310) [töt toni]- <i>liq</i> | [on kün]- <i>lük</i> | <i>musapä</i> |
| 4 トン-IIK | 10 日-IIK | 道のり |
| 「4 トンの」 | 「10 日間の道のり」 | (Tömür 1987: 85, 93, 110, 116) |

上に挙げた(307)~(310)の-IIK は、名詞や形容詞の語幹に-IIK が付いた例である。-IIK は動詞を基体とすることもできるが、動詞語幹には直接付かず、(311)で示すように、動名詞化接辞-(I)š など他の接辞を介して付くことになる。つまり、-IIK は基本的に名詞や形容詞などの名詞類 (nominal) に付くということになる。

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| (311) <i>tur-uš-luq</i> | <i>čüşän-iš-lik</i> |
| 住む-VN-IIK | 理解する-VN-IIK |
| 「駐在している」 | 「分かりやすい」 |
- (Tömür 1987:115)

-IIK により派生された語は、日本語の「~の」、「~的」などに相当する。具体例を示せば、(312)のように、地名に付いてその土地の出身であることを表したり、(313)や(314), (315)のように-IIK の付加先の語が指示するものを所有することを表す。また、(316)のように辞書

に記載がなされていない例も確認され、その生産性は高いと言える。

- (312) *siz qäyär-lik?* — *män qäšqär-lik.*
あなた どこ-IK 私 カシュガル-IK
「あなたはどこ出身ですか?」 — 「私はカシュガル²¹出身/カシュガル人です」

- (313) *’äqil-lik dost*
知恵-IK 友だち
「賢い友だち (知恵を持っている友だち)」

- (314) *dañ-lik naxšiçi*
名声-IK 歌手
「有名な歌手 (名声を持つ歌手)」

- (315) *tuğuluq isim-lik bir bala*
PSN 名前-IK 1 子ども
「トゥグルクという名前の子ども (直訳: トゥグルクという名を持つ子ども)」

- (316) *“š”-lik ’išimdaš*
“š”-IK 動名詞
「“š”の動名詞 (“-š”という接辞が付いた動名詞)²²」

また、他の名詞句の前に位置し、形容詞のように機能する。あるいは、複数接辞や格などを伴い、名詞としても機能するものが見られる。

- (317) a. *’at-lik bir yigit*
馬-IK 1 若者
「馬に乗った若者」
b. *’at-lik-lar-niñ bir-i.*
馬-IK-PL-GEN 1-POSS.3
「馬に乗った者たちのうちの一人」

- (318) a. *bir toğraq-lik mähälli-dä*
1 トグラク-IK 地区-LOC
「トグラク²³の生えている地区で」

²¹ 南新疆の都市の名前。

²² *sözlä-š* 「話すこと」 (*sözlä-* 「話す」)、*kör-üş* 「見ること」 (*kör-* 「見る」) のように、動詞語幹に接辞-(I)š が付加されることによって作られる動名詞のこと。

²³ 植物の名前。

b. toʻgʻraq-*liq*-qa kir-ip ket-iptu.
 トグラク-IIK-DAT 入る-CVB 行く-PFEV
 「トグラク (の林の中) へ入って行ったそうだ」

また、副詞として機能する例も見られる。

(319) nahayiti köngül-*lük* 'ötküz-ül-üptu.
 とても 気持ち-IIK 挙行する-PASS-PFEV
 「とても楽しく挙行されたそうだ」

派生接辞は一般的に語幹に近い部分に現れるとされる (Haspelmath&Sims 2010: 95)。したがって、(317b)に見るように、-IIK の後に複数接辞や格接辞などの屈折接辞が続いているものは、接尾辞型である現代ウイグル語において通常見られる承接順序 (派生接辞に屈折接辞が続く) に従っていると言える。なお、-IIK にさらに派生接辞を付加することも可能である。

(320) 'asan-*liq*-čä
 簡単な-IIK-ADVLZ
 「簡単に」

以上に-IIK の基本的な用法を見た。次節では、語の形態的緊密性をめぐって、-IIK が単純に派生接辞とは言えない振る舞いをすることを示す。

10.3. 語の形態的緊密性

接辞-IIK は通常の派生接辞と異なる振る舞いを見せることがある。一つは、他の要素から修飾を受けている語にも、付くことができるという点である。(321), (322)では、-IIK が付いている語である pašina (「踵」)、yaš (「年齢」) は、それぞれ'igiz (「高い」) 'on säkkiz (「18」) といった要素から修飾を受けている。

(321) ['igiz pašina]-*liq* 'ayaq
 高い 踵-IIK 靴
 「高い踵の靴 (ハイヒール)」 (托乎提 2012:146)

(322) ['on säkkiz yaš]-*liq* bir qiz
 10 8 年齢-IIK 1 少女
 「18歳の少女」

なお、托乎提 (2012) や Tömür (1987) では、このような他の要素による修飾を受けている語に付く -IIK について、形容詞的な機能を持つものとして記述しているが、母語話者によ

ると、(323), (324)で示すように名詞的にも機能するという。

(323) [ʔigiz pašina]-*liq*-lar

高い 踵-IIK-PL

「高い踵持ちたち (ハイヒールを履いた人たち)」

(324) [ʔon säkkiz yaş]-*liq*-lar

10 8 年齢-IIK-PL

「18歳の者たち」

上記の例は、-IIK が付加される語を、他の語が意味的に修飾している例であるが、形の上から-IIK の特異性が読み取れるのが(325)である。托乎提 (2012) によると、(325)のような、属格名詞句に-IIK が付いている形式が方言で存在するとされている (具体的にどの方言であるのかは書かれていない)。

(325) yol-da [biz-niŋ mähälli-miz]-*lik* bir-si-ni ʔučrit-ip qal-di-m
道-LOC 私たち-GEN 地区-POSS.1PL-IIK 1-POSS.3-ACC 出会う-CVB 残る-PST-1SG
「道で私たちの地区の一人に出会った」 (托乎提 2012: 147)

(325)の例では属格名詞 (bizniŋ) と所有名詞 (mähällimiz) とが照応 (concord) しており、一つの句をなしていることが、形態的な面からより明確であると思われる。筆者がこの例を用いて母語話者に確認したところ、3名のうち2名 (1名はウルムチ出身、1名はカラマイ出身) から文法的であるとの判断を得た。なお、(325)を文法的であるとした母語話者のうちの1名からは、所有人称接辞が現れていない *bizning mähälli-lik* の方がより自然であるとのコメントを得ている。これは、*biz* という代名詞で以て人称が表されているため、名詞に続く所有接辞である *-imiz* が余剰 (redundant) な要素となることに拠るのかもしれない。

(325)の例で注目すべきは、接辞の承接順序であり、統語的な接辞 (所有人称接辞) のあとに派生接辞である-IIK が続いているという点である。先述したように、派生接辞のあとに屈折接辞が続くのが通常の承接順序であるが、(325)ではそれに違反していることになる。

そして、辞書に登録されていながら、-IIK の基体に含まれる動詞語幹が統語的に項を取っている用例を示す。-IIK により派生されている次の語は、辞書 (菅原 2009: 66, 306, 425) に形容詞として記載されている。

(326) a. tur-uš-*luq* b. qara-š-*liq* c. četi-š-*liq*
住む-VN-IIK 見る-VN-IIK つなぐ-VN-IIK
「駐在している」 「属する」 「関係のある」

これらが形容詞として名詞を修飾している例が(327)~(329)であるが、同時に補語を取ることができる。

(327) qumul-da tur-uš-**luq** härbi
 クムル-LOC 住む-VN-IİK 兵隊
 「クムルに駐在している兵隊」

(328) šamäxsut waŋ-**ka** qara-š-**liq** puqra-lar
 PSN 王-DAT 属する-VN-IİK 民-PL
 「シャームフスット王に帰属する民」

(329) zähär guruppi-lir-i-**ka** čet-iš-**liq** jinayätči-lär
 毒 グループ-PL-POSS.3-DAT つなぐ-VN-IİK 犯人-PL
 「毒物に関係している犯人たち」

上記の例の *uruš-luq* (「駐在している」) や *qaraš-liq* (「属する」), *četiš-liq* (「関係のある」) は、動詞語幹と動名詞化接辞の-(I)š と-IİK から構成されており、辞書に記載されていることから語彙的なものであると言えるが、実際に用例を見てみると、(327)では *qumul* が *tur-* (「住む」) の補語になっている。また、(328)では *waŋ* が *qara-* (「属する」) の補語になっており、(329)で *guruppiliri* が *čet-* (「つなぐ」) の補語になっていることが分かる。つまり、-IİK の付加先である基体に含まれている動詞の語幹が項を取るという統語的な機能を保っているということになる。ここで注目すべき点は、(327)~(329)の *urušluq*, *qarašliq*, *četišliq* は辞書に登録されている語であるにも関わらず、その一部 (*tur-*, *qara-*, *čet-*) が外部からの修飾を受けている、ということである。これはすなわち、いわゆる語の形態的緊密性 (lexical integrity) に違反していることになる。

以上、-IİK が通常の派生接辞とは異なる振る舞いをするを見た。(321),(322)で見た例は外部修飾を受けているという点から、通常の語の規則に違反していると言え、(325)および(327)~(329)では、所有人称接辞や、格を伴った名詞などの形態的に明確な形でそのことが表れていると言える。

なお、このような違反は無秩序に見られるわけではない。そのことを、等位接続詞を含む構造と、サハ語との対比で示す。

次の例で見るように、統語的な要素である等位接続詞は、形態論的単位である語において存在することができない。

(330) a. 山登り
 b. 岩登り
 c. *[山と岩]登り (影山 1993: 10)

(330)において「山登り」ないし「岩登り」が複合語として認定される一方で、統語的な要素 (等位接続詞の「と」) が含まれる(330c)は「[山と岩]登り」全体で一語とは認定されない。

このような等位接続詞を含む統語的単位に、-IİK が付きうるかどうかを見ると、(331)の

ように許容されないことが分かる。

(331) a. *gül-lük wä räñ-lik löngä*
花-IIK と 色-IIK タオル
「花柄で色付きのタオル」

b. **[gül wä räñ]-lik löngä*
花 と 色-IIK タオル
「花柄で色付きのタオル」

(332) a. *gül-lük we 'altun zär-lik dastixan*
花-IIK と 金糸-IIK テーブルクロス
「花柄で金糸付きのテーブルクロス」

b. **[gül we 'altun zär]-lik dastixan*
花 と 金糸-IIK テーブルクロス
「花柄で金糸付きのテーブルクロス」

(333) a. *'ular nahayiti čiray-liq we 'eqil-liq*
彼女ら とても 顔-IIK と 知恵-IIK
「彼女らはとても美しく賢い」

b. **'ular nahayiti [čiray we 'eqil]-liq*
彼女ら とても 顔 と 知恵-IIK
「彼女らはとても美しく賢い」

具体的に(331)を例にとって説明する。-IIKによる派生語に *gül-lük* (「花柄の」)と *räñ-lik* (「色付きの」)という語がある。(331a)のように、これらは等位接続詞 (*wä*) で結ばれた場合、どちらの派生語も名詞 *löngä* (「タオル」) を修飾することができる。それに対して、(331b)のように、派生語の語幹同士が等位接続詞で結ばれた句に-IIK を付けた場合、(331a)と同じ意味を表すことはできない ((331b)は「花と、(そして) 色付きのタオル」という風に、「花」という個体と「色付きのタオル」という個体が、別々に存在するという読みであれば、文法的である)。(332), (333)においても同様に、-IIK が等位接続詞を含むような統語的単位には付加できないことが分かる。

また、サハ語において、生産性が高く、所有の意味を表す接尾辞である-LEE_x という形式が複数接辞を含む語幹に付加しようということを8.1節に見たが、現代ウイグル語ではそのような承接順序を取ることができない。たとえば(335)で、*'at-liq-lar-niñ* の-IIK と複数接辞の-IA_r とを入れ替えることはできない (なお、(335)は「複数頭の馬を所有する者」の意味でも不可である)。

(334) egelge kehii-ler-*deex*

様々な 土産-PL-PROP

「様々なお土産を持った」

(江畑 2012b:75)

(335) *'at-lar-*liq*-niŋ

馬-PL-IIK-GEN

「馬に乗った者たちの」

そのため、-IIK はあらゆる統語論的な単位に付くことができるわけではないということになる。

10.4. 句の包摂

以上に見た例は、形態論的単位である派生接辞が、統語的な単位にも付きうることを示している。このような現象は、影山 (1993) で指摘されており、影山 (1993) や青木 (2002) では、語の内部に句が包み込まれる「句の包摂」と呼ばれる現象を取り上げている。句の包摂の種類には、(336)のように、語彙的な接辞要素が統語的な句にまで拡張する場合と、もともと句ないし節を対象とする接辞である句接辞 (phrasal affix) とがある。句接辞には、(337a)のような接続詞的なものと、(337b)のような名詞的なものがある。

(336) [テレビのスペシャル番組]風

[夏目漱石と正岡子規]展

[広い庭]付き一戸建て住宅

[国語に入った梵語]辞典

(337) a. 接続詞的なもの

[アルバイトをし]ながら大学に通う

[そう思い]つつ

[後ろを振り向き]ざまに

[買い物に行き]ついでに

b. 名詞的なもの

[今にも雨が降り]そう (だ)

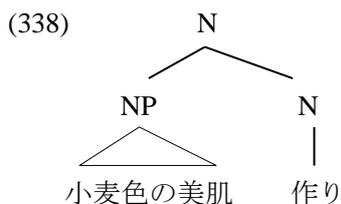
[なにか言いた]げ (だ)

[仕事にかかり]つきり

[爛をし]たての酒

(影山 1993: 326-327, 329)

影山 (1993: 333) は、句の包摂の構成素の組み立て方を、次のように示している。



10.3.節に見た接辞-IIK をめぐる現象は、これらの句の包摂と呼ばれる現象と類似している。なお、このような接辞は-IIK の他にも存在する。たとえば、欠如を表す接辞に-siz という接辞は句を対象にして付くことが可能である。また、比況を表す接辞である-täk/-däk は複数接辞のあとに付くことがある。

(339) a. *čäk-siz*

限界-siz

「無限の」

b. [*sen-iŋ yardim-iŋ*]-siz

君-GEN 助け-POSS.2SG-siz

「君の助けなし(に)」

(托乎堤 2012: 147)

(340) a. *quyaš-täk*

太陽-SIM

「太陽のように」

b. *turuni-lar-däk*

鶴-PL-SIM

「鶴たちのように」

また、チュルク諸語において、現代ウイグル語と同じ南東語派に属するウズベク語では、欠如を表す-siz は複数接辞や所有人称接辞に後続することができるという。

(341) *Ayim-lar mashina-lar-siz hayot-i-ni tasavvur et-a ol-ma-y-di.*
 some-PL car-PL-PRIV life-3SG.POSS-ACC image do-CVB take-NEG-NPST-3SG
 「ある人は車無しの生活を想像することができない」

(342) *Bola-m-siz hayot-im-ni tasavvur qil-a ol-ma-y-man.*
 子ども-1SG.POSS-PRIV life-1SG.POSS-ACC image do-CVB take-NEG-NPST-1SG
 「私は自分の子どもなしの生活を想像することができない」

(日高 2014: 279-280)

どの程度まで句の包摂を許容しうるかは接辞ごとに異なりうるが、そのような現象が現代ウイグル語でも見られるということは、影山（1993: 6）の語彙部門と統語部門の両方に語形成を認める考えを支持する例が、現代ウイグル語にも存在するということになる。

そうすると、10.1節で見たサハ語およびモンゴル語、現代ウイグル語の接辞は、どれも句の包摂を許容するという点では同じだが、どのような句を含みうるかの程度に異なりがある、と考えることができる。加えて、サハ語およびモンゴル語では、所有を表す接辞の付いた語が、直前に形動詞による節を伴い、文末に現れることができるということを見たが、現代ウイグル語において、そのような構文は確認されない。

- (343) *’u yiklamsiri-*van* hal-liq.
彼 涙声になる-PTCP.PST 状態-IJK
「(意図した読み) 彼は涙声になっているようだ」

このことは、単に所有を表す接辞が許容できる句の範囲の違いのみでなく、次節に見る体言締め文という構文的なものに関連付けて考えることができる。

10.5. 体言締め文

江畑（2012b）および梅谷（2012）において直接の言及があるわけではないが、先に見た特に(303), (306) (= (350), (351)) の例は、いわゆる「体言締め文」あるいは「人魚構文」（角田 1996, 角田 2011）と呼ばれる構文と類似していることに気付く。体言締め文とは、具体的に(344)のような構造を持つ。体言締め文の具体例は(345)～(347)である。これらは日本語においてごく一般的に見られる構文であると言える。

- (344) [節] 名詞 だ。 [Clause] Noun Copula.

- (345) [太郎は名古屋に行く] 予定だ。

- (346) [太郎は今本を読んでいる] ところだ。

- (347) [外では雨が降っている] 模様だ。 (角田 2011: 54)

これらの構文的特徴は、前半部分の節が動詞述語であり、後半部分は名詞述語であるという点にある。

角田（2011）の報告によると、このような構文は、アジアとアフリカの言語に見られることが確認されているが、世界的に見て珍しい現象であるとしている（モンゴル語およびサハ語については、角田（2012: 5）に言及があるが、「人魚構文の原型でもなく、またそれに近くもないが、やや人魚構文に似ているもの」とされている）。

また、井上（2010: 59）では、体言締め文を意味の観点から考察している。体言締め文を

「N₁ハ[X N₂]ダ」(Xは名詞修飾成分)のように表すとすると、これには大きく分けて、①「N₂を有する」という意味を表す〈所有型〉と②「N₂にある(位置する)」という意味を表す〈所在型〉の二つがあるという。

(348) 彼は今にも倒れそうな表情だ(そういう表情を有する)。(所有型)

(349) 彼の英語は通訳ができるレベルだ。(そういうレベルにある)。(所在型)
(井上 2010:59)

上に見たサハ語およびモンゴル語の例を再掲すると、構造および意味の面で体言締め文と呼ばれるものに似ていると言える。たとえば、文末の名詞が節による修飾を受けている点や、(所有の意味を表す接辞が顕在する形で)所有の意味を有するという点においてである。

(350) [žollom-mut] žyhyn-*neex*-xin
幸せを感じる-VN.PAST 容姿-PROP-COP.2SG
「君は嬉しそうだ」 (江畑 2012b:73)

(351) [Bid ene muu zurš-yg tasla-n zogsoo-x xereg]-*tej*.
我々.NOM この 悪い 習慣-ACC 切る-CV.ASS 止める-VN.NP 必要-PROP
「我々はこの悪い習慣を断ち切る必要がある」 (梅谷 2012:69)

現代ウイグル語においては、先にも述べた通り、このような所有接辞の用法は確認されない。

(352) *’u yiklamsiri-kan *hal-liq*.
彼 涙声になる-PTCP.PST 状態-IJK
「(意図した読み)彼は涙声になっているようだ」

なお、所有を表す接辞を用いたものでないが、次節で見るように現代ウイグル語においても体言締め文に相当するものが見られる。

10.5.1. 現代ウイグル語における体言締め文

現代ウイグル語において、節が名詞を修飾し、かつその修飾された名詞で文が終わるものには、第8章で取り上げた *gäp* (「話」) と *nemä* (「何」) という語を用いたものが見られる。

(353) A: mawu pura-wat-i-du.
これ におう-ASP-PRS-3
「これは臭いがする」

B: sesiq qal-*van* *gäp!*
 腐った 残る-PTCP.PST 話
 「腐ってしまったというわけだな!」

(354) A: burn-um *'ek-ip* *toxti-ma-y-du.*
 鼻-POSS.1SG 流れる-CVB 止まる-NEG-PRS-3
 「鼻水が流れて、止まらない」

B: zukam teg-*gän* *gäp!*
 風邪 接する-PTCP.PST 話
 「風邪を引いたってわけだ!」

(355) Batur tamaka *çiq-iwat-am-du* *nemä?*
 PSN タバコ 吸う-ASP-Q-3SG 何
 「パートウルがタバコを吸っているのかなあ?」

(356) qiziq bar-mu *nemä?*
 熱 ある-Q 何
 「熱があるの?」

その他に、節を受ける名詞で文が終わるものは、*gäp* および *nemä* 以外には確認されていない。たとえば、次のような作例は、母語話者に許容されない。

(357) *Mälikä bir nārsi-ni *'oyli-*van** *qiyapät* / *qiyapät-tä* / *qiyapät-liq.*
 PSN 1 こと-ACC 考える-PTCP.PST 容貌 容貌-LOC 容貌-IK
 意図した読み：「マリカは何か考えている様子だ」

(358) **'u* yivlamsiri-*van* *hal* / *hal-da* / *hal-liq.*
 彼 涙声になる-PTCP.PST 状態 状態-LOC 状態-IK
 意図した読み：「彼は涙声になっている状態だ」

一方で、(357)や(358)は、次のように、後ろに文が後続する場合は、許容される。

(359) Mälikä bir nārsi-ni *'oyli-*van** *qiyapät-tä* mundaq *de-di.*
 PSN 1 こと-ACC 考える-PTCP.PST 容貌-LOC このように 言う-PST
 「マリカは何か考えている様子で、こう言った」

(360) *'u* yivlamsiri-*van* *hal-da* tala-*va* yügür-*üp* *çiq-ip* *ket-ti.*
 彼 涙声になる-PTCP.PST 状態-LOC 外-DAT 走る-CVB 出る-CVB 行く-PST
 「彼は涙声になっている状態で、外へ走って出て行った」

つまり、節を受ける名詞が、副詞節のように働くのであれば、許容されることになる。

ここで注目したいのは、(359),(360)で見ると、節を名詞が受け、さらにその名詞が従属節になっている場合には、節を名詞で受ける構文が成立するのに対し、(357), (358)のように名詞が述語に置かれた場合には許容されないという点である。

10.5.2. 体言締め文の周辺に位置するもの

10.5.1.節で見た例は、角田 (2011) で示されている体言締め文の構図 ((361)) をもとにした場合の、現代ウイグル語の体言締め文についての考察である。

(361) [節] 名詞 だ。 [Clause] Noun Copula.

この構図に全く一致するものではないが、現代ウイグル語には、文末の動詞が節を受け、構文が頻繁に見られる。

(362) 'ormanliq-imiz-ka yänä 'owči-lar käl-gün 'oxša-y-du!
森-POSS.1PL-DAT 再び 狩人-PL 来る-PTCP.PST 似る-PRS-3
「我々の森に再び狩人が来たようだ!」

(363) dostum, sän 'owči-lar-din qorqu-watqan 'oxši-ma-m-sän?
友 君 狩人-PL-ABL 怖がる-PTCP.PROG 似る-NEG-Q-2SG
「友よ、君は狩人を怖がっているのではないのか?」

(364) 'ular-niñ yurt-i-da qiz-lar=mu piçaq tut-idisan 'oxša-y-du.
彼ら-GEN 故郷-POSS.3 娘-PL=CL 小刀 持つ-PTCP.NPST 似る-PRS-3
「彼らの土地では娘たちも小刀を携えるようだ」

(362)~(364)は、形動詞による節のあとに、動詞である'oxšaが続いた場合、「~のようだ」といった推量の意味を表す。(362),(364)の'oxšaには動詞語幹のみが取ることができる時制接辞が後続している。また、(363)では動詞が取ると否定の接辞-mA が後続しており、これらが形態論的に動詞であることが分かる。

'oxšaの他に、形動詞による節を bol-で受けるものも頻繁に見られる。

(365) 'öçkä kawip-i yä-ydisan bol-du-q.
ヤギ 焼肉-POSS.3 食べる-PTCP.NPST なる-PST-1PL
「ヤギの焼肉を食べることになった」 [elipbäsi: 12-8]

(366) hoyli-ka ziyaxor haywan-lar kir-äl-mä-ydisan bo-ptu.
中庭-DAT 害のある 動物-PL 入る-ABIL-NEG-PTCP.NPST なる-PFEV
「中庭に害のある動物が入ることができないようになった」 [elipbäsi:13-24]

(367) xotun-i 'idiš-qa su quy-uwatqan bol-si=mu, 'är-niñ köñl-i-ni
 妻-POSS.3 甕-DAT 水 注ぐ-ASP-PTCP.PST なる-COND=CL 夫-GEN 心-POSS.3-ACC
 dä-p gilas 'üz-üp ber-iptu.
 思う-CVB サクランボ 摘む-CVB 与える-PFEV
 「妻は甕に水を注いでいたのだが、夫のことを思って、サクランボを摘んであげた」
 [ʼelipbäsi:14-4]

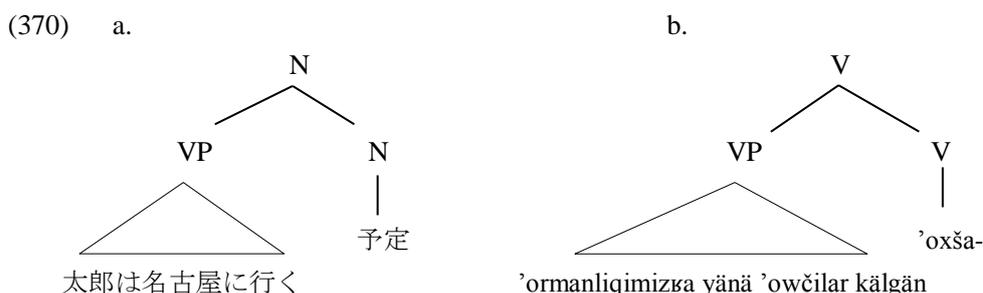
(368) 'u 'altun käš-ni kiy-iš-kä 'aldira-p, tärläp-pišip kät-kän bol-si=mu
 彼 金の 靴-ACC 履く-VN-DAT 急ぐ-CVB 汗まみれで 行く-PTCP.PST なる-COND=CL
 päqät kiy-äl-mi-di.
 しかし 履く-ABIL-NEG-PST
 「彼は金の靴を履こうと急ぎ、汗まみれになったが、しかし履くことができなかった」
 [balilar: 15]

上記の例文中の bol-に、動詞のみが取ることができる条件接辞-sA や過去時制接辞が後続していることから、形態的に動詞であることが分かる。

節を受けているのが、名詞ではなく、動詞という点で、文の半分が動詞述語から、残りの半分が名詞述語から成るという体言締め文とは異なるが、モーダルな意味やアスペクト的な意味を持つという点で、上記の例文は、体言締め文の周辺にあるものと位置づけられる。また、節自体で独立できるという点でも共通する (-Idikan および-(I)watqan による形動詞については、第 8 章で見たように、主節述語に位置するには、他の語との共起など、一定の条件が必要であるが、-GAn による形動詞に関しては、節自体で独立できると言える)。

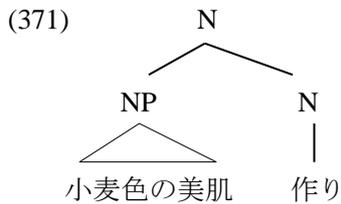
(369) 'ormanliq-imiz-ka yänä 'owči-lar käl-gän.
 森-POSS.1PL-DAT 再び 狩人-PL 来る-PTCP.PST
 「我々の森に再び狩人が来たのだった」

角田 (2011, 2012) は体言締め文の珍しさを指摘しているが、上記の現代ウイグル語の現象を考慮して、構造の分析を行うと、日本語の体言締め文を、より一般言語学的に位置づけることが可能なのではないと思われる。体言締め文と、(362)~(368)で見た現代ウイグル語の文の構造は、次のように捉えることができる。



このように見れば、体言締め文と、現代ウイグル語の(362)～(368)との違いが、節を受け
る（包み込む要素）がNであるのか、Vであるのかの違いであることが分かる。

また、体言締め文は、構文的な問題であり、形態語彙論的な問題とは関連しないように
思われるが、10.4節に見た句の包摂現象であると捉えると、語彙論とのつながりが見えて
くる。



先に挙げた、影山（1993）による句の包摂の構造図の（371）と、（370a）を比べると、構造
的に、名詞が句を包摂しているという点については同じであるといえる。

10.5.3. 理論的な問題との関連

ここで、以上の考察と、理論的な問題との関わりを指摘する。影山（2015）では、日本
語において V+V 複合語（「呼び止める」、「降りかける」など）が生産的であるのに対し、
N+V 複合語（「目覚める」、「指さす」など）が少ないとされている。その理由は、述語領域
と名詞領域に見られる、以下の違いによるされる。

日本語では、述語の領域においては、膠着の度合いが大きいのに対し、名詞の領域にお
いては、膠着度の度合いが小さい。たとえば、次のように副助詞による分断が可能かどう
かを見ると、述語においては、副助詞による分断が難しい、すなわち、膠着性の度合いが
高い。それに比べ、名詞においては、副助詞による分断が容易になされる。

- (372) 食べ始めはりそうやろか
- *a. 食べへ始めはりそうやろか
 - *b. 食べ始めへはりそうやろか
 - *c. 食べ始めはりへそうやろか
 - *d. 食べ始めはりそうへやろか
 - *e. 食べ始めはりそうやろへか

- (373) 父の誕生日に
- a. 父だけの誕生日に
 - b. 父の誕生日だけに
 - c. 父の誕生日にだけ

（影山2015: 4を改編）

影山 (2015) は、このような述語領域と名詞領域における形態的な膠着性の非対称性が、複合動詞の生産性に関連している、としている。

ここで、(370a)のような句の包摂の現象を考慮した場合、どうだろうか。日本語では V+N の複合形式を、生産的に許すということになる。つまり、影山 (2015) における複合語の生産性と、述語および名詞領域における膠着性との関連は、反証されうる。

なお、ここで V+N の複合形式とは、次のような単なる修飾関係は含まない。次のような名詞修飾では、節と名詞との境目が緩く、複合形式としては認定されない。

- (374) a. [山田さんが買った]本
 b. 山田さんが買った、ちょっと高めの本

角田 (2011: 62) でも、体言締め文において名詞の前に他の要素が介入できないことが指摘されている。

- (375) a. [花子は名古屋に行く]予定だ。
 b.*[花子は名古屋に行く]急な予定だ。 (角田 2011: 62)

日本語において、動詞が主要部である N+V 複合語は生産性が低いのに対し、名詞が主要部となる V+N の複合形式が生産的であるのは、通常、文を作る際に、述語にどのような要素が位置しやすいのか、という統語的なことに関わっているのかもしれない。言い換えれば、日本語は主節述語の位置に名詞が位置しやすいのではないだろうか。

さらにこのことを、他言語との対照のもとで考えると、日本語において V+N の複合形式が主節述語に位置しやすいのに対し、現代ウイグル語では V+V の複合形式が主節述語に位置しやすいことから、現代ウイグル語は主節述語に動詞が位置しやすい言語と言えるのではないだろうか。先の(357)~(360)で、現代ウイグル語において、少数の例外を除き、文中では名詞修飾を許すものが、述語に来ると、許容されない例を示した。

- (376) Mälikä bir närsi-ni 'oyli-kan qiyapät-tä mundaq de-di.
 PSN 1 こと-ACC 考える-PTCP.PST 容貌-LOC このように 言う-PST
 「マリカは何か考えている様子で、こう言った」

- (377) *Mälikä bir närsi-ni 'oyli-kan qiyapät / qiyapät-tä / qiyapät-liq.
 PSN 1 こと-ACC 考える-PTCP.PST 容貌 容貌-LOC 容貌 IIIK
 意図した読み：「マリカは何か考えている様子だ」

日本語も現代ウイグル語も、ともに同じ OV 型であり、膠着的形態手法を持つということから、諸所の文法現象において、類似した点が連想されがちであるが、このような複合形式に目を向けると、実際はそうではなく、違いが見られる。

10.6. まとめ

第10章では、まず、他言語からの報告をもとに、現代ウイグル語における所有を表す接辞の用法を示した。先行研究では、派生接辞としては特異な振る舞いをすると記述されているが、句の包摂という現象のもとで捉えれば、一貫した説明が可能であることを指摘した。

句の包摂については、影山（1993）や青木（2002）に考察が見られるが、日本語のみに特有な現象ではなく、各言語に類似したものが確認される。すなわち、一般的なものであると言え、句の包摂をどの程度まで許すかは、言語ごと、接辞ごとに異なるということになる。

加えて、句の包摂を構文的な問題に発展させ、日本語の体言締め文について、現代ウイグル語との対照を試みながら、考察した。体言締め文に関しても、その特異性が指摘されているところが大きいですが、節を受ける要素（名詞か動詞か）の違いと考えれば、日本語・現代ウイグル語の性質を、より明確な形で捉えることが可能になることを、近年の一般化を目指す提案に言及しつつ、論じた。

第 11 章 結論

本論文では、表 1 のうち、Voice (態), Aspect (アスペクト), Polarity (極性) を「派生部分」とし、Ending (語尾) および Person/number (人称/数) を「屈折部分」と称した。

表 1 チュルク諸語の動詞形態
Outline of the Turkic verbal morphology

	Voice	Aspect	Polarity	Ending	Person/number
Stem/Root	(CAUS) (PASS) (REFL) (RECP)	(ITER) (PERF) etc.	(NEG)	FINITE PARTICIPLE CONVERB	1SG/1PL/ 2SG/2PL/ 3

(stem + ending = verbal form)

(Ebata 2014)

態・アスペクト・極性を「派生部分」とした理由は、現代ウイグル語において、語尾が文の断続を示す要となることから、もっとも義務的なものであるのに対し、これらの標示が任意的であると考えためである。

本論文では、「派生部分」については、態に関するテーマを、「屈折部分」については、形動詞に関するテーマを取り上げ、両方向から現代ウイグル語の動詞の形態について記述・考察することを試みた。第 1 章の序論において掲げた目的は、次の 3 点である。

- (1) 通言語的な観点からの言語現象の考察
- (2) 統語論的な観点からの言語現象の考察
- (3) 現代ウイグル語の言語データの提示

ここでは、全体を振り返ったのち、上記の 3 点が各章とどのように結びついているのかを総括する。

第 1 章の序論では本研究の位置づけをし、特に統語論的な研究、および通言語的な観点からの研究の余地があることから、動詞形態に関する現象を広く扱うことを述べた。また、本論文の構成および収録されている資料についての説明を行った。続く第 2 章では、現代ウイグル語の文法を概略した。

第一部は、動詞の態をテーマにしている。第 3 章で、動詞の形態的派生の方向性に関する研究の先駆けである、Haspelmath (1993) および Nichols et al. (2004) らの枠組みを概観し、次の 2 点を問題点として掲げた：1) 現代ウイグル語の全体的な自他動詞の形態的派生の方向性のタイプは、どのような状況であるか。2) 有生動詞・無生動詞の別で見たとき、形態的派生の方向性のタイプに違いが出るか。この 2 点について、第 4 章で検証を行った。

まず、現代ウイグル語における自他動詞の形態的派生の方向性の調査結果は次の通りである。

表 4-1 現代ウイグル語 自他動詞の形態的派生の方向性

total	A	C	E	L	S	A/C	%non-dir.
738	252	403	82	1	0	0.63	11

(p.30)

この結果から、1) については、A/C の値から、他動詞化型が優勢であると結論づけられる。2) については、まず Nichols et al. (2004) のサンプルに基づいた有生動詞・無生動詞の対を調べたが、無生動詞において、Nichols et al. (2004) とは異なる結果が出ることを示した。すなわち、他動詞化型と自動詞化型が拮抗していることを示した。さらに、有生動詞と無生動詞のペア数を増やし、無生動詞における A/C 比率 (0.85) が、有生動詞の A/C 比率 (0.51) よりも低くなることを示した。これらの結果から、現代ウイグル語の無生動詞の形態的派生の方向性は、一貫した他動詞化型ではないということを結論付けた。第 4 章を通じ、現代ウイグル語の位置づけが見えてくる。たとえば、動詞の形態的派生の方向性が、全体的には他動詞化型が優勢である、という点ではトルコ語と同様である。それに対して、動詞のタイプ (有生動詞/無生動詞) により分けてみると、無生動詞の場合に異なりが見られる。トルコ語が動詞のタイプに関わりなく一貫して他動詞化型を保つのに対し、無生動詞の場合に自動詞化型になるのは、現代ウイグル語の他に、ウズベク語やキルギス語などがある。チュルク諸語の中におけるこのようなバリエーションは、地域的な要因と結びついている可能性がある。

第 5 章では、補助動詞を取り上げ、それらが密接に態とも結びついていることを使役構文とともに論じた。先行研究において、補助動詞 *al-* は、「主語が意図的である/非意図的である」こと、ないし「主語が利益を受ける/被害を被る」ことを表すとされる。このような極が成り立つのは、「本動詞+補助動詞 *al-*」の主語が有生物であることによる。加えて、意図性に関して、「主語が意図的である」と解釈される条件、「主語が非意図的」と解釈される条件を探り、現代ウイグル語の場合、(86) のように補助動詞 *al-* の前に来る本動詞が負傷を表す場合、主語が非意図的と解釈されやすいことを論じた。

- (86) a. 'ehtiyatsızlıktin häri-gä čeq-quz-uw-*al*-di-m.
 不注意で 蜂 DAT 刺す-CAUS-CVB-取る-PST-1SG
 「注意していなかったなので蜂に刺された」

(p.42)

日本語における、「～てもらふ」の主語が非意図的であると解釈される条件は、特定の従属節内での生起と、後件に特定の感情表現あるいはモーダル表現が関わる。

- (88) 忘れてもらっては困る。

(p.42)

現代ウイグル語・日本語ともに類似した補助動詞を持つが、構文的な在り方や、意図性に関する条件は異なることをこれらの例文とともに明示した。

第二部では、動詞の屈折部分、すなわち語幹から離れている部分に焦点を移し、動詞の語尾の一つである形動詞を中心に考察を広げた。第6章・第7章は第二部の導入部である。まず、第6章で概観した先行研究では、形動詞の性質を、語類に基づいて把握している。つまり、形動詞を形態論の中で取り扱っていることになる。それに対し、本論では、形動詞が現れる次のような統語的位置に着目し、明確にその多機能性を示した。

表 6-3 形動詞の統語的位置

形動詞が生じうる統語的位置			
主節述語	名詞節述語	名詞修飾節述語	副詞節述語

(p.62)

このことは、第8章～第10章で取り組む問題の提起へとつながる。第7章では、第8章以降で対象にする形動詞化接辞について触れ、統語的位置ごとに分けて、用例を示した。

第8章では、主節述語に用いられる形動詞について、次の2点の予測を立てた。1)形容詞名詞型の言語である現代ウイグル語では、形動詞の主節主語への生起が普通に行われる。2)形動詞形が主節述語に位置する場合と、定動詞形が主節述語に位置する場合との違いは、エヴィデンシャリティの違いに関わる。これらについて、用例数・形態的特徴・意味的特徴から考察した。総計すると約39,400語となる3つの資料のうち、主節述語に位置した形動詞の用例数は、GAnによる形動詞が92例、-Idiŋanによる形動詞が14例、-(I)watqanによる形動詞が1例である。つまり、1)に対しては次のことが言える。実際の用例数からは、「普通に」主節述語に位置するとは言えない。また、形動詞の中には、人称の標示や特定の要素（否定辞や疑問詞）があってはじめて主節述語に現れることができるものがある。言い換えれば、同じ形動詞の間でも、主節述語での出現に関する条件にばらつきがあり、主節述語としての用法が安定しているものと、そうでないものがある。たとえば以下の例文において、-Idiŋanによる形動詞が主節述語に位置しているが、人称接辞を欠いた場合、非文とされる。

(240) a. bu qoŋ 'eriq qäyär-gä tut-iŝ-idiŋan-du ?
 この 双子 川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST-3SG
 「この二つの川はどこで合流しているのか?」

b. *bu qoŋ 'eriq qäyär-gä tut-iŝ-idiŋan?
 この 双子 川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST
 「この二つの川はどこで合流しているのか?」

(p.86)

次に、2) について、-GAn による形動詞、-Idiŋan による形動詞、-(I)watqan による形動詞のそれぞれが主節述語に位置した場合、後者 2 つについては、生起できる文のタイプに制限が見られる。すなわち、疑問文や否定文、感嘆文といった文にのみに生起が限られる。1)および 2)からは、形動詞の主節述語用法において、-GAn による形動詞と、-Idiŋan /

-**(I)watqan** による形動詞のあいだには、形態的にも意味的にも非対称性が見られると結論付けた。

第9章では形動詞が伴う主語の格標示（主格／属格）を決定する要因について論じた。従属節内の主語の格を決定する要因には、大別すると、意味的な要因（有生性、定性、特定性など）と、統語的な要因（従属節内における主語と述語との隣接性、従属節の性質）が主語の格標示に関係している。現代ウイグル語の属格主語の出現条件を考察しているCsató&Uchurpani（2010）では、統語的な観点からの分析がなかったことと、分析対象が限定されていた。そこで、本論文では先行研究での対象となった節以外、すなわち主節主語・名詞節述語・副詞節述語も分析対象とし、統語的な要因からの考察を行った。分布の結果は次の通りになる。

表 9-2 形動詞の伴う主格主語・属格主語の分布

形動詞が生起する節				
		従属節		
		副詞節 (主節の述語を修飾する)	名詞節 (主節の述語の項になる)	名詞修飾節 (主節の述語の項の一部になる)
主節				
主格主語	○	○	○	○
属格主語	*	*	○	○

(p.102)

一貫して主格主語が現れる節と、主格主語と属格主語とが混在している節があり、その違いは、主節主語とどのような関係を持つかということにある。また、主格と属格が混在する名詞節においては、格の選択が、形動詞とその主語との隣接性、およびに主節主語との混同の回避という点からなされており、必ずしも意味的特徴に拠るわけではないということを次の例から示した。

(300) a. [tumučuq-nin tos-qin]-i-ki-mu qari-may 'arqamči-ka čiq-iptu.
 雀-GEN さえぎる-PTCP.PST-POSS.3-DAT-CL 見る-CVB.NEG 網-DAT 出る-PF.EV
 「雀の遮るのも気にせず、網に上ったそうだ」(網に上ったのは雀以外の第三者)

b. tumučuq tos-qin-i-ki-mu qari-may 'arqamči-ka čiq-iptu.
 雀 さえぎる-PTCP.PST-POSS.3-DAT-CL 見る-CVB.NEG 網-DAT 出る-PF.EV
 「雀は(他の者が)遮るのも気にせず、網の上に上ったそうだ」(網に上ったのは雀)

(p.104)

そして、第10章では、他言語からの報告をもとに、現代ウイグル語における所有を表す接辞の用法を示した。先行研究では、派生接辞としては特異な振る舞いをすると言われているが、句の包摂という現象のもとで捉えれば、一貫した説明が可能である。同じチュ

ルク諸語でも、どの程度の句の包摂を許すかに、違いがあるということになる。たとえば、サハ語においては以下のように複数接辞（屈折接辞）に所有を表す接辞が続くことを許容するが（(334)）、現代ウイグル語においては、そのような接辞順序を許さない（(335)）。

(334) *egelge kehii-ler-deex*

様々な 土産-PL-PROP

「様々なお土産を持った」

(江畑 2012b:75)

(335) **'at-lar-liq-niq*

馬-PL-IJK-GEN

「馬に乗った者たちの」

(p.114)

さらに、句の包摂を構文的な問題と関連させ、現代ウイグル語の形動詞による構文との対照のもと、日本語の体言締め文についての一般化を試みた。体言締め文を、節を受ける要素（名詞か動詞か）の違いと考えれば、日本語・現代ウイグル語の性質を、より明確な形で捉えることが可能になることを、近年の理論的な提案に言及しつつ、論じた。

総括すると、**(1)の通言語的な観点からの考察**は、特に**第一部**とのつながりが大きい。言語学において先駆的かつ通言語的観点からの諸研究をもとにしたことで、現代ウイグル語の位置づけを明らかにした。同時に、チュルク諸語内におけるバリエーションを明示することができた。また、特定の言語（日本語）との対照を試みているのが、**第5章**と**第10章**である。膠着的形態手法を持ち、OV型であることや、補助動詞の多用が認められることなどから、両言語の文法現象においては類似点が多いことが予想されるが、その内実は異なる。補助動詞に関しては**第5章**で述べた通りであり、また**第10章**では、日本語においては主節述語に名詞が位置しやすいのに対し、現代ウイグル語では動詞が位置しやすいのではないかという結論を述べた。これらはまだ検証の余地が残されているが、**第10章**を通して見てきた、形態論的な部門と統語的な部門との関わりを考えると、語形成などの語彙形態論的観点からも現代ウイグル語を見る必要がある。

(2)の統語論的な観点からの考察は、主に**第二部の第8章～第10章**に盛り込まれている。特に**第10章**では、「特異」とされてきた諸現象を、一般言語学的に説明することを試みた点で、(1)の目的も果たしているものであると言える。

(3)の現代ウイグル語の言語データの提示については、本論文全体および資料編を通じて行われている。いずれも母語話者と実例から収集されており、質の保障されたデータである。加えて、第一部の動詞対 738 組のリスト（本論文中で認定した有生動詞と無生動詞についても参照できる）と、本論中の例文の一部は資料編に収録されており、相互参照することが可能である。

謝辞

本論文を執筆するにあたり、様々な方のお世話になりました。

まず、本論筆者の指導教官である栗林裕先生にお礼を申し上げます。筆者が学部生の頃よりお世話になっており、より広い視点から、理論的な問題にも取り組むように、常々ご助言くださったこと、心よりお礼を申し上げます。また、在学中に共著論文に取り組みさせていただいたことは、筆者にとって何よりの勉強になりました。

在学中、心が折れそうになったとき、片桐真澄先生の温かい励ましのお言葉は、筆者にとって何よりの心のよりどころとなりました。本当にありがとうございます。

金子真先生には、例文などに関し、筆者自身が気づかなかった点を、詳細にご指導いただき、言語現象を丁寧に見ることの大切さを教えていただきました。

また、有益なご助言をくださった辻星児先生、宮崎和人先生、田中秀和先生にもお礼を申し上げます。

本論文には学会発表や論文投稿した内容も含まれており、その際、多くの方にご質問・ご助言をいただいている。そのことがなければ、本論文は仕上がらなかったように思う。この場をお借りして、心から感謝を申し上げます。

現代ウイグル語の文法性判断や翻訳等に関して、Dilšat Sultan 氏、Näbijan Muhtär Warak 氏、Mädinä Ärkin 氏のほか、様々なウイグル人の方に助けていただいた。どの方も、日本語が堪能で、質問以外の箇所についても、常に熱心にアドバイスくださった。このような方々に恵まれたのは、この上なく幸いであった。お忙しい中、皆様が進んで協力してくださったことに心から感謝します。また、竹内和夫先生、栗林裕先生、菅沼健太郎さんらによるご協力がなければ、このような理解ある母語話者の方とも知り合う機会を得られなかった。この場を借りてお礼を申し上げます。

そして、同じ研究室に所属している先輩や友人たちにも、本当にお世話になりました。どの友人も、実践的に問題に取り組むことに長けていて、自分の母語と照らし合わせて実証的に考えることの大切さを自然と教えられていた。発表前、そして発表本番でも、筆者を支えてくれていたことは忘れられません。筆者にとって、とても頼もしい存在でした。

最後に、長年にわたって勉強をすることを常に支え、応援し続けてくれた父母と二人の兄に、心から感謝する。

なお、本論文中における現代ウイグル語の資料の作成には、平成 23 年度岡山大学文学部プロジェクト研究「コミュニケーションの本質と実践に関する総合的探求」によるリサーチアシスタント経費の援助を受けている。

略号一覧

ABL:奪格	LOC:位格
ABIL:可能	MOD:モダリティ
ACC:対格	NEG:否定
ADVLZ:副詞化	NPST:非過去
AOR:アオリスト	PASS:受動態
ASP:アスペクト	PF:完了
ASS:連合	PL:複数
CAUS:使役態	POSS:所有人称
CL:接語	PRIV:欠如
COMP:比較	PROG:進行
COND:仮定法	PROP:所有
COP:コピュラ	PRS:現在
CVB:副動詞	PSN:人名
DAT:与格	PST:過去
DIM:指小辞	PTCP:形動詞
EV:証拠性	Q:疑問
EXC:間投詞	RECP:共同態
GEN:属格	REFL:再帰態
HAB:習慣	SG:単数
HON:敬称	SIM:比況
IMP:希求法	VN:動名詞
INDF:不定対格	VOL:意志
INS:道具格	1:1人称
INT:感嘆詞	2:2人称
IPFV:不完了	3:3人称

参考文献

- Ablahat, Ibrahim (1995) Meaning and usage of compound verbs in Modern Uighur and Uzbek. Unpublished doctoral dissertation. University of Washington.
- Aikhenvald, Y. Alexandra (2006) Evidentiality in grammar. In: Keith Brown (eds.) *Encyclopedia of Language and Linguistics*. 4: 320-5. Elsevier: Oxford.
- Aksu-Koç A & Slobin, Dan. I. (1986) A psychological account of the development and use of evidentials in Turkish. In: Chafe Wallace & Nichols Johanna (eds.) *Evidentiality: The linguistic coding of epistemology*. 159-167.
- 青木博史 (2002) 「古代語における「句の包摂」について」『国語国文』71: 40-52.
- Asarina, Alya and Hartman Jeremy. (2011a) Genitive subject licensing in Uyghur subordinate clauses. In *Proceedings of the 7th Workshop on Altaic Formal Linguistics*. MITWPL.
- Asarina, Alya (2011b) Case in Uyghur and beyond. Doctoral dissertation. MIT.
- Bridge, Michelle (2008) Auxiliary verbs in Uyghur. Master's thesis. University of Kansas.
- Comrie, Bernard (1976) *Aspect*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Csató, Éva.Á. & Uchturpani, M.A. (2010) On Uyghur relative clause. in *Turkic languages* 14. 69-93. Wiesbaden:Harassowitz.
- 达吾提・乌买尔 (2011) 「维吾尔话乌鲁木齐话流行新词语的特点」『民族語文』5: 78-81.
- Demir, Nurettin and Yılmaz Emine (2006) *Türk dili haritası üzerinde keşifler*. Ankara:Yayıncılık. [Johanson, Lars (2001) *Discoveries on the Turkic linguistic map*. Stockholm: Swedish Research Institute in İstanbul.]
- 江畑冬生 (2012a) 「ユーラシア北東部諸言語の所有を表す接辞の意味論と構文論：導入と総括」『北方言語研究』2: 1-10. 北海道大学大学院文学研究科.
- 江畑冬生 (2012b) 「サハ語の所有を表す接尾辞-LEEx」『北方言語研究』2: 73-90. 北海道大学大学院文学研究科.
- 江畑冬生 (2013) 「サハ語の動詞屈折形式とその統語機能」『北方言語研究』3: 11-23. 北海道大学大学院文学研究科.
- Ebata, Fuyuki (2014) Polyfunctionality of verbal endings in Turkic. NINJAL Typology Festa.
- Erdal, Marcel (2004) *A grammar of Old Turkic*. Brill.
- Grashchenkov, Pavel. (2011) Development of TAM categories in Turkic: feeling free in a deterministic system. *Selected papers from SinFonJA*, 3, 58-75.
- Guntsetseg, Dolgor (2012) Differential case marking in Mongolian. Unpublished doctoral dissertation, Stuttgart University.
- ギュロル・アブドゥラハマン (2010) 「チュルク諸語における関係節構造（トルコ語とウイグル語を中心に）」博士論文. 岡山大学.
- Hahn, Reinhard F (1991) *Spoken Uyghur*. Seattle: University of Washington Press.
- Hahn, Reinhard F (1998) Uyghur. In: Johanson, Lars.& Csató, Éva, Á. (eds.) *The Turkic languages*.379-396. New York: Routledge.
- Harada, S.I. (1976) Ga-No conversion revisited. *Gengokenkyu* 70: 23-38.

- Haspelmath, Martin (1993) More on the typology of inchoative/causative verb alternations. In: Haspelmath, Martin and Sims, Andrea (2010) *Understanding morphology*. Routledge:New York.
- 林徹 (1996) 『現代ウイグル語ウルムチ方言語彙集』 東京：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- Hayasi, Tooru. (2010) Nativization in the phonology of Chinese loanwords into Modern Uyghur. In: *Essays on Turkish Linguistics: Proceedings of the 14th International Conference on Turkish Linguistics*.79: 393-402. Wiesbaden: Harrassowitz.
- 林徹 (2011) 「アジアにおけるラテン文字化—アラビア文字からラテン文字へ—」 町田和彦 (編) 『世界の文字を楽しむ小事典』 134-140. 東京：大修館書店.
- 林徹 (2013) 『トルコ語文法ハンドブック』 東京：白水社.
- 日高晋介 (2014) 「ウズベク語における欠如を表す形容詞派生接辞-siz について」 『日本語学会第 146 回大会予稿集』 278-283.
- Hopper, P. J & Thompson, S. A. (1980) Transitivity in grammar and discourse. In: *Language* 56: 251-299.
- 池上嘉彦 (1981) 『「する」と「なる」の言語学：言語と文化のタイポロジーへの試論』 東京：大修館書店.
- 井上優 (2010) 「体言締め文と「いい天気だ」構文」 *日本語学* 29: 58-67. 東京：明治書院.
- Johanson, Lars (2000) Turkic indirectives. In: Johanson, Lars and Uta Bo (eds.) *Evidentials. Turkic, Iranian and neighbouring languages*. 61-87. Berlin and New York: Mouton de Gruyter.
- Johanson, Lars. (2003) Evidentiality in Turkic. Aikhenvald, A Y. and Dixon R M W. (eds.) *Studies in Evidentiality*. 273-290. Amsterdam: John Benjamins.
- Johanson, Lars and Csató Éva Á (1998) *The Turkic languages*. New York: Routledge.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』 東京：ひつじ書房.
- 影山太郎 (2015) 「2 種類の複合動詞と Finiteness」 国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本語レキシコンの文法的・意味的・形態的特性」 研究発表会 (於東京大学) ハンドアウト.
- 亀井孝・河野六郎・千野栄一 (編) (1996) 『言語学大辞典』 三省堂
- 風間伸次郎 (2012) 「アルタイ型言語における準動詞と言いさしについて」 『北方言語研究』 2:139-162. 北海道大学大学院文学研究科.
- Keenan, Edward & Comrie, Bernard (1977) Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry* 8: 63-99.
- 金水敏 (2011) 「第 3 章 統語論」 金水敏・高山善行・衣畑智秀・岡崎友子 『シリーズ日本語 詞 3 文法史』 東京：岩波書店.
- 小嶋正男 (2010) 『ウイグル語—日本語辞典』 ウルムチ: 新疆人民出版社.
- Kornfilt, Jaklin. (2009) DOM and two types of DSM in Turkish. In: de Hoop, Helen and de Swart Peter(eds.) *Differential Subject Marking*. 79-111. Netherland: Springer.
- 栗林裕 (2012) 「チュルク諸語動詞の形態的派生の方向性について」 吉村大樹 (編) 『チュルク諸語研究のスコープ』 5-20. 広島：溪水社.
- ミリカダム・スレイヤー (2004) 『現代ウイグル語のヴォイス』 未公刊修士論文 岡山大学
- Nadzhip, E. N. (1971) *Modern Uigur*. Moscow: Nauka publishing house.

- ナロック・ハイコ (2007) 「日本語自他動詞対の類型論的位置づけ」『レキシコンフォーラム』3: 161-193. 東京: ひつじ書房.
- Nichols, J., David, A., & J. Barnes (2004) Transitivity and detransitivizing languages. In: *Linguistic Typology* 8-2, 149-211.
- 西岡いずみ (2005) 「現代ウイグル語移動動詞の対照言語学的研究—英語・日本語東京方言・日本語福岡方言・シベ満洲語との対照を通して—」『九州大学言語学論集』25.
- 新田志穂・栗林裕 (2015) 「現代ウイグル語の他動性について 形態的派生の方向性と意図性の観点から」『有対動詞の通言語的研究』2015年12月出版予定. 東京: くろしお出版.
- 大崎紀子 (2012) 「キルギス語の自動詞・他動詞と使役・受動・再帰動詞」国立国語研究所「他動性プロジェクト」第1回研究会(於京都大学文学研究科)ハンドアウト.
- Pardeshi, Prashant (2005) Benefaction and Malefaction: Two-in-One—A subtle interplay of “Volitionality” & “Transitivity” in Indic Languages. Paper presented at the 9th International Cognitive Linguistics Conference, Yonsei University, Seoul, Korea, 17-22 July, 2005.
- パルデシ・プラシャント (2007) 『他動性』の解剖 角田三枝・佐々木冠・塩谷亨(編)『他動性の通言語的研究』179-190. 東京: くろしお出版.
- 定延利之・アンドレイ・マルチュコフ (2006) 「エビデンシャリティと現代日本語の「ている」構文」中川正之・定延利之(編)『言語に現れる「世間」と「世界」』東京: くろしお出版.
- Shibatani Masayoshi and Pardeshi, Prashant. (2002) The causative continuum. *Typological studies in language*. 48: 85-126.
- 柴田武 (1954) 「トルコ語の人称」『言語研究』26-27: 173-178.
- 柴谷方良 (2000) 「ヴォイス」仁田義雄他『日本語の文法1 文の骨格』119-186. 東京: 岩波書店.
- Shinzato, Rumiko (1991) Where do temporality, evidentiality and epistemicity meet? A Comparison of Old Japanese *-ki* and *-keri* with Turkish *-di* and *-miş*. *Gengo kenkyu* 99: 25-57.
- 菅原純 (2009) 『現代ウイグル語小辞典』東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 菅原純・Aysima Mirsultan (2007) 『Éling! Éling!』(2007年度言語研修「現代ウイグル語」テキスト) 東京: 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 庄垣内正弘 (1992) 「新ウイグル語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)『言語学大辞典 第2巻 世界言語編』282-284. 東京: 三省堂.
- 庄垣内正弘 (2002) 「中央ユーラシアの言語接触—チュルク語の場合—」『えくす・おりえんて』1-50. 大阪外国語大学言語社会学会.
- 鷺見秀芳 (1980) 『中央アジア・トルコ語—カシュガール方言の研究—』東京: 龍文書局.
- 戴慶厦編 (2009) 『中国少数民族語言研究』北京: 中央民族大学出版社.
- 竹内和夫 (1988) 「第3人称について」『言語研究』94: 25-49.
- 竹内和夫 (1991) 『現代ウイグル語四週間』東京: 大学書林.
- 寺村秀夫 (1992) 『寺村秀夫論文集 I: 日本語文法編』東京: くろしお出版.
- 托乎提・力提甫 (2012) 『現代維吾爾語 参考語法』北京: 中国社会科学出版社.

- 托乎提・力提甫（2013）「現代維吾爾語的傳據範疇」亞庫甫・阿不都熱西提、托乎提・力提甫、張定京（編）『阿爾泰語系語言傳據範疇研究』53-72. 北京：中國社會科學出版社.
- 時枝誠記（1950）『日本文法』東京：岩波書店.
- Tömür, Hamit（1987）*Hazırqi zaman Uyghur tili grammatikisi (morfolojiye)*. Beijing: Minzu Publishing House.
- Tsunoda, Tasaku（1985）Remarks on transitivity. In: *Journal of Linguistics*21, 385-396.
- 角田太作（1996）「体言締め文」鈴木泰・角田太作（編）『日本語文法の諸問題：高橋太郎先生古希記念論文集』139-161. 東京：ひつじ書房.
- 角田太作（2011）「人魚構文：日本語学から一般言語学への貢献」『国立国語研究所論集』(1), 53-75.
- 角田太作（2012）「人魚構文と名詞の文法化」『国語研プロジェクトレビュー』(7), 3-11.
- 梅野由香里（2011）「完了相を標示するテイタと証拠性表現との関連性」『日本言語学会第143回大会予稿集』202-207.
- 梅谷博之（2012）「モンゴル語の所有を表す接辞」『北方言語研究』2: 47-72. 北海道大学大学院文学研究科.
- Whaley, Lindsay J.（1997）*Introduction to typology : The unity and diversity of language*. Thousand Oaks, CA: Sage Publications. 大堀壽夫・古賀裕章・山泉実（訳）（2006）『言語類型論入門』東京：岩波書店.
- Yakup, Abdurishid.（2005）*The Turfan Dialect of Uyghur*. Wiesbaden: Harrassowitz.
- 亞庫甫・阿不都熱西提（2011）「突厥語傳據的基本類型及標記的主要功能」『民族語文』5: 3-14. 北京：中國社會科學出版社.
- 山越康裕（2013）「ブリヤート語の「分詞」の機能について：屈折的形容詞と位置づけられるか」『北方言語研究』3: 25-40. 北海道大学大学院文学研究科.
- 山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ―「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法』東京：明治書院.
- 趙相如・朱志寧（1985）『維吾爾語簡志』北京：民族出版社.

引用資料

- Osmaniye, Muhemmet, G. (2006) *'Uykur hazirqi zaman 'awazliq 'elipbäsi*. Xoten: Lyawning radi'o-telewiziye ün-sin neshriyati. [elipbäsi]
- Öktür, Abdurehim. (1985) *'Iz*. Urumchi : Shinjang xelq neshriyati. [iz]
- Sabiri, Ahmetjan, Q. (2005) *'Uyghur balilar čüčäkliri*. Urumchi: Shinjang uniwersiteti neshriyati. [balilar]

資料編

資料 1—自他動詞対のリスト—

【注記】

non-causative : 自動詞

causative : 他動詞

Type : 派生の方向性のタイプを示す

A : 逆使役交替

C : 使役交替

L : 同一形交替

E : 両極交替

Animacy : 動詞の有生性を示す (空欄のものは判断を保留にしたもの)

* : 有生動詞と認められるもの

** : 無生動詞と認められるもの

*** : 有生動詞かつ無生動詞と認められるもの

	non-causative		causative		Type	Animacy
1	'abroysizla-n-	名誉を失う	'abroysizla-	名誉を傷つける	A	*
2	'eč-il-	開く	'ač-	開ける	A	**
3	'addilaš-	シンプルにする	'addilaš-tur-	簡素化させる	C	**
4	'av-	傾く	'av-dur-	ひっくり返す	C	**
5	'avdur-ul	ひっくり返される	'avdur-	ひっくり返す	A	**
6	'ajizla-	弱くなる	'ajizla-t-	弱くする	C	
7	'ajizla-š-	弱くなる	'ajizla-t-	弱くする	E	
8	'ajizlaš-	弱くなる	'ajizlaš-tur-	弱くする	C	
9	'ajra-	裂ける	'ajra-t-	裂く	C	**
10	'ajra-l-	裂ける	'ajra-t-	裂く	E	**
11	'ajra-š-	裂ける	'ajra-t-	裂く	E	**
12	'aktiplaš-	積極的になる	'aktiplaš-tur-	活性化する	C	
13	'el-in-	取られる	'al-	取る	A	***
14	'el-in-	取られる	'al-dur-	取らせる	E	**
15	'alda-n-	騙される	'alda-	騙す	A	*
16	'aldira-	あわてる、いそぐ	'aldira-t-	促す、急がせる	C	*

17	'alji-	もうろくする	'alji-t-	もうろくさせる	C	*
18	'almaš-	かわる、交替する	'almaš-tur-	かえる、交換する	C	
19	'aŋla-n-	聞こえる	'aŋla-	聞く	A	**
20	'aŋla-n-	聞こえる	'aŋla-t-	伝える、放送する	E	
21	'aq-	流れる	'eq-it-	流す	C	**
22	'aq-	流れる、したたる	'aq-quz-	浮かべる、濯ぐ	C	**
23	'aqar-	白くなる	'aqar-t-	白くする	C	**
24	'aqla-n-	身を清める	'aqla-	きれいにする	A	
25	'arazla-š-	いさかいを起こす	'arazla-	いさかいを起こす	A	*
26	'arazlaš-	いさかいを起こす	'arazlaš-tur-	仲をさく	C	*
27	'arilaš-	混ざる	'arilaš-tur-	混ぜる	C	***
28	'art-il-	のせられる	'art-	のせる	A	**
29	'artil-	のせられる	'artil-dur-	のしかからせる	C	
30	'es-il-	吊るされる	'as-	吊る	A	**
31	'asanlaš-	簡単になる	'asanlaš-tur-	簡単にする	C	**
32	'aš-	増える	'aš-ur-	増やす	C	**
33	'aškarila-n-	明らかに なる	aškarila-	明らかにする	A	**
34	'et-il-	投げられる	'at-	投げる	A	**
35	'et-iš-	投げ合う	'at-	投げる	A	
36	'ata-l-	呼ばれる、 名付けられる	'ata-	呼ぶ、名付ける	A	*
37	'ata-n-	有名になる、 名をはせる	'ata-	呼ぶ、名付ける	A	
38	'atlan-	馬にのる	'atlan-dur-	馬にのせる	C	
39	'awu-	増える	'awu-t-	増やす	C	**

40	'aya-n-	惜しむ	'aya-	大事にする	A	
41	'ayaqlaş-	終わる、済む	'ayaqlaş-tur-	終わる、済ます	C	**
42	'aydıñlaş-	明らかになる	'aydıñlaş-tur-	明らかにする	C	**
43	'aylan-	回る、変わる	'aylan-dur-	回す、変える	C	***
44	'ayni-	悪化する	'ayni-t-	悪化させる	C	
45	'ayri-l-	分かれる	'ayri-	分ける	A	*
46	'azapla-n-	苦しむ	'azapla-	苦しめる	A	*
47	'azay-	減る	'azay-t-	減らす	C	**
48	'azla-	減る	'azla-t-	減らす	C	**
49	baqla-n-	つながれる、縛られる	baqla-	つなぐ、縛る	A	**
50	bagla-š-	つながりあう	baqla-	つなぐ、縛る	A	
51	bahala-š-	値切る	bahala-	値をつける	A	
52	beq-iš-	頼りあう、面倒を見合う	baq-	見る、見守る	A	*
53	beq-in-	従う、服従する	baq-	見る、見守る	A	*
54	beqin-	従う、服従する	beqin-dur-	征服する	C	*
55	besiq-	しずまる、おさまる	besiq-tur-	しずめる、おさめる	C	**
56	bes-il-	おされる	bas-	おさえる	A	**
57	bes-il-	おされる	bas-ur-	おさえる	E	
58	bes-il-	おされる	bas-tur-	おさえる	E	**
59	ber-il-	与えられる	bär-	与える	A	**
60	beñišla-n-	捧げられる	beñišla-	捧げる	A	**
61	beyi-	豊かになる	beyi-t-	豊かにする	C	
62	bezä-l-	飾られる	bezä-	飾る、きれいにする	A	**
63	bil-in-	知る、分かる	bil-	知る、分かる、明らかになる	A	

64	bil-in-	知る、分かる	bil-dür-	知らせる	E	
65	bil-iş-	知り合う	bil-dür-	知らせる	E	
66	bilin-	知る、分かる	bilin-dür-	知らせる、表す	C	
67	boκ-ul-	窒息する	boκ-	窒息させる	A	*
68	boκ-un-	窒息する	boκ-	窒息させる	A	*
69	bol-	発酵する	bol-dur-	発酵させる	C	**
70	boša-	空になる	boša-t-	空にする	C	
71	boya-l-	染まる	boya-	染める	A	**
72	boysun-	従う	boysun-dur-	従わせる	C	*
73	buz-ul-	壊れる	buz-	壊す	A	**
74	čeč-il-	散らばる	čač-	まき散らす	A	**
75	čačra-	飛び散る	čačra-t-	飛び散らせる	C	**
76	čakilda-	口がばく ばく動く	čakilda-t-	ばくばくさせる	C	
77	čakinilaš-	つまらなくな くなる	čakinilaš-tur-	つまらなくする	C	
78	čalki-	それる、外 れる	čalki-t-	回避させる、そらせる	C	**
79	čan-	馬脚を現 す	čan-dur-	馬脚を現す	C	
80	čaŋlaš-	授粉する	čaŋlaš-tur-	授粉させる	C	
81	čep-il-	切られる、 駆られる	čap-	切る、彫る	A	
82	čapla-š-	くっつく	čapla-	貼る、貼り付ける	A	
83	čapsanla-	速くする、 加速する	čapsanla-t-	速くする、速める	C	**
84	čeq-il-	叩かれる、 打ち砕か れる	čaq-	つぶす、割る、叩く	A	**
85	čaqna-	きらきら 光る	čaqna-t-	きらきら光らせる	C	**
86	čataqlaš-	やっかい になる	čataqlaš-tur-	こじらせる	C	**
87	čayqa-l-	ゆすがれ る	čayqa-	ゆすぐ	A	
88	čayqa-n-	水を注ぐ、 浴びせる	čayqa-	ゆすぐ、すすぐ	A	

89	čäkčäy-	凝視する	čäkčäy-t-	目をみはらせる	C	
90	čäklä-n-	制限される	čäklä-	制限する	A	**
91	čekin-	退く、退却する	čekin-dür-	退かせる、撃退する	C	*
92	čet-iš-	関わる、関係する	čät-	つなぐ、つなげる	A	
93	četiš-	関わる、関係する	četiš-tur-	関係させる、つなぐ	C	
94	čila-n-	つかる	čila-	つける	A	**
95	čimilda-	まばたきする	čimilda-t-	まばたきさせる	C	
96	čij-i-	締められる	čij-i-t-	締める、しばる	C	**
97	čiq-	出る、現われる	čiq-ar-	出す	C	***
98	čišlä-š-	噛み合う	čišlä-	かむ、くわえる	A	
99	čišläš-	噛み合う	čišläš-tür	噛み合わせる	C	
100	čoŋay-	大きくなる	čoŋay-t-	大きくする	C	**
101	čoŋqurla-	深まる	čoŋqurla-t-	深める	C	
102	čoŋqurla-š-	深まる	čoŋqurla-t-	深める	E	
103	čoŋqurlaš-	深まる	čoŋqurlaš-tur-	深める	C	
104	čöcü-	びっくりする	čöcü-t-	脅す、驚かす	C	*
105	čögilä-	回る、回転する	čögilä-t-	回す、回転させる	C	***
106	čök-	沈む、もぐる	čök-ür	沈める、ひたす	C	***
107	čömül-	入浴する	čömül-dür-	入浴させる	C	*
108	čuwu-l-	散らばる、乱れる	čuwu-	ばらばらにする	A	**
109	čümkä-n-	くるまる	čümkä-	かぶる、おおう	A	
110	čüš-	落ちる、降りる	čüš-ür-	落とす、降ろす	C	**
111	darday-	のびる、大の字になる	darday-t-	のばす、ひきのばす	C	
112	datla-	苦情を言	datla-t-	苦情を言わせる	C	

		う				
113	dawala-n-	治る	dawala-	治す	A	*
114	dawamlaš-	続ける、連続する	dawamlaš-tur-	続ける	C	
115	dingay-	立つ	dingay-t-	立てる	C	**
116	dombay-	膨らむ	dombay-t-	膨らませる	C	**
117	dostlaš-	友だちになる	dostlaš-tur-	友だちにする	C	*
118	dumbala-n-	殴られる	dumbala-	殴る	A	
119	dügülä-	ころがる	dügülä-t-	ころがす	C	
120	'abgalaš-	貧しくなる	'abgalaš-tur-	貧しくさせる	C	
121	'eg-il-	曲がる、湾曲する	'äg-	曲げる、傾ける	A	**
122	'ägäš-	従う、付き従う	'ägäš-tür-	率いる、先導する	C	*
123	'ägi-	まわる、回り道をする	'ägi-t-	回らせる、回り道をさせる	C	
124	'äjäplän-	不思議に思う	'äjäplän-dür-	不思議に思わせる	C	*
125	'äkçi-	乾く	'äkçi-t-	乾かす	C	**
126	'ämiliyläš-	実現する、現実になる	'ämiliyläš-tür-	実現させる、実行する	C	
127	'äplä-š-	合う、適合する	'äplä-	寄せ集める、間に合わせる	A	
128	'ärkilä-	甘える	'ärkilä-t-	甘やかす	C	*
129	'ärzanla-	安くなる	'ärzanla-t-	安くする	C	**
130	'ärzanla-š-	安くなる	'ärzanla-t-	安くする	E	**
131	'äskär-	回想する	'äskär-t-	思い起こさせる、喚起する	C	
132	'eš-il-	よられる、よじられる	'äš-	なう、よる、よじる	A	**
133	'et-il-	ふさがる	'ät-	閉める、閉じる	A	**
134	'äyiplä-n-	咎められる、叱られる	'äyiplä-	咎める、責める	A	*

135	'äylä-n-	なめされる	'äylä-	なめす	A	**
136	'ez-il-	つぶれる	'üz-	すりつぶす	A	**
137	'eči-	発酵する	'eči-t-	発酵させる	C	**
138	'ešina-	運動する、 体を動かす	'ešina-t-	運動させる	C	*
139	'eri-	溶ける、溶 解する	'eri-t-	溶かす	C	**
140	'erixda-l-	そうじさ れる、かた づけられ る	'erixda-	そうじする、きれいに する	A	**
141	'eziq-	過ちを犯 す	'eziq-tur-	惑わす、誘惑する	C	*
142	gazlaş-	ガス化す る	gazlaş-tur	ガス化させる	C	**
143	gäwdilän-	突出する	gäwdilän-dür-	突出させる	C	
144	güñgürtläş-	硫化する	güñgürtläş-tür-	硫化させる	C	**
145	kačilda-	キーキー 言う	kačilda-t-	キーキー言わせる	C	**
146	kaja-l-	かまれる	kaja-	かむ、かじる	A	
147	kaja-l-	かまれる	kaja-t-	かませる	E	
148	kaqilda-	キーキー 音が出る	kaqilda-t-	キーキー音を立てる	C	
149	käyrätlän-	奮い立つ、 意欲が溢 れる	käyrätlän-dür-	奮い立たせる、元気付 ける	C	*
150	käzäplän-	怒る、激怒 する	käzäplän-dür-	怒らせる、激怒させる	C	*
151	kičilda-	ギシギシ 音が出る	kičilda-t-	ギシギシ音を出す	C	**
152	kiđiqla-š-	くすぐり 合う	kiđiqla-	くすぐる	A	
153	kiñši-	キャンキ ャンほえ る	kiñši-t-	悲しく吠えさせる	C	*
154	kiñši-š-	悲しく吠 えあう	kiñši-t-	悲しく吠えさせる	E	*

155	ƚolda-	増える	ƚolda-t-	増やす	C	
156	ƚučurla-	歯ぎしり する	ƚučurla-t-	歯を食いしばる	C	
157	ƚula-	崩れる、つ ぶれる、倒 れる	ƚula-t-	倒す、押し倒す	C	*
158	ƚuqira-	ビューと 音が出る	ƚuqira-t-	ビューと音を立てる	C	
159	ƚurtulda-	ゴクリと 音が出る	ƚurtulda-t-	ゴクリと音を出す	C	
160	ƚuwalaš-	暗くなる、 ぼやける	ƚuwalaš-tur-	暗くなる、ぼやけさせ る	C	
161	ƚuyulda-	ビューと 音がする	ƚuyulda-t-	ビューと音を立てる	C	**
162	hakla-n-	漆喰が塗 られる	hakla-	漆喰を塗る	A	**
163	halsira-	疲れはて る	halsira-t-	疲れはてさせる	C	*
164	halsizlan-	疲れはて る	halsizlan-dur-	疲れはてさせる	C	*
165	haŋra-	ロバが鳴 く、叫ぶ	haŋra-t-	ロバを鳴かせる	C	*
166	haqarätlä-n-	侮辱され る	haqarätlä-	侮辱する	A	*
167	har-	疲れる	har-dur-	疲れさせる	C	*
168	har-	疲れる	har-ƚuz-	疲れさせる	C	*
169	hasira-	息切れす る	hasira-t-	息切れさせる	C	*
170	hayajanlan-	興奮する、 感動する	hayajanlan-dur-	興奮させる、感動させ る	C	*
171	hazirla-n-	準備がで きる、用意 が整う	hazirla-	準備する、用意する	A	
172	hazirla-n-	準備がで きる、用意 が整う	hazirla-t-	準備させる	E	
173	härbiläš-	武装する	härbiläš-tür-	武装させる	C	
174	härilä-n-	のこぎり でひかれ	härilä-	のこぎり でひく	A	**

		る				
175	härilä-n-	のこぎりでひかれる	härilä-t-	のこぎりでひかせる	E	
176	häydä-l-	追われる	häydä-	追う、追求する	A	*
177	häydä-l-	追われる	häydä-t-	追わせる	E	*
178	himlä-n-	しっかり閉められる、密封される	himlä-	しっかり閉める、密封する	A	**
179	himlä-š-	固くしまる	himlä-	しっかり閉める、密封する	A	**
180	himlä-š-	固くしまる	himläš-tür	固く閉める	C	**
181	hisapla-	計算する	hisapla-t-	計算させる	C	
182	hoduq-	そわそわする	hoduq-tur-	そわそわさせる	C	*
183	hoduqu-š-	一斉にそわそわする	hoduq-tur-	そわそわさせる	E	*
184	holuq-	そわそわする	holuq-tur-	そわそわさせる	C	*
185	holuqu-š-	一斉にそわそわする	holuq-tur-	そわそわさせる	E	*
186	horda-l-	息がはきかけられる	horda-	息をはきかける	A	**
187	hozurlan-	くつろぐ	hozurlan-dur-	くつろがせる	C	*
188	hökirä-	叫ぶ	hökirä-t-	叫ばせる	C	
189	hökirä-š-	叫び合う	hökirä-t-	叫ばせる	E	
190	höllä-n-	湿らされる	höllä-	湿らす	A	**
191	hušsizlan-	気を失う、気絶する	hušsizlan-dur-	気絶させる	C	*
192	hürpäy-	(髪が) 逆立つ	hürpäy-t-	(髪を) 逆立てる	C	
193	hürpäy-iš-	一斉に逆立つ	hürpäy-t-	(髪を) 逆立てる	E	

194	'igizlā-	高くなる、 上昇する	'igizlā-t-	高くする、上げる	C	**
195	'il-in-	ひっかかる	'il-	ひっかける	A	**
196	'il-iš-	ひっかかる、 かかる	'il-	ひっかける、かける	A	**
197	'ildamla-	はやくなる	'ildamla-t-	はやくする	C	
198	'ilāš-	まざる	'ilāš-tür-	まぜる	C	
199	'ilhamlan-	励まされる	'ilhamlan-dur-	励ます	C	*
200	'irbi-	はねる、跳ぶ	'irbi-t-	ゆらす、振る、振り回す	C	
201	'isla-š-	すすける、 黒ずむ	'isla-	いぶす、燻製にする	A	**
202	'issi-	暖くなる	'issi-t-	暖める	C	**
203	'issi-n-	暖かくする、 炙る	'issi-t-	暖める、熱する	E	**
204	'išān-	信じる	'išān-dür-	信じさせる	C	*
205	'išit-il-	聞こえる	'išit-	聞く	A	
206	'išlit-il-	使われる、 持ちられる	'išlāt-	使う、用いる、使用する	A	
207	'išši-	はれる、むくむ	'išši-t-	はらす、むくませる	C	
208	'iwi-	やわらかくなる	'iwi-t-	やわらかくする	C	
209	'ixčamla-š-	簡素になる	'ixčamla-	簡潔にする	A	
210	'ixčamlaš-	簡素になる	'ixčamlaš-tur-	簡素にする	C	
211	'izahla-n-	説明される	'izahla-	説明する	A	
212	'izčillaš-	貫徹される、 押し通される	'izčillaš-tur-	貫徹する、押し通す	C	
213	'izdā-n-	追求する、 探求する	'izdā-	さがす、さぐる	A	

214	jahazla-n-	しつらえ させる、配 慮させる	jahazla-	しつらえる、そろえる	A	
215	jalaqla-	ガタガタ 鳴る、バタ バタする	jalaqla-t-	ガタガタ鳴らす、バタ バタさせる	C	**
216	jarahätlän-	傷つく	jarahätlän-dür-	傷つける	C	
217	jartilda-	ビリッと 音がする	jartilda-t-	ビリッと音を立てる	C	
218	jayla-š-	位置する	jayla-	置く	A	**
219	jaylaš-	位置する	jaylaš-tur-	置く	C	**
220	jäzmläš-	決まる	jäzmläš-tür-	決める	C	**
221	jidälläš-	争う、もめ る	jidälläš-tür-	争わせる、けんかさせ る	C	
222	kaltäklä-n-	棒で殴ら れる	kaltäklä-	棒で殴る	A	
223	kañši-	吠える	kañši-t-	吠えさせる	C	*
224	käl-	来る、到着 する	käl-tür-	来させる、送り届ける	C	**
225	kämbäkälläš-	貧しくな る	kämbäkälläš-tür-	貧しくする	C	
226	kämsit-il-	軽蔑され る	kämsit-	軽蔑する	A	*
227	käñri-	広くなる、 広がる	käñri-t-	広げる	C	
228	käplä-n-	ふさがれ る、つめら れる	käplä-	ふさぐ、詰める	A	**
229	käplä-š-	ふさがる、 詰まる	käplä-	ふさぐ、詰める	A	**
230	kät-	行く、去る	kät-küz-	行かせる、去らせる	C	*
231	käypsizlän-	機嫌を悪 くする	käypsizlän-dür-	機嫌を損ねる	C	*
232	kečik-	遅くなる	kečik-tür-	遅くする	C	
233	keliš-	協議する、 合意する	keliš-tür-	仲直りさせる、調停す る	C	
234	kemäy-	減る	kemäy-t-	減らす	C	
235	keñäy-	広がる、拡 張する	keñäy-t-	広げる、拡大する	C	**

236	kepänlä-n-	死体が布 につつま れる	kepänlä-	死体を布につつま	A	
237	kičiklä-	小さくな る	kičiklä-t-	小さくする、縮める	C	
238	kičiklä-š-	小さくな る	kičiklä-t-	小さくする、縮める	E	
239	kinolaš-	映画を撮 影する	kinolaš-tur-	映画を撮影する、映画 化する	C	
240	kir-	入る、加わ る	kir-güz-	入れる	C	***
241	kir-iš-	一斉に入 る、とりか かる	kir-güz-	入れる	E	
242	kiriš-	一斉に入 る、とりか かる	kiriš-tür-	とりかからせる	C	
243	kiy-in-	着飾る、身 支度する	kiy-	着る	A	*
244	kiy-in-	着飾る、身 支度する	kiy-dür-	着せる	E	*
245	kiy-in-	着飾る、身 支度する	kiy-güz-	着せる	E	*
246	kiy-in-	着飾る、身 支度する	kiyin-dür-	着せる	E	*
247	kola-n-	掘られる	kola-	掘る、ほじくる	A	**
248	kommunistlaš-	共産主義 化する	kommunistlaš-tur-	共産主義化する	C	
249	konira-	年をとる、 古くなる	konira-t-	古びさせる、老けさせ る	C	**
250	konkiritlaš-	具体化す る	konkiritlaš-tur-	具体化させる	C	**
251	kopiratsiyiläš-	協同化さ れる	kopiratsiyiläš-tür-	協同化する	C	
252	köč-	移動する	köč-ür-	移す	C	*
253	kökär-	緑になる、 青くなる	kökär-t-	緑にする、青くする	C	**
254	köm-ül-	埋められ る、埋もれ	köm-	埋める、埋蔵する	A	**

		る				
255	köm-ül-	埋められる、埋もれる	köm-tür-	埋められる、埋もれる	E	**
256	kön-	同意する	kön-dür-	説得する	C	*
257	könük-	言うことをよく聞く、賛成する	könük-tür-	説得する	C	
258	köp-	はれる	köp-tür-	はらす	C	**
259	köpäy-	増す、増える	köpäy-t-	増やす、増加する	C	*
260	kör-	見る	kör-sät-	見せる	C	*
261	kör-ün-	見える	kör-	見る、読む	A	
262	kör-ül-	見える	kör-	見る、読む	A	
263	kör-üş-	会う、会見する	kör-	見る、読む	A	
264	körüš-	会う、会見する	körüš-tür-	会わせる、引き合わせる	C	*
265	körkämäläš-	美しくなる	körkämäläš-tür-	美しくする	C	
266	kötir-il-	のぼる、あがる	kötär-	あげる、持ち上げる	A	**
267	köy-	焼ける、燃える	köy-dür-	焼く、燃やす	C	**
268	köy-	焼ける、燃える	köy-güz-	焼く、燃やす	C	**
269	küčäy-	強くなる	küčäy-t-	強める	C	
270	küčlän-	強くなる	küčlän-dür-	強める	C	
271	kül-	笑う	kül-dür-	笑わせる	C	*
272	küt-ül-	待たれる	küt-	待つ	A	*
273	küt-ün-	養成する、保護する	küt-	世話する	A	*
274	lapčay-	またを広げる	lapčay-t-	またを広げさせる	C	
275	latinläš-	ラテン化する	latinläš-tur-	ラテン化させる	C	
276	lawilda-	燃え上がる	lawilda-t-	燃え上がらせる	C	**

277	lawzilaš-	面子がつぶれる	lawzilaš-tur-	面子をつぶす	C	*
278	layihilä-n-	設計される	layihilä-	設計する	A	**
279	layihilä-n-	設計される	layihilä-t-	設計させる	E	
280	layiqlaš-	適する	layiqlaš-tur-	適応させる	C	
281	layla-	泥・漆喰を塗る	layla-t-	泥だらけにする	C	
282	layla-n-	泥・漆喰が塗られる	layla-t-	泥だらけにする	E	
283	layla-š-	泥・漆喰がつく	layla-t-	泥だらけにする	E	
284	läpildä-	ひるがえる	läpildä-t-	ひるがえす	C	
285	läylä-	浮かぶ、漂う	läylä-t-	浮かばせる、漂わせる	C	**
286	läzzätlän-	味わう	läzzätlän-dür-	味わわせる	C	*
287	leyi-	にごる	leyi-t-	にごす	C	**
288	liwilda-	ふるえる	liwilda-t-	ふるわせる	C	
289	likilda-	ゆれる	likilda-t-	ゆらす	C	**
290	liḡši-	ぐらぐらする	liḡši-t-	ゆらす	C	**
291	lipilda-	輝く	lipilda-t-	輝かせる	C	**
292	liqla-n-	なみなみとつがれる	liqla-	なみなみとつぐ	A	**
293	lokulda-	ゆれる、ふらふらする	lokulda-t-	ゆする	C	**
294	maḡdursizlan-	力を失う	maḡdursizlan-dur-	力を失わせる	C	*
295	makčay-	ぺちゃんこになる	makčay-t-	ぺちゃんこにする	C	**
296	makilda-	ばくばくする	makilda-t-	ばくばくさせる	C	
297	maḡ-	歩く、行く、動く	maḡ-dur-	歩かせる	C	*
298	maḡ-	歩く、行く、動く	maḡ-kuz-	歩かせる	C	*

299	mašnilaš-	機械化される	mašnilaš-tur-	機械化する	C	**
300	maxta-n-	うぬぼれる	maxta-	ほめる	A	*
301	maxta-š-	ほめあう	maxta-	ほめる	A	*
302	mayla-š-	油がさされる	mayla-	油をさす	A	**
303	mähkämlä-n-	堅くなる	mähkämlä-	堅くする	A	
304	märkäzläš-	中心になる	märkäzläš-tür-	中心にする	C	
305	milä-n-	つけられる	milä-	つける、つく	A	**
306	milä-š-	つく、くつつく	milä-	つける、つく	A	**
307	milliläš-	民族化する	milliläš-tür-	民族化させる	C	
308	mitilda-	動く	mitilda-t-	動かす	C	
309	monäklä-š-	かたまる	monäklä-t-	かためる	E	**
310	mök-	隠れる	mök-tür-	隠す	C	*
311	möldürlä-	きよろきよろする	möldürlä-t-	きよろきよろさせる	C	
312	muju-l-	つねられる	muju-	つねる	A	**
313	mukapatla-n-	受賞する	mukapatla-	表彰する	A	*
314	mukämmälläš-	完全になる	mukämmälläš-tür-	完全にする	C	
315	muntizimlaš-	正規になる	muntizimlaš-tur-	正規にする	C	
316	muqimlaš-	安定する	muqimlaš-tur-	安定させる	C	
317	muräkkäpläš-	ややこしくなる	muräkkäpläš-tür-	ややこしくする	C	**
318	muštla-š-	ボクシングをする、殴り合う	muštla-	殴る、打つ	A	*
319	muwapiqlaš-	適する	muwapiqlaš-tur-	適応させる	C	
320	muzla-	凍る、冷える	muzla-t-	凍らせる、冷やす	C	**
321	müjmälläš-	曖昧になる	müjmälläš-tür-	曖昧にする	C	

322	müskülläš-	難しくなる	müskülläš-ür-	難しくする	C	
323	namratlaš-	貧しくなる	namlatlaš-tur-	貧しくする	C	
324	näprätlän-	嫌悪する	näprätlän-dür-	嫌悪させる	C	*
325	näqišlä-	彫刻する	näqišlä-t-	彫刻させる	C	*
326	neytrallaš-	中和する	neytrallaš-tur-	中和させる	C	
327	nikala-n-	結婚する	nikala-	嫁がせる	A	*
328	nikala-n-	結婚する	nikala-t-	結婚させる	E	*
329	nikella-n-	ニッケルメッキ化される	nikellä-	ニッケルメッキ化する	A	**
330	niqta-l-	詰められる	niqta-	詰める	A	
331	nišanla-n-	ねらわれる	nišanla-	ねらう	A	
332	normallaš-	正常化する	normallaš-tur-	正常化させる	C	
333	noxtila-n-	おもがいがつけられる	noxtila-	おもがいをつける	A	*
334	nöwätläš-	交替する	nöwätläš-tür-	交替させる	C	
335	nurlan-	光る、輝く	nurlan-dur-	光らせる、輝かせる	C	**
336	'obdanla-š-	よくなる	'obdanla-	よくする	A	
337	'oltur-	座る	'oltur-ɣuz-	座らせる	C	*
338	'olturu-š-	皆で座る	'oltur-ɣuz-	座らせる	E	*
339	'omumlaš-	普遍的になる	'omumlaš-tur-	普遍的にする	C	**
340	'omun-	幻想を抱く	'omun-dur-	幻想を抱かせる	C	*
341	'oŋla-n-	直る、修理される	'oŋla-	直す、修理する	A	**
342	'oŋla-n-	直る、修理される	'oŋla-š-	修理する	E	**
343	'oŋla-n-	直る、修理される	'oŋla-t-	修理させる	E	**
344	'oŋša-l-	直る、回復する	'oŋša-	直す、修理する	A	**
345	'oqla-n-	弾を込め	'oqla-	弾を込める	A	**

		られる				
346	'ora-l-	巻かれる、 包まれる	'ora-	巻く、包む	A	**
347	'ora-n-	くるまる	'ora-	巻く、包む	A	**
348	'orna-	取り付け られる	'orna-t-	取り付ける	C	**
349	'orna-š-	取り付け られる	'orna-t-	取り付ける	E	**
350	'orunlaš-	落ち着く	'orunlaš-tur-	落ち着かせる	C	*
351	'ota-l-	草がむし りとられ る	'ota-	除草する	A	**
352	'otla-	草をはむ	'otla-t-	放牧する	C	*
353	'oxša-	似る、似通 う	'oxša-t-	たとえる、なぞらえる	C	
354	'oxša-š-	似る、似通 う	'oxša-t-	たとえる、なぞらえる	E	
355	'oyka-n-	目がさめ る	'oyka-t-	起こす	E	*
356	'oyla-n-	考える、思 う	'oylan-dur-	考えさせる	C	*
357	'oyna-	遊ぶ	'oyna-t-	遊ばせる	C	*
358	'oyna-š-	皆で遊ぶ	'oyna-t-	遊ばせる	E	*
359	'oy-ul-	彫られる	'oy-	彫る	A	**
360	'öč-	消える	'öč-ür-	消す	C	**
361	'öl-	死ぬ	'öl-tür-	殺す	C	*
362	'örtä-n-	いらいら する、悩む	'örtä-	いらいらさせる	A	*
363	'örü-l-	倒される、 編まれる	'örü-	倒す、編む	A	***
364	'ös-	伸びる、育 つ	'ös-tür-	育てる	C	*
365	'öt-	通る	'öt-küz-	通す	C	
366	'öt-üş-	一斉に通 る	'öt-küz-	通す	E	
367	'öylä-n-	結婚する	'öylä-	結婚させる	A	*
368	'özgär-	変わる、変 化する	'özgär-t-	変える、改める	C	**
369	'özläš-	慣れる、適	'özläš-tür-	慣らす、身につける	C	*

		応する				
370	pakla-n-	すすがれる	pakla-	すすぐ	A	
371	pala-n-	流刑にされる	pala-	流刑に処する	A	*
372	palaqla-	かけずり 回る、かけ 回る	palaqla-t-	かけずり回らせる	C	*
373	palilda-	輝く、光る	palilda-t-	輝かせる	C	
374	parawanlaš-	豊かになる	parawanlaš-tur-	豊かにする	C	
375	parčila-n-	分けられ る、裂かれ る	parčila-	分ける、裂く、割る	A	**
376	parilda-	光る、輝く	parilda-t-	光らせる、輝かせる	C	
377	parqira-	きらきら 光る	parqira-t-	光らせる	C	**
378	partla-	爆発する、 破裂する	partla-t-	爆発する	C	**
379	pat-	入る	pat-ur-	入れる	C	
380	pet-iš-	一斉に入 る	pat-ur-	入れる	E	
381	pärqlän-	見分けが つく	pärqlän-dür-	見分ける	C	**
382	päsäy-	しずまる	päsäy-t-	しずめる	C	**
383	pirisla-n-	圧縮され る	pirisla-	圧縮する	A	
384	pirqira-	回る	pirqira-t-	回す	C	**
385	piš-	熱する	piš-ur-	料理する	C	**
386	pitla-n-	シラミに たかられ る	pitla-	シラミがたかる	A	
387	pulaŋla-	ゆれる	pulaŋla-t-	ゆらす	C	**
388	pulaŋši-	ゆれる	pulaŋši-t-	ゆらす	C	**
389	putla-š-	つまづく	putla-	足をすくう	A	*
390	püklä-n-	折りたた まれる	püklä-	折りたたむ	A	
391	pülä-	吹く	pülä-	吹く	L	**
392	pürkä-n-	覆われる、	pürkä-	かぶる、おおう	A	**

		包まれる				
393	pürlä-š-	しわが寄る、しわくちゃになる	pürlä-	しわをつける	A	
394	pürlä-š-	しわが寄る、しわくちゃになる	pürläš-tür-	しわを寄せる	C	
395	püt-	仕上がる	püt-küz-	仕上げる	C	**
396	qada-l-	はめ込まれる	qada-	はめ込む	A	**
397	qala-n-	焼かれる	qala-	焼く	A	**
398	qalaymiqanlaš-	めちゃくちゃになる	qalaymiqanlaš-tur-	めちゃくちゃにする	C	**
399	qamaš-	目がくらむ	qamaš-tur-	目をくらませる	C	**
400	qana-	血が出る	qana-t-	出血させる	C	**
401	qana'ätlän-	満足する	qana'ätlän-dür-	満足させる	C	*
402	qansira-	血を失う	qansira-t-	出血させる	C	*
403	qanunlaš-	法律化される	qanunlaš-tur-	法律化する	C	**
404	qapar-	マメができる	qapar-t-	マメをつくる	C	**
405	qapiyiläš-	韻を踏む	qapiyiläš-tür-	韻を踏ませる	C	**
406	qapla-n-	覆われる	qapla-	覆う	A	**
407	qapla-n-	覆われる	qapla-t-	覆わせる	E	
408	qapsa-l-	包囲される	qapsa-	包囲する	A	
409	qapsa-l-	包囲される	qapsa-š-	一斉に包囲する	E	
410	qapsa-l-	包囲される	qapsa-t-	包囲させる	E	
411	qaqaqla-	大笑いする	qaqaqla-t-	大笑いさせる	C	*
412	qaqaqla-š-	一斉に大笑いする	qaqaqla-t-	大笑いさせる	E	*
413	qaraŋkula-	暗くなる	qaraŋkula-t-	暗くする	C	

414	qaraŋbula-š-	暗くなる	qaraŋbula-t-	暗くする	E	
415	qaraŋbulaš-	暗くなる	qaraŋbulaš-tur-	暗くする	C	
416	qararlaš-	決まる	qararlaš-tur-	決める	C	**
417	qarasla-	ポキンと音を立てる	qarasla-t-	ポキンと音を立てる	C	**
418	qaray-	暗くなる	qaray-t-	暗くする	C	
419	qarsilda-	ガサッと音が出る	qarsilda-t-	ガサッと音を立てる	C	
420	qaššaqlaš-	貧しくなる	qaššaqlaš-tur-	貧しくする	C	
421	qat-	固まる	qat-ur-	固める	C	**
422	qet-il-	固められる	qat-ur-	固める	E	
423	qatla-n-	折られる	qatla-	折る、たたむ	A	**
424	qatnaš-	参加する、出席する	qatnaš-tur-	参加させる、出席させる	C	*
425	qatra-	早足で走る	qatra-t-	早足で走らせる	C	*
426	qatra-š-	一斉に早足で走る	qatra-t-	早足で走らせる	E	*
427	qaxla-n-	あぶられる	qaxla-	あぶる	A	
428	qay-	目がくらむ	qay-dur-	目をくらませる	C	
429	qaymuq	だまされる、困惑する	qatmuq-tur-	あざむく、だます	C	*
430	qayna-	沸く	qayna-t-	沸かす	C	**
431	qayri-l-	くじく、ねじれる	qayri-	引く、引っ張る	A	**
432	qayt-	返る、戻る	qayt-ur-	返す、帰す	C	*
433	qaytila-n-	再発する、ぶり返す	qaytila-	繰り返す、反復する	A	**
434	qeliplaš-	型にはまる	qeliplaš-tur-	型にはめる	C	
435	qeri-	老いる	qeri-t-	老けさせる	C	*
436	qinḡay-	傾く、傾斜する	qinḡay-t-	傾ける、横たえる	C	

437	qis-il-	詰まる	qis-	詰める	A	**
438	qisqar-	縮む、減る	qisqar-t-	縮める、減らす	C	**
439	qista-l-	押し合う	qista-	押し合う	A	*
440	qistur-ul-	はさまれる	qistur-	はさむ	A	**
441	qiyna-l-	苦しむ、苦労する	qiyna-	苦しめる、虐待する	A	*
442	qiysay-	傾く、傾斜する	qiysay-t-	傾ける、ゆがめる	C	
443	qizi-	赤くなる、熱くなる	qizi-t-	赤くする、熱する	C	***
444	qiziq-	興味を持つ	qiziq-tur-	興味を持たせる	C	*
445	qoču-l-	かき混ぜられる	qoču-	かき混ぜる	A	**
446	qočda-n-	自衛する	qočda-	防衛する	A	*
447	qovla-n-	追われる	qovla-	追う	A	*
448	qollin-il-	使われる	qollan-	使う	A	
449	qoltuqla-š-	支えあう、腕を組む	qoltuqla-	手を貸す、脇に抱える	A	*
450	qon-	泊まる、宿泊する	qon-dur-	泊める	C	*
451	qorallan-	武装する	qorallan-dur-	武装させる	C	*
452	qoralsizlan-	武装が解かれる	qoralsizlan-dur-	武装を解く	C	*
453	qorq-	恐れる、怖がる	qorq-ut-	脅す	C	*
454	qoru-l-	炒められる	qoru-	炒める	A	**
455	qoš-ul-	加わる	qoš-	加える、つける、増す	A	*
456	qoš-ul-	加わる	qoš-tur-	加えさせる	E	
457	qoy-ul-	置かれる	qoy-	置く	A	**
458	qozka-l-	移る	qozka-	移す	A	
459	qozila-	羊を産む	qozila-t-	子羊を取り上げる	C	*
460	qučaqla-š-	抱えあう	qučaqla-	抱える	A	*
461	qur-ul-	創立される、構成される	qur-	こしらえる、作る	A	**

462	qur-ul-	創立される、構成される	qur-ruz-	建設させる	E	**
463	quru-	乾く	quru-t-	乾かす	C	**
464	qurut-ul-	乾かされる	qurut-	乾かす	A	**
465	qutra-	猛り立つ	qutra-t-	そそのかす、扇動する	C	*
466	qutul-	逃れる、免れる	qutul-dur-	救う、救済する	C	*
467	quwwätlä-n-	強くなる	quwwätlä-	支持する	A	
468	quwwätlän-	強くなる	quwwätlän-dür-	強くする	C	
469	qyun-	入浴する	qyun-dur-	入浴させる	C	*
470	rawajlan-	発展する	rawajlan-dur-	発展させる	C	**
471	rawanlaš-	滞りなく通る	rawanlaš-tur-	流れをよくする	C	**
472	ränji-	腹が立つ	ränji-t-	怒らせる	C	*
473	räsmiyläš-	公式になる	räsmiyläš-tür-	公式にする	C	**
474	riḡbätlän-	鼓舞される	riḡbätlän-dür-	鼓舞する	C	*
475	sel-in-	入れられる	sal-	入れる	A	**
476	sanči-l-	刺される	sanči-	突き刺す	A	**
477	saqay-	治る	saqay-t-	治す	C	**
478	set-il-	売られる	sat-	売る	A	**
479	saxtilaš-	うそがばれる	saxtilaš-tur-	偽造する	C	
480	sayla-n-	選ばれる	sayla-	選ぶ	A	*
481	sägidä-	涼む、すっきりする	sägidä-t-	涼ませる、すっきりさせる	C	*
482	sähniläš-	脚色されて舞台に上がる	sähniläš-tur-	脚色して舞台に上げる	C	**
483	säkrä-	飛び上がる	säkrä-t-	とばせる	C	*
484	sakrä-š-	とびあう	säkrä-t-	とばせる	E	*
485	sep-il-	まかれる	säp-	まく	A	**
486	sez-il-	気づかれる、知られる	söz-	気づく、感じる	A	**

		る				
487	sib-	入る、収まる	sib-dur-	入れる、詰め込む	C	**
488	sib-iš-	入る、収まる	sib-dur-	入れる、詰め込む	E	**
489	sibiš-	入る、収まる	sibiš-tur-	入れる、おさめる	C	**
490	silji-	移動する、動く	silji-t-	移動する、動かす	C	
491	silki-n-	揺れる、振動する	silki-	振る、ゆする	A	**
492	siŋ-	漏れる、消化される	siŋ-dür-	しみこませる、消化する	C	**
493	siŋ-	漏れる、消化される	siŋ-ir-	しみこませる、消化する	C	**
494	siq-il-	圧縮される、詰め込まれる	siq-	詰め込む、しぼる	A	**
495	soq-ul-	打たれる	soq-	打つ	A	
496	soquš-	戦う、交戦する	soquš-tur-	戦わせる、挑発する	C	*
497	soru-l-	風選される	soru-	風の力でより分ける	A	**
498	sotla-š-	裁判沙汰になる	sotla-	裁判にかける	A	
499	sowu-	冷える	sowu-t-	冷やす	C	**
500	soy-ul-	屠殺される	soy-	屠る	A	*
501	soz-ul	伸びる	soz-	伸ばす	A	**
502	sök-ül-	ほぐれる、ほころびる	sök-	ほどく、ほぐす	A	**
503	sök-ül-	ほぐれる、ほころびる	sok-küz-	ほどかせる、ほぐさせる	E	**
504	sök-ül-	ほぐれる、ほころびる	sök-tür-	ほどかせる、ほぐさせる	E	**
505	sörä-l-	引かれる	sörä-	引く	A	**

506	suxir-il-	水が与えられる	suxar-	水をやる	A	**
507	suxur-ul-	抜かれる	suxur-	抜く	A	**
508	sun-	折れる、砕ける	sun-dur-	折る、砕く	C	**
509	sundur-ul-	折られる	sundur-	折る、砕く	A	**
510	suslaš-	なまける	suslaš-tur-	なまけさせる	C	*
511	suyul-	うすまる	suyul-dur-	うすめる	C	**
512	süŋgä-	もぐる、急降下する	süŋgü-t	もぐらせる、しのびこませる	C	
513	sürkä-l-	こすられる、塗られる	sürkä-	こする、塗る	A	
514	sür-ül-	塗られる	sür-	塗る	A	**
515	süz-ül-	濾過される、澄む	süz-	濾す、濾過する	A	
516	süzül-	濾過される、澄む	süzül-dür-	澄ませる	C	
517	šalaŋla-š-	少なくなる	šalaŋla-t-	少なくする	E	**
518	šalaqla-	ザーと音が出る	šalaqla-t-	ザーと音を立てる	C	**
519	šaldirla-	サラサラ音が出る	šaldirla-t-	サラサラ音を立てる	C	**
520	šakutlaš-	異種交配する	šakutlaš-tur-	異種交配させる	C	
521	šamalda-	風が入る	šamalda-t-	風を通す	C	**
522	šaraqla-	サラサラ音が出る	šaraqla-t-	サラサラ音を立てる	C	**
523	šartilda-	サッと音が出る	šartilda-t-	サッと音を立てる	C	**
524	šaxla-	枝が出る	šaxla-t-	枝を出す	C	**
525	šaxla-n-	枝が出る	šaxla-t-	枝を出す	E	**
526	šippaŋla-	揺れる	šippaŋla-t-	揺らす	C	**
527	šippaŋši-	揺れる	šippaŋši-t-	揺らす	C	**
528	šoxšu-	後退する	šoxšu-t-	後退させる	C	**
529	takiraŋši-	ガシャンと音が立つ	takiraŋši-t-	ガシャンと音を立てる	C	

530	talaš-	議論する	talaš-tur-	議論させる	C	*
531	tam-	流れる、したたる	tam-dur-	したたらせる	C	**
532	tam-	流れる、したたる	tam-uz-	したたらせる	C	**
533	tamamla-n-	終わる	tamamla-	終える	A	**
534	tamaqlan-	食事をとる	tamaqlan-dur-	食事をとらせる	C	*
535	tep-il-	捜される、思われる	tap-	捜す、得る	A	**
536	taqa-l-	閉まる、閉じる	taqa-	施錠する	A	**
537	taqilda-	ドンドン音が出る	taqilda-t-	たたく、ノックする	C	**
538	tara-l-	散らばる	tara-	撒き散らす	A	**
539	tara-l-	散らばる	tara-t-	撒き散らす	E	**
540	tarašla-n-	削り取られる、ならされる	tarašla-	削り取る、ならす	A	**
541	taray-	狭くなる	taray-t-	狭くする	C	**
542	tarla-	狭くなる	tarla-š-	狭くする	C	**
543	tarla-	狭くなる	tarla-t-	狭くする	C	**
544	tarqa-l-	散らばる、広がる	tarqa-	撒き散らす、ばらまく	A	**
545	tarqa-l-	散らばる、広がる	tarqa-t-	撒き散らす、ばらまく	E	**
546	tarsilda-	ビシビシ音が出る	tarsilda-t-	ビシビシ音を立てる	C	**
547	tart-il-	下がる、減る、弱まる	tart-	引く	A	**
548	tasqa-l-	ふるわれる	tasqa-	ふるう	A	**
549	tašla-n-	投げられる、捨てられる	tašla-	投げる、ほうる	A	*
550	tawla-n-	精錬される	tawla-	精錬する	A	**
551	tayla-n-	梱包される	tayla-	梱包する	A	**

552	täbriklä-n-	祝われる	täbriklä-	祝う	A	**
553	tä'äjjuplän-	驚く	tä'äjjuplän-dür-	驚かせる	C	*
554	täkitlä-n-	重んじられる	täkitlä-	重んじる	A	**
555	täkrarla-n-	繰り返される	täkrarla-	繰り返す	A	**
556	täksür-ül-	調べられる、検査される	täksür-	調べる、検査する	A	**
557	tärbiyilä-n-	育てられる、教育される	tärbiyilä-	育てる、教育する	A	*
558	täsirlän-	影響を受ける	täsirlän-dür-	影響を与える	C	*
559	täšwišlän-	不安になる	täšwišlän-dür-	不安にする	C	*
560	täyinlä-n-	任命される	täyinlä-	任命する	A	*
561	täyyarla-n-	準備される	täyyarla-	準備する	A	
562	täyyarla-n-	準備される	täyyarla-t-	準備させる	E	
563	täz-	捨てる	täz-dür-	捨てさせる	C	
564	täz-	捨てる	täz-üz-	捨てさせる	C	
565	tejä-l-	節約される	tejä-	節約する	A	**
566	temi-	ポトポトしたたる	temi-t-	垂らす、漏らす	C	**
567	teri-l-	種がまかれる	teri-	耕作する	A	**
568	terik-	怒る	terik-tür-	怒らせる	C	*
569	tezläš-	速くなる	tezläš-tür-	速くなる、速める	C	
570	tik-il-	縫われる	tik-	縫う	A	**
571	tik-il-	縫われる	tik-küz-	縫わせる	E	**
572	tik-il-	縫われる	tik-tür-	縫わせる	E	**
573	tili-n-	薄く切られる、切り分けられる	tili-	切開する、切除する	A	**

574	tin-	澄む、きれいになる	tin-dur-	澄ませる	C	**
575	tinči-	しずまる、おさまる	tinči-t-	しずめる、おさめる	C	
576	tinčlan-	しずまる、おさまる	tinčlan-dur-	しずめる、おさめる	C	
577	tiril-	生き返る	tiril-dür-	生き返らせる	C	*
578	tit-il-	引き裂かれる	tit-	引き裂く	A	**
579	tiz-il	並べられる	tiz-	並べる	A	**
580	tizginlä-n-	手綱がしめられる	tizginlä-	手綱をしめる	A	
581	tizla-n-	ひざまづく	tizla-	膝で支える	A	
582	tovrila-n-	正される、直される	tovrila-	正す、直す	A	**
583	tokulda-	トントン音が出る	tokulda-t-	トントン音を出す	C	**
584	tol-	満ちる	tol-dur-	満たす	C	**
585	toldur-ul-	満たされる、つめられる	toldur-	満たす	A	**
586	tolka-n-	くじける	tolka-	くじく	A	**
587	tonu-l-	知られる、有名になる	tonu-	知られる、有名になる	A	
588	tonuš-	知り合う	tonuš-tur-	紹介する	C	*
589	tonuštur-ul-	紹介される	tonuštur-	紹介する	A	*
590	toḡla-	凍る	toḡla-t-	凍らせる	C	**
591	topla-n-	集まる	topla-	集める	A	***
592	topla-š-	一斉に集まる、集う	topla-	集める	A	***
593	torla-š-	編みあう、結び合う	torla-	編む、結ぶ	A	**
594	tormuzla-n-	抑制される、阻止される	tormuzla-	抑制する、阻止する	A	**

595	toš-	満ちる	toš-quz-	満たす	C	**
596	toš-	満ちる	toš-tur-	満たす	C	**
597	tošu-l-	運ばれる、 伝えられ る	tošu-	運ぶ、伝える	A	**
598	toxta-	やむ、おさ まる	toxta-t-	やめる、止める	C	**
599	tozu-	飛び散る	tozu-t-	飛び散らせる	C	**
600	tök-ül-	こぼれる	tök-	ながす、こぼす	A	**
601	töllä-	子羊が生 まれる	töllä-t-	子羊を産む	C	*
602	töwänlä-	下がる	töwänlä-t-	下げる	C	**
603	tur-ul-	生まれる	tur-	産む	A	*
604	tur-ul-	生まれる	tur-dur-	生ませる	E	*
605	tunjuq-	窒息する	tunjuq-tur-	窒息させる	C	*
606	tur-	立つ	tur-kuz-	立てる	C	***
607	tut-ul-	つかまえ られる、保 たれる	tut-	つかむ、保つ	A	*
608	tutaš-	接する、接 触する	tutaš-tur-	つなげる、くっつける	C	**
609	tuy-ul-	感じる、思 う	tuy-	気づく、感づく	A	
610	tügä-	終わる	tügä-t-	終える	C	**
611	tügä-š-	終わる	tügä-t-	終える	E	**
612	tür-ül-	巻かれる	tür-	巻く	A	**
613	tür-ül-	巻かれる	tür-t-	押す、突く、つつく、 促す	E	**
614	tüz-ül-	作られる	tüz-	作る	A	*
615	tüzä-l-	直る、治る	tüzä-	整える、直す、修理す る	A	*
616	tüzä-l-	直る、治る	tüzä-t-	直す、正す	E	**
617	tüzit-il-	直される、 正される	tüzät-	直す、正す	A	**
618	'uč-	飛ぶ、ぶつ けて壊す	'uč-ur-	飛ばす	C	***
619	'učra-	会う	'učra-t-	会わせる	C	*
620	'učra-š-	会う	'učra-t-	会わせる	E	*
621	'učraš-	会う	'učraš-tur-	会わせる	C	*

622	'ujuq-	窒息する、 黙る	'ujuq-tur-	窒息させる、黙らせる	C	*
623	'ula-n-	繋がれる	'ula-	繋げる	A	**
624	'ula-n-	繋がれる	'ula-t-	つなげさせる	E	**
625	'ula-š-	くつつく	'ula-t-	つなげさせる	E	**
626	'ulaš-	くつつく	'ulaš-tur-	くつつける	C	**
627	'ukay-	大きくなる、 増える	'ukay-t-	大きくする、増やす	C	**
628	'uluɤla-n-	押しあが められる	'uluɤla-	押しあがめる	A	
629	'una-	同意する、 認める	'una-t-	同意させる、説得する	C	*
630	'untu-l-	忘れられ る	'untu-	忘れる	A	
631	'untul-	忘れられ る	'untul-dur-	忘れさせる	C	
632	'upra-	すり切れ る	'upra-t-	すり切らす	C	**
633	'urɤu-	溢れる	'urɤu-t-	溢れさせる	C	**
634	'ur-uš-	交戦する、 打ち合う	'ur-	打つ、叩く	A	*
635	'uruš-	交戦する、 打ち合う	'uruš-tur-	交戦させる、打ち合わ せる	C	*
636	'uruqlan-	繁殖させ る	'uruqlan-dur-	掛け合わせる、高配さ せる	C	*
637	'uwa-l-	砕かれる	'uwa-t-	砕く	E	**
638	'uwaqla-n-	打ち砕か れる	'uwaqla-	打ち砕く	A	**
639	'uxla-	眠る	'uxla-t-	眠らせる	C	*
640	'uxla-š-	一斉に寝 る	'uxla-t-	眠らせる	E	*
641	'uyal-	恥をかく	'uyal-dur-	恥をかかせる	C	*
642	'uykunlaš-	適応する、 合う	'uykunlaš-tur-	適応させる、合わせる	C	
643	'uyu-	固まる	'uyu-t-	固める	C	**
644	'uyuš-	連合する、 団結する	'uyuš-tur-	統一する、団結させる	C	**
645	'uzaqlaš-	遠ざかる、 離れる	'uzaqlaš-tur-	遠ざける	C	

646	'uzar-	長くなる	'uzar-t-	長くする	C	**
647	'ügä-n-	学ぶ	'ügä-t-	教える	E	*
648	'ümitlän-	希望を持つ	'ümitlän-dür-	希望を持たせる	C	*
649	'ümitsizlän-	がっかりする	'ümitsizlän-dür-	がっかりさせる	C	*
650	'ün-	発芽する	'ün-dür-	発芽させる	C	**
651	'üz-ül-	切れる、中断する	'üz-	断ち切る、切る	A	**
652	walilda-	光る	walilda-t-	光らせる	C	**
653	waqiplan-	分かる、知る	waqiplan-dur-	分からせる、知らせる	C	
654	xarla-n-	いじめられる	xarla-	いじめる	A	*
655	xätlä-n-	登録される	xätlä-	登録する	A	
656	yaκ-	降る	yaκ-dur-	降らせる、そそぐ	C	**
657	yaκla-š-	油がつく	yaκla-	油を差す	A	**
658	yala-š-	舐め合う	yala-	舐める	A	
659	yala-š-	舐め合う	yala-t-	なめさせる	E	
660	yaliñaçla-n-	裸になる	yaliñaçla-	裸にする	A	*
661	yalla-n-	雇われる	yalla-	雇う	A	*
662	yaltira-	ぴかぴか光る	yaltira-t-	ぴかぴかに磨かせる	C	**
663	yandaš-	並ぶ	yandaš-tur-	並べる	C	
664	yaŋra-	鳴り響く	yaŋra-t-	鳴り響かせる	C	**
665	yep-il-	隠される	yap-	被る、隠す	A	**
666	yeril-	割られる、裂かれる	yar-	割る、裂く	A	**
667	yara-	役立つ、適する、気に入る	yara-t-	気に入る、好く	C	
668	yara-l-	生じる、できる	yara-t-	創造する	E	**
669	yaraš-	伸直りする	yaraš-tur-	伸直りさせる	C	*
670	yasa-n-	着飾る、装う	yasa-	飾る、化粧する	A	*
671	yat-	横たわる、	yat-quz-	横たえる、横にする	C	*

		横になる				
672	yaxşıla-n-	良くなる	yaxşıla-	良くする	A	**
673	yey-il-	広がる、広まる	yay-	広げる、しく、広める	A	**
674	yey-il-	広がる、広まる	yeyil-dür-	広げる、広める	C	
675	yayla-	草をはむ	yayla-t-	放牧する	C	
676	yez-il-	書かれる	yaz-	書く	A	
677	yä-	食べる	yi-güz-	食べさせる	C	**
678	yi-yil-	食べられる	yä-	食べる	A	
679	yäkünlä-n-	総括される、まとめられる	yäkünlä-	総括する、まとめる	A	
680	yänği-	すっきりする	yänği-t-	すっきりさせる	C	
681	yängillä-	軽くなる	yängillä-t-	軽くする	C	
682	yängillä-ş-	軽くなる	yängillä-t-	軽くする	E	
683	yeş-il-	解ける、とける	yäş-	解く、ほどく	A	**
684	yät-	伝わる、届く	yät-küz-	伝える、送る	C	**
685	yeniklä-	軽くなる	yeniklä-t-	軽くする	C	**
686	yeniklä-ş-	軽くなる	yeniklä-t-	軽くする	E	**
687	yeñila-n-	新しくなる	yeñila-	新しくする	A	**
688	yepiş-	くっつく	yepiş-tur-	くっつける	C	**
689	yeq-il-	火がつく	yaq-	火をつける	A	**
690	yeqinlaş-	近づく	yeqinlaş-tur-	近づける	C	
691	yerimla-	半分になる	yerimla-t-	半分にする	C	**
692	yerimla-ş-	半分になる	yerimla-t-	半分にする	E	**
693	yerimlaş-	半分になる	yerimlaş-tur-	半分にする	C	**
694	yeşin-	服を脱ぐ	yeşin-dür-	服を脱がせる	C	*
695	yetiş-	間に合う	yetiş-tür-	間に合わせる	C	
696	yiv-il-	集まる	yiv-	集める	A	***
697	yiv-il-	集まる	yiv-iş-	皆で集める	E	

698	yivla-	泣く	yivla-t-	泣かせる	C	*
699	yimir-il-	ひねられる	yimir-	ひねる	A	**
700	yiqi-l-	倒れる	yiqi-t-	倒す	E	***
701	yir-il-	裂ける、割れる	yir-	裂く、もぎ取る	A	**
702	yiraqlaş-	遠ざかる、離れる	yiraqlaş-tur-	遠ざける、離す	C	
703	yirikläš-	粗くなる	yirikläš-tur-	粗くする	C	
704	yirt-il-	裂ける、破れる	yirt-	裂く、破る	A	**
705	yovanla-	大きくなる	yovanla-t-	大きくする	C	**
706	yovına-	大きくなる	yovına-t-	大きくする	C	
707	yoluq-	会う、出会う	yoluq-tur-	会わせる、出会わせる	C	*
708	yoqa-l-	なくなる、消える	yoqa-t-	なくす、失う	E	**
709	yoru-	光る	yoru-t-	光らせる	C	**
710	yošur-un-	隠れる、潜む	yošur-	隠す、隠匿する	A	*
711	yögä-š-	巻き合う、絡みつく	yögi-	巻く、包む	A	**
712	yölä-n-	もたれる、寄りかかる	yölä-	もたれさせる、支える	A	
713	yötkä-l-	移る、動く	yötkä-	移す、動かす	A	**
714	yu-yul-	洗われる	yu-	洗う、洗いすすぐ	A	*
715	yu-yun-	風呂に入る、入浴する	yu-	洗う、洗いすすぐ	A	*
716	yukur-ul-	こねられる	yukur-	こねる	A	**
717	yumša-	柔らかくなる	yumša-t-	柔らかくする	C	**
718	yumla-	転がる	yumla-t-	転がす	C	**
719	yumla-n-	転がる	yumla-t-	転がす	E	**

720	yuq-	移る、染まる、伝染する	yuq-tur-	移す、染める	C	**
721	yuqurila-	上がる	yuqurila-t-	上げる	C	
722	yuqurila-š-	上がる	yuqurila-t-	上げる	E	
723	yuwašla-	おとなしくなる	yuwašla-t-	おとなしくさせる	C	
724	yuwašla-š-	おとなしくなる	yuwašla-t-	おとなしくさせる	E	
725	yügür-	走る、駆ける	yügür-t-	走らせる、駆けさせる	C	*
726	yüklä-n-	背負わされる	yüklä-	背負う	A	
727	yüksäl-	高まる、上がる	yüksäl-dür-	高める、上げる	C	*
728	yür-	歩く、進む	yür-güz-	歩かせる、動かす	C	
729	yürüş-	軌道に乗る	yürüş-tür-	軌道に乗せる	C	
730	yürüşläš-	組をなす	yürüşläš-tür-	組み合わせる	C	
731	yüt-	なくなる	yüt-tür-	なくす	C	**
732	yüzlän-	向く、向かう	yüzlän-dür-	向ける、向けさせる	C	
733	zamaniwilaš-	現代化する	zamaniwilaš-tur-	現代化させる	C	
734	zarla-n-	根に持つ、小言を言う	zarla-	恨む、泣き言を言う	A	*
735	zähärlä-n-	毒にやられる	zähärlä-	毒を入れる	A	*
736	zähärlä-n-	毒にやられる	zähärlän-dür-	毒を入れる	C	*
737	zähärsizlän-	消毒される	zähärsizlän-dür-	消毒する	C	
738	zä'ipläš-	弱る、衰える	zä'ipläš-tür-	弱める、衰弱させる	C	

資料 2—物語集—

【注記】

- ・本資料は、“*‘uykur hazirqi zaman ‘awazliq ‘elipbäsi.*” に所収されている物語を、ローマ字に転写・翻訳したものである。
- ・物語は基本的に、説明や叙述の部分に加え、登場人物の会話の部分から成り立っている。物語の中には、会話のみから成るものもある。
- ・物語において、説明なしに、ある場面が別の場面に切り替わるものが見られる。その場合、前の場面と次の場面とのあいだを 1 行空けている。
- ・— は登場人物の会話の始まり（もしくは終わり）を示す。
- ・[] は、日本語訳に際して、場面状況や語句を補足・説明する場合に用いる。
- ・例文番号は、原文中のピリオドやコンマなどを目安とし、適宜付している。
- ・動詞が連続している場合、すなわち、V1+V2 となっている場合、V2 が本動詞としての意味を持たずに、もっぱら V1 を修飾していることがある（(例 1)）。一方で、V2 が本動詞としての意味を保っているように思えるものもある（(例 2)）。本論文では、どちらの場合も一貫して、後部の動詞について本動詞としての意味を記している。

(例 1) zerik-ip qal-
飽きる-CVB 残る
「飽きてしまう」

(例 2) yügür-üp kät-
走る-CVB 行く
「走って行く」

・原文におけるハイフン (-) は、複合語を表すときなどに用いられるが、ここではそれらもそのまま転写している。

・複合動詞において、副動詞化接辞の一部と後部動詞が音韻的に融合しているものは ASP（アスペクト）としている。

(例) bil-ip ‘al- > bil-iwal-
知る-CVB 取る 知る-ASP
「知っている」

1. баҗwän wä 'uniñ 'oǵli

(1) yeqinqi zamanlarda bir baҗwän boway 'otkänikän. (2) bowayniñ bir 'oǵli bolup, 'ikkisi nahayiti 'ejil-'inaq 'otidikän. (3) bala mäktäptä 'oquydikän, boway bolsa, 'etiz-'eriq 'işlerini qilip harmaydikän. (4) bir küni bala mäktäptin qaytip kelip hoylisıka kirsä, dadisi 'atni yetiläp čiqiwatqudäk.

(5) – dada, nägä barisän? – däptu bala.

(6) – 'aqtaštiki baҗqa дәp jawab beriptu boway.

(7) – mänmu barimän! – дәptu bala.

(8) – balam 'u yär bäk yıraq, qilidıkan 'işlar köp, zerikip qalarsänmikin? – дәptu boway köyümčanliq bilän.

(9) – 'ün'alxuni 'eliwalsam zerikmäymän, – дәptu bala 'ärkiläp.

(10) – 'undaqta čaqqa bol, – дәptu boway balisıka mästiliki kelip.

(11) bala hapila-šapila 'öygä kirip, 'ün'alxusini 'elip čiqiptu. (12) 'ular 'atni boluşıka čapturup baҗqa tezla yetip kәptu. (13) 'ikkiylän mewilärni 'üzüşkä başlaptu. (14) 'üzüptü, 'üzüptü, 'üzüp harmaptu. (15) 'ularniñ wäyritigä 'apirin 'oqup, turnilar köpkök 'asmanda lärzan qanat qeqišiptu.

(16) 'ün'alxu balıka mädät berip naxša 'oquptu. (17) 'ular 'işläwerip kәč kirgännimu säzmäy qaptu.

(18) mewilär üzülüp tügәptu. (19) 'ata-bala xušal-xuram halda 'alma, 'anar, 'amutlirini jaylašturup bolup, 'öygä qarap yol aptu. (20) bala yolda ketiwetip dadisidin soraptu:

(21) – dada, biz nemišqa šünčä qattiq 'işlisäkmu, harxinliq hes qilmaymiz?

(22) – buni sorap yaxši qildiñ 'oǵlum, – дәptu boway bir närsini 'oylıkan qiyapättä.

(23) konilarda « bәxt kelidu nädin? pešanәndiki tärdin » degän gәp bar. (24) hurun 'adämlär 'asanla herip qalidu. (25) šuҗa 'ularniñ 'erišidıkan närsisimu 'az bolidu. (26) qančә köp tirišsaq, šünčә köp bәxt wä nätijigä 'erišäläymiz. (27) bu xuddi, mäktäptä tirišip 'oqusañ, күnseri bilimlik bolup, kәlgüsidä katta 'adәmgä 'aylanıniñka 'oxšaydu.

(28) – dada, « katta » degän gәpniñ mänisi nemä?

(29) – « katta » degän «'astimizdiki 'attäk čapqur, köktiki quyaštäk nurluq, turunilardäk köktä pärwaz qilalaydıkan » degän gәp, – дәptu boway.

(30) – hoy.....män katta 'adäm bolimän, – дәptu bala qin qiniка patmay. (31) šundaq qilip 'ular xušal-xuram halda 'öygä qaytip kәptu.

1. baɣwän wä 'u-niɣ 'oɣl-i

庭師 と 彼-GEN 息子-POSS.3

- (1) yeqinɣi zaman-lar-da bir baɣwän boway 'öt-kän-ikän.
最近 時代-PL-LOC 1 庭師 老人 暮らす-PTCP.PST-COPEV
- (2) boway-niɣ bir 'oɣl-i bol-up, 'ikki-si nahayiti 'ejil-'inaɣ
老人-GEN 1 息子-POSS.3 なる-CVB 2-POSS.3 大変 仲の良い
'öt-idikän. (3) bala mäktäp-tä 'oqu-ydi-kän, boway bol-sa, 'etiz-'eriq
暮らす-EV.3 子ども 学校-LOC 学ぶ-PRS.3SG-EV 老人 なる-COND 田畑
'iš-lir-i-ni qil-ip har-ma-ydikän. (4) bir kün-i bala
仕事-PL-POSS.3-ACC する-CVB 疲れる-NEG-EV.3 1 日-POSS.3 子ども
mäktäp-tin qayt-ip kel-ip hoyli-si-ɣa kir-sä, dadi-si 'at-ni
学校-ABL 帰る-CVB 来る-CVB 中庭-POSS.3-DAT 入る-COND 父-POSS.3 馬-ACC
yetilä-p čiq-iwat-qu-däk.
連れる-CVB 出る-ASP-VN-SIM
- (5) – dada, nä-gä bar-i-sän? – dä-ptu bala.
父 どこ-DAT 行く-PRS-2SG 言う-PF 子ども
- (6) – 'aɣtaš-tiki baɣ-qa dä-p jawab ber-iptu boway.
アクタシュ-にある 果樹園-DAT 言う-CVB 答え 与える-PF 老人
- (7) – män=mu bar-i-män! – dä-ptu bala.
私=CL 行く-PRS-1SG 言う-PF 子ども
- (8) – bala-m 'u yär bäk yiraq, qil-idikän 'iš-lar köp,
子ども-POSS.1SG その 場所 とても 遠い する-PTCP.NPST 仕事-PL 多い
zerik-ip qal-ar-sän-mikin? – dä-ptu boway köyümčanliq bilän.
飽きる-CVB 残る-AOR-2SG-MOD 言う-PF 老人 思いやり と
- (9) – 'ün'alɣu-ni 'el-iwal-sa-m zerik-mä-y-män, – dä-ptu
テープレコーダー-ACC 取る-ASP-COND-1SG 飽きる-NEG-PRS-1SG 言う-PF
bala 'ärkilä-p.
子ども だだをこねる-CVB
- (10) – 'undaq-ta čaqqa bol, – dä-ptu boway bali-si-ɣa mästliki
そのような-LOC 早い なる 言う-PF 老人 子ども-POSS.3-DAT 助言
kel-ip.
来る-CVB
- (11) bala hapila-šapila 'öy-gä kir-ip, 'ün'alɣu-si-ni 'el-ip
子ども 急いで 家-DAT 入る-CVB テープレコーダー-POSS.3-ACC 取る-CVB
čiq-iptu. (12) 'ular 'at-ni boluşıka čap-tur-up baɣ-qa tez=la yet-ip
出る-PF 彼ら 馬-ACC できるかぎり 走る-CAUS-CVB 園-DAT 早い=CL 着く-CVB
kä-ptu. (13) 'ikkiylän mewi-lär-ni 'üz-üş-kä başla-ptu.
来る-PF 2人 果物-PL-ACC 切る-VN-DAT 始める-PF

- (14) 'üz-üptü, 'üz-üptü, 'üz-üp har-ma-ptu. (15) 'ular-niñ väyrit-i-gä
 切る-PF 切る-PF 切る-CVB 疲れる-NEG-PF 彼ら-GEN 熱意-POSS.3-DAT
- 'apirin 'oq-up, turni-lar köpkök 'asman-da lärzan qanat qeq-iš-iptu.
 ほめる-CVB 鶴-PL 真っ青 空-LOC 揺れ動く 翼 はばたく-RECP-PF
- (16) 'ün'alxu bali-va mädät ber-ip naxša 'oqu-ptu.
 テープレコーダー 子ども-DAT 支持 与える-CVB 歌 読む-PF
- (17) 'ular 'išlä-wer-ip káč kir-gän-ni=mu säz-mäy qa-ptu.
 彼ら 仕事する-ASP-CVB 晩 入る-PTCP.PST-ACC=CL 感じる-NEG.CVB 残る-PF
- (18) mewi-lär 'üz-ül-üp tügä-ptu. (19) 'ata-bala xušal-xuram hal-da
 果物-PL 切る-PASS-CVB 終わる-PF 父-子ども 喜んで 様子-LOC
- 'alma, 'anar, 'amut-lir-i-ni jaylaš-tur-up bol-up, 'öy-gä qara-p
 りんご ざくろ 梨-PL-POSS.3-ACC まとまる-CAUS-CVB なる-CVB 家-DAT 見る-CVB
- yol 'a-ptu. (20) bala yol-da ket-iwet-ip dadi-si-din sor-aptu:
 道 取る-PF 子 道-LOC 行く-ASP-CVB 父-POSS.3-ABL 問う-PF
- (21) –dada, biz nemišqa šünčä qattiq 'išli-sä-k=mu, harğinliq hes
 父 私たち なぜ このような 厳しい 仕事-COND-1PL=CL 疲労 感覚
- qil-ma-y-miz?
 する-NEG-PRS-1PL
- (22) –bu-ni sor-ap yaxši qil-di-ñ 'oql-um, –dä-ptu boway bir
 これ-ACC 問う-CVB 良い する-PST-2SG 息子-POSS.1SG 言う-PF 老人 1
- närsi-ni 'oyli-kan qiyapät-tä. (23) koni-lar-da «bäxt kel-i-du nä-din?
 こと-ACC 考える-PTCP.PST 様子-LOC 古い-PL-LOC 幸福 来る-PRS-3 何-ABL
- pešanä-ñ-diki tär-din » de-gän gäp bar. (24) horun 'adäm-lär 'asan=la
 額-POSS.2SGにある 汗-ABL 言う-PTCP.PST 話 ある 怠慢な 人-PL すぐ=CL
- her-ip qal-i-du. (25) šuñä 'ular-niñ 'eriš-idivan närsi-si=mu 'az
 疲れる-CVB 残る-PRS-3 それで 彼ら-GEN 得る-PTCP.NPST もの-POSS.3=CL 少ない
- bol-i-du. (26) qančä köp tiriš-sa-q, šünčä köp bäxt wä nätiñi-gä
 なる-PRS-3 どんな 多く 努力する-COND-1PL そんなに 多く 幸福 と 結果-DAT
- 'eriš-äläy-miz. (27) bu xuddi, mäktäp-tä tiriš-ip 'oqu-sa-ñ, künseri bilimlik
 達する-ABIL-1PL これ まるで 学校-LOC 努力する-CVB 学ぶ-COND-2SG 日ごとに 博学な
- bol-up, kälgüsi-dä katta 'adäm-gä 'aylan-kin-iñ-ka 'oxša-y-du.
 なる-CVB 将来-LOC 偉大な 人-DAT 変わる-PTCP.PST-POSS.2SG-DAT 同じ-PRS-3
- (28) –dada, «katta» de-gän gäp-niñ mäni-si nemä?
 父 偉大 言う-PTCP.PST 話-GEN 意味-POSS.3 何
- (29) –«katta» de-gän «'ast-imiz-diki 'at-täk čapqur, kök-tiki quyaš-täk
 偉大 言う-PTCP.PST 下-POSS.1PLにある 馬-SIM 足の早い 空にある 太陽-SIM
- nurluq, turuni-lar-däk kök-tä pärwaz qil-alay-divan » de-gän gäp,
 光り輝く 鶴-PL-SIM 空-LOC 飛翔 する-ABIL-PTCP.NPST 言う-PTCP.PST 話
- dä-ptu boway.
 言う-PF 老人

(30) – hoy.....män katta 'adäm bol-i-män, – dä-ptu bala qin qin-i-ka
EXC 私 偉大な 人 なる-PRS-1SG 言う-PF 子ども 鞆 鞆-POSS.3-DAT

pat-may.

おさまる-NEG.CVB

(31) šundaq qil-ip 'ular xušal-xuram hal-da 'öy-gä qayt-ip kä-ptu.
このように する-CVB 彼ら 喜んで 様子-LOC 家-DAT 戻る-CVB 来る-PF

1. 老人とその息子

(1)昔、ある庭師の老人が暮らしていた。(2)老人には一人の息子がおり、二人ともとても仲良く暮らしていたそうだ。(3)子どもは学校で勉強しているときに、老人は畑仕事に励んでいたそうだ。(4)ある日子どもが学校から帰って来て中庭に入ると、父が馬を引いて出てきた。

(5)「父さん、どこに行くの?」と子どもが言った。

(6)「アクタシュにある果樹園へ、と老人が答えた。

(7)「僕も行く!」と子どもは言った。

(8)「わが子よ、その場所はとても遠く、する仕事も多い、飽きてしまうだろう?」と、老人は優しく言った。

(9)「テープレコーダーを持っていけば、飽きないよ」と子どもはだだをこねて言った。

(10)「それならば早くしなさい」と、老人は子どもに助言した。

(11)子どもは急いで家に入って、テープレコーダーを持って出た。(12)彼らは馬をできるかぎり走らせ、果樹園へすぐに着いた。(13)二人は果物を摘み始めた。(14)摘んだ、摘んだ、摘むことに励んだ。(15)彼らのがんばりをたたえて、鶴たちが真っ青な空で揺れ動く翼をはばたかせた。(16)録音機は子どもを支えて歌を歌った。(17)彼らは仕事をしていて、夕方になってしまったことにも気づかなかった。(18)果物を摘み終わった。(19)父と子は大喜びでりんご、ざくろ、梨を集めて、家を目指して出発した。(20)子どもは帰りながら父に聞いた。

(21)「父さん、僕たちはどうしてこんなに一生懸命働いても、疲れを感じないの?」

(22)「それを聞くのは良いことだ、息子よ。 」と老人は何か考える様子で言った。

(23)「昔の人々の間に「幸福はどこから来るか? 額の汗から」という話がある。(24)怠惰な人たちはすぐに疲れてしまう。(25)だから彼らが得るものは少なくなる。(26)たくさん努力すればするほど、それだけたくさんの幸せと結果にたどり着くことができるのだ。(27)これはさながら、学校で懸命に勉強すれば、日ごとに博学になって、将来、偉大な人になることに似ているのだ。

(28)「父さん、「偉大」ということばの意味は何?」

(29)「「偉大」というのは「我々の下にいる[=我々が乗っている]馬のように速く、空の太陽のように光り輝き、鶴のように飛翔することができる」ということだ」と老人は言った。

(30)「わあ・・・僕は偉大な人になろう、」と子どもは興奮した様子で言った。(31)こんなふうに、彼らは喜んだ様子で家へ帰って行った。

2. tiyin bilän kepinäk

(1)bir küni 'aç köz tiyin bawda 'oynewetip , bir nawrini körüp qaptu. (2) 'u ätrapqa säpselip, 'adäm yoqluqini bayqıwandin keyin, « nawrini 'elipla qaçayçu! » degänni köñligä püküp nawrıka yeqinlişiptu-dä , 'uni kötürüpla qeçiptu. (3) 'u ketiwetip qorsiqiniñ 'açqanliqini hes qilip, nawrini taşliwetipty. (4) 'u bir 'öyiniñ 'aldıka kaptu wä bir 'ayalniñ tonurka nan yeqiwatqanliqini, qizirip pişqan nanlarniñ tonur beşikä yeyip qoyulkanliqini körüp, (5)näpsi taqildap ketiptu-dä nandin birni 'owrilap tonurniñ yenediki dārāxniñ šexıka çiqip 'olturup, yäy dāp turuşıka tonur beşidiki qowunka közi çüşüp nanni taşliwetipty (6)wä dārāxtin çüşüp qowunni 'owrilap qeçiptu. (7)bu çawda hoylidiki güllüktä 'oynewatqan kepinäk tiyinni körüp qilip 'uniñ 'arqisidin qowlaptu. (8)kepinäk tiyinka yetişiwaptu wä :

(9)– başqılarniñ nārsisini xalıkančä 'owriliwalsañ qandaq bolidu? (10) 'owriliq qiliş nemidegān nomusluq 'iş! (11)bunraq ketiwārsāñ haman bir küni 'özünni nabut qilisān! – dāptu.

(12) – 'ämmsä qandaq qilimān? – dāp soraptu tiyin 'aççiqa.

(13) – qowunni jayıka 'apirip qoy, şundaq qılsañ mān sān bilän dost bolimān, qandaq? – dāptu kepinäk.

(14) – maqul, – dāptu tiyin çiraylıq bilän dost boluş koyida. (15)tiyin qowunni 'apirip jayka qoyup qoyuptu. (16) 'öy 'igisi tiyinniñ xataliqini tonukanliqidin māmnun boptu. (17)şuniñ bilän kepinäk tiyinka 'āgişip 'oynişili meñiptu. (18) 'ular tiyin baya taşliwātkān nawriniñ qeşikā kalgāndä, tiyin kepinäkkä :

(19) – mān saña nawra çelip beräy, sān 'ussul 'oynap bārgin – dāp turuwaptu. (20)bu täklip kepinäkkä yawdāk yeqiptu. (21)tiyin nawra çelip naxša 'eytipty, kepinäk 'ussulka çüşüptu...

(22) – kepinäk, kepinäk kalgın jan dostum, bu güzäl bawçamda pārwaz qılın şad...

(23)şundaq qilip 'ikki dost qanwučä 'oynap künni kāçläptu. (24)tiyin kepinäkkä « nawrini 'igisigä 'apirip berimān » dāp wādä beriptu wä 'ikkisi 'atā körüşidıkan bolup xuşlişiptu.

2. tiyin bilän kepinäk

リス と チョウ

- (1) bir kün-i 'aç köz tiyin baǵ-da 'oyna-wet-ip, bir naǵr-i-ni kör-üp
 1 日-POSS.3 貪欲な リス 庭-LOC 遊ぶ-ASP-CVB 1 太鼓-POSS.3-ACC 見る-CVB
 qa-ptu. (2) 'u 'ätrap-qa säpsel-ip, 'adäm yoqluq-i-ni
 残る-PF 彼 周り-DAT よく見る-CVB 人 いない-POSS.3-ACC
 bayqı-ǵan-din keyin, « naǵr-i-ni 'el-ip=la qač-ay-ču! »
 分かる-PTCP.PST-ABL あと 太鼓-POSS.3-ACC 取る-CVB=CL 逃げる-VOL-MOD
 de-gän-ni köñli-gä pük-üp naǵr-i-ǵa yeqinli-š-iptu= dä ,
 言う-PTCP.PST-ACC 心-DAT 覚える-CVB 太鼓-POSS.3-DAT 近づく-RECP-PF=CL
 'u-ni kötür-üp=la qeč-iptu. (3) 'u ket-iwet-ip qorsıq-i-niñ
 それ-ACC 持って行く-CVB=CL 逃げる-PF 彼 行く-ASP-CVB 腹-POSS.3-GEN
 'aç-qan-liq-i-ni hes qil-ip, naǵr-i-ni tašli-wet-iptu.
 空く-PTCP.PST-IIIK-POSS.3-ACC 感覚 する-CVB 太鼓-POSS.3-ACC 投げる-ASP-PF
 (4) 'u bir 'öy-niñ 'aldi-ǵa kä-ptu wä bir 'ayal-niñ tonur-ǵa nan
 彼 1 家-GEN 前-DAT 来る-PF と 1 女性-GEN かまど-DAT ナン
 yeq-iwat-qan-liq-i-ni, qizir-ip piš-qan nan-lar-niñ tonur
 つける-ASP-PTCP.PST-IIIK-POSS.3-ACC 赤くなる-CVB 熱する-PTCP.PST ナン-PL-GEN かまど
 beš-i-ǵa yey-ip qoy-ul-ǵan-liq-i-ni kör-üp, (5) näps
 そば-POSS.3-DAT 広げる-CVB 置く-PASS-PTCP.PST-IIIK-POSS.3-ACC 見る-CVB 欲望
 taqilda-p ket-iptu=dä nan-din bir-ni 'ovrila-p tonur-niñ yeni-diki
 迫る-CVB 行く-PF=CL ナン-ABL 1-ACC 盗む-CVB かまど-GEN そば-にある
 dārāx-niñ šex-i-ǵa čiq-ip 'oltur-up, yä-y dä-p
 木-GEN 枝-POSS.3-DAT 上る-CVB 座る-CVB 食べる-VOL 思う-CVB
 tur-uš-i-ǵa tonur beš-i-diki qovun-ǵa köz-i čüş-üp
 続ける-VN-POSS.3-DAT かまど そば-POSS.3-にある メロン-DAT 目-POSS.3 落ちる-CVB
 nan-ni tašli-wet-iptu (6) wä dārāx-tin čüş-üp qovun-ni 'ovrila-p
 ナン-ACC 投げる-ASP-PF そして 木-ABL 降りる-CVB メロン-ACC 盗む-CVB
 qeč-iptu. (7) bu čaǵ-da hoyli-diki güllük-tä 'oyna-watqan kepinäk
 逃げる-PF この とき-LOC 中庭-にある 花壇-LOC 遊ぶ-PTCP.PROG チョウ
 tiyin-ni kör-üp qil-ip 'u-niñ 'arqi-si-din qovla-ptu. (8) kepinäk
 リス-ACC 見る-CVB する-CVB 彼-GEN 後ろ-POSS.3-ABL 追う-PF チョウ
 tiyin-ǵa yetiš-iwa-ptu wä :
 リス-DAT 追いつく-ASP-PF そして
 (9) – bašqi-lar-niñ nārsi-si-ni xalıranča 'ovrili-wal-sa-ŋ qandaq
 他-PL-GEN もの-POSS.3-ACC 欲しいままに 盗む-ASP-COND-2SG どのように
 bol-i-du? (10) 'ovuriliq qil-iš nemidegän nomusluq 'iš! (11) bundaq
 なる-PRS-3 盗み する-VN なんと 恥ずかしい こと このように

- ket-iwār-sä-ŋ haman bir kün-i 'öz-üŋ-ni nabut qil-i-sän! – dä-ptu.
行く-ASP-COND-2SG すぐに 1 日-POSS.3 自分-2SG-ACC 壊滅 する-PRS-2SG 言う-PF
- (12) – 'ämmsä qandaq qil-i-män? – dä-p sora-ptu tiyin 'aččiŋi-da.
それなら どのように する-PRS-1SG 言う-CVB 問う-PF リス 憤慨-LOC
- (13) – qoŋun-ni jay-i-ka 'apir-ip qoy, šundaq qil-sa-ŋ
メロン-ACC 場所-POSS.3-DAT 持って行く-CVB 置く そのように する-COND-2SG
- män sän bilän dost bol-i-män, qandaq? – dä-ptu kepinäk.
私 君 と 親友 なる-PRS-1SG どう 言う-PF チョウ
- (14) – maqul, – dä-ptu tiyin čirayliq bilän dost bol-uš koy-i-da.
分かった 言う-PF リス 美しい 一緒に 親友 なる-VN 思い-POSS.3-LOC
- (15) tiyin qoŋun-ni 'apir-ip jay-ka qoy-up qoy-uŋtu. (16) 'öy
リス メロン-ACC 持って行く-CVB 場所-DAT 置く-CVB 置く-PF 家
- 'igi-si tiyin-niŋ xataliq-i-ni tonu-kan-liq-i-din mämnun bo-ptu.
主人-POSS.3 リス-GEN 過ち-POSS.3-ACC 知る-PTCP.PST-IK-POSS.3-ABL 満足した なる-PF
- (17) šu-niŋ bilän kepinäk tiyin-ka 'ägiš-ip 'oyni-ŋili meŋ-iŋtu. (18) 'ular
それ-GEN と チョウ リス-DAT 従う-CVB 遊ぶ-CVB 歩く-PF 彼ら
- tiyin baya tašli-wät-kän naŋr-i-niŋ qeš-i-ka käl-gän-dä,
リス さっき 投げる-ASP-PTCP.PST 太鼓-POSS.3-GEN そば-POSS.3-DAT 来る-PCTP.PST-LOC
- tiyin kepinäk-kä :
リス チョウ-DAT
- (19) – män saŋa naŋra čel-ip ber-äy, sän 'ussul 'oyna-p bär-gin
私 君.DAT 太鼓 叩く-CVB 与える-VOL 君 踊り 踊る-CVB 与える-IMP.2SG
- dä-p tur-uwa-ptu. (20) bu täklip kepinäk-kä yaŋ-däk yeŋ-iŋtu.
言う-CVB 続ける-ASP-PF この 提案 チョウ-DAT 油-SIM 火をつける-PF
- (21) tiyin naŋra čel-ip naxša 'eyt-iŋtu, kepinäk 'ussul-ka čüš-üŋtu...
リス 太鼓 叩く-CVB 歌 歌う-PF チョウ 踊り-DAT 始める-PF
- (22) – kepinäk, kepinäk käl-gin jan dost-um, bu güzäl bačam-da
チョコウ チョウ 来る-IMP.2SG 心 友だち-POSS.1SG この 美しい 庭-LOC
- pärwaz qil-ŋin šad...
飛翔 する-IMP.2SG 愉快的な
- (23) šundaq qil-ip 'ikki dost qan-kučä 'oyna-p kün-ni
そのように する-CVB 2 友だち 満足する-まで 遊ぶ-CVB 日-ACC
- käčlä-ptu. (24) tiyin kepinäk-kä « naŋr-i-ni 'igi-si-gä 'apir-ip
夜が更ける-PF リス チョウ-DAT 太鼓-POSS.3-ACC 主-POSS.3-DAT 持って行く-CVB
- ber-i-män » dä-p wädä ber-iŋtu wä 'ikki-si 'ätä körüš-idiŋan
与える-PRS-1SG 言う-PF.CVB 約束 与える-PF そして 2-POSS.3 翌日 会う-PTCP.NPST
- bol-up xušliš-iŋtu.
なる-CVB 別れる-PF

2. リスとチョウ

(1)ある日、欲ばりなリスが庭で遊んでいて、一つの太鼓を見つけた。(2)リスは周りを注意深く見て、人がいないことが分かったあとで、「太鼓を持って逃げよう!」と心の中で思い、太鼓に近づいた。そしてすぐにそれを持って逃げていった。(3)リスは途中でおなかがすいていることに気づき、太鼓を投げ捨ててしまった。(4)そしてある家の前に来た。一人の女性がかまどにナンをくっつけているのを、そして赤く焼かれたナンがかまどの入り口に広げて置かれているのを見て、(5)欲がむずむずわいてくるや、すぐにナンの一つを盗んでかまどのそばにある木の枝に登り、座って食べようとしたところ、かまどのそばにあるメロンに目がいて、ナンを投げ捨てた。(6)そして木から下りてメロンを盗んで逃げた。(7)このとき中庭にある花壇で遊んでいたチョウがリスを見ており、その後を追った。(8)チョウはリスに追いつき、次のように言った：

(9)―他の人のものを欲しいままに盗んでどうなるの? (10)盗みをするのはなんと恥ずかしいこと!(11)こんなふうが続けていくと、いつかは自分をだめにするだろうね!―と言った。

(12)―それなら、どうすればいいんだ? ―とリスは怒って聞いた。

(13)―メロンをもとの場所に返しておきなさい、そうすれば、私は君と親友になろう、どう? とチョウは言った。

(14)―いいよ―とリスは、美しいチョウと親友になることを望んで言った。

(15)リスはメロンを持って行き、もとの場所に置いておいた。(16)家の主人はリスが過ちに気づいたことに満足した。(17)そうして、チョウはリスについて、遊びに行った。(18)彼らは、リスがさっき投げ捨てた太鼓のそばに行き、そしてリスはチョウへ言った：

(19)―僕は君に太鼓を叩いてあげよう、君は踊りを踊ってちょうだい―と言った。(20)この提案にチョウは大変喜んだ。(21)リスは太鼓を叩いて歌を歌い、チョウは踊りを始めた。

(22)―チョウ、チョウ、おいで心の友、この美しい庭で飛べ、楽しく…

(23)このようにして2匹の親友は心ゆくまで遊び、日を過ごした。(24)リスはチョウに「太鼓を持ち主に持って行ってあげる」と約束した。そして2匹は翌日会うことにして、別れた。

3. maxtançaq toşqan

- (1) toşqan bilän tumučuq toşqanniñ 'öyidä tawuz yeyişip 'olturkanda , toşqan 'aç paqiliq qilip jiq yäwaptu. (2) tomučuq toşqanniñ 'aǵrip qelişidin 'änsiräp:
- (3) – telewizorni 'açaşçu, körgäç 'olturayli! – дәptu. (4) rast degändäk toşqan telewizorni 'ačqandin keyin , tawuz yeyiştin toxtaptu. (5) 'amma , telewizorda çiqwatqan närsilärni tonuşturup, tumučuqqa 'aram bärnäptu.
- (6) – 'awu 'adämniñ puti, 'awu 'adäm, yenidiki qotur 'it, yetiliwalıni 'at... 'änä...
- (7) – way, boldi qılşaңçu, bäk mänmänçi 'ikänsiz! – дәptu tumučuq terikip.
- (8) – 'änä qara, traktorda yär häydawatqini meniñ 'aǵınäm bolidu, – дәp watildaweriptu toşqan.
- (9) дәl şu çagda 'it kelip tumučuqni çaqiriptu.
- (10) – hä mana, 'it 'aka... – tumučuq toşqandin qutulidıkan boldum дәp 'oylap derizigä qonuptu.
- (11) – biz darwazliq 'oyuni 'oynayli bolamdu? – дәptu 'it tumučuqqa. (12) tumučuq maqul boptu.
- (13) buniñka toşqanniñ 'ačçıqı kelip, 'ularka 'özini körsitip qoyuşni köñligä püküptu.
- (14) tumučuq 'itqa 'arǵamçıda meñişni 'ögitiwatqanda toşqan yügürüp kәptu wä :
- (15) – şunimu 'ögitiş ketämdu? (16) män sän dötlärgä 'arǵamçıda qandaq mañidıkanı bir körsitip qoyay! – дәp tumučuqniñ tosqınıñımu qarımay 'arǵamçıka çiqiptu. (17) toşqan bir näçčä qädäm meñipla yiqilip çüşüptu.
- (18) – xop boldi, pu 'atmisañ bolmamdu! – дәptu tumučuq.
- (19) – tola biljirlima! – дәptu toşqan, män hazirla 'awu kәptär meñiwatqan tok simida meñip çapaq közliriñni 'eçip qoyımän...(20) şundaq qilip 'ular stolba 'üstidiki taxtayka çiqtu. (21) bu yär häqiqätän 'egiz 'ikän. (22) toşqan pu 'atqanliqıka 'içidä puşayman qilsimu, gepidin yeniwelişqa yüzi çidimay , simka дәssäptu. (23) 'u miñ 'ölüp, miñ tirilip simniñ 'otturısıka kelişigä put-qolida jan qalmay, täñpuñluqini yoqıtiptu wä :
- (24) – qutquzuñlar! – дәp towlaşqa başlaptu. (25) nemä qilişini bilälmigän 'it bilän tumučuq toşqanka
- (26) – 'ikki qoluñda yänä bir simni tutuwal! – дәp warqiraptu. (27) biçarä toşqan 'aldidiki yänä bir simni tutuşıka tok soquwetip jenidin 'ayriliptu-dä, yärgä tik mollaq çüşüptu. (28) toşqanniñ maxtançaqlıqı 'axiri 'öziniñ beşiwa çiqiptu. (29) tumučuq, 'it, kәptärlärmu buniñdin 'ot sim bilän nöl simka täñ tegip kәtsä tok soquwetidıkanlıqini bilip, tok simi 'ätrapıka qayta yeqin kәlmäptu.

3. maxtančaq tošqan

うぬぼれや 兎

- (1) tošqan bilän tumučuq tošqan-niñ 'öy-i-dä tawuz ye-yiŝ-ip
 兎 と 雀 兎-GEN 家-POSS.3-LOC スイカ 食べる-RECP-CVB
 'oltur-kan-da, tošqan 'ač paqiliq qil-ip jiq yä-wa-ptu. (2) tumučuq
 座る-PTCP.PST-LOC 兎 がつつした する-CVB 多い 食べる-ASP-PF 雀
 tošqan-niñ 'aŋr-ip qel-iŝ-i-din 'änsirä-p:
 兎-GEN 病気になる-CVB 残る-VN-POSS.3-ABL 心配する-CVB
 (3) – telewizor-ni 'ač-sa-ŋ-ču, kör-gäč 'oltur-ayli! – dä-ptu.
 テレビ-ACC 開く-COND-2SG-MOD 見る-CVB 座る-VOL.1PL 言う-PF
 (4) rast de-gän-däk tošqan telewizor-ni 'ač-qan-din keyin, tawuz
 本当の 言う-PTCP.PST-SIM 兎 テレビ-ACC 開ける-PTCP.PST-ABL あと スイカ
 yey-iŝ-tin toxta-ptu. (5) 'amma, telewizor-da čiq-iwatqan närsi-lär-ni
 食べる-VN-ABL とめる-PF しかし テレビ-LOC 出る-PTCP.PROG もの-PL-ACC
 tonus-tur-up, tumučuq-qa 'aram bär-mä-ptu.
 知り合う-CAUS-CVB 雀 DAT 休息 与える-NEG-PF
 (6) – 'awu 'adäm-niñ put-i, 'awu 'adäm, yen-i-diki qotur 'it,
 あの 人-GEN 足-POSS.3 あの 人 そば-POSS.3-にある 疥癬の 犬
 yetili-wal-ŋin-i 'at... 'änä...
 連れる-ASP-PTCP.PST-POSS.3 馬 EXC
 (7) – way, bol-di qil-sa-ŋ-ču, bäk mänmänči 'ikän-siz! – dä-ptu
 EXC なる-PST する-COND-2SG-MOD とても うぬぼれ COPEV-2SG 言う-PF
 tumučuq terik-ip.
 雀 怒る-CVB
 (8) – 'änä qara, traktor-da yär häydä-watqin-i men-iñ 'aŋinä-m
 ほら 見る トラクター-LOC 場所 耕す-ASP-PTCP.PROG-POSS.3 私-GEN 友だち-POSS.1SG
 bol-i-du, – dä-p watilda-we-ptu tošqan.
 なる-PRS-3 言う-CVB くだくど言う-ASP-PF 兎
 (9) дәl šu čag-da 'it kel-ip tumučuq-ni čaqir-iptu.
 ちょうど その 時-LOC 犬 来る-CVB 雀-ACC 呼ぶ-PF
 (10) – hä mana, 'it 'aka... tumučuq tošqan-din qutul-idixan bol-du-m
 EXC EXC 犬 兄 雀 兎-ABL 逃れる-PTCP.NPST なる-PST-1SG
 dä-p 'oyla-p derizi-gä qon-uptu.
 言う-CVB 思う-CVB 窓-DAT とまる-PF
 (11) – biz darwazliq 'oyun-i 'oyna-yli bol-am-du? – dä-ptu 'it tumučuq-qa.
 私たち ダワズの 遊び-POSS.3 遊ぶ-VOL.1PL なる-Q-PRS.3 言う-PF 犬 雀-DAT
 (12) tumučuq maqul bo-ptu.
 雀 同意 なる-PF

- (13) bu-niŋ-ka toşqan-niŋ 'aččiq-i kel-ip, 'ular-ka 'öz-i-ni
 これ-GEN-DAT 兎-GEN 怒り-POSS.3 来る-CVB 彼ら-DAT 自分-POSS.3-ACC
 körsit-ip qoy-uş-ni köñl-i-gä pük-üptu. (14) tumučuq 'it-qa
 見せる-CVB 置く-VN-ACC 心-POSS.3-DAT 覚える-PF 雀 犬-DAT
 'arƣamči-da meñiş-ni 'ögit-iwatqan-da toşqan yügür-üp kä-ptu wä :
 綱-LOC 歩く-VN-ACC 教える-PTCP.PROG-LOC 兎 走る-CVB 来る-PF そして
- (15) – šu-ni=mu 'ögit-iş ket-äm-du? (16) män sän döt-lär-gä 'arƣamči-da
 それ-ACC=CL 教える-VN 行く-Q-PRS.3 私 君 まぬけ-PL-DAT 綱-LOC
 qandaq maŋ-idixan-ni bir körsit-ip qoy-ay! – dä-p tumučuq-niŋ
 どのように 歩く-PTCP.NPST-ACC 1 見せる-CVB 置く-VOL.1SG 言う-CVB 雀-GEN
 tos-qin-i-ki=mu qarimay 'arƣamči-ka čiq-iptu. (17) toşqan bir
 遮る-PTCP.PST-POSS.3-DAT=CL にも関わらず 綱-DAT 出る-PF 兎 1
 näččä qädäm meñ-ip=la yiqil-ip čüşü-ptu.
 いくつか 歩 歩く-CVB=CL 転ぶ-CVB 落ちる-PF
- (18) – xop bol-di, pu 'at-mi-sa-ŋ bol-ma-m-du! – dä-ptu tumučuq.
 EXC なる-PST 大言 投げる-NEG-COND-2SG なる-NEG-Q-PRS.3SG 言う-PF 雀
 (19) – tola biljirli-ma! – dä-ptu toşqan, män hazir=la 'awu käptär
 たくさん ぶつぶつ言う-NEG 言う-PF 兎 私 今=CL あの 鳩
 meñ-iwatqan tok sim-i-da meñ-ip čapaq köz-lir-iŋ-ni 'eč-ip
 歩く-PTCP.PROG 電気 線-POSS.3-LOC 歩く-CVB 曖昧な 目-PL-POSS.2SG-ACC 開ける-CVB
 qoy-i-män...
 置く-PRS-1SG
- (20) šundaq qil-ip 'ular stolba 'üst-i-diki taxtay-ka čiq-ptu. (21) bu
 そんな する-CVB 彼ら 柱 上-POSS.3にある 木の板-DAT 出る-PF この
 yär häqiqätän 'egiz 'ikän. (22) toşqan pu 'at-qan-liq-i-ka
 場所 本当に 高い COPEV 兎 大言 投げる-PTCP.PST-III-POSS.3-DAT
 'ič-i-dä puşayman qil-si=mu, gep-i-din yen-iwel-iş-qa yüz-i
 中-POSS.3-LOC 後悔 する-COND=CL ことば-POSS.3-ABL 退く-ASP-VN-DAT 顔-POSS.3
 čidi-may, sim-ka dässä-ptu. (23) 'u miŋ 'öl-üp, miŋ tirili-p
 がまんする-CVB.NEG 電線-DAT 踏む-PF 彼 千 死ぬ-CVB 千 生き返る-CVB
 sim-niŋ 'otturi-si-ka kel-iş-i-gä put-qol-i-da jan qal-may,
 電線-GEN 真ん中-POSS.3-DAT 来る-VN-POSS.3-DAT 手足-POSS.3-LOC 命 残る-CVB.NEG
 tänpunluq-i-ni yoqit-iptu wä :
 バランス-POSS.3-ACC 失う-PF そして
- (24) – qutquz-uŋlar! – dä-p towla-ş-qa başla-ptu.
 救う-IMP.2PL 言う-PF 叫ぶ-VN-DAT 始める-PF
- (25) nemä qil-iş-i-ni bil-äl-mi-gän 'it bilän tumučuq toşqan-ka
 何 する-VN-POSS.3-ACC 知る-ABIL-NEG-PTCP.PST 犬 と 雀 兎-DAT
- (26) – 'ikki qol-uŋ-da yänä bir sim-ni tut-uwal! – dä-p warqira-ptu.
 2 手-POSS.2-LOC また 1 電線-ACC つかむ-ASP 言う-CVB 叫ぶ-PF

- (27) bičarä tošqan 'aldi-diki yänä bir sim-ni tut-uš-i-ka tok
 哀れな 兎 前-にある 再び 1 線-ACC つかむ-VN-POSS.3-DAT 電気
 soq-uwet-ip jen-i-din 'ayrili-ptu =dä, yär-gä tik mollaq čüš-üptu.
 打つ-ASP-CVB 命-POSS.3-ABL 離れる-PF=CL 場所-DAT まっすぐな 宙返り 落ちる-PF
- (28) tošqan-niñ maxtančaqliq-i 'axiri 'öz-i-niñ beš-i-ka čiq-iptu.
 兎-GEN うぬぼれ-POSS.3 最後に 自分-POSS.3-GEN 頭-POSS.3-DAT 出る-PF
- (29) tumučuq, 'it, kaptär-lär=mu bu-niñ-din 'ot sim bilän nöl sim-ka täñ
 雀 犬 鳩-PL-=CL これ-GEN-ABL 火 線 と ゼロ 線-DAT 同じ
 teg-ip kät-sä tok soq-uwet-idikan-liq-i-ni bil-ip, tok sim-i
 触る-CVB 行く-COND 電流 打つ-ASP-PTCP.NPST-IJK-POSS.3-ACC 知る-CVB 電気 線-POSS.3
 'ätrap-i-ka qayta yeqin käl-mä-ptu.
 周り-POSS.3-DAT 再び 近く 来る-NEG-PF

3. うぬぼれやの兎

- (1)兎と雀が兎の家でスイカを食べていたときに、兎はがつがつとたくさん食べていた。(2)雀は兎が病気になるのを心配して言った。
- (3)ーテレビをつけたらどう。見ながらゆっくりしよう。ーと言った。(4)言ったとおりに兎はテレビをつけたあと、スイカを食べるのをやめた。(5)しかし、テレビに出てくるものをならべたて、雀に休息を与えなかった。
- (6)ーあの人の足、あの人、隣の疥癬の犬、連れられている馬…ほら…
- (7)ーああ、もうやめたらどう! 君はたいそううぬぼれやのようだね!ーと雀は怒って言った。
- (8)ーほら、見て、トラクターで土地を耕しているのは僕の友だちだよーと兎はくどくど言った。
- (9)ちょうどそのとき犬が来て、雀を呼んだ。
- (10)ーああ、犬の兄さん。ー 雀は兎から逃れられると思い、窓に舞い降りた。
- (11)ーダワズ [綱渡りをする曲芸家] の遊びをしよう、いいかい?ーと犬は雀に言った。(12)雀は同意した。(13)これに兎は怒り、彼らに自分のことを見せつけておこうと心積もりした。(14)雀が犬に綱の上で歩き方を教えているところに兎が走ってきて:
- (15)ーそれを教えているのか? (16)私は、お前ら、まぬけどもに綱の上でどう歩くかを見せおこう!ーと言って、雀の制止も気にせず綱に上った。(17)兎は何歩か歩いたところで転倒してしまった。
- (18)ーいいぞう! 大風呂敷を広げなければ良かったんじゃないのかい!ーと雀は言った。
- (19)ーぺちゃくちゃしゃべるな!ーと兎は言った。ー今からあの鳩が歩いた電線の上で歩いて、ぼやっとした目を覚まさせてやる… (20)そうして彼らは電柱の上にある木の板の上に乗った。(21)この場所はたいそう高かった。(22)兎は大口を叩いたことを心の中で後悔したが、言ったことを違えるのはぼつが悪いので、電線を踏んだ。(23)兎は生きた心地がしないまま、真ん中に来たところで、手足に力が入らず、バランスをくずしてしまった。そして:
- (24)ー助けて!ーと叫び始めた。(25)何をしたらいいのか分からない犬と雀は兎に:
- (26)ー両手で電線をつかめ!ーと叫んだ。(27)かわいそうな兎が前にある電線を再びつかんだところ、感電して息絶えてしまった。そしてすぐに地面にまっすぐ落ちていった。(28)兎のうぬぼれは、自業自得の結果となった。(29)雀と犬、鳩もこのことのと、プラスの線とマイナスの線へ同時に触ってしまうと、感電すると知り、電線の周りに再び近よらなかったそうだ。

4. bizniñ 'a'ilä

(1) bizniñ 'öydä bowam, momam, 'apam wä 'ukam qatarliq 'altä 'adäm bar. (2) bowam bilän momam dehqançiliq qilidu. (3) dadam zawutta işläydu. (4) 'apam 'oqutquçi. (5) män birinçi sinipta 'oquymän. (6) 'ukam nahayiti yıwlañıu. (7) kaçqurun hämmimiz jäm bolup kündüzi körgän, 'añlıkan 'işlar towruluq parañlışimiz. (8) bugün män dostlirim bilän 'oynikaç körgänlirimni şe'ir qilip yezip çıqtım :

(9) 'äynäk şürtär sälimä,

(10) mäş'al 'oynar 'äzimät.

(11) 'äxlät tökär hänipä,

(12) 'äs'ät polni taziliwät.

(13) 'öydikilär bu şe'irimni 'añlap, meni maxtap kätti. (14) bizniñ 'a'ilä bäkmu baxtlik, hämmimiz bir-birimizgä köyünimiz. (15) män 'a'ilimizni 'intayin yaxşı körimän.

4. biz-niḡ 'a'ilä

私たち-GEN 家族

- (1) biz-niḡ 'öy-dä bowa-m, moma-m, 'apa-m wä 'uka-m
 私たち-GEN 家-LOC 祖父-POSS.1SG 祖母-POSS.1SG 母-POSS.1SG そして 弟-POSS.1SG
 qatarliq 'altä 'adäm bar. (2) bowam bilän momam dehqançiliq qil-i-du.
 など 6 人 いる 祖父 と 祖母 農業 する-PRS-3
 (3) dada-m zawut-ta 'išlä-y-du. (4) 'apam 'oqutquçi. (5) män birinçi
 父-POSS.1SG 工場-LOC 働く-PRS-3 母 教師 私 1 番目
 sinip-ta 'oqu-y-män. (6) 'ukam nahayiti yivlaḡbu. (7) káčqurun hämmi-miz
 学年-LOC 学ぶ-PRS-1SG 弟 とても 涙もろい 晩 みんな-POSS.1PL
 jäm bol-up kündüz-i kör-gän, 'aḡli-ḡan 'iš-lar toḡruluq
 合計 なる-CVB 日中-POSS.3 見る-PTCP.PST 聞く-PTCP.PST こと-PL について
 paraḡli-š-i-miz. (8) бүgün män dost-lir-im bilän 'oyni-ḡaç
 話す-RECP-PRS-1PL 今日 私 友だち-PL-POSS.1SG と 遊ぶ-CVB
 kör-gän-lir-im-ni še'ir qil-ip yez-ip čiq-ti-m :
 見る-PTCP.PST-PL-POSS.1SG-ACC 詩 する-CVB 書く-CVB 出る-PST-1SG
 (9) 'äynäk sürt-är sälimä,
 鏡 拭く-AOR PSN
 (10) mäš'al 'oyna-r 'äzimät.
 松明 遊ぶ-AOR PSN
 (11) 'äxlät tök-är hānipä,
 ごみ 捨てる-AOR PSN
 (12) 'äs'ät pol-ni tazili-wät.
 PSN 床板-ACC きれいにする-ASP
 (13) 'öy-diki-lär bu še'ir-im-ni 'aḡla-p, meni maxta-p kät-ti.
 家にある-PL この 詩-POSS.1SG-ACC 聞く-CVB 私.ACC ほめる-CVB 行く-PST
 (14) biz-niḡ 'a'ilä bāk=mu bāxtlik, hämmi-miz bir-biri-miz-gä
 私たち-GEN 家族 とても=CL 幸せな みんな-POSS.1PL お互い-POSS.1PL-DAT
 köyün-i-miz. (15) män 'a'ili-miz-ni 'intayin yaxši kör-i-män.
 思いやる-PRS-1PL 私 家族-POSS.1PL-ACC とても 良い 見る-PRS-1SG

4. 私たちの家族

(1)私たちの家には祖父と祖母と、母と弟など、6人いる。(2)祖父と祖母は農業をしている。(3)父は工場で働いている。(4)母は教師だ。(5)私は一年生で、勉強している。(6)弟はとても泣き虫だ。(7)夜にはみんな集まって昼間に見たこと、聞いたことについて話し合う。(8)今日、私は友だちと遊びながら見たことを詩にして、書き上げた。

(9)鏡を拭くセリーム

(10)火打ち石で遊ぶエズィーメット

(11)ごみを捨てるヘニーペ

(12)エーセットは床をきれいにして

(13)家族はこの詩を聞いて、私をほめた。(14)私たちの家族はとても幸せで、みんなお互いを思いやっている。(15)私は家族が大好き。

5. bürkütniñ räsım sızışı

(1)bürkütniñ räsım kursıka qatnişiwatqınıka xeli künlär bolıanıkän. (2)'u räsım sızışni bākla yaxşı köridikän. (3)'u dārs 'arılıqıda raketa, rawaq, raqab qatarlıqlarınıñ räsımını sizip bolıandın keyin , yānā nemā sızışını zadıla bilālmāptu. (4)bir küni 'u 'ormanlıqqa berip sizidıwan 'obyekt tapalmay xiyal sürüp 'oltursa, 'orman 'ıçidin bir šir çiqip kelip, bir qoram taşniñ 'üstigä çiqip 'uxlap qaptu. (5)pursätni kaniymät bilgän bürküt dārhal širniñ 'uxlap yatqan qiyapitini sızışqa başlaptu. (6)räsımni sizip bolay degändä, hawa šarida 'olturup säylä qiliwatqan 'ikki 'oquwuçi bu yärdin 'ötüp qaptu. (7)'ular bürkütiniñmu räsım sizalaydıwanlıqıka häyran qilip 'uniñ räsım sızışını 'eniqraq körüš 'üçün päsligänikän.

(8)šir 'oykınıp ketiptu-dä, kälitä hawa šarını körüp, bādär qeçiptu. (9)bürküt räsımni pütürälmiginiğä 'apsuslinip :

(10)—šir 'aka, toxta ! män texi sizip bolalmidim, —dāp širniñ kāynidin qoqlaptu. (11)šir hawa šaridin bākla qorqup kätkanlıktin 'uduldiki yoxan bir dārāxkā jañıdā 'üssüp yiqilıptu. (12)çişirimu sunup ketiptu. (13)šuniñdin keyin šir härgiz sırtta uxlap qalmaydıwan boptu. (14)bürküt bolsa ta hazırıçä čala qalwan räsımını pütürüweliš 'üçün, heliqi qoram taşniñ yenida (15) «šir qačan kelip taš 'üstidä 'uxlaydıkin ? » dāp 'uni saqlap , qälimini siyahqa čilap, 'eñikini yölöp 'olturarmış...

5. bürküt-niñ räsım siz-iş-i

鷲-GEN 絵 書く-VN-POSS.3

- (1) bürküt-niñ räsım kurs-i-ƙa qatni-š-iwatqın-i-ƙa xeli
 鷲-GEN 絵 講座-POSS.3-DAT 行き来する-RECP-PTCP.PROG-POSS.3-DAT 相当
 kün-lär bol-ƙan-ikän. (2) 'u räsım siz-iş-ni bäk=la yaxşı kör-idi-kän.
 日-PL なる-PTCP.PST-COPEV 彼 絵 書く-VN-ACC とても=CL 良い 見る-PRS.3-EV
 (3) 'u dārs 'arılıq-i-da raketa, rawaq, rawab qatarlıq-lar-niñ räsım-i-ni
 彼 授業 間-POSS.3-LOC ロケット 楼閣 ラワーブ など-PL-GEN 絵-POSS.3-ACC
 siz-ip bol-ƙan-dın keyin, yänä nemä siz-iş-i-ni zadı=la
 描く-CVB なる-PTCP.PST-ABL あと 再び 何 描く-VN-POSS.3-ACC 全=CL
 bil-äl-mä-ptu. (4) bir kün-i 'u 'ormanlıq-qa ber-ip siz-idiƙan 'obyekt
 知る-ABIL-NEG-PF 1 日-POSS.3 彼 森-DAT 行く-CVB 描く-PTCP.NPST 対象
 tap-al-may xiyal sür-üp 'oltur-sa, 'orman 'iç-i-din bir
 見つける-ABIL-CVB.NEG 物思いに耽る-CVB 座る-COND 森 中-POSS.3-ABL 1
 šir čiq-ip kel-ip, bir qoram taš-niñ 'üst-i-gä čiq-ip
 ライオン 出る-CVB 来る-CVB 1 巨大な 石-GEN 上-POSS.3-DAT 出る-CVB
 'uxla-p qa-ptu. (5) pursät-ni ƙäniymät bil-gän bürküt dārhal šir-niñ
 眠る-CVB 残る-PF 機会-ACC 貴重な 思う-PTCP.PST 鷲 すぐ ライオン-GEN
 'uxla-p yat-qan qiyapit-i-ni siz-iş-qa başla-ptu.
 眠る-CVB 横たわる-PTCP.PST 容貌-POSS.3-ACC 描く-VN-DAT 始める-PF
 (6) räsım-ni siz-ip bol-ay de-gän-dä, hawa šar-i-da 'oltur-up
 絵-ACC 描く-CVB なる-VOL.1SG 言う-PTCP.PST-LOC 空気 風船-POSS.3-LOC 座る-CVB
 säylä qıl-iwatqan 'ikki 'oquƙuči bu yār-dın 'öt-üp qa-ptu.
 散歩 する-PTCP.PROG 2 学生 この 場所-ABL 過ぎる-CVB 残る-PF
 (7) 'ular bürküt-niñ=mu räsım siz-alay-diƙanlıq-i-ƙa häyran qıl-ip
 彼ら 鷲-GEN=CL 絵 描く-ABIL-PTCP.NPST-POSS.3-DAT あげんとする-CVB
 'u-niñ räsım siz-iş-i-ni 'eniƙ-raq kör-üş 'üçün päšli-gän-ikän.
 彼-GEN 絵 描く-VN-POSS.3-ACC よく-COMP 見る-VN ために 下がる-PTCP.PST-COPEV
 (8) šir 'oyƙın-ip ket-iptu=dä, ƙälitä hawa šar-i-ni kör-üp,
 ライオン 目覚める-CVB 行く-PF=CL 奇妙な 空気 風船-POSS.3-ACC 見る-CVB
 bädär qeč-iptu. (9) bürküt räsım-ni püttür-äl-mi-gin-i-gä
 必死で 逃げる-PF 鷲 絵-ACC 終える-ABIL-NEG-PTCP.PST-POSS.3-DAT
 'äpsuslin-ip :
 くやしがる-CVB
 (10) —šir 'aka, toxta ! män texi siz-ip bol-al-mi-di-m, —dä-p
 ライオン 兄 止める 私 まだ 描く-CVB なる-ABIL-NEG-PST-1SG 言う-CVB
 šir-niñ ƙäyn-i-din qoƙla-ptu. (11) šir hawa šar-i-din bäk=la
 ライオン-NEG 後-POSS.3-ABL 追う-PF ライオン 空気 風船-POSS.3-ABL とても=CL

qorq-up kät-kän-lik-tin 'udul-diki yoxan bir dārāx-kä jaŋŋidä
 怖がる-CVB 行く-PTCP.PST-IJK-ABL まっすぐ-にある 大きな 1 木-DAT ドーンと
 'üss-üp yiqil-iptu. (12) čiš-lir-i=mu sun-up ket-iptu. (13) šu-niŋ-din
 突く-CVB 倒れる-PF 齒-PL-POSS.3=CL 砕ける-CVB 行く-PF それ-GEN-ABL
 keyin šir härgiz srt-ta 'uxla-p qal-may-diŋan bo-ptu.
 あと ライオン 決して 外-LOC 眠る-CVB 残る-NEG-PTCP.NPST なる-PF
 (14) bürküt bol-sa ta hazirvičä čala qal-ŋan räsım-i-ni
 驚 なる-COND ずっと いまだに 半分 残る-PTCP.PT 絵-POSS.3-ACC
 püttür-üwel-iš 'üčün, heliqi qoram taš-niŋ yen-i-da (15) «šir
 終わる-ASP-VN ために 例の 巨大な 石-GEN そば-POSS.3-LOC ライオン
 qačan kel-ip taš 'üst-i-dä 'uxla-y-di-kin ? » dä-p 'u-ni saqla-p ,
 いつ 来る-CVB 石 上-POSS.3-LOC 眠る-PRS-3-MOD 言う-CVB 彼-ACC 待つ-CVB
 qālim-i-ni siyah-qa čila-p, 'eŋik-i-ni yölä-p 'oltur-ar-miš...
 筆-POSS.3-ACC インク-DAT つける-CVB あご-POSS.3-ACC 支える-CVB 座る-AOR-EV

5. 鷺が絵を描くこと

(1)鷺が絵の講座に参加してかなりの日数になったそうだ。(2)鷺は絵を描くことをとても好んでいた。(3)鷺は授業の合い間にロケットや楼閣、ラワーブ [弦楽器の一種] などの絵を描いて、そのあとは何を描くのか全く分からなかった。(4)ある日鷺が森へ行き、描く対象が見つからずに物思いにふけて座っていたら、森の中から一匹のライオンが出てきて、巨大な岩の上にのぼり、眠ってしまった。(5)またとない機会だと思った鷺は、すぐにライオンの眠っている姿を描き始めた。(6)絵を描き終わりそうになったとき、熱気球に乗って散策していた 2 人の学生がこの場所を通り過ぎた。(7)彼らは、鷺も絵を描くことに驚き、鷺が絵を描くのをもっとよく見るために（気球の高度を）低くした。

ライオンは目を覚ましてすぐに(8)奇妙な熱気球を見て、必死で逃げた。(9)鷺は絵を終えることができず、くやしがった。

(10)ーライオンのお兄さん、待って！ 私はまだ描き上げられていないんだ。ーと言ってライオンの後を追った。(11)ライオンは熱気球をととても怖がってしまっていたので、正面の大きな木へドーンと突っ込み、倒れてしまった。(12) 歯も砕けてしまった。(13)その後、ライオンは決して外では眠らないようになった。(14)鷺はというと、ちょうど半分残っている絵を終わらせるために、その巨大な岩のそばで(15)「ライオンはいつ来て岩の上で眠るのか？」と思いながらライオンを待ち、筆をインクにつけて、ほおづえをついて座っているそうだ…

6. 'ikki dost

(1)burunqi zamanda yapyeşil 'ot-çöp, bük-baraqsan däl-däräx wä xuş puraq güllär bilän tolğan bir jay bar 'ikän. (2) 'ätraptin 'aliquançilik qomluq yaki taşliq tapqili bolmaydikän. (3)haywanlar bu jayni jännät makan döp 'atişidikän. (4)zirapijan bilän yilpizaxun 'aşu sexiy täbi'ätniñ qoynida wämsiz, xuşal-xuram yaşap keliwatqan yeqin dostlardin 'ikän. (5)bir küni 'ular 'aditi boyičä dala säylisigä çiqiptu. (6) 'ular 'özleriniñ 'öy, baliliri wä 'ularniñ kalgüsi towrısında parañlişip ketiwetip heçqačan 'uçratmıkan qorqunçluq mänzirigä duç kaptu. (7) 'ular qarıkudäk bolsa 'ätraptiki däl-däräxlär kesilgän, 'ot-çöplär çäylängänikän.

(8) — buni zadi kim qılkanı? — daptu zirapijan 'ačçqini zorıka besip.

(9) — bu heliqi «'adäm» döp 'atılıdikan mäxluqlariniñ 'işi bolsa keräk. (10)qarıkına bu 'izlarğa, şularniñkidäk qilidu, — döp yilpizaxun yiraqqa sozulğan 'adäm 'izlerini körsitip.

(11) — bir muşu 'izni boylap meñip baqayli, bälkim 'adamlariniñ şünčä köp däreaxni zadi nemigä 'işlitidikanliqini biliwalarmiz, — daptu zirapijan. (12) 'ular 'adamlariniñ 'izini boylap yürüp ketiptu. (13) yolda 'ularğa 'üzülüp kätken bir zanjir 'uçraptu.

(14) — bu zanjirni çoqum däreax käskänlär çüşürüp qoyğan gäp! — daptu yilpizaxun çişlirini çuçurlitip.

(15) 'ular meñiwetip çoñ bir zawutniñ 'aldıka kelip qaptu. (16) heliqi 'iz 'udul muşu zawutqa kirip kätkenikän. (17) yilpizaxun 'özini tutuwalalmay zirapijanğa :

(18) — dostum, meni muşu yärdä saqlap turın, män zawutqa kirip häqiqiy 'ahwalni 'uqup baqay, hayalşimayla çiqimän. (19) tasadipiy çiqalmay qalsam, 'udul berip 'orman padişahıka xäwär qiliwät... (20) 'ägär 'ölüp kätsem balilirimğa qarap qoyarsän... daptu 'esädöp.

(21) 'undaq demä jenim dostum, sän çoqum qaytip çiqalaysän! — daptu zirapijan köñli wämkin halda.

(22)şundaq qilip yilpiz 'axun zawutqa kirip ketiptu. (23)zirapijan 'uni saqlap turuptu. (24)bir çakda yilpizaxun taxtaydin birni çişligän halda zawuttin çiqip kaptu. (25) 'ikki dost saq-salamät körüşüp 'ahwallişıptu. (26) 'aslidä 'adamlar däreaxlärni kesip 'äkelip bu zawutta zinnät taxtisi wä başqa turmuş lazimätliklerini yasaydikän... (27)'ular häqiqiy 'ahwalni bilgändin keyin bu 'işni 'orman padişahıka xäwär qılili meñiptu wä barliq haywanlarni toplap 'ormanni jan tikip qorıdaşni köñligä püküptu.

6. 'ikki dost

2 友だち

- (1) burunqi zaman-da yapyeşil 'ot-čöp, bük-baraqşan däl-däräx wä xuş puraq
 前の とき-LOC 青々とした 草葉 うっそうとした 樹木 と 楽しい 香り
 gül-lär bilän tol-ğan bir jay bar 'ikän. (2) 'ätrap-tin aliqançilik
 花-PL 一緒に 満ちる-PTCP.PST 1 場所 ある COPEV 周り-ABL 手の平ほどの
 qumluq yaki taşliq tap-qili bol-ma-ydi-kän. (3) haywan-lar bu jay-ni
 砂 あるいは 石 探す-CVB なる-NEG-PRS.3SG-EV 動物-PL この 場所-ACC
 jännät makan dä-p 'ati-ş-idi-kän. (4) zirapi-jan bilän yilpiz-axun
 天国 すみか 言う-CVB 呼ぶ-RECP-PRS.3SG-EV キリン-DIM 一緒に ヒョウ-HON
 'aşu sexiy täbi'ät-niñ qoyn-i-da vämsiz, xuşal-xuram yaşa-p
 あの おおらかな 自然-GEN 懐-POSS.3-LOC 憂いも心配もない 幸せな 暮らす-CVB
 kel-iwat-qan yeqin dost-lar-din 'ikän. (5) bir kün-i 'ular 'adit-i
 来る-ASP-PTCP.PST 近い 友だち-PL-ABL COPEV 1 日-POSS.3 彼ら 習慣-POSS.3
 boyičä dala säyli-si-gä čiq-iptu. (6) 'ular 'öz-lir-i-niñ 'öy,
 に従い 野原 散歩-POSS.3-DAT 出る-PF 彼ら 自分-PL-POSS.3-GEN 家
 bali-lir-i wä 'ular-niñ kälğüsi tobrisida parañliš-ip ket-iwet-ip
 子ども-PL-POSS.3 と 彼ら-GEN 将来 について 話し合う-CVB 行く-ASP-CVB
 heçqačan 'učrat-mi-ğan qorqunçluq mänziri-gä duç kä-ptu. (7) 'ular qarıw-däk
 今まで 会う-NEG-PTCP.PST 恐ろしい 風景-DAT 出くわす-PF 彼ら 盲人-SIM
 bol-sa 'ätrap-tiki däl-däräx-lär kes-il-gän, 'ot-čöp-lär čäylän-gän-ikän.
 なる-COND 周り-にある 樹木-PL 切る-PASS-PTCP.PST 草-PL 踏む-PTCP.PST-COPEV
 (8) —bu-ni zadi kim qil-ğan-du? — dä-ptu zirapi-jan 'aččq-i-ni
 これ-ACC 一体 誰 する-PTCP.PST-3 言う-PF キリン-DIM 怒り-POSS.3-ACC
 zor-i-ka bes-ip.
 無理-POSS.3-DAT 抑える-CVB
 (9) —bu heliqi «'adäm» dä-p 'atil-idikan mäxluq-lar-niñ 'iş-i
 これ あの 人 言う-CVB 呼ばれる-PTCP.NPST 生物-PL-GEN 仕業-POSS.3
 bol-sa keräk. (10) qari-ğina bu 'iz-lar-ğa, şu-lar-niñ-ki-däk qil-i-du,
 なる-COND 必要 見る-IMP.2SG この 跡-PL-DAT その-PL-GEN-にある-SIM する-PRS-3
 —dä-p yilpiz-axun yiraq-qa sozul-ğan 'adäm 'iz-lir-i-ni körsit-ip.
 言う-CVB ヒョウ-HON 遠い-DAT のびる-PTCP.PST 人 跡-PL-POSS.3-ACC 見せる-CVB
 (11) —bir muşu 'iz-ni boyla-p meñ-ip baq-ayli, bälkim 'adäm-lär-niñ
 1 この 跡-ACC 沿う-CVB 歩く-CVB 見る-VOL.2PL おそらく 人-PL-GEN
 šünčä köp däräx-ni zadi nemi-gä 'işlit-idikan-liq-i-ni
 そのような 多く 木-ACC 一体 何-DAT 使う-PTCP.NPST-LIK-POSS.3-ACC
 bil-iwal-ar-miz, —dä-ptu zirapi-jan. (12) 'ular 'adäm-lär-niñ 'iz-i-ni
 知る-ASP-AOR-1PL 言う-PF キリン-DIM 彼ら 人-PL-GEN 跡-POSS.3-ACC

boyla-p yürü-p ket-iptu. (13) yol-da 'ular-ka 'üzül-üp kät-kän bir
 沿う-CVB 進む-CVB 行く-PF 道-LOC 彼ら-DAT 切れる-CVB 行く-PTCP.PST 1

zänjir 'uçra-ptu.
 鎖 出くわす-PF

(14) – bu zänjir-ni çoqum dārāx kās-kän-lār çüşür-üp qoy-kan gāp!
 この 鎖-ACC きっと 木 切る-PTCP.PST-PL 落とす-CVB 置く-PTCP.PST 話

– dā-ptu yilpiz-axun çiš-lir-i-ni kuçurlit-ip. (15) 'ular meñ-iwer-ip
 言う-PF ヒョウ-HON 歯-PL-POSS.3-ACC 歯を食いしばる-CVB 彼ら 歩く-ASP-CVB

çoñ bir zawut-niñ 'aldi-ka kel-ip qa-ptu. (16) heliqi 'iz 'udul muşu
 大きい 1 工場-GEN 前-DAT 来る-CVB 残る-PF その 跡 まっすぐ この

zawut-qa kir-ip kät-kän-ikän. (17) yilpiz-axun 'öz-i-ni
 工場-DAT 入る-CVB 行く-PTCP.PST-COPEV ヒョウ-HON 自分-POSS.3-ACC

tut-uwal-al-may zirapi-jan-ka :
 保つ-ASP-ABIL-CVB.NEG キリン-DIM-DAT

(18) – dost-um, meni muşu yār-dā saqla-p tur-kin, män
 友だち-POSS.1SG 私.ACC この 場所-LOC 待つ-CVB 続ける-IMP.2SG 私

zawut-qa kir-ip häqiqiy 'ahwal-ni 'uq-up baq-ay, hayalşi-may=la
 工場-DAT 入る-CVB 本当の 状況-ACC 分かる-CVB 見る-VOL.1SG 遅れる-NEG.CVB=CL

çiq-i-män. (19) tasadipiy çiq-al-may qal-sa-m, 'udul ber-ip
 出る-PRS-1SG 意外な 出る-ABIL-CVB.NEG 残る-COND-1SG まっすぐ 行く-CVB

'orman padişah-i-ka xāwār qil-iwāt... (20) 'āgār 'öl-üp kät-sä-m
 森 王-POSS.3-DAT 知らせ する-ASP もし 死ぬ-CVB 行く-COND-1SG

bali-lir-im-ka qara-p qoy-ar-sän... dā-ptu 'esädä-p.
 子ども-PL-POSS.1SG-DAT 世話する-CVB 置く-AOR-2SG 言う-PF すずり泣く-CVB

(21) 'undaq de-mä jen-im dost-um, sän çoqum qayt-ip
 そのように 言う-NEG 心-POSS.1SG 友だち-POSS.1SG 君 必ず 戻る-CVB

çiq-ala-ysän! – dā-ptu zirapi-jan köñli wämkin hal-da.
 出る-ABIL-PRS.2SG 言う-PF キリン-DIM 心 嘆き悲しんだ 様子-LOC

(22) şundaq qil-ip yilpiz-axun zawut-qa kir-ip ket-iptu.
 そのように する-CVB ヒョウ-HON 工場-DAT 入る-CVB 行く-PF

(23) zirapi-jan 'u-ni saqla-p tur-uptu. (24) bir çaq-da yilpiz-axun
 キリン-DIM 彼-ACC 待つ-CVB 続ける-PF 1 とき-LOC ヒョウ-HON

taxtay-din bir-ni çišli-gän hal-da zawut-tin çiq-ip kâ-ptu.
 板-ABL 1-ACC くわえる-PTCP.PST 様子-LOC 工場-ABL 出る-CVB 来る-PF

(25) 'ikki dost saq-salamät körüş-üp 'ahwalliş-iptu. (26) 'asli-dä 'adäm-lär
 2 親友 無事 会う-CVB 話し合う-PF 本来-LOC 人-PL

dārāx-lär-ni kes-ip 'äkel-ip bu zawut-ta zinnät taxti-si wä
 木-PL-ACC 切る-CVB 持って来る-CVB この 工場-LOC 飾り 板-POSS.3 と

başqa turmuş lazimätlik-lir-i-ni yasa-y-di-kän...
 他の 生活 必需品-PL-POSS.3-ACC 作る-PRS-3-EV

(27) 'ular häqiqiy 'ahwal-ni bil-gän-din keyin bu 'iş-ni 'orman
 彼ら 本当 状況-ACC 知る-PTCP.PST-ABL あと この こと-ACC 森
 padišah-i-ka xäwär qil-ıılı meñ-iptu wä barlıq haywan-lar-ni toplap
 王-POSS.3-DAT 知らせ する-CVB 歩く-PF と すべての 動物-PL-ACC 集める-CVB
 'orman-ni jan tik-ip qorıda-ş-ni köñli-gä pük-üptu.
 森-ACC 命 立てる-CVB 守る-VN-ACC 心-DAT 覚える-PF

6. 二頭の友だち

(1)昔、青々とした草葉や、うっそうとした木々、心地よい香りの花々で満ちた場所があったそうだ。(2)辺りには手の平ほどの砂も小石もなかったそうだ。(3)動物たちはこの場所を楽園と呼んだ。(4)キリンとヒョウはおおらかな自然の懐で憂いも心配もなく、幸せに暮らしていた親しい友だちだった。(5)ある日彼らはいつものように野原の散歩に出た。(6)彼らが自分の家や子ども、将来について語り合っていると、今まで見たこともない恐ろしい光景に出くわした。(7)見てみると、辺りの木々が切られ、草が踏みしだかれていた。(8)「こんなことを一体誰がしたのだらう」とキリンは怒りを抑えながら言った。(9)「これはあの「人間」と呼ばれる生き物の仕業に違いない。(10)見ろ、この跡は、あいつらがやったものだ」と遠くまで続いた人の跡を示してヒョウは言った。(11)「この跡に沿って歩いてみよう。おそらく、人間たちがこんなにたくさん木を一体何に使うのかを知ることができるだろう」とキリンが言った。(12)彼らは人間たちの跡に沿って進んでいった。途中で切れてしまっている鎖を見つけた。(13)この鎖はきっと、木を切った者たちが落としていったに違いない!(14)ヒョウは歯を食いしばって言った。(15)彼らは歩き、巨大な工場の前に来た。(16)例の跡は、まっすぐこの工場に続いているようであった。(17)ヒョウは自分を抑えられずにキリンへ言った：

(18)「友よ、ここで私を待っていてくれ。私は工場へ入って本当のことを見てこよう。遅くならないように出てくる。(19)もしも私が出てこなかったら、まっすぐ森の王のところに行き、知らせてくれ。(20)もし私が死んでしまったら、子どもたちの世話を見てやってくれ…」とすすり泣きながら言った。

(21)「そんな風に言わないで、心の友よ、君は必ず戻ってくるんだ!」とキリンは嘆き悲しんだ様子で言った。そうしてヒョウは工場に入ってしまった。(22)キリンは彼を待ち続けた。(23)思いがけず、ヒョウが木の板で作ったものをくわえたなりで、工場から出てきた。(24)2頭の親友は、無事に再会し、語り合った。(25)もともと人間たちは木を切って持っていき、この工場で装飾の板や生活に必要なものを作っていたそうだ…。(26)彼らは本当のことを知ったのち、そのことを森の王に知らせに行った。そしてすべての動物たちを集めて命をかけて森を守ることを心積もりした。

7. toz häqqidä hekayä

(1)bir küni quyaş awrıp qalkaçqa, öyidin zadila çiqqili ’unimaptu. (2)quyaş çiqmisa heçbir janliq ’işini qilalmaydikän. (3)buniñdin ’äjäblängän toz quyaşni yoqlap berip, ’öyiniñ ’aldida lärzan ’ussulka çüšüptu. (4)quyaş tozniñ mäqsitini çüšiniñ , ’öydin çiqışqa maqul boptu. (5)yeñi bir kün, yeñi bir hayatliq başliniptu. (6) toz quyaşni ’asmanka çiqiriwätkändin keyin, ’aram ’elip ’olturğan bir jüp ’ata-balini körüptu.

(7) – ’oqlum, ’aqlidiñmu? radi’oda « bögün yamwur yañidu » däwatidu, ’etizdiki qalğan ’otlarni teyräk ’otiwetäyli! – däptu ’atisi bir çakda.

(8) – maqul, – däptu bala. (9) ’ular ’etizka käptu.

(10) – ’alä ’oqlum, ’otni mawu ’orkaq bilän ’al! – däptu ’atisi. (11)bir dämdin keyin rasttinla yamwur yañiptu. (12) ’ata-bala ’ikkiylän ’amalsiz ’öyigä qarap yol ’aptu. (13)yamwur barğansiri qattiq yewip ketiptu. (14)quyaş ’öyidin çiqqinika puşayman qilip yıqlap ketiptu. (15)biraq, härqançä qilsimu, bulutlar ’arisidin qaytip çüšälmäptu. (16)’ata-bala qızın parañlışıp ketiwatsa, ’ular heliqi tozka ’uçrap qaptu. (17)toz ’ularka ’ätigändä quyaşni qandaq qilip ’asmanka ’elip çiqqanliqini sözlöp beriptikän, ’ular tozka rähmät ’eytiptu wä ’uni ’öyigä mehman boluşqa täklip qıptu. (18)toz baralmaydikinini ’eytip ’ular bilän xoşlışıptu. (19) ’ata-bala ’ikkisi ’öyigä qaytiptu. (20)tozmu quyaşniñ yänimu qattiq ’awrip qelişidin ’änsiräp, ’uni qayturup ’äkälgili meñiptu. (21)şundaq qilip quyaşniñmu ’insanlarniñmu yeqin dosti bolup qaptu.

7. toz häqqidä hekayä

クジャク についての 物語

- (1) bir kün-i quyaş 'aɣr-ip qal-ɣačqa, 'öy-i-din zadi=la čiq-qili
 1 日-POSS.3 太陽 病気になる-CVB 残る-CVB 家-POSS.3-ABL 全く=CL 出る-CVB
 'uni-ma-ptu. (2) quyaş čiq-mi-sa hečbir janliq 'iŝ-i-ni
 同意する-NEG-PF 太陽 出る-NEG-COND 何も 生き生きした こと-POSS.3-ACC
 qil-al-ma-ydi-kän. (3) bu-niŋ-din 'äjäblän-gän toz quyaş-ni
 する-ABIL-NEG-PRS.3-EV これ-GEN-ABL 不思議に思う-PTCP.PST クジャク 太陽-ACC
 yoqla-p ber-ip, 'öy-i-niŋ 'aldi-da lärzan 'ussul-ɣa čüŝ-üptu.
 尋ねる-CVB 行く-CVB 家-POSS.3-GEN 前-LOC 悠揚な 踊り-DAT 始める-PF
 (4) quyaş toz-niŋ mäqsit-i-ni čüŝin-ip, 'öy-din čiqi-ŝ-qa
 太陽 クジャク-GEN 意図-POSS.3-ACC 分かる-CVB 家-ABL 出る-VN-DAT
 maqul bo-ptu. (5) yeŋi bir kün, yeŋi bir hayatliq başlin-iptu. (6) toz
 同意する-PF 新しい 1 日 新しい 1 人生 始まる-PF クジャク
 quyaş-ni 'asman-ɣa čiqir-iwät-kän-din keyin, 'aram 'el-ip 'oltur-ɣan
 太陽-ACC 空-DAT 出す-ASP-PTCP.PST-ABL あと 休憩する-CVB 座る-PTCP.PST
 bir jüp 'ata-bali-ni kör-üptu.
 1 対の 父子-ACC 見る-PF
 (7) – 'oɣl-um, 'aŋli-di-ŋ=mu? radi'o-da « bügün yaɣmur yaɣ-i-du »
 息子-POSS.1SG 聞く-PST-2SG=CL ラジオ-LOC 今日 雨 降る-PRS-3
 dä-wat-i-du, 'etiz-diki qal-ɣan 'ot-lar-ni tez-räk
 言う-ASP-PRS-3 畑にある 残る-PTCP.PST 草-PL-ACC 早く-COMP
 'oti-wet-äyli! – dä-ptu 'ati-si bir čaɣ-da.
 草むしりする-ASP-VOL.1PL 言う-PF 父-POSS.3 1 とき-LOC
 (8) – maqul, – dä-ptu bala. (9) 'ular 'etiz-ɣa kä-ptu.
 分かった 言う-PF 子ども 彼ら 畑-DAT 行く-PF
 (10) – 'al-ä 'oɣl-um, 'ot-ni mawu 'oɣraq bilän 'al!
 取る-MOD 息子-POSS.1SG 草-ACC この かま 一緒に 取る
 – dä-ptu 'ati-si. (11) bir däm-din keyin rasttin=la yaɣmur yaɣ-iptu.
 言う-PF 父-POSS.3 1 瞬間-ABL あと 本当=CL 雨 降る-PF
 (12) 'ata-bala 'ikkiylän 'amalsiz 'öy-i-gä qara-p yol 'a-ptu.
 父子 二人 仕方なく 家-POSS.3-DAT 見る-CVB 出発する-PF
 (13) yaɣmur barɣansiri qattiq yeɣ-ip ket-iptu. (14) quyaş 'öy-i-din
 雨 ますます 激しい 降る-CVB 行く-PF 太陽 家-POSS.3-ABL
 čiq-qin-i-ɣa puŝayman qil-ip yıɣla-p ket-iptu.
 出る-PTCP.PST-POSS.3-DAT 後悔 する-CVB 泣く-CVB 行く-PF
 (15) biraq, härqančä qil-si=mu, bulut-lar 'ari-si-din qayt-ip
 しかし どんな する-COND-CL 雲-PL 間-POSS.3-ABL 戻る-CVB

čüş-äl-mä-ptu. (16) 'ata-bala qızkın parañlıš-ip ket-iwat-sa, 'ular heliqi
 落ちる-ABIL-NEG-PF 父子 熱心な 話し合う-CVB 行く-ASP-COND 彼ら その
 toz-ka 'učra-p qa-ptu. (17) toz 'ular-ka 'ätigän-dä quyaš-ni
 クジャク-DAT 出会う-CVB 残る-PF クジャク 彼ら-DAT 朝-LOC 太陽-ACC
 qandaq qil-ip 'asman-ka 'el-ip čiq-qan-liq-i-ni sözlä-p
 どう する-CVB 空-DAT 取る-CVB 出る-PTCP.PST-IJK-POSS.3-ACC 言う-CVB
 ber-ipti-kän, 'ular toz-ka rähmät 'eyt-iptu wä 'u-ni 'öy-i-gä
 与える-PF-EV 彼ら クジャク-DAT 感謝 言う-PF と 彼-ACC 家-POSS.3-DAT
 mehman bol-uš-qa täklip qi-ptu.
 客 なる-VN-DAT 提案する-PF
 (18) toz bar-al-ma-ydixin-i-ni 'eyt-ip 'ular bilän xošliš-iptu.
 クジャク 行く-ABIL-NEG-PTCP.NPST-POSS.3-ACC 話す-CVB 彼ら と 別れを告げる-PF
 (19) 'ata-bala 'ikki-si 'öy-i-gä qayt-iptu. (20) toz=mu quyaš-niñ yänimu
 父子 2-POSS.3 家-POSS.3-DAT 帰る-PF クジャク=CL 太陽-GEN さらに
 qattiq 'ağri-p qel-iš-i-din 'änsirä-p, 'u-ni qaytur-up
 厳しい 病気になる-CVB 残る-VN-POSS.3-ABL 心配する-CVB 彼-ACC 帰す-CVB
 'äkäl-gili meñ-iptu. (21) šundaq qil-ip quyaš-niñ=mu
 持って来る-CVB 歩く-PF そのように する-CVB クジャク-GEN=CL
 'insan-lar-niñ=mu yeqin dost-i bol-up qa-ptu.
 人-PL-GEN=CL 近い 友人-POSS.3 なる-CVB 残る-PF

7. クジャクの物語

(1)ある日、太陽が病気になってしまったため、家から全く出ようとしなかった。(2)太陽が出ないと、何の生き生きしたこともできなかった。(3)これを不思議に思ったクジャクは太陽を見舞い、家の前で悠揚な踊りを始めた。(4)太陽はクジャクの意図を理解し、家から出ること同意した。(5)新しい日、新しい人生が始まった。(6)クジャクは太陽を大空へ送り出したあと、休憩して座っている一組の親子を見かけた。

(7)「息子よ、聞いたか? ラジオで「今日は雨が降る」と言っている。畑に残っている草を早く摘み取ってしまおう!」と父親は言った。

(8)「分かった、」と子どもは言った。(9)彼らは畑へ行った。

(10)「取れ、息子よ、草をこのかまでむしり取れ!」と父親は言った。(11)少しして、本当に雨が降った。(12)父子2人は仕方なく家を目指して出発した。(13)雨はますます激しく降ってきた。(14)太陽は家から出たことを後悔して泣いてしまった。(15)しかし、どんなにしても、雲は空から去らなかった。(16)父子が熱心に話し合っていたところ、例のクジャクと出くわした。(17)クジャクは彼らに、朝太陽をどのようにして空に出すかを告げてあげた。親子はクジャクに礼を言い、クジャクを客として家に迎えることを提案した。(18)クジャクは行けないことを告げて、彼らと別れた。(19)父子2人は家へ帰った。(20)クジャクも太陽がさらにひどい病気になってしまうことを心配し、太陽を帰してあげるために歩いていった。(21)そうしてクジャクは太陽とも、人間とも近い友人になったのであった。

8. qaçqunlar

- (1) — häy...häy... 'ornuñdin turä samsaqjan, 'ornuñdin tur, tez bol.
- (2) — nemä 'eñäkliriñ qizirip, qaş-közliriñ qapqara bolup ketiptiñu, nemä bolduñ samsa 'aka?
- (3) — nemisini deysän? (4)samsaqjan , 'adämlär meni tonurğa solap pişurup, 'içimni qaynitip yüzlirim köyüp kätgili tasla qaldı, 'ular texi 'uniñkimu qana'ät qilmay, (5)birimizniñ 'üstigä birimizni tizip, 'ätigänlik našta 'üçün täyyarlap qoydı, yänä bu yärdä süküt qilip turidıkan bolsaq, 'ular bizni yäwetidu.
- (6) — şundaqmu samsa 'aka, 'undaqta qandaq qilimiz?
- (7) — qandaq qilattıñ, sänmu qarap turidıkan bolsañ 'ular qiymikäş bilän çanap meñäñniñ qetiçini çiqiriwetidu, 'andin seni qizilmuç bilän 'arilaşturup , qizitilkan mayğa taşlaydu. (8) 'aqiwetiñniñ qandaq bolidixinini bilip yätkänsän?
- (9) — yaq...yaq...yaq...män bäk qorucup ketiwatimän, teyräk bir 'amal tapsañçu samsa 'aka?
- (10) — 'amal dämsän? (11)päqät birlä 'amal bar.
- (12) — qandaq 'amal?
- (13) — bu yärdin dārhal qeçip ketiñ!
- (14) — qandaq qaçimiz?
- (15) — 'awwal 'asta hoyliğa çiqip qarap baqayli, 'igimiz 'işläwatqan pürsättin paydilinip şartla qeçip ketimiz, çaqqanraq bol, heli 'ülgürälmäy qalimiz, 'asta... 'astiraq...
- (16) — 'u hazir nemä 'iş qiliwatidu?
- (17) — sanduq yasawatidu, biz 'awwal sanduq 'üstigä çiqip sinap baqayli, bizgä diqqät qilamdu-yoq?
- (18)häy samsaqjan , sän kiçik häm çaqqan bolıandin keyin 'awwal çüşüp baqä!
- (19) — maqul.
- (20) — mañayli, 'u bizgä diqqät qilmaydikän, çaqqan qeçip ketäyli!
- (21) — häy...biz 'azadliqqa 'eriştuq! biz 'ärkinlikkä 'eriştuq!
- (22) — häy samsaqjan, 'ehtiyat qil, 'arqıñğa yan, poyiz kaldi!
- (23) — hä...ha...!
- (24) — way xudayimäy... 'aldirap xuşal bolmasliqiniñ keräk 'idi samsaqjan, häy... konilar
- (25) «'ayrilkanni 'eyiq yär, bölüngänni börä yär » dāp toğra 'eyiptikän, rasttinla şundaq boldi mana, 'ämdi män yalğuz nälärgimu bararmän? häy...

8. qačqun-lar

逃亡者-PL

(1) —häy...häy... 'orn-uŋ-din tur-ä samsaq-jan, 'orn-uŋ-din tur,
 EXC EXC 場所-POSS.2SG-ABL 起きる-MOD ニンニク-DIM 場所-POSS.2SG-ABL 起きる
 tez bol.

早く なる

(2) —nemä 'eŋäk-lir-iŋ qizir-ip, qaš-köz-lir-iŋ qapqara bol-up
 何 あご-PL-POSS.2SG 赤くなる-CVB 眉-目-PL-POSS.2SG 真っ黒 なる-CVB

ket-ipti-ƙu, nemä bol-du-ŋ samsa 'aka?
 行く-PF-MOD 何 なる-PST-2SG サモサ 兄

(3) —nemi-si-ni de-y-sän? (4) samsaq-jan, 'adäm-lär meni tonur-ƙa
 何-POSS.3-ACC 言う-PRS-2SG ニンニク-DIM 人-PL 私.ACC カマド-DAT

sola-p pišur-up, 'ič-im-ni qaynit-ip yüz-lir-im köy-üp
 施錠する-CVB 料理する-CVB 中-POSS.1SG-ACC 沸かす-CVB 顔-PL-POSS.1SG 焼ける-CVB

kät-kili tasla qal-di, 'ular texi 'u-niŋ-ƙi=mu qana'ät
 行く-CVB あやうく...しそうになる-PST 彼ら まだ 彼-GEN-DAT=CL 満足

qil-may, (5) bir-imiz-niŋ 'üst-i-gä bir-imiz-ni tiz-ip,
 する-NEG 1-POSS.1PL-GEN 上-POSS.3-DAT 1-POSS.1PL-ACC 並べる-CVB

'ätigänlik našta üčün täyyarla-p qoy-di, yänä bu yär-dä süküt
 朝の 朝食 ために 準備する-CVB 置く-PST また これ 場所-LOC 沈黙

qil-ip tur-idixan bol-sa-q, 'ular biz-ni yä-wet-i-du.
 する-CVB 続ける-PTCP.NPST なる-COND-1PL 彼ら 私たち-ACC 食べる-ASP-PRS-3

(6) —šundaq=mu samsa 'aka, 'undaq-ta qandaq qil-i-miz?
 そのような=CL サムサ 兄 そのような-LOC どのように する-PRS-1PL

(7) —qandaq qil-att-iŋ, sän=mu qara-p tur-idixan bol-sa-ŋ
 どのように する-HAB-2SG 君=CL 見る-CVB 続ける-PTCP.NPST なる-COND-2SG

'ular qiymikäš bilän čana-p meŋä-ŋ-niŋ qetiŋ-i-ni
 彼ら ひき肉 一緒に 切る-CVB 脳-POSS.2SG-GEN ヨーグルト-POSS.3-ACC

čiqir-iwet-i-du, 'andin seni qizilmuč bilän 'arilaštur-up, qizit-il-ƙan
 出す-ASP-PRS-3 あとで 君.ACC 赤唐辛子 一緒に 混ぜる-CVB 熱する-PASS-PTCP.PST

may-ƙa tašla-y-du. (8) 'aqiwet-iŋ-niŋ qandaq bol-idixan-i-ni
 油-DAT 投げる-PRS-3 結果-POSS.2SG-GEN どのように なる-PTCP.NPST-POSS.3-ACC

bil-ip yät-kän-sän?
 知る-CVB 伝わる-PTCP.PST-2SG

(9) —yaq... yaq... yaq... män bäk qoruuq-up ket-iwat-i-män, tez-räk
 いや いや いや 私 とても 恐れる-CVB 行く-ASP-PRS-1SG 早い- COMP

bir 'amal tap-sa-ŋ-ču samsa 'aka?
 1 方法 探す-COND-2SG-MOD サムサ 兄

- (10) –'amal dä-m-sän? (11) päqät bir=la 'amal bar.
 方法 言う-Q-2SG ただ 1=CL 方法 ある
- (12) –qandaq 'amal?
 どのような 方法
- (13) –bu yär-din dārhal qeč-ip ket-iš!
 この 場所-ABL すぐに 逃げる-CVB 行く-VN
- (14) qandaq qač-i-miz?
 どのように 逃げる-PRS-1PL
- (15) –'awwal 'asta hoyli-ʁa čiq-ip qara-p baq-ayli, 'igi-miz
 まず こっそり 中庭-DAT 出る-CVB 見る-CVB 見る-VOL.1PL 主人-POSS.1PL
 'išlä-watqan pursät-tin paydilin-ip šart=la qeč-ip ket-i-miz,
 仕事する-PTCP.PROG 機会-ABL 利用する-CVB すばやく=CL 逃げる-CVB 行く-PRS-1PL
 čaqqan-raq bol, heli 'ülgür-äl-mäy qal-i-miz, 'asta... 'asti-raq...
 早く-COMP なる すぐに 間に合う-ABIL-NEG.CVB 残る-PRS-1PL こっそり こっそり-COMP
- (16) –'u hazir nemä 'iš qil-iwat-i-du?
 彼 今 何 仕事 する-ASP-PRS-3
- (17) sanduq yasa-wat-i-du, biz 'awwal sanduq 'üst-i-gä čiq-ip sina-p
 箱 作る-ASP-PRS-3 私たち まず 箱 上-POSS.3DAT 出る-CVB 試す-CVB
 baq-ayli, biz-gä diqqät qil-am-du-yoq? (18) häy samsaq-jan ,
 見る-VOL.1PL 私たち-DAT 注意 する-Q-3-ない EXC ニンニク-DIM
 sän kičik häm čaqqan bol-ʁan-din keyin 'awwal čüš-üp baq-ä!
 君 小さい その上 早い なる-PTCP.PST-ABL あと まず 始める-CVB 見る-MOD
- (19) –maqul.
 分かった
- (20) maŋ-ayli, 'u biz-gä diqqät qil-ma-y-di-kän, čaqqan
 歩く-VOL.1PL 彼 私たち-DAT 注意 する-NEG-PRS-3-COPEV 早く
 qeč-ip ket-äyli!
 逃げる-CVB 行く-VOL.1PL
- (21) –häy... biz 'azadliq-qa 'eriš-tu-q! biz 'ärkinlik-kä 'eriš-tu-q!
 EXC 私たち きまま-DAT 達する-PST-1PL 私たち 自由-DAT 達する-PST-1PL
- (22) –häy samsaq-jan, 'ehtiyat qil, 'arqi-ŋ-ʁa yan, poyiz käl-di!
 EXC ニンニク-DIM 用心 する 後ろ-POSS.2SG-DAT 退く 列車 来る-PST
- (23) –hä... ha...!
 EXC EXC
- (24) –way xudayi-mäy... 'aldira-p xušal bol-mas-liq-i-niŋ keräk 'i-di
 EXC EXC 慌てる-CVB 喜ぶ なる-NEG-IK-POSS.3-GEN 必要 COP-PAST
 samsaq-jan, häy... koni-lar (25) « 'ayril-ʁan-ni 'eyiq yä-r,
 ニンニク-DIM EXC 古い-PL 離れる-PTCO.OST-ACC クマ 食べる-AOR
 böl-ün-gän-ni bōrä yä-r » dä-p toʁra 'eyt-ipti-kän,
 分ける-PASS-PTCP.PST-ACC 狼 食べる-AOR 言う-CVB 正しい 言う-PF-EV

rasttin=la šundaq bol-di mana, 'āmdi män yalnız nə-lär-gi=mu
本当=CL そのような なる-PST EXC 今 私 一人 何-PL-DAT=CL
bar-ar-män? häy...
行く-AOR-1SG EXC

8. 逃亡者たち

- (1)ーおい、おい。起きろニンニク、起きろ、早くしろ。
- (2)ーどうしてあごが赤くなって、眉や目が真っ黒になっているの。何が起こったの、サムサ[肉入りのパイ] 兄さん。
- (3)ーどうしただって? (4)ニンニク、人間たちが、おれをかまどに閉じ込めて料理して、中身を沸かして、あやうく顔が焼けてしまうところだったのだ。彼らはそれにも満足していない、(5)我々のうちの一人の上に、一人をのせて、朝食用に準備するのだ。このままこの場所で黙り続けていれば、彼らは我々を食べてしまう。
- (6)ーそうなのか、サムサ兄さん、それならば、どうしよう?
- (7)ーどうするかって、おまえも様子をうかがってると、彼らはひき肉と一緒に切り刻んで、おまえの脳みそを取り出すだろう、それからおまえを赤唐辛子と一緒に混ぜて、熱した油に投げる。(8)最後にどうなるかは、分かるだろう?
- (9)ーいやだ、いやだ、いやだ…私、とてもおそろしくなってしまった、早く手を打たなければいけないね、サムサ兄さん。
- (10)ー方法と言ったね?(11)一つだけ方法がある。
- (12)ーどんな方法?
- (13)ーここからすぐに逃げ出すことだ!
- (14)ーどういうふう to 逃げるの?
- (15)ーまずこっそりと中庭に出てみよう、主人が働いている機会を利用して、さっと逃げてしまおう。急ぐんだ、じき間に合わなくなってしまう、こっそり、こっそりと…
- (16)ー主人は今何をしている?
- (17)ー箱を作っている、我々はまず箱の上に出て試してみよう。我々に注意を払ったか? いや、払っていない。(18)おい、ニンニク、おまえは小さい、そのうえに素早いから、先に降りてみる!
- (19)ー分かった。
- (20)ー歩け、主人は我々に気づかなかったようだ、早く逃げてしまおう!
- (21)ーああ…私たちは解放された! 私たちは自由を手に入れた!
- (22)ーおい、ニンニク、気をつけろ、後ろへ退け、列車が来ているぞ!
- (23)ーああ…あ…!
- (24)ーああ…うかつに喜ぶべきではなかったのだ、ニンニクよ。ああ…昔の人々が(25)「離れたところを熊が食う、分かれたところを狼が食う」というのは正しいようだ。本当にそんなふうになった、今やおれは一人ぼっちでどこに行こう?ああ…

9. dām 'eliš künidä

- (1) — häy, tursun'ay buyaqqä çiqqina, 'ussul mäšiq qılaylı. (2)hāzirviçä 'orunuñdin turmıxınıñni qara seniñ! (3) 'ägär çiqmisañ mäšiq qiliwerimän jumu.
- (4) — 'ohoy!... 'adāmni bākmu teriktürdi 'ätigändä dumbaq çelip, 'adāmniñ bešini 'aʁritip nemä qilidıxandu? (5)qarap baqayçu! (6) — häy mäs'ud, sarañ bolduñmu? (7)nemiğä 'ätigändä toxtımay dumbaq çalisän?
- (8) — tünügün billä 'ussul mäšiq qilimiz deyiškän 'ämäsmu, 'untup qaldıñmu?
- (9) — hä...kächürgin 'untup qaptımän, saqlap tur, hazırla çiqımän-hä!
- (10) — bir keçä 'ötär-'ötmäyla 'untup kätkiniñ nemisi? (11) 'undaqta saqlap turay. (12) çapsan bol!
- (13) — tursun'ay 'östän boyıka berip, birdäm 'oynap keläylimu? (14) — qara, 'awu turnılarğa, nemädegän rätlik 'uçuwatqan-hä! (15) bu yaylaq nemidigän güzäl!
- (16) — mäs'ud qarıxına, 'awu buxılarnıñ münğüzi nemidegän 'uzun! (17)däräx šexıvıla 'oxšaydikän, yürä 'awu täräpkä berip qarap baqaylı.
- (18) — 'awu kimniñ 'öyi?
- (19) — 'umu, dostum zununniñ 'öyi.
- (20) — häy...bu yärdä turna nemidegän köp!
- (21) — häy bu yär bāk yıraq 'ikän, herip kättim.
- (22) — qarıxına tursun'ay, zunun 'u yärdä su 'usuwetiptu.
- (23) — yaxšımusän zunun 'adaş?
- (24) — hä, silärmidıñlar? silär qandaqsıgä bu yärgä kerip qaldıñlar?
- (25) — sän bilän körüşkili.
- (26) — yürä zunun billä 'oynap keläyli.
- (27) — yaq, män 'apamğa su 'äkirip bärmişäm bolmaydu.
- (28) — qarañlar 'awu dārāxniñ 'üstigä 'u neminiñ 'uwisi? (29)u yärdin bir quş 'uçup ketiwatıdu.
- (30) — toxtañlar, män dārāx 'üstigä çiqıp qarap baqay — hä! (31)bu 'ularniñ tuxumi 'ikän.
- (32) — häy mäs'ud, 'uniñğa çeqılma, quşlarnı 'asraş bizniñ burçimiz. (33)biz 'ularniñ normal köpiyişigä tosqunluq qılsaq bolmaydu. (34)tuxumni 'urnıka qoyup, çapsan çüşkin.
- (35) — šundaq, 'u tuxumğa çeqılma mäs'ud, quşlarmu bizgä 'oxšaş 'ärkin yašısun.

9. dām 'el-iš kün-i-dä

息 とる-VN 日-POSS.3-LOC

- (1) —häy, tursun'ay bu yaq-qa čiq-qina, ussul mäšiq qil-ayli.
 EXC PSN この 側-DAT 出る-IMP.2SG 踊り 練習 する-VOL.1PL
- (2) hazırkičä 'orun-uñ-din tur-mi-ñin-iñ-ni qara sen-iñ!
 いまだに 場所-POSS.2SG-ABL 留まる-NEG-PTCP.PST-POSS.2SG-ACC 見る 君-GEN
- (3) 'ägär čiq-mi-sa-ñ mäšiq qil-iwer-i-män jumu. (4) —'ohoy!... 'adäm-ni
 もし 出る-NEG-COND-2SG 練習 する-ASP-PSR-1SG EXC EXC 人-ACC
- bäk=mu teriktür-di 'ätigän-dä dumbaq čel-ip, 'adäm-niñ beš-i-ni
 とても=CL 怒らせる-PST 朝-LOC 太鼓 叩く-CVB 人-GEN 頭-POSS.3-ACC
- 'avrit-ip nemä qil-idixan-du? (5) qara-p baq-ay-ču!
 痛める-CVB 何 する-PTCP.NPST-MOD 見る-CVB 見る-VOL.1SG-MOD
- (6) —häy mäs'ud, sarañ bol-du-ñ=mu? (7) nemi-gä 'ätigän-dä toxti-may
 EXC PSN ばか なる-PST-2SG=CL 何-DAT 朝-LOC やめる-CVB.NEG
- dumbaq čal-i-sän?
 太鼓 叩く-PRS-2SG
- (8) —tünügün billä 'ussul mäšiq qil-i-miz dey-iš-kän 'ämäs=mu,
 昨日 一緒に 踊り 練習 する-PRS-1PL 言う-RECP-PTCP.PST 違う=CL
- 'untu-p qal-di-ñ=mu?
 忘れる-CVB 残る-PST-2SG=CL
- (9) —hä... káčür-gin 'untu-p qa-pti-män, saqla-p tur, hazır=la
 EXC 許す-IMP 忘れる-CVB 残る-PF-1SG 待つ-CVB 続ける 今=CL
- čiq-i-män=hä!
 出る-PRS-1SG=CL
- (10) —bir kečä 'öt-är-öt-mäy=la 'untu-p kät-kin-iñ
 1 晩 過ぎる-AOR 過ぎる-NEG=CL 忘れる-CVB 行く-PTCP.PST-POSS.2SG
- nemi-si?
 何-POSS.3
- (11) 'undaqta saqla-p tur-ay. (12) čapsan bol!
 それなら 待つ-CVB 続ける-VOL.1SG 早く なる
- (13) —tursun'ay 'östäj boy-i-ka ber-ip, birdäm 'oyna-p kel-äyli=mu?
 PSN 小川 そば-POSS.3-DAT 行く-CVB 少し 遊ぶ-CVB 来る-VOL.1PL=CL
- (14) —qara, 'awu turni-lar-ka, nemädegän rätlik 'uč-uwatqan=hä!
 見る あの 鶴-PL-DAT なんとという 整然とした 飛ぶ-PTCP.PROG=EXC
- (15) bu yaylaq nemidigän güzäl!
 この 牧場 なんとという 美しい
- (16) —mäs'ud qari-kina, 'awu buki-lar-niñ müngüz-i nemidegän 'uzun!
 PSN 見る-IMP あの 鹿-PL-GEN 角-POSS.3 なんとという 長い

- (17) dārāx šex-i-ʔi=la ʔoxša-y-di-kān, yūr-ä ʔawu tārāp-kä ber-ip
 木 枝-POSS.3-DAT-CL 同じ-PRS-3-EV 歩く-MOD あの 側-DAT 行く-CVB
 qara-p baq-ayli.
 見る-CVB 見る-VOL.1PL
- (18) ʔawu kim-niḡ ʔöy-i?
 あの 誰-GEN 家-POSS.3
- (19) ʔu=mu, dost-um zunun-niḡ ʔöy-i.
 あれ=CL 友人-POSS.1SG PSN-GEN 家-POSS.3
- (20) ʔhäy... bu yār-dä turna nemidegān köp!
 EXC この 場所-LOC 鶴 なんと 多い
- (21) ʔhäy bu yār bāk yiraq ʔikān, her-ip kät-ti-m.
 EXC この 場所 とても 遠い COPEV 疲れる-CVB 行く-PST-1SG
- (22) qari-ʔina tursunʔay, zunun ʔu yār-dä su ʔus-uwet-iptu.
 見る-IMP PSN PSN あの 場所-LOC 水 すくう-ASP-PF
- (23) yaxši=mu sän zunun ʔadaš ?
 良い=CL 君 PSN 友人
- (24) ʔhä, silār-mi-di-ḡlar ? silār qandaqsigä bu yār-gä kel-ip qal-di-ḡlar?
 EXC 君たち-Q-PST-2PL 君たち なぜ この 場所-DAT 来る-CVB 残る-PST-2PL
- (25) sän bilän kör-üş-kili.
 君 と 会う-RECP-CVB
- (26) yūr-ä zunun billä ʔoyna-p kel-äyli.
 進む-MOD PSN 一緒に 遊ぶ-CVB 来る-VOL.1PL
- (27) yaq, män ʔapa-m-ʔa su ʔakir-ip bār-mi-sä-m
 いいえ 私 母-POSS.1SG-DAT 水 持っていく-CVB 与える-NEG-COND-1SG
 bol-ma-y-du.
 なる-NEG-PRS-3
- (28) qara-ḡlar ʔawu dārāx-niḡ ʔüst-i-gä ʔu nemi-niḡ ʔuwi-si ?
 見る-IMP.2PL あの 木-GEN 上-POSS.3-DAT あれ 何-GEN 巢-POSS.3
- (29) ʔu yār-din bir quš ʔuč-up ket-iwat-i-du.
 あの 場所-ABL 1 鳥 飛ぶ-CVB 行く-ASP-PRS-3
- (30) toxta-ḡlar, män dārāx ʔüst-i-gä čiq-ip qara-p baq-ay-hä!
 やめる-2PL 私 木 上-POSS.3-DAT 出る-CVB 見る-CVB 見る-VOL.1SG-MOD
- (31) bu ʔular-niḡ tuxum-i ʔikān.
 これ 彼ら-GEN 卵-POSS.3 COPEV
- (32) ʔhäy mäsʔud, ʔu-niḡ-ʔa čeqil-ma, quš-lar-ni ʔasra-š biz-niḡ
 EXC PSN 彼-GEN-DAT 触れる-NEG 鳥-PL-ACC 大事にする-VN 私たち-GEN
 burč-imiz.
 義務-POSS.1PL
- (33) biz ʔular-niḡ normal köpiy-iš-i-gä tosqunluq qil-sa-q
 私たち 彼ら-GEN 正常な 増える-VN-POSS.3-DAT 邪魔 する-COND-1PL

bol-ma-y-du. (34) tuxum-ni 'orn-i-va qoy-up, čapsan čüş-kin.
なる-NEG-PRS-3 卵-ACC 場所-POSS.3-DAT 置く-CVB 早く 降りる-IMP

(35) – šundaq, 'u tuxum-va čeqil-ma mäs'ud, quš-lar=mu biz-gä
そのとおり あの 卵-DAT 触れる-NEG PSN 鳥-PL=CL 私たち-DAT

'oxšaš 'arkin yaši-sun.
同じ 自由な 生きる-OPT

9. 休みの日に

- (1)ーおい、トゥルスンアイ、こっちに来て、踊りの練習をしよう。(2)まだぐずぐずしてるのか!(3)もし出てこないなら、一人で練習してやるぞ。
- (4)ーああ! 人のことをたいそう怒らせた。朝から太鼓を叩いて、人の頭を痛くして何をするんだらう。(5) 見てみよう!(6)ーおおい、メースット、頭がおかしくなったの?(7) どうして朝早くからしきりに太鼓を叩いているの?
- (8)ー昨日一緒に踊りの練習をしようと言っただらう、違うか?忘れてしまったのか?
- (9)ーああ…ごめん。忘れてしまっていた。待っていて、今出て行く!
- (10)ー一晩過ぎるか過ぎないかで忘れてしまうとはどういうことだ?(11) それなら待っている。(12) 早くしろ!
- (13)ートゥルスンアイ、小川のそばに行って、少し遊んでこようか?(14)見て、あの鶴たちを。なんて整然と飛んでるんだらう!(15) この牧場はなんてきれいなんだらう!
- (16)ーメースット、見て、あの鹿たちの角はなんて長いんだらう!(17) 木の枝と似ているよ。行こう、あそこに行ってみよう。
- (18)ーあれは誰の家?
- (19)ーあれのこと? 友だちのズヌンの家だよ。
- (20)ーわあ、ここはなんて鶴が多いんだらう!
- (21)ーああ…ここはとても遠いところだね。疲れてしまった。
- (22)ー見てトゥルスンアイ、ズヌンはあの場所で水をすくっているみたい。
- (23)ー元気かい、ズヌン?
- (24)ーうん、君たちはどう? どうしてここへ来たの?
- (25)ー君と会うために。
- (26)ー行こう、ズヌン、一緒に遊んで来よう。
- (27)ーううん、私は母さんに水を持っていかなければならないんだ。
- (28)ー見てあの木の上を。あれは何の巣だらう?(29) あそこから鳥が飛んでいったよ。
- (30)ー待って、木の上に登って見てみる!(31) これは鳥の卵のようだ。
- (32)ーねえメースット、それに触らないで、鳥を大事にするのは私たちの義務だよ。(33) 私たちは鳥たちが普通に繁殖するのを邪魔してはいけないよ。(34) 卵をもとの場所に置いて降りてきたらどう。
- (35)ーそうだよ。その卵には触らないで、メースット、鳥たちも私たちと同じように自由に生きるように。

10. böjänniñ kawa yötkiñ

(1)bir küni gäp 'aqlımaydıkan baštoñ böjän bañda 'oynawetip, sarğıyıp pişqan yoñan bir kawini 'uçritip qaptu. (2)lekin, böjän kawini 'özi yalñuz kötürälmäydikan. (3)qandaq qiliñ keräk?! (4) 'aqqilliq böjän tezla bir 'amal tepiptu-dä kawini bir dämdila 'äkelip boptu. (5)kawini körgän 'ana : « balam 'özdinmu yoñan kawini zadi qandaq 'äkälgändu? » däp häyran qelip, barmiqini çişläp qaptu. (6)balilar, silär barmiqiñlarni çişlimäy turup, böjänniñ kawini qandaq 'äkälgänlikini 'oylap tapalamsilär?

10. böjän-niŋ kawa yötki-š-i

子兔-GEN 南瓜 動かす-VN-POSS.3

(1) bir kün-i gäp 'aŋli-ma-ydıǵan baštoŋ böjän baǵ-da
 1 日-POSS.3 話 聞く-NEG-PTCP.NPST やんちゃな 子兔 果樹園-LOC
 'oyna-wet-ip, sarǵıy-ip piš-qan yǵan bir kawi-ni 'učrit-ip
 遊ぶ-ASP-CVB 黄色くなる-CVB 実る-PTCP.PST 大きな 1 南瓜-ACC 出くわす-CVB

qa-ptu.

残る-PF

(2) lekin, böjän kawi-ni 'öz-i yalǵuz kötür-äl-mä-y-di-kän.

しかし 子兔 南瓜-ACC 自分-POSS.3 一人 運ぶ-ABIL-NEG-PRS-3-COPEV

(3) qandaq qil-iš keräk?! (4) 'äqilliq böjän tez=la bir 'amal tep-iptu=dä
 どう する-VN 必要 賢い 子兔 早く=CL 1 方法 見つける-PF=CL

kawi-ni bir däm=dila 'äkel-ip bo-ptu.

南瓜-ACC 1 瞬間=CL 持って来る-CVB なる-PF

(5) kawi-ni kör-gän 'ana: « bala-m 'öz-din=mu yǵan kawi-ni
 南瓜-ACC 見る-PTCP.PST 母 子ども-POSS.1SG 自分-ABL=CL 大きい 南瓜-ACC

zadi qandaq 'äkäl-gän-du? » dä-p häyran qel-ip, barmiq-i-ni
 一体 どう 持って来る-PTCP.PST-MOD 言う-CVB 驚いた 残る-CVB 指-POSS.3-ACC

čišlä-p qa-ptu.

かむ-CVB 残る-PF

(6) bali-lar, silär barmiq-iŋlar-ni čišli-mäy tur-up, böjän-niŋ

子ども-PL あなたたち 指-POSS.2PL-ACC かむ-CVB.NEG 続ける-CVB 子兔-GEN

kawi-ni qandaq 'äkäl-gän-lik-i-ni 'oyla-p tap-ala-m-silär?

南瓜-ACC どう 動かす-VN-IK-POSS.3-ACC 考える-CVB 見つける-ABIL-Q-2PL

10. 子兎の南瓜の移動

(1)ある日、言うことを聞かない、いたずらっ子の子兎が果樹園で遊んでいると、黄色く実った大きな南瓜を見つけた。(2)しかし、子兎は南瓜を自分一人で持っていけなかったそうだ。(3)どうすれば良いのだろうか?! (4)賢い子兎はすぐに方法を思いつくや、南瓜をあっという間に運んでしまった。(5)南瓜を見た母親は「うちの子は、自分よりも大きな南瓜を一体どうやって運んだのかしら?」と指をかみ続けた。

(6)子どもたち、あなたたちは指をかまずに、子兎が南瓜をどうやって持ってきたかを考えつきますか?

11. kirpā bilān tašpaqa

(1)burun bir dārya sahilida bir tašpaqa bilān bir kirpā 'ōtkānikān. (2)'ular 'adāttā 'ančā 'izdišip kātmişimu, lekin kōñülliridā bir-birigā yamanliq 'oylimay, 'öz'ara hörmätlišip 'ōtidikān. (3)bir küni tašpaqiniñ qorsiqi 'aṛip ketip, 'aṛiqqa čidiyalmay kirpini 'izdāp kāptu.

(4)– kirpixon, kirpixon sän nādā? – dāp towlaptu tašpaqa.

(5)– way nemā boldi tašpaqa ṛojam? (6) nemigā korkirayla? – dāp 'asta 'uwisidin čiqiptu kirpixon.

(7)– qorsiqim ṛoldorlap 'aṛip ketiwatidu, päqät bolalmaywatimän! – dāptu tašpaqa.

(8)– buniṛka mändā nemā 'amal? (9) ya tewip bolmisam! – dāptu kirpixon.

(10)– hečbolmisa maṇa hāmrah bolup, dārya boyıka berip kālsāñ bolamdu? – dāptu tašpaqa xapa bolup.

(11)– boptu, barsam baray! – dāptu kirpixon tašpaqıka 'āgišip.

(12)tašpaqa razimānlik bilān külüp qoyuptu. (13)'ular dārya boyida qanṛudāk muṇdišiptu.

(14)tašpaqiniñ qorsqimu 'asta-asta saqiyiptu. (15) bir čaṛda yiraqtin parajotniñ , poyizniñ 'awazliri 'aṇlinišqa bašlikanikān, kirpā qorqup ketip :

(16)– qaytip ketäyli , – dāp turuwaptu.

(17)– boptu kātsäk ketäyli! hu qorqunčaq! – dāp tašpaqa 'ilajsiz kirpigā 'āgišiptu. (18)keyin 'u ikkiylān xapanimu, halawātnimu tāj köridiṛan yeqin dostlardin bolup qaptu.

(19) 'ularniñ 'inaqliqi 'āldin-ālgā tarilip, tillarda dastan bolup, bizgimu yetip kāptu.

11. kirpä bilän tašpaqa

ヤマアラシ と カメ

- (1) burun bir därya sahil-i-da bir tašpaqa bilän bir kirpä
昔 1 河 岸-POSS.3-LOC 1 カメ と 1 ヤマアラシ
'öt-kän-ikän. (2) 'ular 'adättä 'ančä 'izdiš-ip kät-mi-si=mu ,
暮らす-PTCP.PST-COPEV 彼ら 普段 それほど 付き合う-CVB 行く-NEG-COND=CL
lekin köñül-lir-i-dä bir-biri-gä yamanliq 'oyli-may, öz'ara
しかし 心-PL-POSS.3-LOC お互い-DAT 悪さ 思う-NEG.CVB お互いに
hörmätli-š-ip 'öt-i-di-kän. (3) bir kün-i tašpaqi-niñ qorsiq-i
敬う-RECP-CVB 暮らす-PRS-3-COPEV 1 日-POSS.3 カメ-GEN 腹-POSS.3
'aır-ip ket-ip, 'aıriq-qa čidy-al-may kirpi-ni 'izdä-p káp-tu.
痛む-CVB 行く-CVB 痛み-DAT 耐える-ABIL-NEG.CVB ヤマアラシ-ACC 探す-CVB 来る-PF
(4) – kirpi-xan, kirpi-xan sän nädä ? – dä-p towla-ptu tašpaqa.
ヤマアラシ-HON ヤマアラシ-HON 君 どこ 言う-CVB 呼ぶ-PF カメ
(5) – way nemä bol-di tašpaqa koja-m? (6) nemi-gä korkira-yla?
EXC 何 なる-PST カメ HON-POSS.1SG 何-DAT 怖がる-INST
– dä-p 'asta 'uwi-si-din čiq-iptu kirpi-xan.
言う-CVB ゆっくり 巢-POSS.3-ABL 出る-PF ヤマアラシ-HON
(7) – qorsiq-im koldorla-p 'aır-ip ket-iwat-i-du, päqät
腹-POSS.1SG ゴロゴロ鳴る-CVB 痛む-CVB 行く-ASP-PRS-3 ただ
bol-al-may-wat-i-män ! – dä-ptu tašpaqa.
なる-ABIL-NEG-ASP-PRS-1SG 言う-PF カメ
(8) – bu-niñ-ka män-dä nemä 'amal? (9) ya tewip bol-mi-sa-m!
これ-GEN-DAT 私-LOC 何 方法 EXC 漢方医 なる-NEG-COND-1SG
– dä-ptu kirpi-xan.
言う-PF ヤマアラシ-HON
(10) – heč bol-mi-sa maña hämrah bol-up, därya boy-i-ka ber-ip
全然 なる-NEG-COND 私.DAT 同伴者 なる-CVB 河 岸-POSS.3-DAT 行く-CVB
käl-sä-ñ bol-am-du? – dä-ptu tašpaqa xapa bol-up.
来る-COND-2SG なる-Q-3 言う-PF カメ 怒った なる-CVB
(11) – bo-ptu, bar-sa-m bar-ay! – dä-ptu kirpi-xan tašpaqi-ka
言う-PF 行く-COND-1SG 行く-VOL.1SG 言う-PF ヤマアラシ-HON カメ-DAT
'ägiš-ip.
従う-CVB
(12) tašpaq razimänlik bilän kül-üp qoyu-ptu. (13) 'ular därya boy-i-da
カメ 満足 と 笑う-CVB 置く-PF 彼ら 河 岸-POSS.3-DAT
qan-ku-däk muñdiš-iptu. (14) tašpaqi-niñ qorsiq-i=mu 'asta-asta
満足する-VN-SIM 心の中を語り合う-PF カメ-GEN 腹-POSS.3=CL ゆっくりと

saqiy-iptu. (15) bir čaκ-da yiraq-tin paraxot-niñ, poyiz-niñ 'awaz-lir-i
 治る-PF 1 とき-LOC 遠く-ABL 蒸気船-GEN 列車-GEN 音-PL-POSS.3
 'aŋlin-iš-qa bašli-κan-ikän, kirpä qorq-up ket-ip :
 聞こえる-VN-DAT 始まる-PTCP.PST-COPEV ヤマアラシ 恐れる-CVB 行く-CVB
 (16) –qayt-ip ket-äyli, –dä-p tur-uwa-ptu.
 帰る-CVB 行く-VOL.1PL 言う-CVB 続ける-ASP-PF
 (17) –bo-ptu kät-sä-k ket-äyli! hu qorqunčaq! –dä-p tašpaqa
 なる-PF 行く-COND-1PL 行く-VOL.1PL EXC 小心者 言う-CVB カメ
 'ilajsiz kirpi-gä 'ägiš-iptu. (18) keyin 'u 'ikkiylän xapa-ni=mu,
 仕方のない ヤマアラシ-DAT 従う-PF あと 彼 2人 怒った-ACC=CL
 halawät-ni=mu täñ kör-idixan yeqin dost-lar-din bol-up qa-ptu.
 幸福-ACC=CL 等しい 見る-PTCP.NPST 近い 友だち-PL-ABL なる-CVB 残る-PF
 (19) 'ular-niñ 'inaqliq-i 'äldin-älgä taril-ip, til-lar-da dastan bol-up,
 彼ら-GEN 仲の良さ-POSS.3 大衆 広がる-CVB 口-PL-LOC 語り草に なる-CVB
 biz-gi=mu yet-ip kä-ptu.
 私たち-DAT=CL 伝わる-CVB 来る-PF

11. ヤマアラシとカメ

- (1)昔々、河岸にカメとヤマアラシが住んでいたそうだ。(2)彼らは普段それほど付き合いはなかったが、心の中ではお互いに悪くは思っておらず、お互いを尊敬しあって暮らしていた。(3)ある日カメは腹が痛くなって、痛みに耐えられずにヤマアラシを探しに来た。
- (4)「ヤマアラシさん、ヤマアラシさん、君はどこにいるの?」とカメは叫んだ。
- (5)「わあ、どうしたの、カメさん?」(6)「と言ってゆっくり巣から出てきた。
- (7)「腹がぐるぐる鳴って痛むんだ、どうにもできないんだ!」とカメは言った。
- (8)「私に何ができるっていうんだい?」(9)「医者ではないのに!」とヤマアラシは言った。
- (10)「せめて、私と一緒に、河岸に行ってくれないか?」とカメは怒りながら言った。
- (11)「いいよ、行くことは行こう!」と言ってヤマアラシはカメに従った。
- (12)カメは満足して、にこっと笑った。(13)彼らは河岸で心ゆくまで打ちとけて話し合った。
- (14)カメの腹はだんだんと治っていった。(15)しばらくして、遠くから蒸気船や列車の音が聞こえ始め、ヤマアラシは怖がって：
- (16)「帰ってしまおう、」と言いつづけた。
- (17)「分かった。行くことは行こう! ああ、こわがりやだなあ!」とカメは仕方なくヤマアラシについていった。(18)あとで、この2人は怒りも楽しみも、同じように経験する親しい友達ちになった。(19)彼らの仲の良さは人から人へ伝わって語り草になり、私たちにまで伝わっている。

12. yezidä

- (1)šähärdä 'oquydıǵan bir qız tätil künlirini yezidiki bowisiniñ 'öyidä 'ötküzüptu.
- (2)— bowa nemä yäwatisän, qoluñdiki nemä 'u ?
- (3)— hä... yurtimizniñ 'esil mewisi qari'örük, 'alä qizim, yegin.
- (4)— bäk tämlikkän bowa.
- (5)— šundaq qizim, tämlik bolupla qalmastin, yänä nurxun kesällärgä šipa bolidu. (6)män čiqip saña 'öçkidin birni soyup kawap qilip beräy.
- (7)— män saña 'ötüküñni 'akilip beräy bowa...
- (8)— 'öçkä kawipi yäydıǵan bolduq, o... o...
- (9)— nemä bolduñ qizim?
- (10)— qarap beqiña, közümgä bir närsä kirip kätti.
- (11)— qoluñni čüšür qizim, män qarap baqay, konilarda : (12) « közüñ 'aǵrisa qoluñni tart, qorsiqiñ 'aǵrisa näpsiqni » degän gäp bar, (13)közüñni 'uwilimixin, bir dämardin keyin yaxši bolup ketidu.
- (14)— maqul bowa.
- (15)— qizim, tätil künliriñni yezida 'ötküzginiñdin razi bolduñmu ?
- (16)— razi boldum, män här tätil yezıǵa kelip yeziniñ sap hawasidin näpäslinimän.
- (17)— šundaq, qil qizim, sap hawa tängä dawa.
- (18)šundaq qilip qizniñ tätil künliri nahayiti mänlik 'ötüptu.

12. yezi-dä

村-LOC

- (1) šähär-dä 'oqu-ydikan bir qiz tätil kün-lir-i-ni yezi-diki
 町-LOC 勉強する-PTCP.NPST 1 娘 休み 日-PL-POSS.3-ACC 村-にある
 bowi-si-niň 'öy-i-dä 'ötküz-üptu.
 祖父-POSS.3-GEN 家-POSS.3-LOC 過ごす-PF
- (2) – bowa nemä yä-wat-i-sän, qol-uň-diki nemä 'u ?
 祖父 何 食べる-ASP-PRS-2SG 手-POSS.2SG-にある 何 それ
- (3) – hä... yurt-imiz-niň 'esil mewi-si qari'örtük, 'al-ä qiz-im,
 EXC 地方-POSS.1PL-GEN 貴重な 果物-POSS.3 烏梅 取る-MOD 娘-POSS.1SG
 ye-gin.
 食べる-IMP
- (4) – bäk tämlik-kän bowa.
 とても おいしい-COPEV 祖父
- (5) – šundaq qiz-im, tämlik bol-up=la qal-mas-tin, yänä
 そう 娘-POSS.1SG おいしい なる-CVB=CL 残る-NEG.AOR-ABL また
- nurşun kesäl-lär-gä šipa bol-i-du. (6) män čiq-ip saňa 'öčki-din
 多くの 病気-PL-DAT 治療 なる-PRS-3 私 出る-CVB あなた.DAT ヤギ-ABL
 bir-ni soy-up kawap qil-ip ber-äy.
 1-ACC 屠る-CVB 焼肉 する-CVB 与える-VOL.1SG
- (7) – män saňa 'ötük-üň-ni 'äkil-ip ber-äy bowa...
 私 あなた.DAT 革靴-POSS.2SG-ACC 持って来る-CVB 与える-VOL.1SG 祖父
- (8) – 'öčkä kawip-i yä-ydikan bol-du-q, o... o...
 ヤギ 焼肉-POSS.3 食べる-PTCP.NPST なる-PST-1PL EXC EXC
- (9) – nemä bol-du-ň qiz-im?
 何 なる-PST-2SG 娘-POSS.1SG
- (10) – qara-p beq-iň-a, köz-üm-gä bir närsä kir-ip kät-ti.
 見る-CVB 見る-IMP.2SG-MOD 目-POSS.1SG-DAT 1 何か 入る-CVB 行く-PST
- (11) – qol-uň-ni čüşür qiz-im, män qara-p baq-ay, koni-lar-da :
 手-POSS.2SG-ACC 下げる 娘-POSS.1SG 私 見る-CVB 見る-VOL.1SG 古い-PL-LOC
- (12) « köz-üň 'akri-sa qol-uň-ni tart, qorsiq-iň 'akri-sa
 目-POSS.2SG 痛む-COND 手-POSS.2SG-ACC 引く 腹-POSS.2SG 痛む-COND
 näps-iň-ni » de-gän gäp bar, (13) köz-üň-ni 'uwili-mi-şin,
 息-POSS.2SG-ACC 言う-PTCP.PST ことば ある 目-POSS.2SG-ACC こする-NEG-IMP.2SG
 bir däm-din keyin yaxşı bol-up ket-i-du.
 1 瞬間-ABL あと 良い なる-CVB 行く-PRS-3
- (14) – maqul bowa.
 分かった 祖父

12. 村で

- (1) 町で学校に通っている少女が村にある祖父の家で休暇を過ごした。
- (2)－おじいちゃん、何を食べているの、手に持っているのは何？
- (3)－ああ、地元の貴重な果物、烏梅だよ。取って食べなさい、娘よ。
- (4)－とてもおいしいよ、おじいちゃん。
- (5)－そうだよ、おいしいだけではなく、様々な病気にも効くのだよ。(6)外に出て行って、羊を一匹屠って、焼肉をしてあげよう。
- (7)－私、革靴を取ってきてあげる、おじいちゃん。
- (8)－羊の焼肉を食べることになった。あ、あ…
- (9)－どうしたんだ、娘よ。
- (10)－見てみて、目に何か入ってしまったよ。
- (11)－手を下ろしなさい、私が見てみよう。古いことばに、(12)「目が痛くなったら腕をおろせ、腹が痛くなったら息を吸え」ということばがある。(13)目をこすらないように。少ししたら良くなるよ。
- (14)－分かった、おじいちゃん。
- (15)－娘よ、休暇を村で過ごしたことに満足しているか？
- (16)－満足しているよ。休暇には村に来て、村のきれいな空気を吸うことにしよう。
- (17)－そうしなさい。きれいな空気は体に良い。
- (18)－そうして娘の休暇はとても意義深いものになったのだった。

13. sirliq 'orman

(1)burunniñ burunisida qorqunçluq bir 'ormanliq bolxanikän. (2)bu 'ormanliqta şir, yolwas, yilan, çayanlardin tartip, buxa-maral, qoy-kalilarıçä billä yaşaydikän. (3)bu yärdä bir 'a'ilä kişiliri bolup, 'ular 'owçiliq, dehqançiliq bilän jan baqıdikän. (4)bir küni 'ular yilan, çayanlarnıñ köplükidin 'öz hayatidin 'änsiräp, hoylını çöridäp tam salmaqçı boptu. (5) 'oñul lazimätlik närsilärni 'äkilişkä şähärgä ketiptu.

(6)– 'oñulimiz 'äjäb kälmäywatidu, birär 'iş bolmıxandu-hä?

(7)– xatirjäm bol, 'uniñda qoral bar.

(8)– bu xişlar yätmäydixandäk qilidu.

(9)– 'awwal bu xişlarnı 'işlitip turayli. (10)yätmäy qalsa, 'oñulimiz kälgändä bir gäp bolar.

(11)– wayjan...

(12)– 'ölgür, nädin kälidi bu 'äbläx! (13)yultuzjan, köziñizni 'eçin, bir nemä bolmıxansız? yultuzjan...

(14)– dada, 'apamxa nemä boldi?

(15)– 'apañni yilan çeqiwalıli tasla qaldi 'oñlum.

(16)– 'apa, 'apa, közüñni 'aç, män qaytip kälдим.

(17)– kälidinmu 'oñlum, yawayi haywanlar toplaşqan bu jañgada saña birär 'iş bolup qalarmikin däp bäk 'änsiridim. (18)här nemä bolsa tinç-aman qaytip käpsän.

(19)– demisimu yawayi haywanlar bäk wäşiy 'ikän. (20)texi bayila bir yolwasniñ buxa yawatqanlıqini kördüm. (21) lekin, mändä qoral bolxandikin 'änsirimisänmu bolidu.

(22) 'obdanraq 'aram 'alxin 'apa, bäk qorqup ketipsän, män saña çay dämläp beräy.

(23) 'ular 'axir tamni pütüzüptu. (24)şuniñdin keyin hoylıxa ziyaxor haywanlar kirälmäydixan boptu. (25) 'ularmu xatirjäm 'öz tirikçilikini qiptu.

13. sirliq 'orman

神秘的な 森

- (1) burun-niḡ burunisida qorqunčluḡ bir 'ormanliq bol-ƙan-ikän. (2) bu
昔-GEN もともと 恐ろしい 1 森林 なる-PTCP.PST-COP.EV これ
'ormanliq-ta šir, yolwas, yilan, čayan-lar-din tart-ip, buƙa - maral
森-LOC ライオン 虎 蛇 蠍-PL-ABL 引く-CVB 羚羊 鹿
qoy - kali-lar-ƙičä, billä yaša-ydi-kän. (3) bu yär-dä bir 'a'ilä
羊 牛-PL-まで 一緒に 暮らす-PRS.3SG-EV この 場所-LOC 1 家族
kiši-lir-i bol-up, 'ular 'owčiliq, dehqančiliq bilän jan
人-PL-POSS.3 なる-CVB 彼ら 狩猟 農業 一緒に 命
baqi-di-kän. (4) bir kün-i 'ular yilan, čayan-lar-niḡ köplük-i-din
見る-PST-EV 1 日-POSS.3 彼ら 蛇 蠍-PL-GEN 多さ-POSS.3-ABL
'öz hayat-i-din 'änsirä-p, hoyli-ni čöridä-p tam sal-maqči
自分 命-POSS.3-ABL 心配する-CVB 中庭-ACC 丸く囲む-CVB 塀 作る-PTCP
bo-ptu. (5) 'oƙul lazimätlik närsi-lär-ni 'äkili-š-ƙä šähär-gä ket-iptu.
なる-PF 息子 必要な もの-PL-ACC 持って来る-VN-DAT 町-DAT 行く-PF
(6) -'oƙul-imiz 'äjäb käl-mäy-wat-i-du, birär 'iš bol-mi-ƙan-du-hä?
息子-POSS.1PL おかしな 来る-NEG-ASP-PRS-3 ある こと なる-NEG-PTCP.PST-MOD-EXC
(7) -xatirjäm bol, 'u-niḡ-da qoral bar.
落ち着いた なる 彼-GEN-LOC 道具 ある
(8) -bu xiš-lar yät-mä-ydiƙan-däk qil-i-du.
この レンガ-PL 届く-NEG-PTCP.NPST-SIM する-PRS-3
(9) -'awwal bu xiš-lar-ni 'išlit-ip tur-ayli. (10) yät-mäy
まず この レンガ-PL-ACC 使う-CVB 続く-VOL.1PL 届く-CVB.NEG
qal-sa, 'oƙul-imiz käl-gän-dä bir gäp bol-ar.
残る-COND 息子-POSS.1PL 来る-PTCP.PST-LOC 1 話 なる-AOR
(11) -wayjan...
EXC
(12) -'ölgür, nä-din käl-di bu 'äbläx ! (13) yultuz-jan, köz-iḡiz-ni
ばか 何-ABL 来る-PST この 愚か者 PSN-DIM 目-POSS.2PL-ACC
'eč-iḡ, bir nemä bol-mi-ƙan-siz? yultuz-jan...
開ける-IMP.2SG 1 何 なる-NEG-PTCP.PST-2PL PSN-DIM
(14) -dada, 'apam-ƙa nemä bol-di ?
父 母-DAT 何 なる-PST
(15) -'apa-ḡ-ni yilan čeq-iwal-ƙili tasla qal-di 'oƙl-um.
母-2SG-ACC 蛇 噛む-ASP-CVB あやうく～しそうに なる-PST 息子-POSS.1SG
(16) -'apa, 'apa, köz-üḡ-ni 'ač, män qayt-ip käl-di-m.
母 母 目-POSS.2SG-ACC 開く 私 帰る-CVB 来る-PST-1SG

- (17) — käl-di-ŋ=mu ’oʻgl-um, yawayi haywan-lar top-laš-qan bu
 来る-PST-2SG=CL 息子-POSS.1SG 野生の 動物-PL 集う-PTCP.PST この
 jaŋgla-da saŋa birär ’iš bol-up qal-ar-mikin dä-p bäk
 森-LOC 君.DAT ある こと なる-CVB 残る-AOR-MOD 言う-CVB とても
 ’änsiri-di-m. (18) här nemä bol-sa tinč aman qayt-ip kä-p-sän.
 心配する-PST-1SG すべて 何 なる-COND 落ち着いた 平安 帰る-CVB 来る-PF-2SG
- (19) — de-mi-si=mu yawayi haywan-lar bäk wäššiy ’ikän.
 言う-NEG-COND=CL 野生の 動物-PL とても 凶暴な COPEV
- (20) texi bayi=la bir yolwas-niŋ buka yä-wat-qan-liq-i-ni
 まだ 丁度=CL 1 虎-GEN 鹿 食べる-ASP-PTCP.PST-IK-POSS.3-ACC
 kör-dü-m. (21) lekin, män-dä qoral bol-kan-dikin ’änsiri-mi-sä-ŋ=mu
 見る-PST-1SG しかし 私-LOC 道具 なる-PTCP.PST-MOD 心配する-NEG-COND-2SG=CL
 bol-i-du. (22) ’obdan-raq ’aram ’al-kin ’apa, bäk qorq-up ket-ip-sän,
 なる-PRS-3 良い-COMP 休み 取る-IMP.2SG 母 とても 恐れる-CVB 行く-PF-2SG
 män saŋa čay dämlä-p ber-äy.
 私 君.DAT お茶 煎じる-CVB 与える-VOL.1SG
- (23) ’ular ’axir tam-ni püt-küz-üptu. (24) šu-niŋ-din keyin hoyli-ka
 彼ら 最後 壁-ACC 完成させる-PF これ-GEN-ABL あと 中庭-DAT
 ziyaxor haywan-lar kir-äl-mä-ydiŋan bo-ptu. (25) ’ular=mu xatirjäm
 害のある 動物-PL 入る-ABIL-NEG-PTCP.NPST なる-PF 彼ら=CL 落ち着いた
 ’öz tirikčilik-i-ni qi-ptu.
 自分 生計-POSS.3-ACC する-PF

13. 神秘的な森

(1)昔々、深い森があったそうだ。(2)この森にはライオンや虎、蛇、蠍をはじめ、羚羊や鹿、羊や牛までもがともに暮らしていたそうだ。(3)この土地に、ある家族がおり、彼らは狩猟や農業で生活を送っていたそうだ。(4)ある日彼らは、蛇や蠍が多いことから、自分たちの身を案じ、中庭をぐるりと囲む塀を作ろうとした。息子は必要なものを買いに町へ行った。

(6)―私たちの息子はどうしたのか帰ってこない、何か起こったのかしら？

(7)―落ち着きなさい、あの子には武器がある。

(8)―このレンガは足りなくなりそう。

(9)―先にこちらのレンガを使おう。(10)足りなくなってしまうえば、私たちの息子が帰ってきたときに、なんとかなるだろう。

(11)―あっ…

(12)―畜生、どうして入ってきたんだ、こいつめ[蛇のこと]。(13) ユルトゥズ、目を開けろ！何が起こったんだ？ ユルトゥズ…

(14)―[息子が帰ってきて] 父さん、母さんに何があったの？

(15)―母さんを蛇がもう少しで噛むところだったんだ、息子よ。

(16)―母さん、母さん、目を開けて、僕は帰ってきたよ。

(17)―帰ったのね、息子よ。野生の動物たちが集うこの森でおまえに何かあったのかと、とても心配した。(18)なにせよ、無事に帰ってきたのだね。

(19)―言ったとおり、野生の動物たちはたいそう凶暴だ。(20)つい今しがた、虎が鹿を食べているのを見たんだ。(21)でも僕は武器を持っていたからね、心配しなくても大丈夫だよ。

(22)よく休んで、母さん。すごく心配してしまったんだね。僕は母さんにお茶を入れてあげよう。

(23)彼らは最後に塀を完成させた。(24)それからは、中庭に害のある動物たちは入ることができなくなった。(25)彼らも平穏に暮らした。

14. tepişmaq

(1) 'inaq bir 'a'ilä kişiliri bolup, 'är gilasqa bäk 'amraq 'ikän. (2) 'u bugünmu 'işqa meñiş 'aldida xotuniğa :

(3) — xotun, maña gilas 'üzüp bärğinä ! — döp turuwaptu. (4) xotuni 'idişqa su quyuwatqan bolsimu, 'ärniñ köñlini döp gilas 'üzüp beriptu. (5) 'är gilasni 'elip yolda yegäč zawutqa beriptikän.

(6) 'işqa keçikip qaptu wä başlıqidin tänqid 'aqlaptu. (7) 'är 'işläwetip , 'iç puşuqida 'oylanğač bir tepişmaq tüzüptu. (8) 'u 'öygä kälğändä, heliqi tepişmaqni xotuniğa 'eytip beriptu :

(9) 'itta bar, müşüktä yoq, 'ikki čaşqan töşüktä yoq...

(10) 'ilmäktä bar, tüzdä yoq, tilimda bar, sözdä yoq...

(11) gilasta bar, 'amutta yoq, mijitta bar, mamutta yoq...

(12) xotuni bu tepişmaqni tapalmay, balisidin soraptu. (13) balisimu tapalmaptu. (14) qiziqarliq bolğini keyin 'ärmu 'uniñ jawabini 'untup qelip, hazirkičä 'işqimu barmay 'oyliniwatqudäkmiş...

14. tepišmaq

なぞなぞ

- (1) 'inaq bir 'a'ilä kiši-lir-i bol-up, 'är gilas-qa bäk 'amraq
 仲の良い 1 家族 人-PL-POSS.3 なる-CVB 夫 サクランボ-DAT 大変 好む
 'ikän. (2) 'u bügün=mu 'iš-qa meñ-iš 'aldida xotun-i-ka:
 COPEV 彼 今日=CL 仕事-DAT 歩く-VN 前 妻-POSS.3-DAT
- (3) – xotun, maña gilas 'üz-üp bär-ginä! – dä-p tur-uwa-ptu.
 妻 私.DAT サクランボ 摘む-CVB 与える-IMP.2SG 言う-CVB 続ける-ASP-PF
- (4) xotun-i 'idiš-qa su quy-uwat-qan bol-si=mu, 'är-niñ
 妻-POSS.3 甕-DAT 水 注ぐ-ASP-PTCP.PST なる-COND=CL 夫-GEN
 köñl-i-ni dä-p gilas 'üz-üp ber-iptu. (5) 'är gilas-ni
 心-POSS.3-ACC 言う-CVB サクランボ 摘む-CVB 与える-PF 夫 サクランボ-ACC
- 'el-ip yol-da ye-gäč zawut-qa ber-ipt-ikän. (6) 'iš-qa kečik-ip
 取る-CVB 道-LOC 食べる-CVB 工場-DAT 行く-PF 仕事-DAT 遅れる-CVB
 qa-ptu wä bašliq-i-din tənqid 'añla-ptu. (7) 'är 'išlä-wet-ip,
 残る-PF そして 首長-POSS.3-ABL 批判 聞く-PF 夫 仕事する-ASP-CVB
- 'iç puşuqi-da 'oylan-kač bir tepišmaq tüz-üptu.
 煩悶-LOC 考える-CVB 1 なぞなぞ 作る-PF
- (8) 'u 'öy-gä käl-gän-dä, heliqi tepišmaq-ni xotun-i-ka 'eyt-ip
 彼 家-DAT 来る-PTCP.PST-LOC その なぞなぞ-ACC 妻-POSS.3-DAT 話す-CVB
 ber-iptu :
 与える-PF
- (9) 'it-ta bar, müšük-tä yoq, 'ikki čaşqan töşük-tä yoq...
 犬-LOC ある 猫-LOC ない 2 ネズミ 穴-LOC ない
- (10) 'ilmäk-tä bar, tüz-dä yoq, til-im-da bar, söz-dä yoq...
 鉤-LOC ある まっすぐな-LOC ない 舌-POSS.1SG ある ことば-LOC ない
- (11) gilas-ta bar, 'amut-ta yoq, mijit-ta bar, mamut-ta yoq...
 サクランボ-LOC ある 梨-LOC ない PSN-LOC ある PSN-LOC ない
- (12) xotun-i bu tepišmaq-ni tap-al-may, bali-si-din sora-ptu.
 妻-POSS.3 この なぞなぞ-ACC 見つける-ABIL-CVB.NEG 子ども-POSS.3-ABL 問う-PF
- (13) bali-si=mu tap-al-ma-ptu. (14) qiziqarliq bol-kin-i keyin
 子ども-POSS.3=CL 見つける-ABIL-NEG-PF おもしろい なる-PTCP.POO.3 あと
 'är=mu 'u-niñ jawab-i-ni 'unt-up qel-ip, hazırkiçä 'iš-qi=mu
 夫=CL 彼-GEN その-POSS.3-ACC 忘れる-CVB 残る-CVB いまだに 仕事-DAT=CL
 bar-may 'oylin-iwat-qu-däk-miš...
 行く-CVB.NEG 考える-ASP-VN-SIM-EV

14. なぞなぞ

(1)ある仲の良い家族がおり、夫はサクランボをたいそう好んだそうだ。(2)彼は今日も仕事に行く前に妻に：

(3)「おおい、私にサクランボを摘んでくれ!」と言った。(4)妻は甕に水を注いでいたが、夫のためにサクランボを摘んであげた。(5)夫はサクランボを受け取って、食べながら工場に行ったそうだ。(6)仕事に遅れてしまい、首長から叱られた。(7)夫は仕事中に煩悶しながらなぞなぞを作った。(8)彼は家に帰ったときに、そのなぞなぞを妻に話してあげた。

(9)犬にはあって、猫にはない。2匹のネズミは穴にいない……

(10)鉤にはあって、まっすぐなものにはない。舌にはあって、ことばにはない……

(11)サクランボにはあって、梨にはない。ミジットにはあって、mammutにはない……

(12)妻はこのなぞなぞが解けなくて、子どもに尋ねた。(13)子どもも解けなかった。(14)おもしろくなってきたところで、夫もその答えを忘れてしまい、いまだに仕事にも行かずに考え続けているそうだ。

15. 'elipbä häqqidä hekayä

- (1) – wah, nemidegän güzäl šähär bu !
(2) – šundaq.
(3) – 'aldimizda kähri kätkün yaylaq bar 'ikän, därya ! (4) qarısına bu tarim däryasi 'ämäsmü ?
(5) – šu 'ikän, rasttinla därya 'ikän !
(6) – meniñ bu däryani 'öz közüm bilän körgüm bar 'idi, bäk yaxši boldi !
(7) – 'ehtiyat qil, 'aldimizda 'egiz taş çoqqiliri bar 'ikän.
(8) – bu qoş'eriñ qäyärgä tutišidiñandu ?
(9) – meniñčä, zäräpšan däryasına tutišişi mumkin.
(10) – qarısına, bu kähri kätkün 'etizlarğa.
(11) – 'etiz boyidiki teräklär bu yurtni häqiqätän güzäl tüskä kirüzüptü. (12) deñiz, nemidegän häywätlik !
(13) – 'ilyar, biz bäkmu yuqirilap kättuq, 'uniñ 'üstigä kaç kirip kätti, qaytip ketäyliču !
(14) – toxtap tur, yänä bir'az 'içkiläp baqayli. (15) 'aldimizda bir qarañbuluq bar 'ikän, çin oltur.
(16) 'u yärdä bir hekmät bolsa keräk , berip qarap baqayliču !
(17) – qoluñdiki hekmätlik kitabni 'ularğa bärin ! (18) 'ular bu kitab bilän dilni yorutup, ka'inatniñ sirini 'açsun, bärin...
(19) – dostlar, 'eliñlar ! (20) bu diliñlarni yorutquçi nurluq çiraş. (21) 'u silärgä čäksiz baxt 'elip kelidu.
(22) – berinlar, buni tezdin başqilarımu yatküzünlar ! (23) xayr-xoş !
(24) – silärgä 'amät tiläymän balilirim, baxt silärgä yar bolsun.
(25) – rähmät sizgä pärizat, biz çoqum 'ümidinizni 'aqlaymiz.
(26) – xoş pärizat !

15. 'elipbä häqqidä hekayä

アルファベット についての 物語

- (1) – wah, nemidegän güzäl šähär bu !
 EXC 何と言う 美しい 町 これ
- (2) – šundaq.
 その通り
- (3) – 'aldi-miz-da kəŋri kät-kän yaylaq bar 'ikän, därya !
 前-POSS.1PL-LOC 広い 行く-PTCP.PST 牧場 ある COPEV 河
- (4) qari-ŋin-a bu tarim därya-si 'ämäs=mu ?
 見る-IMP.2SG-MOD これ タリム 河-POSS.3 違う=CL
- (5) – šu 'ikän, rasttin=la därya 'ikän !
 その COPEV 本当=CL 河 COPEV
- (6) – men-iŋ bu därya-ni 'öz köz-üm bilän kör-gü-m bar
 私-GEN この 河-ACC 自分 目-POSS.1SG と 見る-VN-POSS.1SG ある
 'i-di, bək yaxşı bol-di !
 COP-PST とても 良い なる-PST
- (7) – 'ehtiyat qil, 'aldi-miz-da 'egiz taş čoqqi-lir-i bar 'ikän.
 注意 する 前-POSS.1PL-LOC 高い 山 頂-PL-POSS.3 ある COPEV
- (8) – bu qoş 'eriq qäyär-gä tut-iş-idivän-du ?
 この 対の 小川 どこ-DAT つかむ-RECP-PTCP.NPST-MOD
- (9) – men-iŋ-čä, zäräpšan därya-si-va tut-iş-iş-i mumkin.
 私-GEN-ADVBL ゼレプシャン 河-POSS.3-DAT つかむ-RECP-VN-POSS.3 可能
- (10) – qari-ŋin-a, bu kəŋri kät-kän 'etiz-lar-va.
 見る-IMP.2SG-MOD この 広い 行く-PTCP.PST 畑-PL-DAT
- (11) – 'etiz boy-i-diki teräk-lär bu yurt-ni häqiqätän güzäl tüs-kä
 畑 端-POSS.3-にある テレク-PL この 地方-ACC 本当に 美しい 特色-DAT
 kir-üz-üptu. (12) deŋiz, nemidegän häywätlik !
 入る-CAUS-PF 海 何と言う 雄大な
- (13) – 'ilyar, biz bək=mu yuqirila-p kät-tu-q, 'u-niŋ 'üst-i-gä
 PSN 私たち 大変=CL 高くなる-CVB 行く-PST-1PL あの-GEN 上-POSS.3-DAT
 kəč kir-ip kät-ti, qayt-ip ket-äyli-ču !
 晩 入る-CVB 行く-PST 帰る-CVB 行く-VOL.1PL-MOD
- (14) – toxta-p tur, yänä bir'az 'ičkirilä-p baqa-yli.
 やめる-CVB 続ける また 少し 深く入る-CVB 見る-VOL.1PL
- (15) 'aldi-miz-da bir qaraŋkuluq bar 'ikän, čiŋ 'oltur.
 前-POSS.1PL-LOC 1 暗がり ある COPEV しっかりした 座る
- (16) 'u yär-dä bir hekmät bol-sa keräk, ber-ip qara-p
 あの 場所-LOC 1 秘密 なる-COND 必要 行く-CVB 見る-CVB

baqa-yli-ču !

見る-VOL.1PL-MOD

(17) — qol-uŋ-diki hekmätlik kitab-ni ’ular-ıa bär-gin !
手-POSS.2SG-にある 賢明な 本-ACC 彼ら-DAT 与える-IMP

(18) ’ular bu kitab bilän dil-ni yorut-up, ka’inat-niŋ sir-i-ni
彼ら この 本 一緒に 心-ACC 照らす-CVB 世界-GEN 秘密-POSS.3-ACC

’aç-sun, bär-gin...

開ける-OPT 与える-IMP

(19) — dost-lär, ’el-iŋlar ! (20) bu dil-iŋlar-ni yorutquči nurluq čıraş.
友人-PL 取る-IMP これ 心-POSS.2PL-ACC 照明 光り輝く 明かり

(21) ’u silär-gä čäksiz bäxt ’el-ip kel-i-du.
それ あなたたち-DAT 限りない 幸福 取る-CVB 来る-PRS-3

(22) — ber-iŋlar, bu-ni tez-din başqi-lar-ıı-mu yätküz-ünlar ! (23) xäyr-xoš !
行く-IMP これ-ACC 早い-ABL 他の人-PL-DAT-mu 伝える-IMP さようなら

(24) — silär-gä ’amät tilä-y-män bali-lir-im, bäxt silär-gä
あなたたち-DAT 幸運 願う-PRS-1SG 子ども-PL-POSS.1SG 幸福 あなたたち-DAT

yar bol-sun.

助け なる-OPT

(25) — rähmät siz-gä pärizat, biz čoqum ’ümid-iŋiz-ni ’aqla-y-miz.
ありがとう あなたたち-DAT 妖精 私たち 必ず 期待-POSS.2SG-ACC 報いる-PRS-1PL

(26) — xoş pärizat !
さようなら 妖精

15. アルファベットについての物語

- (1)ーわあ、なんてきれいな町!
(2)ーそうだね。
(3)ー目の前に広い牧場があるよ! 河! (4)見てよ、あれはタリム河じゃない?!
(5)ーそうみたいだね。本当に河だ!
(6)ー私はこの河を自分の目で見てみたいと思っていたんだ、良かった!
(7)ーよく見て、前に、高い山のとっぺんがあるみたいだよ。
(8)ーこの2つの河はどこで合流するんだろう。
(9)ー私は、ゼレプシャン河だと思う。
(10)ー見て、この広がっていく畑を!
(11)ー畑の端に咲いてあるテレクがこの土地を本当に美しくしているね。(12)海はなんて雄大なんだろう!
(13)ーイリヤル、私たちはすごく高いところに来てしまった、その上、夕方になってしまった。帰ろうよ。
(14)ー待って、もう少し中の方まで入ってみよう。(15)前の方に暗がりがある。じっと座って。(16)あそこに秘密があるはずだ。行って見てみよう!
- (17)ー手に持っている知恵の本を彼らに渡して!彼らがこの本で心を照らして世界の秘密を明らかにしますように。渡して・・・
(19)ー友よ、受け取っておくれ。(20)これは心を照らす光り輝く明かりです。(21)それはあなたたちに限りない幸せをもたらします。
(22)ー行きなさい、これを早く他の人たちにも伝えてください。(23)さようなら。
(24)ーあなたたちの幸せを願っています、子どもたちよ。幸せがあなたたちの助けになりますように。
(25)ーありがとう、妖精。私たちは必ず望みにこたえるよ。
(26)ーさようなら、妖精!

16. hakawur maymun

- (1) — müšük 'aka, biz zadi qačanıçä mañimiz ?
- (2) — 'aldirimikin, bekätkä keläyla däp qalduq.
- (3) — 'aka, 'u yärdä qoral 'asqan biri keliwatidu.
- (4) — šundaq, 'u maymunkän.
- (5) — 'u maymun saqçı bolsa keräk. täqi-turqidin qarıwanda, bäk hakawurdäk qilidu. (6)'u häqiqätän bäk šürlük 'ikän, 'ägär 'uniñ qešıwa barsaq...
- (7) — 'awwal berip baqaylıçu.
- (8) — häy maymun 'aka, yaxşı turdiñizmu ?
- (9) — hä... müšükçaq bu yärdä nemigä gañgirap yürisilär, nägä barmaqçı ?
- (10) — biz 'ormanwa berip...sayahät qilwaç räsım sizip kälmäkçi 'iduq.
- (11) — šundaqmu ?! (12)mänmu 'ormanwa berip 'ow 'owlap keläy däwatimän. (13) 'orman bilän bu yärniñ 'arılıqı 'aran 'üç kilometr kelidu. (14)män bilän billä berıñlar, rasa bir 'oynitip , közünlarni 'eçip qoyay. (15)qarañlar 'inilirim, mašinimu kelip qaldi.
- (16) — häy...silär nägä barisilär?
- (17) — taşa, bizni 'ormanlıqqa çüşürüp qoyuñä.
- (18) — boptu, qeni çiqıñlar, bu 'ikki šumtäkni 'ägäşturwalıniñ nemisi ?
- (19) — 'ular bizni birgä 'alwaç barsıñiz däp turwaldı, šuñı bu šorla müšüklärni 'ägäşürüwaldim.
- (20)heçbolmisa 'ularni yük-taqilirimni kötürgili salarmän.
- (21) — tezräk bolmamsän ?
- (22) — mana tügäyla däp qaldi.
- (23) — sizip boldum, qarap beqiñ maymun 'aka.
- (24) — nemandaq qamlaşmıwan räsım bu, senimu rässam degili bolamdu ?
- (25) — boldı...boldı, yürünlar män silärgä karamitimni körsitip qoyay, bu simni 'eliñlar, bir 'uçini 'awu däreşkä , bir 'uçini mawu däreşkä çıñ barıñlar, 'egiz barıñlar, 'egiz ! (26)boldimu ?
- (27)buyaqqı 'ötüp qarap beqiñlarçu !
- (28) — wah ! (29)nemä karamät bu ! (30)bäk yaxşı boldı, bäk köñüllük boldı.
- (31) — 'uniñ häqiqätän karamiti bar'ikän. (32)šundaqmu müšük 'aka ? (33)qarıwına !
- (34) 'u mollaqni bäk yaxşı 'atidikän.
- (35) — qandaq bu 'oyun qızıqarlıqmikän ?
- (36) — 'aka bizmu 'oynap baqaylıçu ?
- (37) — häy...häy...boldı qiliñlar, silär nemini bilätinlar ? (38)silär 'awwal töşüklärdin çaşqan marılaşni 'öğiniñlar, sim 'üstidä 'oynarımış texi ! (39)häy qarañlar 'awu bürkütñiñ boynida qımmät bahalıq marjan turidu, män hazırla 'uni 'etip çüşürüp, boynidiki marjanni 'eliwalay ! (40) bu pürsätin paydilinip, miltiq 'etiş maharitimiz körüweliñlar.
- (41) — maymun 'aka, 'undaq qılmañ ! (42) 'uni 'atsıñiz bolmaydu.
- (43) — hu qorqunçaq müšüklär !
- (44) — maymun 'aka, toxtap turuñ ! (45) 'aldıñizwa qarañ !
- (46) — hä... 'ämdi tüğişidikän boldum, ha...

- (47) — maymun 'aka, köziñizni 'eçiñ, köziñizni 'eçiñ, maymun 'aka !
- (48) — 'inim boldi yıñlıma, 'u ölüptu, maxtançaqlıq , hakawurluqniñ 'aqiwiti mana muşındaq ?
- (49)bolidu. (50)buniñdin bildimki, başqılarğa qoluñdin kelişiçä yaxşılıq qıl, härgiz yamanlıq qilma.
- (51) — müşük 'aka, 'uniñ räsimi biz 'üçün yaldama bolup qaldi.
- (52) — häy biçarä, yürä 'inim, bizmu qaytip ketäyli.

16. hakawur maymun

傲慢な 猿

- (1) — müšük 'aka, biz zadi qačanıçä mañ-i-miz ?
 猫 兄 私たち 一体 いつまで 歩く-PRS-1PL
- (2) — 'aldiri-mi-ın, bekät-kä kel-äy=la döp qal-du-q.
 あせる-NEG-IMP 停留所-DAT 来る-VOL.1SG=CL と 残る-PST-1PL
- (3) — 'aka, 'u yär-dä qoral 'as-qan bir-i kel-iwat-i-du.
 兄 あの 場所-LOC 武器 担ぐ-PTCP.PST 1-POSS.3 来る-ASP-PRS-3
- (4) — šundaq, 'u maymun-kän.
 そう あれ 猿-COPEV
- (5) 'u maymun saqçi bol-sa keräk. täqi-turqi-din qari-ıan-da, bäk
 あの 猿 警察 なる-COND 必要 容貌-ABL 見る-PTCP.PST-LOC 大変
 hakawur-däk qıl-i-du. (6) 'u häqiqätän bäk sürlük 'ikän, 'ägär
 傲慢-SIM する-PRS-3 彼 本当に 大変 威厳のある COPEV もし
 'u-niñ qeš-i-ıa bar-sa-q...
 彼-GEN そば-POSS.3-DAT 行く-COND-1PL
- (7) — 'awwal ber-ip baq-aylı-ču.
 まず 与える-CVB 見る-VOL.1PL-MOD
- (8) — häy maymun 'aka, yaxşı tur-di-ñiz-mu ?
 EXC 猿 兄 良い とどまる-PST-2SG-Q
- (9) — hä... müšük-çaq bu yär-dä nemi-gä gañgira-p yür-i-silär,
 EXC 猫-DIM この 場所-LOC 何-DAT ぼうっとする-CVB 歩く-PRS-2PL
 nägä bar-maqçi?
 どこ 行く-PTCP
- (10) — biz 'orman-ıa ber-ip... sayahät qıl-ıaç räsım siz-ip käl-mäkçi
 私たち 森-DAT 行く-CVB 観光 する-CVB 絵 描く-CVB 来る-PTCP
 'i-du-q.
 COP-PST-1PL
- (11) — šundaq-mu ?! (12) män=mu 'orman-ıa ber-ip 'ow 'owla-p kel-äy
 そう-Q 私=CL 森-DAT 行く-CVB 狩 狩る-CVB 来る-VOL.1SG
 dä-wat-i-män. (13) 'orman bilän bu yär-niñ 'arılıq-i 'aran 'üç
 思う-ASP-PRS-1SG 森 と この 場所-GEN 距離-POSS.3 たった 3
 kilometr kel-i-du. (14) män bilän billä ber-iñlar, rasa bir 'oynit-ip ,
 キロメートル 来る-PRS-3 私 と 一緒に 行く-IMP 本当に 1 遊ぶ-CVB
 köz-ünlar-ni 'eç-ip qoy-ay. (15) qara-ñlar 'ini-lir-im, mašini=mu
 目-POSS.2PL-ACC 開く-CVB 置く-VOL.1SG 見る-IMP.2PL 弟-PL-POSS.1SG 車=CL
 kel-ip qal-dı.
 来る-CVB 残る-PST

- (16) —häy... silär nägä bar-i-silär?
 EXC あなたたち どこへ 行く-PRS-2PL
- (17) —tağa, biz-ni 'ormanlıq-qa čüşür-üp qoy-uñ-ä.
 おじさん 私たち-ACC 森-DAT 乗せる-CVB 置く-IMP-MOD
- (18) —bo-ptu, qeni čiq-iñlar, bu 'ikki šumtäk-ni 'ägäštür-wal-ın-iñ
 なる-PF EXC 出る-2PL この 2 いたずら-ACC 率いる-ASP-PTCP.PST-POSS.2SG
 nemi-si ?
 何-POSS.3
- (19) —'ular biz-ni birgä 'al-kač bar-si-ñiz dä-p tur-wal-di,
 彼ら 私たち-ACC 一緒に 取る-CVB 行く-COND-2SG 言う-CVB 続ける-ASP-PST
 šuñğa bu šor=la müšük-lär-ni 'ägäštürü-wal-di-m. (20) heč bol-mi-sa
 それで この 不幸=CL ネコ-PL-ACC 率いる-ASP-PST-1SG 全然 なる-NEG-COND
 'ular-ni yük taqi-lir-im-ni kötür-gili sal-ar-män.
 彼ら-ACC 荷物-PL-POSS.1SG-ACC 持って行く-CVB 連れる-AOR-1SG
- (21) —tez-räk bol-ma-m-sän?
 速い-COMP なる-NEG-Q-2SG
- (22) —mana tüg-äy=la dä-p qal-di.
 EXC 終わる-VOL.1SG=CL 言う-CVB 残る-PST
- (23) —siz-ip bol-du-m, qara-p beq-iñ maymun 'aka.
 描く-CVB なる-PST-1SG 見る-CVB 見る-IMP サル 兄さん
- (24) —nemandaq qamlaş-mi-kan räsım bu, seni=mu rässam de-gili
 どんな 合う-NEG-PTCP.PST 絵 これ 君.ACC=CL 画家 言う-CVB
 bol-am-du ?
 なる-Q-3
- (25) —bol-di... bol-di, yürü-ñlar män silär-gä karamit-im-ni
 なる-PST なる-PST 歩く-IMP 私 あなたたち-DAT 正体-POSS.1SG-ACC
 körsit-ip qoy-ay, bu sim-ni 'el-iñlar, bir 'uç-i-ni 'awu
 見せる-CVB 置く-VOL.1SG この ワイヤ-ACC 取る-IMP.2PL 1 先-POSS.3-ACC あの
 dārāx-kä, bir 'uç-i-ni mawu dārāx-kä čiñ barıla-ñlar, 'egiz
 木-DAT 1 先-POSS.3-ACC この 木-DAT 丈夫な 結ぶ-IMP 高い
 barıla-ñlar, 'egiz ! (26) bol-di-mu ? (27) bu yaq-qa 'öt-üp qara-p
 結ぶ-IMP 高い なる-PST-Q この 側-DAT 過ぎる-CVB 見る-CVB
 beqi-ñlar-ču !
 見る-IMP-MOD
- (28) —wah ! (29) nemä karamät bu ! (30) bāk yaxşı bol-di, bāk köñüllük
 EXC 何 正体 これ 大変 良い なる-PST 大変 気に入った
 bol-di.
 なる-PST
- (31) —'u-niñ häqiqätän karamit-i bar ikän. (32) šundaq=mu müšük 'aka ?
 彼-GEN 本間に 正体-POSS.3 ある COPEV そう=CL ネコ 兄さん

- (33) qari-ıın-a ! (34) 'u mollaq-ni bāk yaxşı 'at-i-di-kän.
 見る-IMP-MOD 彼 宙返り-ACC 大変 良い 投げる-PRS-3-EV
- (35) —qandaq bu 'oyun qiziqarliq-mi-kän ?
 どのような この 遊び 面白い-Q-EV
- (36) —'aka biz=mu 'oyna-p baqa-yli-ču ?
 兄さん 私たち=CL 遊ぶ-CVB 見る-VOL.1PL-MOD
- (37) —häy... häy... bol-di qil-iqlar, silär nemi-ni bil-ätti-qlar ?
 EXC EXC なる-PST する-IMP あなたたち 何-ACC 知る-HAB-PST-2PL
- (38) silär 'awwal töşük-lär-din čaşqan marila-ş-ni 'ögin-iqlar, sim
 あなたたち まず 穴-PL-ABL ネズミ 覗き見る-VN-ACC 学ぶ-IMP ワイヤー
 'üst-i-dä 'oyna-r-miš texi ! (39) häy qara-qlar 'awu bürküt-niñ boyn-i-da
 上-POSS.3-LOC 遊ぶ-AOR-EV まだ EXC 見る-IMP あの 鷲 GEN 首-POSS.3-LOC
 qimmät bahaliq marjan tur-i-du, män hazır=la 'u-ni 'et-ip
 高い 価値のある ネックレス とどまる-PRS-3 私 今=CL あれ-ACC 撃つ-CVB
 čüşür-üp, boyn-i-diki marjan-ni 'el-iwal-ay ! (40) bu pürsät-tin
 落とす-CVB 首-POSS.3にある ネックレス-ACC 取る-ASP.VOL.1SG これ 機会-ABL
 paydilin-ip, miltiq 'et-iş maharit-imiz kör-üwel-iqlar.
 利用する-CVB 銃 撃つ-VN 技能-POSS.1PL 見る-ASP-IMP
- (41) —maymun 'aka, undaq qil-ma-ql ! (42) 'u-ni 'at-si-qliz
 サル 兄さん そのように する-NEG-IMP 彼-ACC 撃つ-COND-2SG
 bol-ma-y-du.
 なる-NEG-PRS-3
- (43) —hu qorqunčaq müşük-lär !
 EXC 臆病な ネコ-PL
- (44) —maymun 'aka, toxta-p tur-uql ! (45) 'aldi-qliz-ka qara-ql !
 サル 兄さん 止める-CVB 立つ-IMP 前-POSS.2SG-DAT 見る-IMP
- (46) —hä... 'ämdi tügiş-idiwan bol-du-m, ha...
 EXC 今 だめになる-PTCP.NPST なる-PST-1SG EXC
- (47) —maymun 'aka, köz-iqliz-ni 'eč-iql, köz-iqliz-ni 'eč-iql,
 サル 兄さん 目-POSS.2SG-ACC 開ける-IMP 目-POSS.2SG-ACC 開ける-IMP
 maymun 'aka !
 サル 兄
- (48) —'ini-m bol-di yikli-ma, 'u 'öl-üptu, maxtančaqliq, hakawurluq-niñ
 弟-POSS.1SG なる-PST 泣く-NEG 彼 死ぬ-PF うぬぼれ 傲慢-GEN
 'aqiwit-i mana müşündaq ? (49) bol-i-du. (50) bu-niñ-din bil-di-m-ki,
 結果-POSS.3 EXC このような なる-PRS-3 これ-GEN-ABL 知る-PST-1SG-MOD
 başqi-lar-ka qol-uql-din kel-işi-čä yaxşılıq qil, härgiz yamanliq qil-ma.
 他-PL-DAT 手-POSS.2SG-ABL 来る-VN-ADVBL 良いこと する 決して 悪さ する-NEG
- (51) —müşük 'aka, 'u-niñ räsım-i biz 'üçün yaldama bol-up qal-di.
 ネコ 兄さん 彼-GEN 絵-POSS.3 私たち ために 記念品 なる-CVB 残る-PST

(52) —häy bičarä, yürä 'ini-m, biz=mu qayt-ip ket-äyli.
EXC かわいそうな 歩く 弟-POSS.1SG 私たち=CL 帰る-CVB 行く-VOL.1PL

16. 傲慢なサル

- (1)ーネコの兄さん、僕たちはいつまで歩くの？
(2)ーあせるな、停留所まであと少しだ。
(3)ー兄さん、あそこで武器を担いだ誰かが近づいてくる。
(4)ー本当だ。あれはサルのような。
(5)ーあのサルは警察に違いない。外見からして、たいそう傲慢な感じだね。(6)あのサルは本当に威厳がある。もし私たちが彼のそばに行ったら…
(7)ーまずは声をかけてみよう。
- (8)ーおおい、サルの兄さん、調子は良いかね？
(9)ーああ、ネコたち。ここで何をぼやぼやと歩いているんだ。どこへ行くつもりだ？
(10)ー私たちは森へ行って…観光しながら絵を描くつもりだったんだ。
(11)ーそうなのか?! (12)私も森へ行って狩りをしてこようと思っていたんだ。(13)森とここの距離はたった3キロメートルだ。(14)私と一緒に行きなさい、思いっきり遊んで、目を覚ましてやろう。(15)見なさい、弟たち、車も来た。
- (16)ーやあ…君たちはどこへ行くんだい。
(17)ーおじさん、私たちを森まで乗せて行ってください。
(18)ーいいとも、ほら乗りなさい。この2匹のいたずらっ子を連れているのはどうしてだ？
(19)ー彼らが「私たちと一緒に連れて行け」と言い張った、それで、この哀れな猫たちを連れているんだ。(20)彼らを私の荷物を持っていくために連れてるんだ。
- (21)ー早くしたらどうなんだ。
(22)ーほら、じきに終わる。
(23)ー描きあがった、見てみて、サルの兄さん。
(24)ーなんて下手な絵なのだ、これは。おまえが画家になろうと言うのか？
(25)ーもういい、もういい。行こう、私は君たちに正体を見せておこう。このワイヤーを取って、1つの先をあの木へ、1つの先をこの木へしっかりと結んで。高く結べ、高く! (26)できたか? (27)こちら側へ来て、見てみろ!
(28)ーわあ! (29)何て才能だろう! (30)すごくいいな、すごく気に入った。
(31)ー彼には本当に才能があるんだなあ。(32)そうだよね、ネコの兄さん。(33)見て! (34)彼は宙返りをとても上手にするんだね。
(35)ーどうだい、この遊びは面白いかな？
(36)ー兄さん、僕たちも遊んでみようか？
(37)ーおい、おい、やめろ。君たちが何を知っているというの?(38)君たちはまず穴からネズミを覗き見することを学びなさい。ワイヤーの上で遊ぶのはまだだ!(39)おおい、見ろ、あの鷲の首に高価な首飾りがある。私が今からあれを落として、首にある首飾りを取ってやろう!(40)この機会に、私の弾撃ちの腕前を見ている。
(41)ーサルの兄さん、そんなことをしないで!(42)あれを撃ってはいけない。

(43)ー へっ、臆病者のネコども!

(44)ーサルの兄さん、やめて!(45)前を見て!

(46)ーああ、もうおしまいだ...ああ...

(47)ーサルの兄さん、目を開けて、目を開けて、サルの兄さん!

(48)ー弟よ、泣くな、彼は死んでしまった、うぬぼれと傲慢の結果、こうなったのだ。(49)このことから分かったよ。(50)他人には出来る限り良いことをしろ、決して悪いことをするな。

(51)ーネコ兄さん、サルの絵は私たちには思い出になってしまったね。

(52)ーああ、かわいそうに。行こう、弟よ。私たちも帰ろう。

17. 'ögäy 'ana

- (1) — balilirim çaşqançaq, çaşqançaqlirim, häy balilirim, balilirim, çaşqançaqlirim, män silärni 'oynatqili 'apirimän, häy balilirim keliñlar !
- (2) — dada, top kätti !
- (3) — hä, qeni 'atä !
- (4) — mana kätti !
- (5) — balilirim, 'oyunimiz muşu yärgičä bolsun, 'ögäy 'apañlarniñ 'öyigä 'apiridixan närsä bar 'idi, silär maña yardämlişinñlar, bolamdu balilirim ?
- (6) — bolidu, dada !
- (7) — dada, 'astiraq mañsinizču !
- (8) — yetişip meñinñlar balilirim, çapsan bolmisaq bolmaydu.
- (9) — yaxşı, bäk yaxşı boldi... çu...
- (10) — häy...balilirim buyaqqä keliñlar, maña yardämlişip bu çamxurni yuluşup beriñlar, çapsan boluñlar !
- (11) — balilirim, čana toşup kätti, 'ämdi mañaylimu ?
- (12) — bolidu.
- (13) — wayjan...bäk herip kättuq, birdäm 'aram 'eliwalayliču !
- (14) — bolmaydu balilirim, 'ittiriñlar !
- (15) — dadam nemidegän rähimsiz ! (16) 'u da'im bizni muşundaq bozäk qilidu.
- (17) — kotuldimañlar, 'apañlarniñ 'öyigä kelip qalduq.
- (18) — wayjan, wayyäy ! (19) bäk herip kättuq.
- (20) — şunçilik 'işqimu herip kättiñlarmu? (21) hu nanqepilar !
- (22) — 'ämgekimizniñ 'äjrini 'alduq mana.
- (23) — nemä boldi silärgä, 'ornuñlardin turuñlar !
- (24) — čimän, 'ačçıqinizni besiweliñ, män sizgä çay quyup beräy, (25)qeni çay 'için, çamxurlar sizgä taza yeqip kätmidi, (26)bu qetimqi sowxamdin çoqum razi bolisiz.
- (27) — 'u 'öydä 'adäm barmidu, yoqmidu? (28) 'adäm yoq 'ikän, yaxşı... (29) čaç, bu sowxam 'uniñka çoqum yaraydu. (30) pah ! bu çeçäklärdin čimängä 'alkaç baray.
- (31) — čimän, qaraña ! (32)män sizgä nemä elip kälдим.
- (33) — pah ! bu qetim köñlümdikidäk sowxa 'elip käpsiz, bäk raza boldum. (34) mänmu sizgä bir närsä täyyarlap qoyxanidim.
- (35) — qilič !
- (36) — buni sizgä sowxa qiliwetäy.
- (37) — häşqanla čimän...

17. 'ögäy 'ana

ママ 母

- (1) — bali-lir-im čašqan-čaq, čašqan-čaq-lir-im, häy bali-lir-im,
 子ども-PL-POSS.1SG ネズミ-DIM ネズミ-DIM-PL-POSS.1SG EXC 子ども-PL-POSS.1SG
 bali-lir-im, čašqan-čaq-lir-im, män silär-ni 'oynat-qili
 子ども-PL-POSS.1SG ネズミ-DIM-PL-POSS.1SG 私 あなたたち-ACC 遊ばせる-CVB
 'apir-i-män,
 連れて行く-PRS-1SG EXC 子ども-PL-POSS.1SG 来る-IMP
 (2) — dada, top kät-ti !
 父 ボール 行く-PST
 (3) — hä, qeni 'at-ä !
 EXC ほら 投げる-MOD
 (4) — mana kät-ti !
 ほら 行く-PST
 (5) — bali-lir-im, 'oyun-imiz mušu yär-gičä bol-sun, 'ögäy
 子ども-PL-POSS.1SG 遊び-POSS.1PL このような 場所-まで なる-OPT まま
 'apa-ñlar-niñ 'öy-i-gä 'apir-idixan närsä bar 'i-di,
 母-POSS.2PL-GEN 家-POSS.3-DAT 持っていく-PTCP.NPST もの ある COP-PST
 silär maña yardımliş-iñlar, bol-am-du bali-lir-im ?
 あなたたち 私.DAT 助け合う-IMP なる-Q-3 子ども-PL-POSS.1SG
 (6) — bol-i-du, dada !
 なる-PRS-3 父
 (7) — dada, 'asti-raq mañ-si-ñiz-ču !
 父 ゆっくり-COMP 歩く-COND-2SG-MOD
 (8) — yetiš-ip meñ-iñlar bali-lir-im, čapsan bol-mi-sa-q
 追いつく-CVB 歩く-IMP.2PL 子ども-PL-POSS.1SG 早く なる-NEG-COND-1PL
 bol-ma-y-du.
 なる-NEG-PRS-3
 (9) — yaxşı, bäk yaxşı bol-di... ču...
 良い 大変 良い なる-PST EXC
 (10) — häy... bali-lir-im bu yaq-qa kel-iñlar, maña yardımliş-ip bu
 EXC 子ども-PL-POSS.1SG この 側-DAT 来る-IMP.2PL 私.DAT 助け合う-CVB この
 čamkür-ni yul-uş-up ber-iñlar, čapsan bol-uñlar !
 カブ-ACC 引っ張る- RECP-CVB 与える-IMP 早く なる-IMP
 (11) — bali-lir-im, čana toş-up kät-ti, 'ämdi mañ-ayli-mu ?
 子ども-PL-POSS.1SG そり 満ちる-CVB 行く-PST 今 進む-VOL.1PL-Q
 (12) — bol-i-du.
 なる-PRS-3

- (13) — wayjan... bāk her-ip kät-tu-q, bir dām 'aram 'el-iwal-ayli-ču !
 EXC 大変 疲れる-CVB 行く-PST-2PL 1 瞬間 休みを取る-ASP-VOL.1PL-MOD
- (14) — bol-ma-y-du bali-lir-im, 'ittir-iqlar !
 なる-NEG-PRS-3 子ども-PL-POSS.1SG 押す-IMP.2PL
- (15) — dada-m nemidegän rähimsiz ! (16) 'u da'im biz-ni muşundaq .
 父-POSS.1SG なんて 冷酷な 彼 いつも 私たち-ACC こんな
- bozäk qil-i-du
 弱い する-PRS-3
- (17) — kotuldi-ma-qlar, 'apa-qlar-niñ 'öy-i-gä kel-ip qal-du-q.
 プツプツ言う-NEG-IMP 母-POSS.2PL-GEN 家-POSS.3-DAT 来る-CVB 残る-PST-2PL
- (18) — wayjan, wayyäy ! (19) bāk her-ip kät-tu-q.
 EXC EXC 大変 疲れる-CVB 行く-PST-2PL
- (20) — šunčilik 'iš-qi=mu her-ip kät-ti-qlar-mu? (21) hu nanqepi-lar !
 これぽっちの 仕事-DAT=CL 疲れる-CVB 行く-PST-2PL-Q EXC よく食べる-PL
- (22) — 'ämgiq-imiz-niñ 'äjri-ni 'al-du-q mana.
 労働-POSS.1PL-GEN 報酬-ACC 取る-PST.1PL EXC
- (23) — nemä bol-di silär-gä, 'ornu-qlar-din tur-uqlar !
 何 なる-PST あなたたち-DAT 場所-POSS.2PL-ABL 立つ-IMP
- (24) — čimän, 'aččiq-iñiz-ni bes-iwel-iñ, män siz-gä čay quy-up
 PSN 怒り-POSS.2SG-ACC おさえる-ASP-2SG 私 あなた-DAT 茶 注ぐ-CVB
- ber-äy,
 与える-VOL.1SG
- (25) qeni čay 'ič-iñ, čambur-lar siz-gä taza yeq-ip
 ほら 茶 飲む-IMP.2SG カブ-PL あなた-DAT 本当に ためになる-CVB
- kät-mi-di, (26) bu qetimqi sowka-m-din čoqum razi bol-i-siz.
 行く-NEG-PST この 回の プレゼント-POSS.1SG-ABL きっと 満足 なる-PRS-2SG
- (27) — 'u 'öy-dä 'adäm bar-mi-du, yoq-mi-du? (28) 'adäm yoq 'ikän, yaxşı ...
 あの 家-LOC 人 ある-Q-MOD ない-Q-MOD 人 ない COPEV 良い
- (29) čač, bu sowka-m 'u-niñ-ka čoqum yara-y-du. (30) pah !
 EXC この プレゼント-POSS.1SG 彼女-GEN-DAT きっと 気に入る-PRS-3 EXC
- bu čečäk-lär-din čimän-gä 'al-kač bar-ay.
 この 花-PL-ABL PSN-DAT 取る-CVB 行く-VOL.1SG
- (31) — čimän, qara-ñ-a ! (32) män siz-gä nemä 'el-ip käl-di-m.
 PSN 見る-IMP-MOD 私 あなた-DAT 何 取る-CVB 来る-PST-1SG
- (33) — pah ! bu qetim köñl-üm-diki-däk sowka 'el-ip kâ-p-siz,
 EXC この 回 心-POSS.1SG-にある-SIM プレゼント 取る-CVB 取る-PF-2SG
- bäk raza bol-du-m. (34) män=mu siz-gä bir närsä täyyarla-p
 とても 満足 なる-PST-1SG 私=CL あなた-DAT 1 もの 準備する-CVB
- qoy-ğan-i-dî-m.
 置く-PTCP.PST-COP-PST-1SG

(35)–qilič !

劍

(36)–bu-ni siz-gä sowka qil-iwet-äy.

これ-ACC あなた-DAT プレゼント する-ASP-VOL.1SG

(37)–häšqalla čimän...

ありがとう PSN

17. 継母

- (1)ー子どもたち、ネズミちゃん、ネズミちゃんたち、ほら子どもたち、子どもたち、ネズミちゃんたち、あなたたちを遊びに連れてくよ、ほら子どもたちよ、来なさい!
- (2)ー父さん、ボールが行くよ!
- (3)ーああ、ほら投げて!
- (4)ーほら行った!
- (5)ー子どもたちよ、遊びはここまでにしなさい。おまえたちの義母さんのいる家へ持っていくものがあつたのだった。おまえたち、手伝いなさい。いいかい、子どもたちよ?
- (6)ーいいよ、父さん!
- (7)ー父さん、もっとゆっくり歩いたらどう!
- (8)ー追いついて、歩きなさい、子どもたち。早くしなければならぬのだ。
- (9)ーいいよ、いいよ……
- (10)ーおい……子どもたち。こっち側に来て私を手伝いなさい。このカブを引っ張っておくれ、早くしなさい!
- (11)ー子どもたちよ、そりがいっぱいになった、さあ行こう。
- (12)ー分かった。
- (13)ーああ……とても疲れてしまった。少し休んではどう?
- (14)ーだめだ、子どもたちよ、[そりを]押しなさい!
- (15)ーお父さんはなんて冷たいんだ!いつも私たちをこうやっていじめる。
- (16)ーブツブツ言うな。母さんの家に着いたぞ。
- (17)ーわあん、わあん!すごく疲れてしまったよ。
- (20)ーこれっぽっちのことで疲れてしまったのか?(21)おい、食うだけの怠け者!
- (22)ー私たちが働いた報いがこれだ、ほら。
- (23)ーどうしたんだ、お前たち、立ち上がりなさい!
- (24)ーチメン、怒りをおさえて。私はあなたにお茶を入れてあげましょう、(25)ほらお茶を飲んで。カブ[の仕事]はあなたに合わなかった、(26)今回の贈り物にはきっと満足するでしょう。
- (27)ーあの家に人がいるか、いないか?(28)人はいないようだ、(29)よし……この贈り物はきっと気に入るだろう。わあ!この花をチメンに取って行こう。
- (31)ーチメン、見て!(32)あなたのためにあるものを持って来たよ。
- (34)ーわあ!今回は私が思ったような贈り物を持ってきてくれたね。とても満足だ。私もあなたにあるものを用意しておいた。
- (35)ー剣!
- (36)ーこれをあなたにあげよう。
- (37)ーありがとう、チメン……

18. 'öñkürdiki 'eyiqçaq

(1) 'eyiqçaq a'ilisidikilär bilän billä bir tañ 'öñküridä yaşaydikän. (2) bir küni 'eyiqçaqniñ dadisi 'eyiqçaqqa : (3) « 'ämdi sänmu çoñ bolup qaldıñ, bu yıl mäktäpkä berimän. (4) 'öğiniş qilidiñan 'ayrim hujrañ bolmisa bolmas. (5) şuna, biz 'ormanliqtin dārāx kesip kelip, kañri 'öy yasap, şu 'öydä turayli ! » dāptu.

(6) bahar kälğändä 'ular 'ormanliqqa beriptu. (7) bu çawda dārāxlär bix sürüp čiçäkligänikän. (8) buni körüp 'eyiqçaqniñ dārāxlärni kesişkä közi qiymaptu.

(9) yaz kāptu. (10) 'ular yänä 'ormanliqqa beriptu. (11) bu çawda dārāxlär bük-baraqsan bolup kätkenikän. (12) 'eyiqçaqniñ dārāxlärni kesişkä zadila közi qiymaptu.

(13) qış kāptu. (14) 'ular yänä 'ormanliqqa beriptu. (15) bu çawda dārāxkā nurxun quşlar çañga tizwanikän. (16) 'eyiqçaqniñ dārāxlärni kesişkä yanila közi qiymaptu. (17) 'aylar 'ötüptu, yıllar 'ötüptu. 'eyiqçaqmu qiyin şara'itqa könüp qaptu. (18) 'eyiqçaqniñ dadisi 'eyiqçaqniñ köñlidikini çüşinip, dawamliq tañ 'öñküridä yaşaweriptu.

(19) 'ormanliqtiki haywanlar 'eyiqçaqniñ 'iş-izliridin täsirlinip 'ata-bala ikkiylängä dāstä-dāstä yawa güllärni täqdim qilişiptu wä 'öz'ara yardām qilişidiñan boptu.

18. 'öŋkür-diki 'eyiq-čaq

ほら穴にある 熊-DIM

- (1) 'eyiq-čaq 'a'ili-si-diki-lär bilän billä bir taŋ 'öŋkür-i-dä
 熊-DIM 家族-POSS.3-にある-PL と 一緒に 1 山 穴-POSS.3-LOC
 yaša-ydi-kän. (2) bir kün-i 'eyiq-čaq-niŋ dadi-si 'eyiq-čaq-qa :
 生きる-PRS.3SG-EV 1 日-POSS.3 熊-DIM-GEN 父-POSS.3 熊-DIM-DAT
- (3) « 'ämdi sän=mu čoŋ bol-up qal-di-ŋ, bu yil mäktäp-kä ber-i-män.
 今 君=CL 大きい なる-CVB 残る-PST-2SG この 年 学校-DAT 与える-PRS-1SG
- (4) 'öginiš qil-idisan 'ayrim hujra-ŋ bol-mi-sa bol-mas.
 学習 する-PTCP.NPST 別の 小部屋-POSS.2SG なる-NEG-COND なる-NEG.AOR
- (5) šuŋa, biz 'ormanliq-tin däraŋ kes-ip kel-ip, kəŋri 'öy yasa-p,
 それで 私たち 森-ABL 木 切る-CVB 来る-CVB 大きい 家 作る-CVB
 šu 'öy-dä tur-ayli ! » dä-ptu.
 その 家-LOC とどまる-VOL.1PL 言う-PF
- (6) bahar käl-gän-dä 'ular 'ormanliq-qa ber-iptu. (7) bu čaŋ-da däraŋ-lär bix
 春 来る-PTCP.PST-LOC 彼ら 森-DAT 行く-PF この とき-LOC 木-PL 芽
 sür-üp čičäkli-gän-ikän. (8) bu-ni kör-üp 'eyiq-čaq-niŋ däraŋ-lär-ni
 動かす-CVB 花が咲く-PTCP.PST-COPEV この-ACC 見る-CVB 熊-DIM-GEN 木-PL-ACC
 kesi-š-kä köz-i qiy-ma-ptu.
 切る-VN-DAT 目-POSS.3 傷つける-NEG-PF
- (9) yaz kə-ptu. (10) 'ular yänä 'ormanliq-qa ber-iptu. (11) bu čaŋ-da däraŋ-lär
 夏 来る-PF 彼ら 再び 森-DAT 行く-PF この 期間-LOC 木-PL
 bük-baraqšan bol-up kät-kän-ikän. (12) 'eyiq-čaq-niŋ däraŋ-lär-ni kesiš-kä
 うっそうとした なる-CVB 行く-PTCP.PST-COPEV 熊-DIM-GEN 木-PL-ACC 切る-VN-DAT
 zadi=la köz-i qiy-ma-ptu.
 本当に=CL 目-POSS.3 傷つける-NEG-PF
- (13) qiš kə-ptu. (14) 'ular yänä 'ormanliq-qa ber-iptu. (15) bu čaŋ-da däraŋ-kä
 冬 来る-PF 彼ら 再び 森-DAT 行く-PF この 期間-LOC 木-DAT
 nurxun quš-lar čaŋga tiz-šan-ikän. (16) 'eyinäq-čaq-niŋ däraŋ-lär-ni
 たくさん 鳥-PL 巣 並べる-PTCP.PST-COPEV 熊-DIM-GEN 木-PL-ACC
 kes-iš-kä yani=la köz-i qiy-ma-ptu.
 切る-VN-DAT 本当に=CL 目-POSS.3 傷つける-NEG-PF
- (16) 'ay-lar öt-üptu, yil-lar 'öt-üptu. (17) 'eyiq-čaq=mu qiyin šara'it-qa
 月-PL 過ぎる-PF 年-PL 過ぎる-PF 熊-DIM=CL 難しい 環境-DAT
 kön-üp qa-ptu. (18) 'eyiqčaq-niŋ dadi-si 'eyiq-čaq-niŋ köŋli-diki-ni
 慣れる-CVB 残る-PF 熊-DIM-GEN 父-POSS.3 熊-DIM-GEN 心-にある-ACC
 čüšin-ip, dawamliq taŋ 'öŋkür-i-dä yaša-wer-iptu.
 分かる-CVB 続けて 山 穴-POSS.3-LOC 生きる-ASP-PF

(19) 'ormanliq-tiki haywan-lar 'eyiq-čaq-niŋ 'iŝ-iz-lir-i-din täsirlin-ip
森-にある 動物-PL 熊-DIM-GEN 仕事-あと-PL-POSS.3-ABL 感動する-CVB
'ata-bala 'ikkiylän-gä dästä-dästä yawa gül-lär-ni täqdim qil-iŝ-iptu wä
父-子 2人-DAT 東 東 野生の 花-PL-ACC 贈呈 する-RECP-PF そして
'öz'ara yardım qil-iŝ-idikan bo-ptu.
お互いに 助け する-RECP-PTCP.NPST なる-PF

18. ほら穴の熊

(1)熊が、家族とともにある山のほら穴に住んでいたそうだ。(2)ある日、熊の父親が熊に (3)「もうお前も大きくなった。今年、学校に行かせよう。勉強する別の部屋がなくてはならない。だから、森から木を切ってきて、大きな家を作ってその家に住もう!」と言った。(6)春が来ると、彼らは森へ行った。このとき、木は芽をのぼし、花が咲いていた。これを見た熊は、木を切ることが耐えられなかった。(9)夏が来た。(10)彼らはふたたび森へ行った。(11)このとき、木はうっそうと茂っていた。(12)熊は木を切ることが本当に耐えられなかった。(13)冬が来た。(14)彼らはまた森へ行った。(15)このとき、木にはたくさんの鳥が巣を連ねていた。(16)熊は木を切ることが本当に耐えられなかった。(17)年月が流れた。熊も厳しい環境に慣れてしまっていた。(18)熊の父親は、熊の気持を理解して、続けて山のほら穴に住んだそうだ。(19)森の動物たちは熊のしたことに感動し、熊の親子2匹に、束の野の花を贈った。そしてお互いに助け合うようになった。

19. qabil qaytip kaldi

- (1) — qabil 'aka xoš, bu täräplärgä yänä kelip turarsän-hä?
- (2) — bolidu 'ukam, sänmu waqtiñ yätsä biz täräplärgä bararsän.
- (3) — qarixina 'oɣlum, dadañ keliwatidu.
- (4) — yaxši boldi, män dadamni bäk sekinanidim.
- (5) — yürä, dadañni qarši 'alayli.
- (6) — maqul 'apa.
- (7) — 'oɣlum qasim, 'awu qarmaqni 'elip berginä.
- (8) — yaxši turdiñizmu qädirmisa, sänmu yaxši turduñmu 'oɣlum?
- (9) — yürüñä qabil, 'öygä kirip parañlişayli.
- (10) — yürüñlar !
- (11) — qabil, qaymaqlardinmu yäñ.
- (12) — 'oɣlum 'alä, sänmu köpräk yä.
- (13) — män mäktäpkä mañay, därstin çüşüpla qaytip kelimän.
- (14) — 'oɣlum, yaxši 'oqup yaramliq 'adäm bol.
- (15) — dada män çoqum 'ümidiniñni 'aqlaymän, xoš män kättim.
- (16) — qädirmisa, qoylar märäwatidu, qoylarğa bir närsä berip kiräy.
- (17) — siz 'olturup turuñ, män çiqip kiräy.
- (18) — qoylirim, qonaq yäñlar.
- (19) — mä...mä...yemä...yemä...qeri qaka yemä...
- (20) — wiçir...wiçir...wiçir...boldi soquşmañlar.
- (21) — 'öy 'igisi kaldi, män tumučuq xäwär bärdim, tez qeçiñlar!
- (22) — hu 'ölgür çaşqan, seni hazirla 'öltürmisäm. (23)qädirmisa qismaqni 'elip çiqiñ. (24)qonaqni çaşqanlar yäp tügitäy däptu.
- (25) — mana, qäyärgä qoyimän?
- (26) — tüwrükniñ 'udulıxa qoyuñ.
- (27) — 'ämdi qandaq qilisänkin?(28) bir körüp baqay!
- (29) — hi...hi...wiçir...wiçir...'adäm yoq 'ikän, pursät känymät, qorsiqimni rasa bir toykuzwalay.
- (30) häy, bu nemidu? (31) 'awwal bir sinap baqayçu wayjan...wayjan...
- (32) — qandaqraq, 'ölgür çaşqan? (33) 'ämdiñu qonaqqa toykansän? (34)qabildin 'änä şundaq jajañni yäysän!

19. qabil qayt-ip käl-di

PSN 戻る-CVB 来る-PST

- (1) — qabil aka xoš, bu täräp-lär-gä yänä kel-ip tur-ar-sän - hä?
 PSN 兄 EXC この 辺-PL-DAT また 来る-CVB 立つ-AOR-2SG EXC
- (2) — bol-i-du 'uka-m, sän=mu waqt-iñ yät-sä biz täräp-lär-gä
 なる-PRS-3 弟-POSS.1SG 君=CL 時間-POSS.2SG 足りる-COND 私たち 辺-PL-DAT
 bar-ar-sän.
 行く-AOR-2SG
- (3) — qari-xin-a 'oǵlu-m, dada-ñ kel-iwat-i-du.
 見る-IMP-MOD 息子-POSS.1SG 父-POSS.2SG 来る-PROG-PRS-3
- (4) — yaxşı bol-di, män dada-m-ni bäk sekin-kan-i-di-m.
 良い なる-PST 私 父-POSS.1SG-ACC 大変 懐かしむ-PTCP.PST-COP-PST-1SG
- (5) — yür-ä, dada-ñ-ni qarşı 'al-ayli.
 歩く-MOD 父-POSS.2SG-ACC 向かい 取る-VOL.1PL
- (6) — maqul 'apa.
 分かった 母
- (7) — 'oǵlu-m qasim, 'awu qarmaq-ni 'el-ip ber-gin-ä.
 息子-POSS.1SG PSN あの 釣り針-ACC 取る-CVB 与える-IMP-MOD
- (8) — yaxşı tur-di-ñiz-mu qädirnisa, sän=mu yaxşı tur-du-ñ-mu 'oǵlu-m?
 良い 立つ-PST-2SG-Q PSN 君=CL 良い 立つ-PST-2SG-Q 息子-POSS.1SG
- (9) — yür-üñ-ä qabil, 'öy-gä kir-ip parañliş-ayli.
 歩く-IMP-MOD PSN 家-DAT 入る-CVB 話し合う-VOL.1PL
- (10) — yür-üñlar!
 歩く-IMP
- (11) — qabil, qaymaq-lar-din=mu yä-ñ.
 PSN クリーム-PL-ABL=CL 食べる-IMP
- (12) — 'oǵlu-m 'al-ä, sän=mu köp-räk yä.
 息子-POSS.1SG 取る-MOD 君=CL 多い-COMP 食べる
- (13) — män mäktäp-kä mañ-ay, dars-tin çüş-üp=la qayt-ip kel-i-män.
 私 学校-DAT 行く-VOL.1SG 授業-ABL 降りる-CVB=CL 戻る-CVB 来る-PRS-1SG
- (14) — 'oǵlu-m, yaxşı 'oq-up yaramliq 'adäm bol.
 息子-POSS.1SG 良い 読む-CVB 優れた 人 なる
- (15) — dada män çoqum 'ümid-iñ-ni 'aqla-y-män, xoš män kät-ti-m.
 父 私 必ず 期待-POSS.2SG-ACC 報いる-PRS-1SG さようなら 私 行く-PST-1SG
- (16) — qädirnisa, qoy-lar märä-wat-i-du, qoy-lar-ğa bir närsä ber-ip
 PSN 羊-PL メーと鳴く-ASP-PRS-3 羊-PL-DAT 1 もの 与える-CVB
 kir-äy.
 入る-VOL.1SG

- (17) — siz 'oltur-up tur-uŋ, män čiq-ip kir-äy.
あなた 座る-CVB 立つ-IMP 私 出る-CVB 入る-VOL.1SG
- (18) — qoy-lir-im, qonaq yä-ŋlar.
羊-PL-POSS.1SG 黍 食べる-IMP
- (19) — mä...mä...ye-mä... ye-mä... qeri qaqa yemä...
メー メー 食べる-NEG 食べる-NEG 老いた カラス 食べる-NEG
- (20) wičir...wičir...wič... bol-di soquš-ma-ŋlar.
チュー チュー なる-PST 喧嘩する-NEG-IMP
- (21) — 'öy 'igi-si käl-di, män tumučuq xäwär bär-di-m, tez
家 主人-POSS.3 来る-PAST 私 雀 知らせ 与える-PST-1SG 速く
qeč-iŋlar!
逃げる-IMP
- (22) — hu 'ölgür čašqan, seni hazir=la 'öltür-mi-sä-m. (23) qädirmisa qismaq-ni
EXC ばか ネズミ 君.ACC 今=CL 殺す-NEG-COND-1SG PSN 畏-ACC
'el-ip čiq-iŋ. (24) qonaq-ni čašqan-lar yä-p tügit-äy dä-ptu.
取る-CVB 出る-IMP 黍-ACC ネズミ-PL 食べる-CVB 終える-VOL.1SG 言う-PF
- (25) — mana, qäyär-gä qoy-i-män?
EXC どこ-DAT 置く-PRS-1SG
- (26) — tüwrük-niŋ 'udul-i-ka qoy-uŋ.
柱-GEN 正面-POSS.3-DAT 置く-IMP
- (27) — 'ämdi qandaq qil-i-sän-kin? (28) bir kör-üp baq-ay!
今 どう する-PRS-2SG-MOD 1 見る-CVB 見る-VOL.1SG
- (29) — hi... hi... wičir...wičir...'adäm yoq 'ikän, pursät vänyät, qorsiq-im-ni
EXC EXC チー チー 人 ない COPEV 機会 貴重な 腹-POSS.1SG-ACC
rasa bir toy-kuz-wal-ay. (30) häy, bu nemi-du? (31) 'awwal bir
とても 1 満ちる-CAUS-ASP-VOL.1SG EXC これ 何-MOD まず 1
sina-p baq-ay-ču wayjan... wayjan ...
試す-CVB 見る-VOL.1SG-MOD EXC EXC
- (32) — qandaq-raq, 'ölgür čašqan? (33) 'ämdi-ku qonaq-qa toy-kan-sän?
どのような-COMP ばか ネズミ 今-MOD 黍-DAT 満ちる-PTCP.PST-2SG
- (34) qabil-din 'änä šundaq jaja-ŋ-ni yä-y-sän!
PSN-ABL ほら そのような 罰-POSS.2SG-ACC 食べる-PRS-2SG

19. カービルが戻って来た

- (1)ーカービル兄さん、さようなら、この辺にまた立ち寄ってね。
(2)ー分かった、弟よ。お前も時間があれば私たちのところに来なさい。
- (3)ー見てみなさい、息子よ。お父さんが来ているよ。
(4)ー良かった。僕はお父さんがすごく恋しかったんだ。
(5)ー行きなさい、お父さんを迎えましょう。
(6)ー分かったよ、母さん。
(7)ー息子よ、カスムよ。あの釣り針を取っておくれ。
- (8)ー元気だったか、ケディルニサ。お前も元気だったか、息子よ。
(9)ー行きましょう、カービル。家に入って話しましょう。
(10)ー行きましょう。
- (11)ーカービル、クリームも食べて。
(12)ー息子よ、取りなさい。お前もたくさんお食べ。
(13)ー僕、学校へ行ってきます。授業が終わったら帰ってくるよ。
(14)ー息子よ、しっかり学び、優れた人になりなさい。
(15)ー父さん、僕は必ず期待にこたえるよ。じゃあ行ってきます。
(16)ーケディルニサ、羊たちがメーメーと鳴いている。羊たちに何か与えてくるよ。
(17)ーあなたは座っていて。私が出て行きます。
- (18)ー羊たち、黍をお食べ。
(19)メーメー…食べるな、食べるな、老いぼれのカラスは食べるな。
(20)ーチューチュー…。やめて、喧嘩しないで。
(21)ー家の主人が来た、私、雀が知らせたよ、早く逃げて!
(22)ーおや、まぬけなネズミ。お前を今殺さなければ。(23)ケディルニサ、罌を取っておいで。(24)黍をネズミたちが食べてしまいそうだ。
(25)ー[罌を持ってきて] ほら、どこに置きましょう?
(26)ー柱の正面に置いて。
- (27)ーさあ、どうするのか。(28)見てみよう!
(29)ーチューチュー…人はいないようだ。またとないチャンスだ、腹をぞんぶんに満たそう。(30)あつ、これは何だ?(31)ひとまず試してみようかな。あつ、あーっ…!
(32)ーなんてばかなネズミなんだろう?(33)今度は、黍で満腹になっただろう?(34)カービルからこんなふうな罰を食らえ。

20. 'ayäm küni

- (1) – daniyar qarivina, 'awu dilnarniñ 'öyü?
- (2) – şu 'ikän 'uniñ 'öyigä kirip heytlap çiqayli.
- (3) – 'u 'öyidä barmidu?
- (4) – bugün heyit bolxandın keyin bardu?!
- (5) – 'awwal kirip baqmamduq!
- (6) – kim?
- (7) – biz daniyar, dolqun!
- (8) – hä, silärmidiñlar daniyar, kiriñlar!
- (9) – dilnar, 'ayimiñka mubaräk bolsun!
- (10) – 'özünlardin bolsun!
- (11) – bugün başqa 'işiñ yoqtu?
- (12) – yoq, qeni 'olturuñlar, bu doppam çirayliqmikin?
- (13) – çirayliqkän, bäk yarişıptu.
- (14) – silär telewizor körgäç 'olturuñlar, män silärgä 'oxşıtip bir täxsä qoruma qorup çiqay.
- (15) – 'undaqta teZRäk bolxın! (16)telewizorni 'eçiwetä!
- (17) – qarivina bu müşüklär bäk omaq 'ikän.
- (18) – mürisigä somka 'esiwaptu.
- (19) – dilnar qarivina, haywanat dunyasi beriliwatidu.
- (20) – dinozawrmu beliq tutalaydikändä!
- (21) – şundaq dinozawr häm çoñ , häm 'ekir bolxaçqa, başqa haywanlarni tutalmay beliq tutup yäp qorsiqini toyxuzidu.
- (22) – sän dinozawr toğriliq yänä nemilärni bilisän?
- (23) – dinozawrlar buniñdin täxminän 230 milyon yil 'ilgiri yaşıwan. (24)dinozawr häqqidä yänä başqa waqitta sözläp beräy. (25)bügen 'ayäm bolxandın keyin birär pa'aliyät 'ötküzsäk qandaq?
- (26) – şundaq qılamduq dolqun?
- (27) – şundaq qılayli dilnar, 'öyüñdä dap, dutar bar ämäsmu? (28) 'ikkimiz « dap, dutar näxmisi » 'orundap beräyli, sän rasa keliştürüp 'ussul 'oynap bärğin bolamdu?
- (29) – maqul, män dap, dutarni 'elip çiqay.
- (30) – daniyar, biz ämdi qaytsaqmikın? (31)heytlaydıwan yänä bir munçä sawaqdaşlırim bar 'idi.
- (32) – şundaq qılayli!
- (33) – dilnar billä heytlamduq?
- (34) – bolidu, 'öydä çoñlar bolxandın keyin barsam baray...
- (35) – qeni 'ämisä yürünlar...

20. 'ayäm kün-i

祝日 日-POSS.3

- (1) — daniyar qari-κina, 'awu dilnar-niη 'öy-κu?
 PSN 見る-IMP あれ PSN-GEN 家-MOD
- (2) — šu 'ikän 'u-niη 'öy-i-gä kir-ip heytle-p
 その COPEV 彼女-GEN 家-POSS.3-DAT 入る-CVB 祝日のあいさつをする-CVB
 čiq-ayli.
 出る-VOL.1PL
- (3) — 'u 'öy-i-dä bar-mi-du?
 彼女 家-POSS.3-LOC ある-Q-MOD
- (4) — bügün heyit bol-κan-din keyin bar-du?!
 今日 祝日 なる-PTCP.PST-ABL あと ある-MOD
- (5) — 'awwal kir-ip baq-ma-m-du-q!
 まず 入る-CVB 見る-NEG-Q-PST-1PL
- (6) — kim?
 誰
- (7) — biz daniyar, dolqun!
 私たち PSN PSN
- (8) — hä, silär-mi-di-ηlar daniyar, kir-iηlar!
 EXC あなたたち-Q-PST-2PL PSN 入る-IMP
- (9) — dilnar, 'ayim-iη-κa mubaräk bol-sun!
 PSN 祝日-POSS.2SG-DAT めでたい なる-OPT
- (10) — 'öz-ünlar-din bol-sun!
 自分-2PL-ABL なる-OPT
- (11) — bügün başqa 'iš-iη yoq-tu?
 今日 他の 用事-POSS.2SG ない-MOD
- (12) — yoq, qeni 'oltur-uηlar, bu doppa-m čirayliq-mikin?
 ない ほら 座る-IMP この ドツパ-POSS.1SG かわいい-MOD
- (13) — čirayliq-kän, bäk yariš-iptu.
 かわいい-COPEV 大変 似合う-PF
- (14) — silär telewizor kör-gäč 'oltur-uηlar, män silär-gä 'oxšit-ip
 あなたたち テレビ 見る-CVB 座る-IMP 私 あなたたち-DAT うまくやる-CVB
 bir täxsä qoruma qoru-p čiq-ay.
 1 大皿 炒めた 炒める-CVB 出る-VOL.1SG
- (15) — 'undaqta tezräk bol-κin! (16) telewizor-ni 'eč-iwet-ä!
 それなら 速く なる-IMP テレビ-ACC 開く-ASP-MOD
- (17) — qari-κin-a bu müšük-lär bäk 'omaq 'ikän.
 見る-IMP-MOD この ネコ-PL 大変 かわいい COPEV

- (18) — müri-si-gä somka 'es-iwa-ptu.
肩-POSS.3-DAT かばん かける-ASP-PF
- (19) — dilnar qari-kin-a, haywanat dunya-si ber-il-iwat-i-du.
PSN 見る-IMP-MOD 動物たち 世界-POSS.3 行く-PASS-ASP-PRS-3
- (20) — dinozawr=mu beliq tut-ala-y-di-kän-dä!
恐竜=CL 魚 つかむ-ABIL-PRS-3-EV-MOD
- (21) — šundaq dinozawr häm çoŋ, häm 'ekir bol-kaçqa, başqa haywan-lar-ni
そう 恐竜 とともに 大きい とともに 重い なる-CVB 他の 動物-PL-ACC
tut-al-may beliq tut-up yä-p qorsiq-i-ni toykuz-i-du.
つかむ-ABIL-CVB.NEG 魚 つかむ-CVB 食べる-CVB 腹-POSS.3-ACC 満たす-PRS-3
- (22) — sän dinozawr tovriliq yänä nemi-lär-ni bil-i-sän?
君 恐竜 について また 何-PL-ACC 知る-PRS-2
- (23) — dinozawr-lar bu-niŋ-din täxminän 230 milyon yıl 'ilgiri yaşı-kan.
恐竜-PL これ-GEN-ABL およそ 100万 年 前 生きる-PTCP.PST
- (24) dinozawr häqqidä yänä başqa waqit-ta sözlä-p ber-äy. (25) bugün
恐竜 について また 他の とき-LOC 話す-CVB 与える-VOL.1SG 今日
'ayäm bol-kan-din keyin birär pa'aliyät 'ötküz-sä-k qandaq?
祝日 なる-PTCP.PST-ABL あと いくつかの 活動 過ごす-COND-1PL どう
- (26) — šundaq qil-am-du-q dolqun?
そのように する-Q-PST-1PL PSN
- (27) — šundaq qil-ayli dilnar, 'öy-ün-dä dap, dutar bar ämäs-mu?
そのように する-VOL.1PL PSN 家-POSS.2SG-LOC 手揚げ太鼓 ドタール ある 違う-Q
- (28) 'ikki-miz «dap, dutar näkmi-si» 'orunda-p ber-äyli, sän rasa
2-1PL 太鼓 ドタール 音楽-POSS.3 演奏する-CVB 与える-VOL.1PL 君 大変
kelištür-üp 'ussul 'oyna-p bär-gin bol-am-du?
うまくやる-CVB 踊り 踊る-CVB 与える-IMP なる-Q-MOD
- (29) — maqul, män dap, dutar-ni 'el-ip çiq-ay.
分かった 私 太鼓 ドタール-ACC 取る-CVB 出る-VOL.1SG
- (30) — daniyar, biz 'ämdi qayt-sa-q-mikin? (31) heytle-ydikan yänä
PSN 私たち 今 戻る-COND-1PL-MOD 祝日のあいさつをする-PTCP.NPST また
bir munčä sawaqdaš-lir-im bar i-di.
1 こんな 学友-PL-POSS.1SG ある COP-PST
- (32) — šundaq qil-ayli!
そのような する-VOL.1PL
- (33) — dilnar billä heytle-m-du-q?
PSN 一緒に 祝日のあいさつをする-Q-PST-2PL
- (34) — bol-i-du, 'öy-dä çoŋ-lar bol-kan-din keyin bar-sa-m bar-ay...
なる-PRS-3 家-LOC 大人-PL なる-PTCP.PST-ABL あと 行く-COND-1SG 行く-VOL.1SG
- (35) — qeni 'ämisä yür-üŋlar...
EXC それなら 歩く-IMP

20. 祝日

- (1)ーダニヤル、見てよ。あれはディルナルの家だろう。
(2)ーそうだね。彼女の家へ入って、祝日のあいさつをしようか。
(3)ー彼女は家にいるかな?
(4)ー今日は祝日だからいると思うよ。
(5)ーまずは入ってみよう!
- (6)ー誰?
(7)ー僕たち、ダニヤル、ドルクンだよ!
(8)ーああ、あなたたちだったのね、ダニヤル。入って!
(9)ーディルナル、祝日おめでとう!
(10)ーあなたたちにも、祝日おめでとう!
(11)ー今日は他に用事はないの?
(12)ーないわ。ほら、座って。見て、このドッパ、かわいいでしょう?
(13)ーかわいいね。とても似合ってるよ。
(14)ーあなたたち、テレビを見ながら座って。私、あなたたちにおいしい炒め物を一皿作ろう。
(15)ーそれなら、早くしてね!(16)テレビをつけて。
- (17)ー見て、このネコ、すごくかわいいよ。
(18)ー肩にかばんをかけてるね。
(19)ーディルナル、見て、動物の世界が放送されている。
(20)ー恐竜も魚を捕ることができるんだなあ!
(21)ーそうだよ。恐竜は大きくて、そのうえ重いから、他の動物たちを捕まえずに魚を捕って食べ、腹を満たしていたんだ。
(22)ー君は恐竜について他に何か知っている?
(23)ー恐竜は今からおよそ 230 万年前に生息してたんだよ。(23)恐竜についてはまた他のときに話してあげる。(25)今日は祝日だから一緒に何かして過ごすのはどう?
(26)ーそうしようか、ドルクン。
(27)ーそうしよう、ディルナル。君の家に手提げ太鼓とドータル[弦楽器]があるだろう?
(28)2人で「手提げ太鼓・ドタルの音楽」を演奏してあげよう。君は素晴らしい踊りを踊ってくれるかい?
(29)ー分かった、手提げ太鼓とドータルを持ってくる。
- (30)ーダニヤル、僕たちはもう戻ろうか?(31)祝日のあいさつをする友だちがまだいるだろう。
(32)ーそうしよう!
(33)ーディルナル、一緒に祝日のあいさつに行こうか。
(34)ーいいよ。家に大人たちがいるから、行くことは行くわ。
(35)ーさあ、行こう・・・

21. qoʻshkuzakning bir kuni

- (1) — bizda mundaq maqal bar : (2) « 'ajir qilsan, mehnat taparsan » . (3) balilirim 'ischan, cidamliq bolunlar, hargiz hurun bolup qalmanlar. (4) harkatta bariyat, bu japa cakmay halawat korgili bolmaydikanliqini bilduridu.
- (5) — bolidu dada, nasihitini choqum 'esimizda saqlaymiz.
- (6) — dada, 'u yarga qacan yetip barimiz?
- (7) — hazirla.
- (8) — balilirim tez islanlar, yana texi bu yakaclarni 'oyga 'apiridikan 'ishu bar.
- (9) — caqqan bola 'aka, man bak herip kattim, man bugun balilar bilan darya boyida 'oynimaqchi 'idim.
- (10) — hay, bu balinizda, qacanmu gap 'anlar?
- (11) — balilirim, 'oyga barandin keyin, 'azraq dam 'eliwilib, hesabtin berilgan tapshuruqlarni 'islanlar, yakaclarni kacta 'akeliwalimiz.
- (12) — bolidu dada, 'oyniwalidikan boldum.
- (13) — qeni 'alxach 'olturunlar.
- (14) — hanipa, 'alxach 'olturuna.
- (15) — dadisi 'oyga kirsila, 'oyda mahman bar.
- (16) — ha rast, hasan husan korunmaydiku? (17) 'ular qilidikan 'azraq 'is bar 'idi.
- (18) — hasan bilan husan hara tartip harip katti , 'ular birdam 'aram 'eliwalsun.
- (19) halqanlar chushup qalay daptu, 'onshiweliqlar.
- (20) — 'apa... 'apa...hara, hara cheqiwaldi.
- (21) — hara bar jayda 'oynimisan bolmamdu? (22)qayarda 'oynikanidij?
- (23) — 'arqa hoylida 'oynawatattim, bilmay qaptiman , (24)'u yarda hara 'uwisi bar 'ikan, (25)bir damdila harilar meni qorshiwaldi.
- (26) — hara caqqan yarlinga malham sirtup qoyay, (27)bir-ikki kunda 'onshilip qalisän, (28)buningdin keyin hara bar jayga barma, harqandaq 'ista 'akanin 'ogangin.

21. qoşkezäk-niň bir kün-i

双子-GEN 1 日-POSS.3

- (1) — biz-dä mundaq maqal bar : (2) «'äjir qil-sa-ň, mehnät tap-ar-sän » .
 私たち-LOC こんな 諺 ある 努力 する-COND-2SG 困難 達成する-AOR-2SG
- (3) bali-lir-im 'iščan, čidamliq bol-uňlar, härgiz hurun bol-up
 子ども-PL-POSS.1SG まじめな 辛抱強い なる-IMP 決して 怠惰 なる-CVB
- qal-ma-ňlar. (4) härkät-tä bärikäät, bu japa čak-mäy halawät kör-gili
 残る-NEG-IMP 行動-LOC 豊かさ この 苦しみ 受ける-CVB.NEG 幸福 見る-CVB
- bol-ma-ydiwan-liq-i-ni bildür-i-du.
 なる-NEG-PTCP.NPST-IIK-POSS.3-ACC 知らせる-PRS-3
- (5) — bol-i-du dada, näsihit-iňiz-ni çoqum 'es-imiz-dä saqla-y-miz.
 なる-PRS-3 父 助言-POSS.2SG-ACC 必ず 記憶-POSS.1PL-LOC 保つ-PRS-1PL
- (6) — dada, 'u yär-gä qačan yet-ip bar-i-miz?
 父 あの 場所-DAT いつ 着く-CVB 行く-PRS-1PL
- (7) — hazir=la.
 今=CL
- (8) — bali-lir-im tez 'işlä-ňlar, yänä texi bu yakač-lar-ni 'öy-gä
 子ども-PL-POSS.1SG 早く 働く-IMP 再び まだ この 木-PL-ACC 家-DAT
- 'apir-idiwan 'iš=mu bar.
 運ぶ-PTCP.NPST 仕事=CL ある
- (9) — čaqqan bol-ä 'aka, män bäk her-ip kät-ti-m, män bugün bali-lar
 早く なる-MOD 兄 私 とても 疲れる-CVB 行く-PST-1SG 私 今日 子ども-PL
- bilän darya boy-i-da 'oyni-maqči 'i-di-m.
 一緒に 河 岸-POSS.3-LOC 遊ぶ-つもり COP-PST-1SG
- (10) — häy, bu bali-niz-ä, qačan=mu gäp 'aňla-r?
 EXC この 子ども-POSS.2SG-MOD いつ=CL 話 聞く-AOR
- (11) — bali-lir-im, 'öy-gä bar-ıan-din keyin, 'azraq däm 'el-iwil-ip,
 子ども-PL-POSS.1SG 家-DAT 行く-PTCP.PST-ABL あと 少し 息 する-ASP-CVB
- hesab-tin ber-il-gän tapşuruq-ıňlar-ni 'işlä-ňlar, yakač-lar-ni káč-tä
 算数-ABL 与える-PASS-PTCP.PST 宿題-POSS.2PL-ACC 働く-IMP 木-PL-ACC 晩-LOC
- 'äkel-iwal-i-miz.
 持って来る-ASP-PRS-1PL
- (12) — bol-i-du dada, 'oyni-wal-idiwan bol-du-m.
 なる-PRS-3 父 遊ぶ-ASP-PTCP.NPST なる-PST-1SG
- (13) — qeni 'al-kač 'oltur-uňlar.
 ほら 取る-CVB 座る-IMP
- (14) — hänipä, 'al-kač 'oltur-uň-ä.
 PSN 取る-CVB 座る-IMP-MOD

- (15) —dadi-si 'öy-gä kir-silä, 'öy-dä mähman bar.
 父-POSS.3 家-DAT 入る-IMP 家-LOC 客 ある
- (16) —hä rast, häsän hüsän körün-mä-y-di-ru? (17) 'ular qil-idixan 'azraq
 EXC 本当 PSN PSN 現れる-NEG-PRS-3-MOD 彼ら する-PTCP.NPST 少し
 'iš bar 'i-di.
 仕事 ある COP-PST
- (18) —häsän bilän hüsän härä tart-ip kät-ti, 'ular bir däm 'aram
 PSN と PSN 鋸 引く-CVB 行く-PST 彼ら 1 瞬間 息
 'el-iwal-sun. (19) halqa-ñlar čüş-üp qal-ay dä-ptu, 'oñši-wel-iñlar.
 取る-ASP-OPT 耳飾り-POSS.2PL 落ちる-CVB 残る-VOL.1SG 言う-PF 直す-ASP-IMP
- (20) —'apa... 'apa... härä, härä čeq-iwal-di.
 母 母 蜂 蜂 刺す-ASP-PST
- (21) —härä bar jay-da 'oyni-mi-sa-ñ bol-ma-m-du?
 蜂 ある 場所-LOC 遊ぶ-NEG-COND-2SG なる-NEG-Q-MOD
- (22) qäyär-dä 'oyni-kan-i-di-ñ?
 どこ-LOC 遊ぶ-PTCP.PST-COP-PST-2SG
- (23) —'arqa hoyli-da 'oyna-wat-atti-m, bil-mäy qa-pti-män, (24) 'u yär-dä
 後ろ 庭-LOC 遊ぶ-ASP-HAB-1SG 知る-CVB.NEG 残る-PF-1SG あの 場所-LOC
- härä 'uwi-si bar 'ikän, (25) bir däm=dila häri-lär meni qorši-wal-di.
 蜂 巣-POSS.3 ある COPEV 1 瞬間=CL 蜂 PL 私.ACC 囲む-ASP-PST
- (26) —härä čaq-qan yär-lir-iñ-gä mälhäm sürt-üp qoy-ay,
 蜂 刺す-PTCP.PST 場所-PL-POSS.2SG-DAT 膏葉 塗る-CVB 残る-VOL.1SG
- (27) bir-ikki kün-dä 'oñšil-ip qal-i-sän, (28) bu-niñ-din keyin härä bar
 1 2 日-LOC 治る-CVB 残る-PRS-2SG これ-GEN-ABL あと 蜂 ある
 jay-ka bar-ma, härqandaq 'iš-ta 'aka-ñ-din 'ögän-gin.
 場所-DAT 行く-NEG どんな 用事-LOC 兄-POSS.2SG-ABL 学ぶ-IMP

21. 双子の一日

- (1)ーこんなことわざがある：「努力すれば、困難に打ち勝つ」。(2)子どもたちよ、まじめで辛抱強くなりなさい。(3)決してなまけてはいけないよ。(4)行動を豊かに、これは苦勞をすることなしに幸せになることはできないことを表している。
- (5)ー分かったよ、父さん。忠告はきつと心にとどめておくよ。
- (6)ー父さん、あの場所にいつ着くの？
- (7)ー今に着くよ。
- (8)ー子どもたち、早くしなさい、まだこの木を家に運ぶ仕事があるのだからね。
- (9)ー早くして、兄さん。僕はもう疲れちゃったよ。今日は子どもたちで河岸で遊ぶつもりだったのに。
- (10)ーああ、この子どもたち、いつ言うことをを聞くんだ？
- (11)ー子どもたちよ、家に着いたので、少し休憩したら算数で出された宿題をしなさい、木を晩に持っていこう。
- (12)ー分かったよ、父さん。
- (13)ーほら、食べなさい。
- (14)ーヘニーペ、食べなさい。
- (15)ーお父さん、家に入ってください。家にお客さんがいるよ。
- (16)ーえっ、本当か。ヘセンとヒュセンはいないのか？ (17)あの子たちには少しするべき仕事があるのだ。
- (18)ーヘセンとヒュセンは鋸を引いて疲れてしまったんだよ。彼らに少し休ませてあげよう。
- (19)イヤリングが落ちそうだ、直しなさい。
- (20)ー母さん…母さん…蜂が、蜂が刺した。
- (21)ー蜂がいるところで遊ばなければならなかったの？ (22)どこで遊んだの。
- (23)ー裏庭で遊んでいた、知らなかったの。(24)あそこに蜂の巣があるということ。(25)突然蜂が僕を取り囲んだんだ。
- (26)ー蜂が刺したところに膏藥を塗っておきましょう。(27)1、2日で治るよ。(28)これからは蜂のいる場所には行かないように、どんなことでも兄さんから教えてもらいなさい。

22. hurun

- (1) — buradär 'isminiz nimä?
- (2) — waris...
- (3) — nemigä warisliq qiliwatisiz?
- (4) — muşundaq 'aram 'alxili bolidixan bikar yärlärgä.
- (5) — hal-'ähwaliñiz qandaqraq?
- (6) — yaman 'ämäs, tapsam yäymän, tapalmisam qana'ät qilip yüriwerimän.
- (7) — 'ämisä siz šähirimizniñ 'itliriwa 'oxşap qapsiz!
- (8) — hä ?

22. hurun

なまけ

- (1) — buradär 'ism-iñiz nimä?
兄弟 名前-POSS.2SG 何
- (2) — waris...
PSN
- (3) — nemi-gä warisliq qil-iwat-i-siz?
何-DAT 相続する する-ASP-PRS-2SG
- (4) — mušundaq 'aram 'al-ıılı bol-idııan bikar yär-lär-gä.
このような 息 する-CVB なる-PTCP.NPST ひまな 場所-PL-DAT
- (5) — hal 'ähwal-iñiz qandaq-raq?
状況-POSS.2SG どう-COMP
- (6) — yaman 'ämäs, tap-sa-m yä-y-män, tap-al-mi-sa-m
悪い ~ではない 見つける-COND-1SG 食べる-PRS-1SG 見つける-ABIL-NEG-COND-1SG
- qana'ät qil-ip yür-iwer-i-män.
満足 する-CVB 進む-ASP-PRS-1SG
- (7) — 'ämisä siz šähir-imiz-niñ 'it-lir-i-ka 'oxša-p qa-p-siz!
それなら あなた 町-POSS.1PL-GEN 犬-PL-POSS.3-DAT 似る-CVB 残る-PF-2SG
- (8) — hä ?
EXC

22. なまけ

- (1)ー兄弟、名前は何か?
- (2)ーワリス [「相続」の意] ……
- (3)ー何を相続したんだい?
- (4)ーこんなふうに住むためのひまな場所を。
- (5)ー状況はどうだい?
- (6)ー悪くはないね。見つけられれば食べるし、見つけられなければそれで満足する。
- (7)ーそれならあなたは町にいる犬と同じだね!
- (8)ーはあ?

23. kelişməlik

- (1) — 'alim, lägläk yasiyalaydikänsän-dä!
- (2) — şundaq.
- (3) — lalä, saña lägläktin birni yasap beräy, 'awu şilimni 'eliwetä, 'ästa qolumka tökülüp kätti.
- (4) — kächürgin, män sürtüp qoyay.
- (5) — boldi rähmät, män 'özüm sürtäy.
- (6) — mana 'ämisä.
- (7) — 'alim, 'öyüñniñ 'ätrapidin 'alma, çilan dārāxliri şundaq yaxşı mewiläptu.
- (8) — şundaq, dadam mewilik dārāxlärni yetiştürüşkä bākla 'ähmiyät beridu.
- (9) — lägläkni yänä qançilik waqitta yasap bolisän?
- (10) — yasap boldum lalä, yürä lägläkniñ karamitini körüp baqayli!
- (11) — 'alim... 'alim tezrāk yügürgin!
- (12) — 'uç... 'egiz 'uç, lägläkim 'egiz 'uçqin!
- (13) — maharitiñ häqiqätän yuqiri 'ikän, bu lägläk bāk 'egiz 'uçti.
- (14) — 'u nemä?
- (15) — lačin 'ämäsmu?
- (16) — lägläk bilän bäslişiwatamdu nemä?
- (17) — nemä 'iş bu, lačin wähimilik sayrap kättikü? (18) balılarka birär xäwp yätmigidi, häy... 'undaqmu bolup kätmäş, bu 'ätrapta başqa haywanlarmu yoq.
- (19) — wayjan!
- (20) — lalä... 'adām barmu? (21) tez keliñlar, laläni çäqiwaldi. (22) lalä... lalä... közüñni 'aç!
- (23) — nemä boldi balam, bir obdan 'oyawatattıñları? (24) çataq boptu, çaqqañ bol 'etiz beşidiki zämbil bilän löñgini 'elip käl. (25) laläni tezdin doxturxanıka 'apirayli!
- (26) — lalä... lalä... közüñni 'aç, sän çoqum yaxşı bolup ketisän.
- (27) — balam, buniñdin keyin 'etizliqta 'oynımañlar, 'oynısañlar zira'ätlärni ziyanka 'uçritisilär häm 'özünlärwimu xäwp yetişi mumkin.

23. kelişmäslük

不都合

- (1) – 'alim, lägläk yasi-yala-ydi-kän-sän-dä!
 PSN 風 作る-ABIL-PRS.3SG-COPEV.2SG-MOD
- (2) – şundaq.
 その通り
- (3) – lalä, saça lägläk-tin bir-ni yasa-p ber-äy, 'awu şilim-ni
 PSN 君.DAT 風-ABL 1-ACC 作る-CVB 与える-VOL.1SG あの 糊-ACC
 'el-iwet-ä, 'ästa qol-um-şa tökül-üp kät-ti.
 取る-ASP-MOD EXC 手-POSS.1SG-DAT こぼれる-CVB 行く-PST
- (4) – káčür-gin, män sürt-üp qoy-ay.
 許す-IMP 私 塗る-CVB 置く-VOL.1SG
- (5) – bol-di rähmät, män öz-üm sürt-äy.
 なる-PST ありがとう 私 自分-POSS.1SG 塗る-VOL.1SG
- (6) – mana 'ämisä.
 EXC それならば
- (7) – 'alim, 'öy-üñ-niñ 'ätrap-i-din 'alma, čilan dārāx-lir-i
 PSN 家-POSS.2SG-GEN 周り-POSS.3-ABL リンゴ ナツメ 木-PL-POSS.3
 şundaq yaxşı mewilä-ptu.
 そのような 良い 実がなる-PF
- (8) – şundaq, dada-m mewilik dārāx-lär-ni yetiştür-üş-kä bāk=la 'ähmiyät
 その通り 父-POSS.1SG 実のなる 木-PL-ACC 育てる-VN-DAT 大変=CL 意味
 ber-i-du.
 与える-PRS-3
- (9) – lägäläk-ni yänä qančilik waqit-ta yasa-p bol-i-sän?
 風-ACC まだ どのくらい 時間-LOC 作る-CVB なる-PRS-2SG
- (10) – yasa-p bol-du-m lalä, yür-ä lägläk-niñ karamit-i-ni kör-üp
 作る-CVB なる-PST-1SG PSN 歩く-MOD 風-GEN 驚異-POSS.3-ACC 見る-CVB
 baqa-yli!
 見る-VOL.1PL
- (11) – 'alim... 'alim tez-räk yügür-gin!
 PSN PSN 速く-COMP 走る-IMP
- (12) – 'uč... 'egiz 'uč, läglik-im 'egiz 'uč-qin!
 飛ぶ 高い 飛ぶ 風-POSS.1SG 高い 飛ぶ-IMP
- (13) – maharit-iñ häqiqätän yuqiri 'ikän, bu lägläk bāk 'egiz 'uč-ti.
 技術-POSS.2SG 本当に 高い COPEV この 風 大変 高い 飛ぶ-PST
- (14) – 'u nemä?
 あれ 何

(15) — lačın 'ämäs-mu?

ハヤブサ 違う-Q

(16) — lägläk bilän bäsliš-iwat-am-du nemä?

凧 と 試合する-ASP-Q-3 何

(17) — nemä 'iš bu, lačın wähimilik sayra-p kät-ti-ku? (18) bali-lar-va

何 こと これ ハヤブサ 恐怖 鳴く-CVB 行く-PST-MOD 子ども-PL-DAT

birär xäwp yät-mi-gi-di, häy... 'undaq=mu bol-up kät-mäs, bu 'ätrap-ta
ある 危険 達する-NEG-PST EXC そのように=CL なる-CVB 行く-AOR.NEG この 辺り-LOC

başqa haywan-lar=mu yoq.

他の 動物-PL=CL ない

(19) — wayjan!

EXC

(20) — lalä... 'adäm bar-mu? (21) tez kel-iñlar, lalä-ni yilan čäq-iwal-di.

PSN 人 ある-Q 早く 来る-IMP PSN-ACC ヘビ 噛む-ASP-PST

(22) lalä.. lalä.. köz-üñ-ni 'ač!

PSN PSN 目-POSS.2SG-ACC 開ける

(23) — nemä bol-di bala-m, bir 'obdan 'oyna-wat-att-iñlar-ku? (24) čataq

何 なる-PST 子ども-POSS.1SG 1 良い 遊ぶ-ASP-HAB-2PL-MOD トラブル

bo-ptu, čaqqa bol 'etiz beš-i-diki zämbil bilän löngi-ni 'el-ip käl.
なる-PF 早く なる 畑 端-POSS.3-にある ゼンビル と タオル-ACC 取る-CVB 来る

(25) lalä-ni tez-din doxturxani-va 'apir-ayli!

PSN-ACC 早く-ABL 病院-DAT 運ぶ-VOL.1PL

(26) — lalä... lalä... köz-üñ-ni 'ač, sän čoqum yaxši bol-up ket-i-sän.

PSN PSN 目-POSS.2SG-ACC 開ける 君 必ず 良い なる-CVB 行く-PRS-2SG

(27) — bala-m, bu-niñ-din keyin 'etizliq-ta 'oyni-ma-ñlar, 'oyni-sa-ñlar

子ども-POSS.1SG これ-GEN-ABL あと 畑-LOC 遊ぶ-NEG-IMP 遊ぶ-COND-2PL

zira'ät-lär-ni ziyän-va 'učrit-i-silär häm 'öz-üñlar-ñi-mu xäwp yet-iš-i

作物-PL-ACC 損失-DAT 出会う-PRS-2PL また 自分-2PL-DAT-も 危険 達する-VN-POSS.3

mumkin.

可能性

23. 不都合なこと

- (1)ーアリム、君は凧を作れるそうだね!
- (2)ーそうだよ。
- (3)ーラーレ、君に凧を一つ作ってあげる。あののりを取って。わっ、手にこぼれてしまった。
- (4)ーごめんなさい、私が拭く。
- (5)ーいいよ、ありがとう。僕が自分で拭く。
- (6)ーそれじゃあ、分かった。
- (7)ーアリム、君の家の周りのリンゴやナツメの木が、たくさん実をつけてる。
- (8)ーそうなんだ。父さんが実のなる木を育てるのをとても大切にしているんだ。
- (9)ー凧をどのくらいの時間で作り終えるの?
- (10)ー作り終わったよ、ラーレ。行こう、凧の性能を見てみよう!
- (11)ーアリム…アリム…もっと早く走って!
- (12)ー飛べ…高く飛べ、凧や高く飛べ!
- (13)ー君の腕は本当にすごいんだね。この凧はすごく高く飛んだよ。
- (14)ーあれは何?
- (15)ーハヤブサじゃないか?
- (16)ー凧と勝負しているのかなあ。
- (17)ーなんてことだ。ハヤブサが恐ろしい声で鳴いてる。(18)子どもたちに危険がおよばなければいいけれど。ああ、そんなふうにはならない、この辺には他に動物たちもいないのだから。
- (19)ーわあっ!
- (20)ーラーレ…人がいるか[誰かいるか]? (21)早く来て、ラーレを蛇が噛んだんだ。
- (22)ラーレ…ラーレ…目を開けて!
- (23)ーどうしたの、子どもたち。楽しく遊んでいたのでは?(24)大変なことになった、早く畑の端にあるゼンビル[二本の棒を籠編み物でつないだ担架状の運搬具]とタオルを取って来なさい。(25)ラーレを早く病院に運ばなくては!
- (26)ラーレ、ラーレ、目を開けて。君はきっと良くなるよ。
- (27)ー子どもよ、これからは畑で遊ばないように。畑で遊ぶと作物をダメにするし、あなたたち自身にも危険が及ぶかもしれないのだから。

24. 'äjirniñ tegi 'altun

- (1) — 'apa män mäktäpkä mañdim.
(2) — somkañğa kämpüt wä yemäklklärni selip qoydum, maña čeläkni açiqip bärğin, kawılarnıñ tüwigä su qoyuwetäy, mäktäptin baldurraq qaytip kälgin-hä!
(3) — 'apa kariwitimni rätlik yixişturuwättim. (4) 'ämdi mañmisam kečikip qalimän.
(5) — xotun 'oqulimiz qeni?
(6) — körmidilimu? (7) 'änä qarısıla, 'u mäktäpkä kätti.
(8) — burunraq kelişni 'eyttiñizmu? (9) 'u mäktäptin kälkä kätmäni 'elip 'arqa hoylığa çiqsun.
(10) heliqi qurup qalğan könäkni kolap çiqirip 'otun qiliwetäyli.
(11) — bolidu yürsilä, birdäm 'aram 'eliwilip 'andin çiqsıla.
(12) — 'awu kamal 'ämäsmu?
(13) — şu 'ikän, 'uni taza bir 'ädäpläp qoymaylimu?
(14) — toxtap turuşä! (15) xäp sänläрни, 'aldiñda nimä gunah qildim?
(16) — hä, nemä gepiñ bar? (17) sän dәрstä yaxşı bolğiniñ bilän bizni nimä qılalayttiñ? (18) mana 'ämisä...
(19) — nemişqa 'urisilär?
(20) — mana 'ämdi boldimu? (21) muştumdäk turup qara buniñ gepni!
(22) — 'uni qattiq 'urä!
(23) — 'alä doppañni! (24) 'äqliñ bolsa buniñdin keyin dərslärdä 'aldimizğa 'ötüp kätküçi bolma!
(25) — xäp, män teximu tirişip, sänlärgä 'özümni bir körsitip qoymisam!
(26) — kamal texičä qaytip kälmäydiku?
(27) — mänmu 'änsiräp qaldim.
(28) — 'apa, män qaytip kälдим.
(29) — här nemä bolsimu qaytip kәpsän, sәndin 'änsiräp turğanidim, balam, saña nemä boldi?
(30) sän 'äzäldin birärsi bilän 'uruşmayttiñ, kim seni muşundaq qattiq 'urdi?
(31) — yaq 'apa, män 'uruşmidim.
(32) — 'undaqta yüzüñ kök, doppañ qan turidiñu?
(33) — bugün mäktäptä putbol 'oynığanıduq, 'ehtiyatsızlıqtin yiqilip kättim.
(34) — 'undaq 'ämäsmu? (35) rasa gәp qıl, saña zadi nemä boldi? (36) 'ägär birärsi bozäk qılğan bolsa бүгүndin başlap mäktäpkä barmay, yenimizda turğın, män burun saña degән, biz degән dehqan.
(37) — dada, siz 'undaq demәñ, dehqannig balisi nemişqa 'aliy mäktäpkä baralmaydikән? (38) hazir kim yaxşı 'oqusa şu baralaydu, maña 'işiniñ dada, бүгүnki dәрslirimni tәkrar qiliwalay-hä?
(39) — maqul balam.
(40) — sän bäk yaxşı jumu dada!
(41) — häy kamal, buyaqqä kälginä!
(42) — yaxşimusiz mu'allim?
(43) — yaxşimusән kamal, män saña bir xuş xäwär yätküzäy, sән bizniñ mäktәp boyičä biriniçi bolup 'imtihandin 'ötipsән, seni tәbrikläymән, dәрhal 'öyüñgä qaytip 'oquşqa meñişqa täyyarlıq qıl.

- (44) — bu rastmu mu'ällim? (45) meniñ 'aliy mäktäpkä 'ötüşüm 'üçün siz köp 'äjir siñdürdiñiz , maña 'öz baliñizka köyüngändäk köyüñdiñiz, män buni 'esimdin çiqarmaymän mu'ällim, rähmät sizgä.
- (46) — sawaqdaşlirim, silärmu tirişip yaxşı 'oquñlar, silärniñmu 'imtihandin 'ötüp, 'oquşqa berişiñlarni 'ümid qilimän.
- (47) — mu'ällim, män bu xuş xäwäрни 'öydikilärgä yätküzäy, sizni keyin yoqlap kelimän.
- (48) — barñin kamal, 'öyñdikilärgä mäñdin salam 'eytip qoy.
- (49) — bäk yaxşı boldi, 'apam bilän dadam bu xäwäрни 'añlisa qançilik xuş bolup ketäy?
- (50) — 'apa...dada...män kälдим, dada män 'imtihandin 'ötüptimän!
- (51) — şundaqmu? (52) mubaräk bolsun, meni kaçürgin 'oñlum, män seni 'oquştin bir näççä qetim tosuptimän, bu qilñinim 'üçün 'aldiñda tolimu xijilmän.
- (53) — 'undaq demäñ dada, siz meni 'oqutuş järyanida köp japalarni tarttiñiz , män 'oquştin kälgüçä yänä nurñun japalarni tartisiz, män teximu tirişip 'oqup, 'äjriñizgä jawab qayturimän.

24. 'äjir-niñ teg-i 'altun

努力-GEN 本質-POSS.3 金

- (1) – 'apa män mäktäp-kä mañ-di-m.
母 私 学校-DAT 歩く-PST-1SG
- (2) – somka-ŋ-ka kämpüt wä başqa yemäklik-lär-ni sel-ip qoy-du-m,
靴-POSS.2SG-DAT キャンディ と 他の 食べ物-PL-ACC 入れる-CVB 置く-PST-1SG
maña čeläk-ni 'ačiq-ip bär-gin, kawi-lar-niñ tüwi-gä su
私-DAT バケツ-ACC 持って来る-CVB 与える-IMP 南瓜 PL-GEN 根元-DAT 水
qoy-uwet-äy, mäktäp-tin baldur-raq qayt-ip käl-gin=hä!
置く-ASP-VOL.1SG 学校-ABL 早く-COMP 戻る-CVB 来る-IMP=CL
- (3) – 'apa kariwit-im-ni rätlik yiwıştur-uwät-ti-m. (4) 'ämdä
母 ベッド-POSS.1SG-ACC きちんと まとめる-ASP-PST-1SG 今
mañ-mi-sa-m kečik-ip qal-i-män.
歩く-NEG-COND-1SG 遅れる-CVB 残る-PRS-1SG
- (5) – xotun 'oñul-imiz qeni?
妻 息子-POSS.1PL どこ
- (6) – kör-mi-dili=mu? (7) 'änä qari-sila, 'u mäktäp-kä kät-ti.
見る-NEG-PRS.2SG=CL EXC 見る-2SG 彼 学校-DAT 行く-PST
- (8) – burun-raq kel-iš-ni 'eyt-ti-ñiz-mu? (9) 'u mäktäp-tin käl-sä kätmän-ni
前-COMP 来る-VN-ACC 話す-PST-2SG-Q 彼 学校-ABL 来る-COND 唐ぐわ-ACC
'el-ip 'arqa hoyli-ka čiq-sun. (10) heliqi qur-up qal-ğan könäk-ni
取る-CVB 裏庭-DAT 出る-OPT 例の 絶える-CVB 残る-PTCP.PST 蜂の巣-ACC
kola-p čiqir-ip 'otun qil-iwet-äyli.
掘る-CVB 出す-CVB 薪 する-ASP-VOL.1PL
- (11) – bol-i-du yür-silä, bir däm 'aram 'el-iwil-ip 'andin čiq-sila.
なる-PRS-3 進む-IMP 1 瞬間 息 取る-ASP-CVB それから 出る-IMP
- (12) – 'awu kamal 'ämäs-mu?
あれ PSN 違う-Q
- (13) – šu 'ikän, 'u-ni taza bir 'ädäplä-p qoy-ma-yli-mu?
そう COPEV 彼-ACC ととも 1 叱りつける-CVB 置く-NEG-VOL.1PL-Q
- (14) – toxta-p tur-uš-ä! (15) xäp sän-lär-ni, 'aldi-ŋ-da nimä gunah
止める-CVB 止まる-RECP-MOD EXC 君-PL-ACC 前-POSS.2SG-LOC 何 罪
qil-di-m?
する-PST-1SG
- (16) – hä, nemä gep-iñ bar? (17) sän dars-tä yaxşı bol-ñin-iñ
EXC 何 話-POSS.2SG ある 君 授業-LOC 良い なる-PTCP.PST-POSS.2SG
bilän biz-ni nimä qil-alay-tt-iñ?
と 私たち-ACC 何 する-ABIL-HAB-2SG

- (18) mana 'āmisā...
EXC それなら
- (19) — nemišqa 'ur-isilär?
なぜ ぶつ-PRS.2PL
- (20) — mana 'āmdi bol-di-mu? (21) muštum-däk tur-up qara bu-niñ gep-ni!
EXC 今 なる-PST-Q げんこつ-SIM とどまる-CVB 見る これ-GEN 話-ACC
- (22) — 'u-ni qattiq 'ur-ä!
彼-ACC 強く ぶつ-MOD
- (23) — 'al-ä doppa-ŋ-ni! (24) 'äql-iñ bol-sa bu-niñ-din keyin
取る-MOD ドツパ-POSS.2SG-ACC 知恵-POSS.2SG なる-COND これ-GEN-ABL あと
därs-lär-dä 'aldi-miz-ka 'öt-üp kät-küči bol-ma!
授業-PL-LOC 前-POSS.1PL-DAT 過ぎる-CVB 行く-VN なる-NEG
- (25) — xäp, män texi=mu tiriš-ip, sän-lär-gä 'öz-üm-ni bir körsit-ip
EXC 私 まだ=CL 努力する-CVB 君-PL-DAT 自分-1SG-ACC 1 見せる-CVB
goy-mi-sa-m!
置く-NEG-COND-1SG
- (26) — kamal texičä qayt-ip käl-mä-y-di-ku?
PSN まだ 帰る-CVB 来る-NEG-PRS-3-MOD
- (27) — män=mu 'änsirä-p qal-di-m.
私=CL 心配する-CVB 残る-PST-1SG
- (28) — 'apa, män qayt-ip käl-di-m.
母 私 戻る-CVB 来る-PST-1SG
- (29) — här nemä bol-si=mu qayt-ip kä-p-sän, sän-din 'änsirä-p
それぞれの 何 なる-COND=CL 戻る-CVB 来る-PF-2SG 君-ABL 心配する-CVB
tur-kan-i-di-m, bala-m, saña nemä bol-di? (30) sän 'äzäldin
残る-PTCP.PST-COP-PST-1SG 子ども-POSS.1SG 君.DAT 何 なる-PST 君 ずっと昔から
birär-si bilän 'uruš-may-tti-ŋ, kim seni mušundaq qattiq 'ur-di?
ある-POSS.3 と 喧嘩する-NEG-HAB-2SG 誰 君.ACC このような きつい ぶつ-PST
- (31) — yaq 'apa, män 'uruš-mi-di-m.
ない 母 私 喧嘩する-NEG-PST-1SG
- (32) — 'undaqta yüz-üñ kök, doppa-ŋ qan tur-i-di-ku?
それなら 顔-POSS.2SG 青い ドツパ-POSS.2SG 血 とどまる-PRS-3-MOD
- (33) — бүгүн мәктәп-тә футбол 'oyni-kan-i-du-q, 'ehtiyatsızlıq-tin yiqil-ip
今日 学校-LOC サッカー 遊ぶ-PTCP.PST-COP-PST-1PL うっかり-ABL 倒れる-CVB
kät-ti-m.
行く-PST-1SG
- (34) — 'undaq 'ämäs-mu? (35) rasa gäp qil, saña zadi nemä bol-di?
そのような 違う-Q 本当 話 する お前.DAT 本当 何 なる-PST
- (36) 'ägär birär-si bozäk qil-kan bol-sa bugün-din başla-p мәктәп-кә
もし ある-POSS.3 いじめる-PTCP.PST なる-COND 今日-ABL 始める-CVB 学校-DAT

bar-may, yen-imiz-da tur-bın, mın burun saña de-gın,
行く-CVB.NEG そば-POSS.1PL-LOC とどまる-IMP 私 前 君.DAT 言う-PTCP.PST

biz de-gın dehqan.

私たち 言う-PTCP.PST 農民

(37) —dada, siz ’undaq de-mä-ŋ, dehqan-niŋ bali-si nemişqa ’aliy
父 あなた そのように 言う-NEG-2SG 農民-GEN 子ども-POSS.3 何 最高の

mäktäp-kä bar-al-ma-y-di-kän? (38) hazir kim yaxşı ’oqu-sa şu
学校-DAT 行く-ABIL-NEG-PRS-3-EV 今 誰 良い 読む-COND その

bar-ala-y-du, maña ’işin-iŋ dada, bügünki dars-lir-im-ni täkrar
行く-ABIL-PRS-3 私.DAT 信じる-IMP 父 今日の 授業-PL-POSS.1SG-ACC 再び

qil-iwal-ay-hä?

する-ASP-VOL.1SG-EXC

(39) —maqul bala-m.

分かった 子ども-POSS.1SG

(40) —sän bäk yaxşı jumu dada!

あなた とても 良い EXC 父

(41) —häy kamal, buyaq-qa käl-gin-ä!

EXC PSM ここ-DAT 来る-IMP-MOD

(42) —yaxşı-mu-siz mu’allim?

良い-Q-2SG 先生

(43) —yaxşı-mu-sän kamal, mın saña bir xuş xäwär yätküz-äy, sän
良い-Q-2SG PSN 私 君.DAT 1 喜ばしい 知らせ 届ける-VOL.1SG 君

biz-niŋ mäktäp boyičä biriniči bol-up ’imtihan-din ’öt-üp-sän, seni
私たち-GEN 学校 全体で 一番 なる-CVB 試験-ABL 過ぎる-PF-2SG 君.ACC

täbriklä-y-män, dārhal ’öy-ün-gä qayt-ip ’oquş-qa meŋ-iş-qa
おめでとうと言う-PRS-1SG すぐ 家-POSS.2SG-DAT 帰る-CVB 勉強-DAT 進む-VN-DAT

täyyarlıq qil.

準備 する

(44) —bu rast-mu mu’allim? (45) men-iŋ ’aliy mäktäp-kä ’öt-üş-üm ’üçün
これ 本当-Q 先生 私-GEN 最高の 学校-DAT 過ぎる-VN-POSS.1SG ために

siz köp ’ajir siŋdür-di-ŋiz, maña ’öz bali-ŋiz-ğa
あなた 大変 心血 しみこませる-PST-2SG 私.DAT 自分 子ども-POSS.2SG-DAT

köyün-gän-däk köyün-di-ŋiz, mın bu-ni ’es-im-din čiqar-ma-y-män
思いやる-PTCP.PST-SIM 思いやる-PST-2SG 私 これ-ACC 記憶-POSS.1SG-ABL 出す-NEG-PRS-1SG

mu’allim, rāhmāt siz-gä.

先生 ありがとう あなた-DAT

(46) —sawaqdaş-lir-im, silär=mu tiriş-ip yaxşı ’oqu-ŋlar, silär-niŋ=mu
学友-PL-POSS.1SG あなたたち=CL 努力する-CVB 良い 学ぶ-IMP あなたたち-GEN=CL

’imtihan-din ’öt-üp, ’oquş-qa ber-iş-iŋlar-ni ’ümid qil-i-män.
試験-ABL 過ぎる-CVB 勉強-DAT 行く-VN-POSS.2PL-ACC 望む する-PRS-1SG

- (47) — mu'āllim, män bu xuš xāwār-ni 'öy-diki-lär-gä yätküz-äy,
先生 私 この 喜ばしい 知らせ-ACC 家-にある-PL-DAT 届ける-VOL.1SG
siz-ni keyin yoqla-p kel-i-män.
あなた-ACC あと 訪ねる-CVB 来る-PRS-1SG
- (48) — bar-ıñın kamal, 'öy-iñ-diki-lär-gä män-din salam 'eyt-ip qoy.
行く-IMP PSN 家-POSS.2SG-にある-PL-DAT 私-ABL あいさつ 言う-CVB 置く
- (49) bāk yaxši bol-di, 'apa-m bilän dada-m bu xāwār-ni 'aŋli-sa
大変 良い なる-PST 母-POSS.1SG と 父-POSS.1SG この 知らせ-ACC 聞く-COND
qančilik xuš bol-up ket-äy?
どのくらい 喜ぶ なる-CVB 行く-VOL.1SG
- (50) — 'apa...dada...män käl-di-m, dada män 'imtihan-din 'öt-üpti-män!
母 父 私 来る-PST-1SG 父 私 試験-ABL 過ぎる-PF-1SG
- (51) — šundaq-mu? (52) mubaräk bol-sun, meni káčür-gin 'oı-l-um, män
そのような-Q 喜び なる-OPT 私.ACC 許す-IMP 息子-POSS.1SG 私
seni 'oquš-tin bir näččä qetim tos-upti-män, bu qıl-ıñın-im
お前.ACC 勉強-ABL 1 いくつか 回 止める-PF-1SG この する-PTCP.PST-POSS.1SG
'üčün 'aldi-ñ-da tolimu xijil-män.
ために 前-POSS.2SG-LOC 大変 恥すかしい-1SG
- (53) — 'undaq de-mä-ñ dada, siz meni 'oqutuš järyan-i-da köp
そのように 言う-NEG-2SG 父 あなた 私.ACC 勉強 過程-POSS.3-LOC 大変
japa-lar-ni tart-ti-ñiz, män 'oquš-tin käl-güčä yänä nurkun japa-lar-ni
苦しみ-PL-ACC 引く-PST-2SG 私 勉強-ABL 来る-まで また 多くの 苦勞-PL-ACC
tart-i-siz, män texi=mu tiriš-ip 'oq-up, 'äjr-iñiz-gä jawab qaytur-i-män.
引く-PRS-2SG 私 さらに=CL 努力する-CVB 学ぶ-CVB 心血-POSS.2SG 答え 返す-PRS-1SG

24. 努力のすばらしさ

- (1)ー母さん、学校に行ってくるよ。
(2)ーカバンにキャンディーや他の食べ物を入れておいたよ。私にバケツを持ってきてちょうだい、南瓜の根元に水をやるから。学校から早めに帰って来なさいね。
(3)ー母さん、ベットをきれいに整えておいたよ。(4)さあ行かなければ遅刻してしまう。
- (5)ー妻よ、私たちの息子はどこだ?
(6)ー見なかったのですか?(7)ほら、学校に行きましたよ。
(8)ー早めに帰ってくるように言っておいたか?(9)あの子が学校から帰ったら農具を持って裏庭に出るように。(10)あの枯れてしまった蜂の巣を掘り出して薪にしよう。
(11)ー分かりましたよ、行きましょう。少し休憩を取ってからにしましょう。
- (12)ーあれはカマルじゃないか?
(13)ーそのようだ、ここはひとつ、あいつをこらしめてやろう。
(14)ーやめろ! (15)お前たち、僕が何をしたというのだ。
(16)ー何を言うか。(17)お前は勉強はできるが、僕たちをどうすることもできないだろう?
(18)ーほら、それ・・・
(19)ーどうしてぶつんだ?
(20)ーこれでまいったか?(21)お前自身は何もできないちっぽけなやつのかせに!
(22)ーこいつを思いっきり殴れ!
(23)ー拾え、お前のドツパを!(24)知恵がついたのなら、これからは勉強でしゃしゃりでるな!
(25)ーよし、僕はさらに努力して、お前たちに僕自身を見せつけてやろう!
- (26)ーカマルはまだ帰って来ないのか?
(27)ー私も心配になった。
(28)ー母さん、僕は帰ったよ。
(29)ー何はともあれ、帰って来たのね、お前のことを心配していたのだよ、わが子よ、お前に何があったの?(30)お前はもともと誰とも喧嘩しなかったのに、誰がお前をこんなにひどく殴ったの?
(31)ー違うよ、母さん、僕は喧嘩していないよ。
(32)ーそれなら、お前の顔が青くて、ドツパに血が付いているのは?
(33)ー今日学校でサッカーをしたんだ、うっかりして転んでしまった。
(34)ーそうなのか?(35)本当のことを話さない、お前にいったい何があったの?(36)もし誰かがいじめたのならば、今日から学校へ行かずに、私たちのそばにいなさい。私は以前おまえに言った、私たちは農民だと。
(37)ー父さん、そんなふうには言わないで、農家の子どもがどうして大学に行けないの?(38)今は誰でも懸命に勉強するすれば、成功することができる。僕を信じて、父さん。今日の授業の復習をしようかな。
(39)ー分かった、わが子よ。

(40)ー父さんは、やはり最高だね!

(41)ーおい、カマル、ここに来なさい!

(42)ーこんにちは、先生。

(43)ーこんにちは、カマル。私は君に良い知らせを伝えよう、君は私たちの学校で一番で試験に合格した、君にお祝いを言おう。すぐに家に帰って進学準備をきなさい。

(44)ーそれは本当ですか、先生? (45)私が大学へ合格するために、先生は大変苦勞なされました、私を自分の子どもを思いやるように思いやってくださいました、私はこのことを忘れません、先生、ありがとうございます。

(46)ー同級生たち、君たちも努力して一生懸命学ぶように。君たちも試験に合格して、進学することを願っている。

(47)ー先生、私はこの喜ばしい知らせを家族に伝えます、先生をあとでお訪ねします。

(48)ー行きなさい、カマル、お家の人たちに私からよろしく伝えておいて。

(49)ーやった、母さんと父さんがこの知らせを聞けば、どんなに喜ぶだろう?

(50)ー母さん・・・父さん・・・僕は帰ったよ、父さん、僕は試験に合格したよ!

(51)ーそうなのか。(52)おめでとう、私を許せ、息子よ、私はお前が勉強することを何回も止めた、このことを恥ずかしく思う。

(53)ーそんなふうには言わないで父さん、父さんは僕を勉強させる上ですごく苦勞した。僕が進学し終えるまで、またたくさん苦勞するだろう。僕はより一層努力して勉強して、父さんの苦勞に報いるからね。